

ANNUAL REPORT

2010

THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART

新潟県立近代美術館

新潟県立万代島美術館

The Niigata **Bandaijima** Art Museum

年報



目 次

平成22年度の流れ	近代美術館	3
	万代島美術館	4
展覧会	近代美術館	5
	常設展	6
	小野末／竹谷富士雄／三芳悌吉の世界	7
	村山径と〈戦後派〉の日本画家たち	9
	亀倉雄策の世界	11
	近代美術館の名品	14
	個人コレクターたちの肖像	17
	企画展	19
	日本の自画像 写真が描く1945-1964	19
	モーリス・ユトリロ展 憂愁のバリを描いた風景画家	25
	ボンベイ展 世界遺産 古代ローマ文明の奇跡	30
	牧野虎雄展	39
	共催展	43
	奈良の古寺と仏像 一會津ハのうたにのせて	43
	ユネスコ無形文化遺産登録記念重要無形文化財 小千谷縮・越後上布展	44
	第65回新潟県美術展覧会長岡展	45
	第50回長岡市美術展覧会	45
	第12回亀倉雄策賞受賞展「浅葉亮己」展ならびにJAGDA 新人賞作家作品展2010	46
	第41回新潟県ジュニア美術展覧会長岡展	46
	第14回新潟県立美術館友の会作品展	47
	万代島美術館	48
	企画展	48
	ピーターラビットの生みの親 ピアトリクス・ポター展	48
	彫刻家・藪内佐斗司展 動き出す彫刻たち	53
	物語の絵画	57
	岩合光昭写真展～ねこ～	63
	所蔵品展	71
	花鳥風月—現代日本画にみる自然の美—	71
	ジャポニスムとナビ派の版画	73
	画家のまなざし スケッチ、構想、そして作品	79
教育普及	近代美術館	82
	巡回ミュージアム	82
	イベント	83
	刊行物	86
	作品解説会	87
	団体への解説	88
	学校教育との連携	88
	観覧料免除	90
	アート・ボランティア	91
	博物館実習	92
	万代島美術館	93
	イベント	93
	刊行物	95
	作品解説会	95
	団体への解説	96
	学校教育との連携	96
	観覧料免除	98
	サポートメンバー（新潟県立万代島美術館ボランティア組織）	99
	博物館実習	99
調査・研究	新潟県立近代美術館	100
	新潟県立万代島美術館	101
収集・保存	作品の収集	102
	平成22年度収集作品	102
	作品の保存	108
	美術品の修復	108
	作品の貸出	108
	美術品の貸出	108
管理・運営	開館及び入館状況	112
	近代美術館	112
	万代島美術館	113
	講堂・ギャラリー等の貸出	114
	近代美術館	114
	アンケート集計	115
	近代美術館	115
	万代島美術館	117
	組織及び業務	119
	職員	119
施設	近代美術館	120
	万代島美術館	122
審議会等	協議会	124
	収集委員会	124
	新潟県立美術館友の会	125
	自己評価に対する委員評価	126
沿革		133

平成 22 年度の流れ (新潟県立近代美術館)

4月	4日(日)	常設展「佐々木象堂と新潟の金工」閉会	9月	15日(日)	ワークショップ「ギャラリートーク②」
	10日(土)	企画展「日本の自画像 写真が描く戦後」開会		21日(土)	映画鑑賞会「モディリアーニ 真実の愛」
	17日(土)	映画鑑賞会「ドキュメンタリー 十二人の写真家」		22日(日)	ワークショップ「楽しく描こう石ころアート」
	24日(土)	企画展「奈良の古寺と仏像」開会		25日(日)	企画展「モーリス・ユトリロ展」閉会
	24日(土)	講演会「"阿美共感" ところこの時代」		27日(金)	出前講座「どこでもアートつんで並べて」「マティスの切り絵にせまる」加茂市教研図工美術部会
5月	29日(木)	ワークショップ「デジカメでモノクロ写真を撮ろう」	10月	5日(日)	常設展「村山径と〈戦後派〉の日本画家たち」閉会
	1日(土)	美術鑑賞講座「戦後日本を写した写真家たち」		5日(日)	出前講座「阿部展也とその周辺」五泉市教育委員会生涯学習課
	2日(日)	講演会「やさしい仏像の見方」		10日(金)	常設展「亀倉雄策の世界」開会
	2日(日)	ワークショップ「美術館の舞台裏探検」		11日(土)	企画展「ボンベイ展 世界遺産 古代ローマ文明の奇跡」開会
	16日(日)	講演会「中宮寺菩薩半跏像の謎」		11日(土)	講演会「ボンベイの産業と交易」
6月	22日(土)	映画鑑賞会「続・映画でみる昭和 30 年代の日本・家族の幸福「親子編」」		14日(火)	出前講座「どこでもアート つんでならべて」新潟市立早通小学校
	23日(日)	講演会「奈良の古寺と仏像を楽しむ」		17日(金)	出前講座「形と色の組み合わせ」新発田市立第一中学校
	29日(土)	美術鑑賞講座「近代日本美術史入門 1 近代の工芸」		25日(土)	映画鑑賞会「ローマの休日」
	30日(日)	企画展「日本の自画像 写真が描く戦後」閉会		2日(土)	講演会「まんまるまるく」
	3日(木)	常設展「小野末／竹谷富士雄／三芳悌吉の世界」開会	11月	7日(木)	出前講座「どこでもアート つんでならべて」金城幼稚園・保育園
7月	6日(日)	企画展「奈良の古寺と仏像」閉会		16日(土)	映画鑑賞会「ボンベイ最後の日」
	12日(土)	共催展「小千谷縮・越後上布展」開会		17日(日)	出前講座「どこでもアート つんでならべて」「色と形の組み合わせ」十日町市立橋小学校
	12日(土)	美術鑑賞講座「郷土の作家シリーズ 1 小野末／竹谷富士雄／三芳悌吉」		23日(土)	コンサート「宮澤優子イタリアを歌う」
	17日(木)	出前講座「佐々木象堂と新潟の金工たち」魚沼市立湯之谷中学校		23日(土)	美術鑑賞講座「ボンベイ壁画とヘレニズム・ローマ時代の絵画」
	19日(土)	講演会「"夏衣" 現代に楽しむ」		24日(日)	出前講座「どこでもアート つんでならべて」新潟市立桜ヶ丘小学校
8月	22日(土)	美術鑑賞講座「近代日本美術史入門 2 昭和期の日本画」	12月	26日(火)	出前講座「世界遺産をめぐる旅 イタリアシチリア島のモザイク壁画」新潟市立大形中学校
	23日(日)	出前講座「どこでもアート つんでならべて」上越市立吉川小学校		30日(土)	講演会「ローマ史からみたボンベイ遺跡」
	27日(日)	共催展「小千谷縮・越後上布展」閉会		31日(日)	講演会「JAGDA 新人賞および亀倉雄策賞受賞作家トーク」
	30日(水)	共催展「新潟展美術展覧会長岡展」開会		31日(日)	コンサート「溝口肇ミニコンサート」
	3日(土)	美術鑑賞講座「近代日本美術史入門 3 戦後美術」	1月	6日(土)	美術鑑賞講座「ボンベイの遺産 いわゆる「古代印象主義」西洋中世の絵画」
9月	4日(日)	共催展「新潟展美術展覧会長岡展」閉会		7日(日)	コンサート「カンツォーネより愛をこめて」
	4日(日)	常設展「小野末／竹谷富士雄／三芳悌吉の世界」閉会		7日(日)	出前講座「どこでもアート つんでならべて」新潟市立小瀬小学校
	8日(木)	常設展「村山径と〈戦後派〉の日本画家たち」開会		14日(日)	出前講座「マティスの切り絵に迫る」長岡市立北地域図書館
	10日(土)	企画展「モーリス・ユトリロ展」開会		23日(火)	企画展「ボンベイ展 世界遺産 古代ローマ文明の奇跡」閉会
	11日(日)	ワークショップ「大人のぬり絵 ユトリロが描いた街並み」		28日(日)	常設展「亀倉雄策の世界」閉会
10月	13日(火)	出前講座「どこでもアート つんでならべて」燕市小中川児童館職員	2月	2日(木)	常設展「近代美術館の名品」開会
	18日(日)	ワークショップ「ギャラリートーク①」		4日(火)	共催展「新潟県ジュニア展長岡展」開会
	20日(火)	出前講座「どこでもアート つんでならべて」柏崎市立鯖石小学校		16日(木)	共催展「新潟県ジュニア展長岡展」閉会
	24日(土)	映画鑑賞会「天井桟敷の人々」		23日(日)	常設展「近代美術館の名品」閉会
	25日(日)	コンサート「大森潤子 ヴァイオリン・マチネ」		29日(土)	常設展「個人コレクターたちの肖像」開会
11月	25日(日)	ワークショップ「ユトリロが描いたモンマルトルを探る」	3月	5日(土)	企画展「牧野虎雄展」開会
	25日(日)	出前講座「どこでもアート つんでならべて」金城幼稚園・保育園		13日(日)	出前講座「どこでもアート つんでならべて」柿崎地区公民館
	30日(金)	第 2 回キャンドルナイト@ Kinbi		19日(土)	美術鑑賞講座「郷土の作家シリーズ 2 牧野虎雄」
	31日(土)	神林恒道・会津八一記念館長講演会		27日(日)	ワークショップ「クイズで作品オリエンテーリング」
	31日(土)	美術鑑賞講座「ユトリロの生涯とパリ」		27日(日)	企画展「牧野虎雄展」閉会
12月	1日(日)	コンサート「神武夏子 ピアノコンサート」	4月	5日(土)	企画展「牧野虎雄展」開会
	5日(木)	出前講座「マティスの切り絵にせまる」「色と形でピカソに挑戦」胎内市教育研究会		13日(日)	出前講座「どこでもアート つんでならべて」柿崎地区公民館
	6日(金)	出前講座「マティスの切り絵にせまる」下越美術教育研究会		19日(土)	美術鑑賞講座「郷土の作家シリーズ 2 牧野虎雄」
	7日(土)	映画鑑賞会「長編アニメーション映画 ハードル」		27日(日)	ワークショップ「クイズで作品オリエンテーリング」
	12日(木)	第 3 回こどもアートミュージアム(～ 8/18)		27日(日)	企画展「牧野虎雄展」閉会
1月	14日(土)	美術鑑賞講座「ユトリロの時代～エコール・ド・パリの芸術家たち～」			

平成22年度の流れ (新潟県立万代島美術館)

4月	11日(日)	所蔵品展「花鳥風月—現代日本画にみる自然の美」閉会
	12日(月)～16日(金)	展示替えによる休館
	17日(土)	所蔵品展「ジャポニズムとナビ派の版画」開会
	24日(土)	美術鑑賞講座「ロビーレクチャー ①ジャポニズムの版画」
5月	22日(土)	美術鑑賞講座「ロビーレクチャー ②ナビ派の版画」
	23日(日)	所蔵品展「ジャポニズムとナビ派の版画」閉会
	24日(月)～31日(月)	展示替えによる休館
6月	1日(火)～3日(木)	展示替えによる休館
	4日(金)	企画展「ピーターラビットの生みの親 ピアトリクス・ポター展」開場式・開会
	6日(日)	キッズ・プロジェクト「ピーターラビットの絵本読みきかせ」
	13日(日)	トーク「絵本でゆたかに！」絵本読みきかせ
	20日(日)	絵本読みきかせ
	26日(土)	朗読『「ピーターラビット」おはなしタイム～日英対訳～』
	27日(日)	「日本のポター研究の第一人者 吉田新一氏講演会」絵本読みきかせ
7月	3日(土)	美術鑑賞講座「ピアトリクス・ポターとイギリス絵本の黄金時代」
	4日(日)	トーク「絵本でゆたかに！」絵本読みきかせ
	10日(土)	朗読「ピーターラビット」おはなしタイム～日英対訳～
	11日(日)	絵本読みきかせ
		企画展「ピーターラビットの生みの親 ピアトリクス・ポター展」閉会
	12日(月)～23日(金)	展示替えによる休館
	24日(土)	企画展「彫刻家・簀内佐斗司展 動き出す彫刻たち」開場式
8月	24日(土)	企画展「彫刻家・簀内佐斗司展 動き出す彫刻たち」開会
		撮影会「せんとくんと写ろう！ せんとくん撮影会」
	1日(日)	講演会「簀内佐斗司氏講演会」パフォーマンス「平成伎楽団パフォーマンス」
	8日(日)	ワークショップ「展覧会をめぐるさげさ！ ヤブウチ・ワールド」
	21日(土)	美術鑑賞講座「描かれた都市の姿—洛中洛外図屏風」
	28日(土)	ワークショップ「平成伎楽団ワークショップ 踊ってみよう・着てみよう あなたも平成伎楽団！」
	29日(日)	撮影会「せんとくんと写ろう！ せんとくん撮影会」

9月	4日(土)	美術鑑賞講座「日本洋画のはじまり—江戸から明治へ」
	26日(日)	企画展「彫刻家・簀内佐斗司展 動き出す彫刻たち」閉会
	27日(月)～30日(木)	展示替えによる休館
10月	1日(金)～8日(金)	展示替えによる休館
	9日(土)	企画展「物語の絵画」開会
		美術鑑賞講座「描かれた物語—源氏絵の世界」
	23日(土)	美術鑑賞講座「絵画を読む—藤田嗣治《私の夢》」
11月	6日(土)	美術鑑賞講座「お釈迦様の物語絵」
	20日(土)	美術鑑賞講座「絵で見る聖書」
	28日(日)	企画展「物語の絵画」閉会
	29日(月)・30日(火)	展示替えによる休館
12月	1日(水)～10日(金)	展示替えによる休館
	10日(金)	企画展「岩合光昭写真展～ねこ～」開場式
	11日(土)	企画展「岩合光昭写真展～ねこ～」開会
		「岩合光昭氏によるギャラリートーク&サイン会」
	12日(日)	「岩合光昭氏によるギャラリートーク&サイン会」
12月	28日(火)～31日(金)	年末の休館
1月	1日(土)～3日(月)	年始の休館
2月	20日(日)	企画展「岩合光昭写真展～ねこ～」閉会
	21日(月)～28日(月)	展示替えによる休館
3月	1日(火)～4日(金)	展示替えによる休館
	5日(土)	所蔵品展「画家のまなざし スケッチ、構想、そして作品」開会

事業報告



常 設 展



【趣 旨】

当館の所蔵品による展示。従来は3つある展示室の特徴を生かした分野別の展示が多かったが、本年度からはこれにとらわれず、一つのテーマに基づき所蔵品を多彩に構成する形をとるようになった。また、併せて遠来の来館者にも応えられるように当館の名品を展示する場も設けた。

【観覧料】

- 一 般……………410円（330円）
- 大学・高校生……………200円（160円）
- 中学・小学生……………100円（ 80円）

※土・日祝日は小・中学生無料

※（ ）内は20名以上の団体料金

※企画展観覧券で観覧可





小野末／竹谷富士雄／三芳悌吉の世界

【趣 旨】

新潟が生んだ三人の洋画家、小野末（1910～85年）、竹谷富士雄（1907～84年）、三芳悌吉（1910～2000年）は、ほぼ同時代に生きながらも、それぞれ独自の道を歩んだ。

新潟市に生まれた小野末は、24歳の時に上京し、当時の洋画壇の寵児であった安井曾太郎の唯一の弟子となる。闘牛や岩山を主なモチーフとした小野の作品は、独特のマチエールを用いた叙情感あふれる画風が人気を集めた。

五泉出身の竹谷富士雄は、村上中学を卒業後、18歳で上京する。さらに1932年にはシベリア鉄道でフランスに渡り、シャルル・ブランから本格的なデッサンを学ぶ。帰国後は藤田嗣治に師事し、フランスの街並みを鮮やかな色彩で描き続けた。

三芳悌吉も、幼少時から18歳の時までを新潟で過ごした。当初は新潟医科大学の解剖学教室に勤務し、標本スケッチや解剖図を描いていたが、やがて画家をめざして上京する。親しみやすい緻密な画風が人気で、新潟市の異人館を題材にした絵本『ある池のものがたり』の挿絵でも広く知られている。

本展では、それぞれの形で開花した三人の作品世界を楽しむとともに、日本独自の洋画をめざした作家たちの苦闘の跡も感じ取れる機会となった。

【総 括】

●評価すべき点

県出身作家の三人の作品を単純に年代別に並べたのではなく、同時代人としてどのような美術教育を受けてそれぞれの画風に到達したのかを、パネル等の補助資料を用いて効果的に提示することができた。

●検討課題

三芳悌吉は『ある池の物語』でやや知られているものの、やはり作家の知名度の低さゆえに集客が難しかった。美術鑑賞講座は聴講者が4人しかおらず、事前の広報をより徹底すべきであった。

【開催日・その他】

=2010年6月3日(木)～7月4日(日) (30日)=

(※当初は4月15日～5月30日の予定であったが、「奈良の古寺と仏像」展の当館での開催が急遽決定したため、本展の会期を変更した)

主 催：新潟県立近代美術館

観覧料：一般……………420円 (340円)

大学・高校生……………200円 (160円)

※ 中学生以下無料

※ () 内は20名以上の団体料金

【関連行事】

・美術鑑賞講座

「郷土の作家シリーズ1 小野末、竹谷富士雄、三芳悌吉」

5月29日(土) 14：00～

講 師：高晟俊（当館主任学芸員）

参加人数：4名

担当 高 晟俊

【出品リスト】

展示室 1				
No.	作家名	作品名	制作年	素材・技法
1	小野末	高原（妙高）	1947年	油彩、画布
2	小野末	夏の街（街景）	1949年	油彩、画布
3	小野末	街景	1949年	油彩、画布
4	小野末	街角	1950年	油彩、画布
5	小野末	風景	1951年	油彩、画布
6	小野末	白壁の家（東大工学部実験室）	1952年	油彩、画布
7	小野末	東大風景（東京大学実験室）	1953年	油彩、画布
8	小野末	東大風景	1954年	油彩、画布
9	小野末	岩山（スペイン）	1958年	油彩、画布
10	小野末	島	1964年	油彩、画布
11	小野末	タイの僧	1965年	油彩、画布
12	小野末	一峯	1970年	油彩、画布
13	小野末	闘牛場（潮騒B）	1977年	油彩、画布
14	小野末	闘牛場（潮騒C）	1977年	油彩、画布
15	小野末	闘牛場	1977年	油彩、画布
16	小野末	乾いた湖	1981年	油彩、画布
17	小野末	影	1981年	油彩、画布
18	小野末	土偶	制作年不詳	油彩、画布
19	竹谷富士雄	壺づくりの女	1940年	油彩、画布
20	竹谷富士雄	樹下 裏磐梯にて	1944年	油彩、画布
21	竹谷富士雄	廃墟のヴィナス	1947年	油彩、画布

展示室 2				
No.	作家名	作品名	制作年	素材・技法
22	竹谷富士雄	舞台の裏の饗宴	1947年	油彩、画布
23	竹谷富士雄	春の交尾（信濃川風景）	1951年	油彩、画布
24	竹谷富士雄	家族	1952年	油彩、画布
25	竹谷富士雄	市場の女達	1952年	油彩、画布
26	竹谷富士雄	秋果	1953年	油彩、画布
27	竹谷富士雄	貧しい労働	1954年	油彩、画布
28	竹谷富士雄	土と人（竈だし）	1955年	油彩、画布
29	竹谷富士雄	風の後	1956年	油彩、画布
30	竹谷富士雄	岩と人	1957年	油彩、画布
31	竹谷富士雄	三人	1958年	油彩、画布
32	竹谷富士雄	網を干す	1960年	油彩、画布
33	竹谷富士雄	島影	1961年	油彩、画布
34	竹谷富士雄	ある風景	1965年	油彩、画布
35	竹谷富士雄	青い網	1966年	油彩、画布
36	竹谷富士雄	赤い網	1966年	油彩、画布
37	竹谷富士雄	船泊り・le canal	1968年	油彩、画布
38	竹谷富士雄	シノンの町の屋根	1971年	油彩、画布
39	竹谷富士雄	村の市	1976年	油彩、画布
40	竹谷富士雄	モンマルトル・屋下がり	1978年	油彩、画布
41	竹谷富士雄	舟帰る	1981年	油彩、画布
42	竹谷富士雄	舟泊まる	1981年	油彩、画布
43	竹谷富士雄	卓上のモチーフ	1982年	油彩、画布
44	三芳悌吉	新潟風景 1	1928年	鉛筆、紙
45	三芳悌吉	新潟風景 2	1928年	鉛筆、紙
46	三芳悌吉	新潟風景 3	1928年	鉛筆、紙
47	三芳悌吉	新潟風景 4	1928年	鉛筆、紙
48	三芳悌吉	自画像	1929年	木炭、紙
49	三芳悌吉	印度の人、ボース氏	1932年	コンテ、紙

50	三芳悌吉	外科看護婦	1933年	木炭、紙
51	三芳悌吉	裏街の子供	1934年	鉛筆、紙
52	三芳悌吉	憩ひ	1940年	油彩、板
53	三芳悌吉	パラシュート制作工場（東京藤倉無線）	1945年	油彩、画布
54	三芳悌吉	日立製作所現場スケッチ	1945年	色鉛筆、紙
55	三芳悌吉	歯車の廃墟	1950年	油彩、画布
56	三芳悌吉	踏切	1951年	油彩、画布
57	三芳悌吉	歩道	1962年	油彩、画布
58	三芳悌吉	ピストロにて	1962年	油彩、画布
59	三芳悌吉	旧モンパルナス駅	1962年	油彩、画布
60	三芳悌吉	靴屋（スペイン）	1962年	油彩、画布
61	三芳悌吉	サンマルタン	1967年	油彩、画布
62	三芳悌吉	聖像売りの女	1965年	油彩、画布
63	三芳悌吉	浜木綿と仮面	1970年	アクリル、画布
64	三芳悌吉	浜木綿	1971年	アクリル、油彩、画布
65	三芳悌吉	雪景の中の静物（戦場ヶ原）	1971年	アクリル、画布
66	三芳悌吉	仕事場の隅	1973年	アクリル、画布
67	三芳悌吉	廃船の中で	1976年	アクリル、画布
68	三芳悌吉	オルガンの上	1977年	アクリル、画布
69	三芳悌吉	地図の前	1980年	アクリル、画布
70	三芳悌吉	海へ降りゆく	1981年	アクリル、画布
71	三芳悌吉	入江	1983年	アクリル、画布
72	三芳悌吉	赤壁	1983年	アクリル、画布
73	三芳悌吉	風の日	1985年	アクリル、画布
74	三芳悌吉	鳴らぬ手風琴	1987年	アクリル、画布
75	三芳悌吉	鬼界ヶ島硫黄岳	1989年	アクリル、画布
76	三芳悌吉	風の日	制作年不詳	油彩、ガラス
77	三芳悌吉	昼さがり（オランダ・スパーケンベルグ）	1980年	油彩、ガラス
78	三芳悌吉	おやつ	1981年	油彩、ガラス
79	三芳悌吉	市場の家族（アラン島）	1984年	油彩、ガラス
80	三芳悌吉	ゴールウェイの港	1985年	油彩、ガラス
81	三芳悌吉	アラン島	1985年	油彩、ガラス

展示室 3				
No.	作家名	作品名	制作年	素材・技法
82	三芳悌吉	ある池のものがたり	1984年	ペン、水彩、紙
83	三芳悌吉	ある池のものがたり 構想メモ	1984年	鉛筆、紙
84	三芳悌吉	ある池のものがたり 試作	1984年	ペン、水彩、紙

ロビー・回廊等				
No.	作家名	作品名	制作年	素材・技法
85	亀倉康之	白い馬	1997年	打ち出し、アルミニウム
86	植原亮輔	Teatre Products グラフィックツール	2006-09年	インク、紙
87	斎藤満栄	橋（カレル）	2008年	岩絵具、紙
88	河内文夫	アストリアスへの旅	1996年	油彩、画布
89	河内文夫	エル・カミーノ	2007年	油彩、画布
90	松永真	G8北海道洞爺湖サミット開催記念ポスター	2008年	デジタルプリント、紙
91	松永真	ショーモン国際ポスター・グラフィックデザインフェスティバル20周年記念ポスター	2009年	デジタルプリント、紙
92	ヨシダミノル	Just Curve for Blue ※第1展示室入口に展示	1966年	油彩、画布
93	明田川孝	越後の乳くぼり	1938年	ブロンズ鑄造
94	明田川孝	若き蒙古	1938年	ブロンズ鑄造
95	明田川孝	母と子	1954年	ブロンズ鑄造



村山径と〈戦後派〉の日本画家たち

【趣 旨】

柏崎市出身の日本画家村山径（1917～1987年）を全所蔵品により紹介し、また、彼とほぼ同時代に活動した日本画家たちの作品を展示することで、戦後の「日本画滅亡論」が語られた時代をくぐり抜け新しい時代の「日本画」を追求した時代や、画家たちの苦闘の姿を辿る。



【総 括】

●評価すべき点

村山径の日展出品作を追ってその変遷を辿り、時代の影響を受けた画風の変遷や、模索する姿を示すことができた。また、戦後、時代の波にもまれながら「日本画」を守り、苦闘しながら生み出した個々の作家の作品を展示することで、村山作品の時代性も伺える形となった。

展示室3では、前者の時代性を洋画の局面から並行して探ろうとし、中央で活躍した洋画家を中心に展示した。それにより、日本画や洋画の絵画に現れた時代性の一端を示すことができ、村山径の作品理解に繋がった。

●検討課題

村山径に限らず、地元作家を広く周知する手段、関心、興味をもってもらう方策を継続して考え、少しずつでも継続して実施していくことが必要である。

【開催日・その他】

=2010年7月8日(休)～9月5日(日)(52日間)=

主 催：新潟県立近代美術館

観覧料：一般……………420円（340円）

大学・高校生…………200円（160円）

※ 中学生以下無料

※（ ）内は20名以上の団体料金

【関連行事】

・作品解説会

会期中の土曜日 11：00～

担当 松矢国憲

【出品リスト】

展示室1・2

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材
1	村山径	残雪の高原	昭和33(1958)年	日本画 紙・岩絵具
2	村山径	白浜	昭和34(1959)年	日本画 紙・岩絵具
3	村山径	皿	昭和34(1959)年	日本画 紙・岩絵具
4	村山径	風紋	昭和35(1960)年	日本画 紙・岩絵具
5	村山径	溜	昭和36(1961)年	日本画 紙・岩絵具
6	村山径	吹割	昭和37(1962)年	日本画 紙・岩絵具
7	村山径	火山谷	昭和38(1963)年	日本画 紙・岩絵具
8	村山径	男と壁画	昭和40(1965)年	日本画 紙・岩絵具
9	村山径	調教	昭和41(1966)年	日本画 紙・岩絵具
10	村山径	月雲	昭和42(1967)年	日本画 紙・岩絵具
11	村山径	農	昭和44(1969)年	日本画 紙・岩絵具
12	村山径	閑	昭和45(1970)年	日本画 紙・岩絵具
13	村山径	創	昭和46(1971)年	日本画 紙・岩絵具
14	村山径	十三湖秋霖	昭和47(1972)年	日本画 紙・岩絵具
15	村山径	薄暮	昭和49(1974)年	日本画 紙・岩絵具
16	村山径	陽	昭和50(1975)年	日本画 紙・岩絵具
17	村山径	霧雲	昭和51(1976)年	日本画 紙・岩絵具
18	村山径	朝の火山	昭和53(1978)年	日本画 紙・岩絵具
19	村山径	雨の渦潮	昭和55(1980)年	日本画 紙・岩絵具
20	村山径	時雨	昭和57(1982)年	日本画 紙・岩絵具
21	村山径	浅春	昭和58(1983)年	日本画 紙・岩絵具

22	横山操	岳	昭和34(1959)年	日本画 紙・岩絵具
23	三輪晃勢	街	昭和26(1951)年	日本画 紙・岩絵具
24	加山又造	月と駱駝	昭和32(1957)年	日本画 紙・岩絵具
25	麻田鷹司	東尋坊	昭和37(1962)年	日本画 紙・岩絵具
26	工藤甲人	夜	昭和38(1963)年	日本画 紙・岩絵具
27	星野眞吾	赤い心象	昭和38(1963)年	日本画 紙・岩絵具
28	東山魁夷	森の静寂	昭和39(1964)年	日本画 紙・岩絵具
29	三上誠	作品	昭和40-43(1965-68)年頃	日本画 紙・岩絵具
30	三上誠	作品	昭和46(1971)年	日本画 紙・岩絵具
31	横山操	親不知夜雨	昭和45(1970)年	日本画 紙・墨
32	三浦文治	浜	昭和48(1973)年	日本画 紙・岩絵具
33	横山操	満月潮	昭和43(1968)年	日本画 紙・岩絵具
34	小島丹濤	待つ	昭和40(1965)年	日本画 紙・岩絵具
35	上野泰郎	もろびと	昭和50(1975)年	日本画 紙・岩絵具
36	岩田正巳	群飛	昭和49(1974)年	日本画 紙・岩絵具
37	三輪晃勢	昌蒲	昭和55(1980)年	日本画 紙・岩絵具
38	川合清	白粧	昭和58(1983)年	日本画 紙・岩絵具

展示室3 同時代の油彩画

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材
39	藤田嗣治	私の夢	昭和22(1947)年	油彩 カンヴァス・油絵具
40	脇田和	あらそい	昭和30(1955)年	油彩 カンヴァス・油絵具
41	糸園和三郎	鳩	昭和33(1958)年	油彩 カンヴァス・油絵具
42	阿部展也	太郎	昭和24(1949)年	油彩 カンヴァス・油絵具
43	山口薫	林と動物	昭和33(1958)年	油彩 カンヴァス・油絵具
44	佐藤敬	作品	昭和34(1959)年	油彩 カンヴァス・油絵具
45	高間惣七	海風	昭和34(1959)年	油彩 カンヴァス・油絵具
46	桂ゆき	異邦人	昭和36(1961)年	油彩 カンヴァス・紙・油絵具
47	赤穴宏	目Ⅱ	昭和38(1963)年	油彩 カンヴァス・油絵具
48	地主悌助	石	昭和41(1966)年	油彩 カンヴァス・油絵具
49	岡鹿之助	朝の城	昭和45(1970)年	油彩 カンヴァス・油絵具
50	富岡惣一郎	雪国	昭和46(1971)年	油彩 カンヴァス・油絵具
51	前田常作	人間波動粒子・日輪	昭和45-47(1970-72)年	油彩 カンヴァス・アクリル絵具
52	末松正樹	歷程	昭和38(1963)年	油彩 カンヴァス・油絵具
53	山口長男	漠	昭和47(1972)年	油彩 板・油絵具



亀倉雄策の世界

【趣 旨】

当館所蔵作品の中から、新潟県燕市出品のグラフィック・デザイナー亀倉雄策（1915～97年）の作品と、交友のあった国内外の作家による作品を特集展示した。

亀倉雄策は戦後日本のグラフィックデザインを牽引したデザイナーとして、その力強く明快なデザインが世界的に高い評価を受けてきた。その作品は、線や面の構成による抽象的なデザインのみならず、当時としては画期的な写真を使ったダイナミックなデザインで、見る人に強い印象を与える。また、ポスターだけでなくイベントや団体のシンボルマークやロゴタイプ、様々なパッケージデザインや書物の装幀など、多彩な活動を行った。

本展では、第一展示室にて、亀倉雄策旧蔵の美術作品と彼と交流のあった作家の所蔵品を展示し、亀倉の美的センスに焦点を当てた。第二展示室では、亀倉雄策の代表作である東京オリンピックや大阪万博のポスターをはじめ、企業マークやロゴといったCI（コーポレート・アイデンティティ）の仕事、初期作品からニコンやミリオンテックスなど時代を代表する企業のトータル・デザインの仕事を3つのコーナーで紹介した。第三展示室では、「同時代を生きた43人のメッセージ」と題し、亀倉を追悼して制作された交流のあった43作家の作品を展示し、その人間像を紹介した。

【総 括】

●評価すべき点

当館は膨大な数の亀倉雄策作品および関連資料を所蔵している。これまでも幾度か企画展示と常設展示において、その作品をまとめて紹介してきた。今回はそれらを展示室ごとに異なる3つの視点から紹介し、亀倉雄策の多彩な活動を紹介することを試みた。また、現在行っている整理・調査の成果として、初期作品や関連資料の中からミリオンテックスとニコンについて特集的に取り上げることで、アート・ディレクターの先駆者としての一面もアピールした。

●検討課題

今回の展示では初めて出品される資料なども展示したが、膨大な作品・資料のごく一部に過ぎない。そのために、コレクション展の中に定期的に亀倉の展示計画を含め、未展示作品や資料を公開していく必要がある。

【開催日・その他】

＝2010年9月10日（金）～11月28日（日）（72日間）＝

主 催：新潟県立近代美術館

観覧料：一般……………420円（340円）

大学・高校生……………200円（160円）

中学・小学生……………無料

※（ ）内は20名以上の団体料金

【関連行事】

・作品解説会
毎週土曜 14:00~
参加者数:55名

担当 濱田真由美

【出品リスト】

展示室 1		
作家名	作品名	制作年
海老原 喜之助	燃える	1957年
猪熊 弦一郎	犬とネクタイ	1991年
菅井 汲	ナショナルルート No.12	1964年
阿部 展也	JEMINI LAKE	1968年
阿部 展也	O-ROMA	1964年
ルチオ・フォンタナ	空間概念 期待	1962年
エンリコ・カステラーニ	無題	1964年
エンリコ・カステラーニ	白の表面 No.41	1966年
ジュゼッペ・カボグロッシ	QUARZO 1	1970年
	QUARZO 2	1970年
	QUARZO 3	1970年
	QUARZO 4	1970年
	QUARZO 5	1970年
	QUARZO 6	1970年
	QUARZO 7	1970年
	QUARZO 8	1970年
	QUARZO 9	1970年
	QUARZO 10	1970年
アルナルド・ボモドーロ	予言	1983年
ジュゼッペ・カボグロッシ	表面 308	1959年
有元 利夫	無題	1983年
有元 利夫	無題	1984年
ルーシー・リー	鉢	1960年代
ロゼリン・デリール	青いボール	1989年頃
カッサンドル	L.M.S. Best way	
ハーバート・バイヤー	Veil Mountain	1953年
ハーバート・バイヤー	Green Star	1962年
イサム・ノグチ	女(リシ・ケシュにて)	1956年
	カザンの聖母	19世紀
	聖ソフィア	18世紀
柳原 義達	坐る	1960年
岡本 太郎	顔	1965年
亀倉 雄策(編集・装幀)	『柳原義達』彫刻作品集	1981年
亀倉 雄策(編集・装幀)	『佐藤忠良』彫刻作品集	1982年
亀倉 雄策(ディレクション)	『クリエイション』No.6	1990年
亀倉 雄策(編集・装幀)	土門拳『筑豊のこどもたち』	1960年

展示室 2		
作家名	作品名	制作年
亀倉 雄策	勅使河原蒼風展	1954年
	地下鉄開通記念	1956年
	原子エネルギーを平和産業に!	1956年
	日本産業巡航見本市	1958年
	恐怖と悲しみ! ガン!	1959年
	ソ連の日本工業展(二点組)	1960年
	国際フォト+デザイン展	1965年
	ヤマギワ国際照明器具コンペ入賞作品展	1968年
	東京オリンピック・水泳	1963年
	東京オリンピックシンボルマーク	1961年
	東京オリンピック・陸上	1962年
	東京オリンピック 公式ポスター	1964年
	EXPO'70 試作	1967年
	EXPO'70 シンボルマーク	1967年
	EXPO'70 日本の祭	1969年
	札幌オリンピック	1970年
	札幌オリンピック・スケート	1969年
	ICSID'73	1973年
	滅びないで動物たち Save!Animals!	1974年
	第11回インタースキー蔵王大会	1977年
	UCLA日本古典芸能団招聘記念	1981年
	Design19(コレクションシリーズNo.1)	1982年
	ヒロシマアピールズ 1983	1983年
	JAPAN	1988年
	フランス革命200年祭ポスター	1988年
	土門拳記念館	1983年
	現代イギリス陶芸家 ルーシー・リー展	1989年
	COMMUNICATION&PRINT	1991年
	Observatoire International des Prisons (刑務所内での虐待行為を監視しよう)	1992年
	I'm here オリジナルボディー・デザイン、 オスカー・シュレンマー	1992年
	I'm here オリジナルボディー・デザイン、 オスカー・シュレンマー	1993年
	I'm here オリジナルボディー・デザイン、 オスカー・シュレンマー	1994年
	IBM Speed	1994年
	IBM Cost	1994年
	IBM Quality	1994年
	LIFE	1994年
	Symposium4	1994年
	新潟県立近代美術館 開館告知ポスター(春)	1992年
	新潟県立近代美術館 開館告知ポスター(夏)	1992年
	新潟県立近代美術館 開館告知ポスター(秋)	1992年
	新潟県立近代美術館 開館告知ポスター(冬)	1992年
	フジテレビシンボルマーク	1958年
	日本インダストリアルデザイナー協会シンボルマーク	1953年
	グッドデザインシンボルマーク	1959年
	日本リクルートセンタートレードマーク	1961年
	日本プレハブ住宅トレードマーク	1961年
	ミリオンテックスシンボルマーク	1959年
	東北放送シンボルマーク	1961年

	現代芸術研究所シンボルマーク	1965年
	日本職業スキー教師協会シンボルマーク	1976年
	デザイン フォア リビング展シンボルマーク	1968年
	協和醗酵トレードマーク	1967年
	アクロコンサルタントシンボルマーク	1965年
	TDKトレードマーク	1966年
	ヤマギワトレードマーク	1966年
	ヤマギワランプス、ヤマギワ工作所トレードマーク	1970年
	プリンスホテルトレードマーク	1968年
	全共連シンボルマーク	1973年
	デザインイヤーシンボルマーク	1973年
	伝統的工芸品産業振興協会シンボルマーク	1975年
	宝酒造シンボルマーク	1985年
	ニコンアイキャッチマーク試作	1982年
	トステムトレードマーク	1985年
	NTTトレードマークロゴタイプ	1985年
	ミリオンテックス	1953年
	この色と柄が秋のメンズモードを創る！ ミリオンテックス展	1953年
	第9回羊彩会 1955年秋冬物新作発表展示会	1955年
	第11回羊彩会 1956年秋冬物新作発表会	1956年
	ミリオンテックス創作展のお知らせ	1954年
	ミリオンテックス 高級紳士服地 ちかづく春に	1956年
	一流美術工芸家のデザインによる ミリオンテックス創作展	1954年
	冬 羊毛の暖い感覚が生きてくる！ ミリオンテックス	1956年
	豊満なしなやかさ・程よい重量感・自然の防水 性・型くづれせぬ保湿性・確かに生きている！ ミリオンテックス	1956年
	春 羊毛の爽やかな感覚が生きてくる ミリオンテックス	1957年
	多彩な色柄しかも渋く落ち着いた高級紳士服地 ミリオンテックス	1957年
	贈って喜ばれ、着て、また喜ばれる！ ミリオンテックス	1956年
	冬 羊毛の季節 ミリオンテックス	1959年
	羊毛の感覚が暖かく生きてくる！ ミリオンテックス	1959年
	服地なら！ミリオンテックス(縦)	不明
	服地ならミリオンテックス(横)	不明
	東レテトロンを生かした新製品！ タイド・ポップス	1959年
	東レテトロンを生かした大同毛織の新製品 タイド・ポップス	1959年
	ミリオンテックス関連資料	
	Nippon Kogaku K.K. 1953	1953年
	ニッコール クラブ写真展	1953年
	ニコン	1954年
	Nippon Kogaku 1954	1954年
	第2回 ニッコールクラブ写真展	1954年
	ニコンミクロン双眼鏡	1955年
	ニコンカメラ	1955年
	ニッコールレンズ	1955年
	Nippon Kogaku K.K. 1955	1955年
	ニッコールによる写真募集	1955年
	ニッコールフォトコンテスト	1956年
	ニコンF	1959年
	Nikon F (白バージョン)	1959年
	Nikon F (青バージョン)	1959年
	Nikon F (赤バージョン)	1959年
	ニコンカメラとニッコールレンズ	1957年
	ニコンSP	1957年
	ニコンカメラ	1957年
	ニッコールレンズ	1960年
	ニコレックス35	1960年
	ニコン バックページ類	1977年
	ニコン関連資料	
	亀倉雄策ドキュメント映像	
オーギュスト・ロダン	考える人	1880年

展示室3

「同時代を生きた43人のメッセージ」

青葉 益輝／浅葉 克己／五十嵐 威暢／宇野 亜喜良／遠藤 亨／大高 猛／岡本 滋夫／片山 利弘／勝井 三雄／小島 良平／サイトウ マコト／佐藤 晃一／佐藤 寛／下谷 二助／田中 一光／戸田 正寿／永井 一正／仲條 正義／長友 啓典／中村 誠／灘本 唯人／早川 良雄／福田 繁雄／細谷 巖／松永 真／山本 容子／横尾 忠則／横山 明／和田 誠／イタロ・ルビ／ヴァルデマル・シュヴィエジ／オルガー・マチス／カン・タイクン／ケン・ケイト／シーモワ・クワスト／ヘンリック・トマシェフスキ／ポール・デヴィス／ミルトン・グレイザー／ヤン・サフカ／ヤン・ムウォドゼニェツ／ルウ・ドーフスマン

ロビー・回廊等

作家名	作品名	制作年
佐藤 忠良	若い女	1971年
チェスワフ・ズペール	V.I.P.	1993年
竹田 康宏	Under the leaves	1994年
鈴木 力	中世の街(カンポ広場シエナ)	1989年
鈴木 力	聖者の街 '89 (アッシジ)	1989年
竹田 康宏	Under the leaves 98 AU "Let's stay right here"	1998年



近代美術館の名品

【趣 旨】

1993年に開館した当館は今年で18年目を迎えるが、新潟県による美術品収集の歴史は、1967年に開館した当館の前身である「新潟県美術博物館」の時代にまで遡り、優に40年間を超えている。県関連作家の重要作品を収集することが美術博物館時代からの一貫した使命であるが、1981年には旧大光相互銀行の日本洋画を中心とするコレクションを県で一括購入し、それが当館所蔵品のもうひとつの核となった。さらに、近代美術館開館に際して、フランス・ドイツを中心とする西洋美術を収集し、当館コレクションはいよいよ多彩なものとなっている。

本展は、企画展のない冬期にあわせて、当館所蔵品の「ベスト・セレクション」を紹介するものである。膨大な数のコレクションから約100点を厳選し、第1章「近代日本画の名品」(展示室1)、第2章「日本洋画の名品」(展示室2)、第3章「西洋絵画の名品」(展示室3)の3章にわけて紹介した。併せて、彫刻・工芸の名品を展示室内に設置した。

【総 括】

●評価すべき点

漫然と「名品」を展示するのではなく、各章をさらに「不同舎の人々」「フェウザン会の二人」などのテーマ別にわけ、時代の流れや画家のつながり、同じ主題での表現のちがいなどが理解できるよう工夫した。作品解説は基本的に全点に附した

が、一般的な説明文ではなく、その作品が「名品」である所以を2～3項目の箇条書きにした点が好評であった。

作品選定にあたっては、過去の企画展等で実施された人気投票を参考にし、さらに会期中、展示品のなかでベストワン作品を選ぶ投票をおこない、その途中経過と最終結果を館内に掲示した。このように来場者参加型の展示となるよう配慮できた点がよかった。

新潟日報文化欄に展覧会紹介記事を掲載したほか、長岡市展・ジュニア展の来場者向けにプラズマディスプレイによる展覧会紹介を設置するなど、普段の常設展とは異なる誘客策を試みることもできた。

●検討課題

当館所蔵品の粋を紹介する常設展であり、内容としては来場者満足度の高いものであったが、開催時期も関係して、なかなか集客につながらなかった。個々の作品の魅力や展覧会の話題性をさらに効果的にアピールしていくことが必要である。

【開催日・その他】

＝2010年12月2日(木)～2011年1月23日(日) (40日間)＝

会期中展示替え(前期：～12月26日/後期：1月4日～)

主 催：新潟県立近代美術館

観覧料：一般……………420円 (340円)

大学・高校生……………200円 (160円)

※中学生以下無料

※()内は20名以上の団体料金

【関連行事】

・作品解説会

会期中の土曜日 11:00～

担当 長嶋圭哉

【出品リスト】

展示室1 第1章 近代日本画の名品			
【前期】			
小杉 放菴	春秋屏風	1937年	
行田 魁庵	鷗の図	江戸末期	
横山 大観	早春	1924年	
小林 古径	飛鶴	1930年	
三輪 晁勢	鶴	昭和初期	
竹内 栖鳳	睡郷	1930年	
土田 麦僊	山茶花	1933年	
小野 竹喬	黍熟るる島	1917年	
中村 岳陵	嵐山朝陽・東山夕照	1926年	
宇田 荻邨	鷹ヶ峰	1933年	
三浦 文治	佐渡のイカ干し	1938年	
尾竹 竹坡	大地円	1925年	
【後期】			
三輪 晁勢	海女	1937年	
吉川 霊華	逍遙	1904年	
錦木 清方	春の夜のうらみ	1922年	
土田 麦僊	春宵舞妓図	1923年	
奥村 土牛	少女図	1926年	
橋本 雅邦	秋景山水図	1892年頃	
川合 玉堂	溪山晚秋	1930年頃	
下村 観山	入日	1915年	
小林 古径	雨	1917年	
速水 御舟	浦津	1911年	
広川 操一	習志野の朝	1939年	
岩田 正巳	春日垂迹	1927年	
酒井 三良	龍居雪聲	1931年	
【全会期】			
麻田 鷹司	赭那智	1960年	
加山 又造	月と駱駝	1957年	
横山 操	炎々桜島	1956年	
東山 魁夷	森の静寂	1964年	
工藤 甲人	夜	1963年	
佐々木象堂	鍔銅色絵鷗哥置物	1940年	
山本 自燼	鍔銅鷗香炉	1940年	
亀倉 浦舟	黄銅鷗文飾箱	1937年	
津田 信夫	鍔銅壺・波光連如	1942年	

展示室2 第2章 日本洋画の名品			
【全会期】			
小山正太郎	仙台の桜	1881年	
浅井 忠	農人	1890年	
小泉 成一	小春ノ日和	1888年	
高村 真夫	春日野	1911年	
青木 繁	妙義山	1902年	
坂本繁二郎	牛	1915年	
岸田 劉生	冬枯れの道路（原宿附近写生）	1916年	
萬 鉄五郎	木の間風景	1918年	
佐伯 祐三	広告塔	1927年	
佐伯 祐三	パンテオン寺院	1928年	
前田 寛治	赤い帽子の女	1925年	
里見 勝蔵	赤と緑の静物	1928年	
矢部 友衛	習作	1920年	
坂田 一男	椅子による裸婦	1924年	
藤田 嗣治	私の夢	1947年	
満谷国四郎	裸婦	1923年	
小出 楮重	ソファアの裸体B	1930年	
牧野 虎雄	麦扱く農婦等	1918年	
安宅安五郎	群蝶	1926年	
梅原龍三郎	紫禁城	1942年	
安井曾太郎	読書	1942年	
児島善三郎	森と聚落	1958年	
長谷川利行	風景	1931年	
海老原喜之助	市場	1937年	
鳥海 青児	北海道風景	1943年	
北川 民次	大地	1939年	
野間 仁根	花園の友人	1936年	
吉原 治良	静物	1929年	
山口 長男	漠	1972年	
斎藤 義重	作品1	1957年	
白髪 一雄	志賀#107	1973年	
山口 薫	夜明けの顔	1954年	
村井 正誠	ものうり	1958年	
難波田龍起	森の詩	1960年	
中村 彝	洲崎義郎氏の肖像	1919年	
佐藤 哲三	残雪	1952年	
富岡惣一郎	作品	1962年	
國領 經郎	遠い海	1987年	
末松 正樹	歷程	1963年	
北村 四海	すみれ	1920年頃	
三浦小平二	青磁鉢	1978年	

展示室3 第3章 西洋絵画の名品

【全会期】

C-F. ドービニー	オワーズ河、イル・ド・ヴォーの夜明け	1869年
J-B-C. コロー	ビブリー	1874～75年
C. トロワイヨン	りんごの取り入れ	1840年頃
P-E.T. ルソー	ボートに乗る人のいる夏の風景	1845年頃
J. デュプレ	羊飼	1883年
A. フォンタネージ	ブジェイ高原	1858～60年頃
J.E. ミレイ	アリス・グレイの肖像	1859年
C. モネ	コロンプの平原、霜	1873年
C. ビサロ	ルヴシエンヌの画家の家、雪	1871年
P. セザンヌ	水浴	1875～77年
M. ドニ	夕映えの中のマルト	1892年
P-E. ランソン	収穫する7人の女性	1895年
G. ルオー	晩秋 No.3	1948～52年
A. ブーシェ	朝顔	1892年頃
E. バルラッハ	ロシアの恋人たち	1908年 (1940年鑄造)

【前期】

A. デューラー	6つの組紐文：第6葉 7つの同じ網目文様のある組紐文	1505～07年
A. デューラー	メレンコリア I	1514年
A. デューラー	ウルリッヒ・ファルンビューラーの肖像	1552年 (1620年頃の刷り)
J. カロ	狩猟図	1620年頃
J. カロ	聖アントニウスの誘惑	1635年以前
F. ゴヤ	カプリチオス 1. フランシスコ・ゴヤ・イルシエンテス、画家	1799年刊行
F. ゴヤ	カプリチオス 43. 理性の眠りは怪物を生む	1799年刊行

【後期】

E. ムンク	病める少女	1894年
K. コルヴィッツ	自画像	1904年
L. ファインガー	市庁舎、ツォッテルシュテット2	1918年
E.L. キルヒナー	アプサロムとその忠告者	1918年
H.M. ベヒシュタイン	或る村～1. 朝	1918～19年
E. ヘッケル	第1回ブリュッケ展カタログ～表紙	1910年
O. ミュラー	現代ドイツ版画家集～水浴する人々	1920年

ロビー・回廊等

【全会期】

A. ロダン	考える人	1880年
前田 常作	人間誕生6	1963年
K. コルヴィッツ	母と二人の子	1932～36年 (1988鑄造)
C. ズベール	V. I. P.	1993年
竹田 康宏	Under the leaves	1994年
竹田 康宏	Under the leaves 98 AU "Let's stay right here"	1998年



個人コレクターたちの肖像

【趣 旨】

美術館の所蔵品には、「○○コレクション」と呼ばれる作品群がある。それらは、ある個人（またはその個人に率いられた企業）が集めたコレクションが、まとめて当館に収蔵されたという過去の来歴を示している。そのコレクターの存在を鍵に収蔵品を見直してみれば、新たな作品鑑賞の可能性がひらかれることに着目したのが、今回の特集である。当館の近代洋画の礎ともいえる大光コレクションを築いた駒形十吉は、評価の定まった美術だけでなく、未知数の現代美術を収集することに情熱を燃やし、全国に先駆けて「長岡現代美術館」を創立する先見の明をもったコレクターであった。また、大正期の洋画家中村彝が描いた柏崎のバトロンの洲崎義郎の肖像は、画家と収集家の温かい信頼関係を伝えている。今回の展覧会では、まとまったコレクション以外にも、ユニークな来歴をもつ作品を1点ずつひろいだし、著名なセザンヌ・コレクションを作り上げたオーギュスト・ベルランが旧蔵していたセザンヌの水浴図や、文豪サマセット・モームが愛したピサロの風景画などを、魅力的なコレクター秘話とともに紹介することを試みた。

【総 括】

●評価すべき点

「個人コレクター」という視点から所蔵品を新たにとらえなおすことで、それまで表面に現れなかった芸術家とパトロンの濃密な人間関係や、芸術

を慈しみ育てようとする風土までが見えてきた。コレクションごとの由来が掘り下げて紹介されていることが意外で、新鮮に感じられたようで、来館者から好評を得た。

●検討課題

羽仁五郎やサマセット・モームなど特定のユニークな旧蔵者に光を当てることができた反面、駒形十吉や坂井藤吉のように当館で収蔵している作品数が多いコレクターの場合、個々の作品にまつわるエピソードにきめ細かく触れることができなかった点が反省される。

【開催日・その他】

＝2011年1月29日(土)～4月10日(日) (62日間)＝

主 催：新潟県立近代美術館

観覧料：一般……………420円 (340円)

大学・高校生……………200円 (160円)

※ 中学生以下無料

※ () 内は20名以上の団体料金

担当 平石昌子、高 晟俊

【出品リスト】

展示室1

作家名	作品名	制作年	備考
江口 草玄	花眼	1981年	相澤コレクション 前期
江口 草玄	風	1964年	相澤コレクション 後期
江口 草玄	雷	1964年	相澤コレクション 後期
中村 彝	洲崎義郎氏の肖像	1919年	
中村 彝	洲崎義郎宛書簡	1920年	
佐藤 哲三	農婦	1940年	
佐藤 哲三	稲	1941年	
佐藤 哲三	裸婦	1953年	
ポール・セザンヌ	水浴	1875-77年	寄託
カミーユ・ピサロ	ルヴァシエンヌの画家の家、雪	1871年	寄託
宮 芳平	海その1	1959年	
宮 芳平	聖地巡礼シリーズ・6 ユダの椅子	1966-70年	
宮 芳平	聖地巡礼シリーズ・8 ゴルゴダ	1966-70年	
ジョルジュ・ルオー	晩秋 No.3	1948-52年	
モーリス・ドニ	夕映えの中のマルト	1892年	
モーリス・ドニ	ベンガル虎・バッカス祭	1920年	
オーギュスト・ロダン	疲れ	1887年	
マックス・エルンスト	鳥＝人頭	1934-35年 (1982年鋳造)	
ケーテ・コルヴィッツ	母親と二人の子	1932-36年 (1988年鋳造)	
佐伯 祐三	バンテン寺院	1928年	坂井コレクション
棟方 志功	一乗寺裏山	1942年	坂井コレクション
棟方 志功	双鯉之図	1942年	坂井コレクション 前期
棟方 志功	二菩薩釈迦十大弟子の内二菩薩	1948年	坂井コレクション 後期
加山 又造	白菜と小鳥	1961年	坂井コレクション
赤穴 宏	日本橋の赤レンガ	不詳	坂井コレクション
川口 軌外	静物	1945年	坂井コレクション
須田 国太郎	水辺の草 (杜若)	1947年	坂井コレクション
鷹山 宇一	花	不詳	坂井コレクション
中川 一政	李朝三島手偏壺図	1949年	坂井コレクション
田崎 広助	箱根の富士	不詳	坂井コレクション
富岡 惣一郎	富士雪景	不詳	坂井コレクション
前田 常作	人間風景No.13	1960年	坂井コレクション
ジェームズ・アンソール	シノワズリー	1920-25年頃	坂井コレクション

展示室2

作家名	作品名	制作年	備考
藤田 嗣治	私の夢	1947年	大光コレクション
坂本 繁二郎	牛	1915年	大光コレクション
岸田 劉生	冬枯れの道路 原宿附近写生	1916年	大光コレクション
萬 鉄五郎	雪の景 (土沢)	1915年	大光コレクション
佐伯 祐三	広告塔	1927年	大光コレクション
前田 寛治	赤い帽子の女	1925年	大光コレクション
小出 楯重	ソファの裸体B	1930年	大光コレクション
安井 曾太郎	読書	1942年	大光コレクション
北川 民次	大地	1939年	大光コレクション
梅原 龍三郎	紫禁城	1942年	大光コレクション
須田 国太郎	三輪附近	1934年	大光コレクション
島海 青児	北海道風景	1943年	大光コレクション
脇田 和	あらそい	1955年	大光コレクション
山口 薫	林と動物	1958年	大光コレクション
岡本 信治郎	10人のインディアンより	1964年	駒形十吉記念美術館 寄託
磯辺 行久	作品 '64-63 ~ 87	1964年	駒形十吉記念美術館 寄託
田畔 司郎	はりこ	1964年	駒形十吉記念美術館 寄託
吉村 益信	クイーン・セミラミスI	1966年	駒形十吉記念美術館 寄託
山口 勝弘	作品	1967年	駒形十吉記念美術館 寄託
河口 龍夫	水平線と垂直線	1968年	駒形十吉記念美術館 寄託
チャールズ・ヒンマン	ナンバー・エイト	1965年	駒形十吉記念美術館 寄託
チャールズ・ヒンマン	ナンバー・ナイン	1965年	駒形十吉記念美術館 寄託
チャールズ・ヒンマン	休憩	1965年	駒形十吉記念美術館 寄託
高松 次郎	カーテンをあけた女の影	1965年	駒形十吉記念美術館 寄託
白髪 一雄	白色のひろがり	1965年	駒形十吉記念美術館 寄託
前田 常作	形而上の空間 (空)	1966年	駒形十吉記念美術館 寄託

ベルント・ダムケ	碑文	1966年	駒形十吉記念美術館 寄託
ベルント・ダムケ	中空	1966年	駒形十吉記念美術館 寄託

展示室3

作家名	作品名	制作年	備考
山本 容子	追悼・亀倉雄策	1998年	
海老原 喜之助	市場	1937年	亀倉コレクション
ルチオ・フォンタナ	空間概念 期待	1962年	亀倉コレクション
イサム・ノグチ	女 (リシ・ケシュにて)	1956年	亀倉コレクション
ベン・ニコルソン	Painting 1946	1946年	亀倉コレクション
マリノ・マリニ	馬	1953年	亀倉コレクション
マリノ・マリニ	騎手のための構想・習作	1955年	亀倉コレクション
堂本 尚郎	黒い太陽-W	1973年	亀倉コレクション
フェルナン・レジェ	詩画集イルミナシオン11 町々1	1949年	亀倉コレクション 前期
パブロ・ピカソ	テーブルの上のギターと楽譜	1920年	亀倉コレクション 前期
ジョアン・ミロ	スペインを救え!	1937年	亀倉コレクション 後期
マックス・エルンスト	喜びの鳥	1971年	亀倉コレクション 後期
塚谷 政義	A氏像	1952年	相澤コレクション
今西 中通	弟の通夜	1937年	相澤コレクション 前期
村山 槐多	裸婦	1916年	相澤コレクション 前期
北川 民次	メキシコインディアン部落の楽士たち	1970年	相澤コレクション
ルフィーノ・タマヨ	女シリーズ	不詳	相澤コレクション 前期
ジャン・デュビュッフェ	大地の果実	1959年	相澤コレクション 前期
野見山暁治	誰も知らない	1993年	相澤コレクション 前期
ジョアン・ミロ	太陽の賛歌 1-18	1975年	相澤コレクション 前期
野見山暁治	ホントのこと	1993年	相澤コレクション 後期
海老原 喜之助	少年と馬	1954年	相澤コレクション 後期
阿部 展也	なめくじ夜曲	1947年	相澤コレクション 後期
マルク・シャガール	作品	不詳	相澤コレクション 後期
ルフィーノ・タマヨ	女シリーズ	不詳	相澤コレクション 後期
ジョアン・ミロ	太陽の賛歌 19-33	1975年	相澤コレクション 後期

ロビー・回廊等

作家名	作品名	制作年	備考
高橋 秀	春	1970年	大光コレクション
高橋 秀	アリスの月 (白)	1976年	大光コレクション
岩田 久利	花器	1985年	
齋藤 三郎	色絵椿文面取壺	1975年	

企画展



日本の自画像

写真が描く戦後1945-1964

【趣 旨】

1945年（昭和20）太平洋戦争に敗れ、荒廃した国土から出発した戦後日本は、1964年（昭和39）の東京オリンピック大会開催までの20年間に劇的な変貌を遂げ、経済大国への道を歩むようになった。この時代は、民主化によって自由な写真表現が息を吹き返し、また新しい才能が戦後写真を切り開いてゆく、まさに創造的エネルギーに満ち溢れた20年間だったと言える。

本展では、戦後日本の写真界を代表する11人の写真家、石元泰博、川田喜久治、木村伊兵衛、田沼武能、東松照明、土門拳、長野重一、奈良原一高、濱谷浩、林忠彦、細江英公によって撮影された約170点のモノクロ写真を、「敗戦の余波」「伝統と近代のはざまで」「新しい日本へ」の3章構成で展覧し、この激動の時代を振り返った。これらの写真は、単に時代順、作家ごとに並べられるのではなく、一見無造作に配置されながら、錯綜する時代状況の複雑な諸相を如実に物語っている。これは、パリ在住の若手日本写真史研究家マーク・フュステル（Marc Feustel）の手により構成されたもので、「戦後日本」という時空間を経験したことがない外国人の手によって日本の「自画像」が鮮やかに描き出されている点も、本展の見どころだったと言える。

【総括】

●評価すべき点

- ・企画者であるフランス人研究者マーク・フュー
ステル氏の視点を重視しつつ、用語解説を念入

りにして分かりやすい展示となった。

- ・写真入門講座「デジカメでモノクロ写真を撮ろう」等を開催し、新潟には多い写真愛好家のニーズに応えることができた。

●検討課題

- ・「奈良の古寺と仏像」展を急遽当館で開催することとなったため、本来ならば企画展示室で開催する予定であった本展を常設展示室で開催することになってしまった。また、本来ならば仏像展観覧者への本展観覧料の割引も検討すべきであったが、仏像展があまりにも突然の話であったため、検討の俎上にのぼることもなかった。
- ・県内の報道関係がすべて「奈良の古寺と仏像」展の方に流れてしまったため、本展を効果的に広報することができなかった。

【開催日・その他】

=2010年4月10日(土)～5月30日(日) (46日間) =

主 催：新潟県立近代美術館

協 賛：凸版印刷株式会社、株式会社ニコン、株
式会社ニコンイメージングジャパン

協力：岩波書店

後 援：社団法人 日本写真協会、社団法人 日本写真家協会、長岡市、長岡市教育委員会、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、ケーブル

テレビのエヌ・シー・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FMながおか80.7、新潟県写真家協会

企 画：クレヴィス

観覧料：一般……………800円（600円）

大学・高校生……………600円（400円）

※中学生以下は無料

※（ ）内は20名以上の団体料金

【関連行事】

・ワークショップ

「デジカメでモノクロ写真を撮ろう」

（講師：新潟県写真家協会会長 上山益男）

4月29日（木） 14：00～

参加人数：15名

・美術鑑賞講座

「戦後日本を写した写真家たち」

（講師：当館主任学芸員 長嶋圭哉）

5月1日（土） 14：00～

参加人数：8名

・映画鑑賞会

①「ドキュメンタリー 十二人の写真家」

（1955年、監督：勅使河原宏、企画：亀倉雄策）

4月17日（土） 10：00～／ 14：00～

美術館講堂にて。参加人数：67名

②「続・映画でみる昭和30年代の日本・家族の幸福『親子編』」

（2006年 記録映画社・桜映画社・日本映画新社）

5月22日（土） 10：00～／ 14：00～

美術館講堂にて。参加人数：64名

【図 録】

買取部数：35部

無料配布部数：35部

仕 様：255mm×197mm 240頁

編 集：多田亜生

発 行：クレヴィス

内 容：ごあいさつ

太陽を凝視する／マーク・フーステル
プロローグ

1 敗戦の余波

2 伝統と近代のはざままで

3 新しい日本へ

写真家紹介間取り帖／高橋直裕

略歴・展覧会歴・文献／副田一穂・中村史子 編

作品一覧

【関連記事】

●新聞

4月17日（土）『長岡新聞』

「写真で戦後を振り返る」

4月20日（火）『十日町新聞』

「戦後日本の自画像写真展開催」



5月21日(金) 『越後タイムス』
「モノクロの記憶の中で」／柴野毅実
その他
『読売新聞』 4/13(火)
『新潟日報』 4/15(木)、4/16(金)、4/26(月)
『魚沼新聞』 4/16(金)
『魚沼新報』 4/30(金)

●雑誌

『WEEK!』 4/3-4/16
『Carrel』 5月号
『Komachi』 5月号
『ウエストタウン』 5月号
『月刊にいがたタウン情報』 4月号
『月刊ウインド』 5月号、6月号
『新潟情報』 4/28－5/5
『暮らしの通信』 4/17
『マイスキップ』 7月号

●テレビ

4/24(土) UX新潟テレビ21「ほっとホット新潟」

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	2,230
	前売	—
無料観覧者数	無料	1,160
	免除	500
総観覧者数		3,890
有料率 (%)		57.3

担当 長嶋圭哉、高 晟俊、松矢国憲

【出品リスト】

1. 敗戦の余波

	作家名	作品名	制作年
1	濱谷 浩	終戦の日の太陽、高田、新潟	1945年
2	東松 照明	敗戦の記憶、豊川海軍工廠跡7	1959年
3	東松 照明	敗戦の記憶、豊川海軍工廠跡3	1959年
4	林 忠彦	焼け跡の母子、高田馬場、東京	1947年
5	林 忠彦	歓喜の復員、品川駅、東京	1946年
6	林 忠彦	倒壊したビルを家に、江戸川橋、東京	1947年
7	林 忠彦	ごみ捨て場のバー、大森駅付近、東京	1950年
8	木村 伊兵衛	新宿闇市、東京	1945年
9	長野 重一	戦災を免れた街並み、徳島	1957年
10	田沼 武能	紐で電柱につながれた靴磨きの子ども、銀座、東京	1949年
11	林 忠彦	煙草をくゆらす戦災孤児、上野、東京	1946年
12	土門 拳	靴をみがかせる進駐軍兵士、銀座、東京	1954年
13	土門 拳	ベンチの二人、新橋、東京	1953年
14	土門 拳	路傍、銀座、東京	1954年
15	田沼 武能	真知子巻きでおつかい、佃島、東京	1955年
16	木村 伊兵衛	焼け跡でわが家を探す復員兵、東京	1948年
17	林 忠彦	国会議事堂前で物乞いをする傷痍軍人、東京	1956年
18	田沼 武能	昔ながらのスタイルで選擇する地方からきた老夫婦、皇居前広場、東京	1963年
19	長野 重一	戦死した息子の遺影と巡礼する老夫婦、徳島	1956年
20	土門 拳	広島平和記念公園、広島	1957年
21	川田 喜久治	<地図>原爆ドームと太陽	1960-1965年
22	川田 喜久治	<地図>原爆ドーム天井、しみと剥落、広島	1960-1965年
23	川田 喜久治	<地図>原爆ドーム天井、しみと剥落、広島	1960-1965年
24	川田 喜久治	<地図>原爆ドーム天井、しみと剥落、広島	1960-1965年
25	川田 喜久治	<地図>鉄屑、広島	1960-1965年
26	川田 喜久治	<地図>要塞跡・高射砲陣地	1960-1965年
27	東松 照明	家・天草1 熊本	1959年
28	川田 喜久治	<地図>特攻隊員の遺書	1960-1965年
29	川田 喜久治	<地図>特攻隊員の写真	1960-1965年
30	川田 喜久治	<地図>原爆死、中学生夏服上着	1960-1965年
31	土門 拳	銀座4丁目交差点、東京	1946年
32	林 忠彦	配給を受ける長い列、銀座、東京	1946年
33	田沼 武能	街角でライターオイルを売る父子、銀座、東京	1951年
34	長野 重一	占領軍の交通標識、銀座、東京	1946年
35	林 忠彦	日本女性と東京見物する進駐軍兵士、皇居前広場、東京	1954年
36	石元 泰博	<街で一東京>	1953年
37	奈良原 一高	<Tokyo the '50s>No.3、有楽町、東京	1954-1960年
38	林 忠彦	銀ブラの復活、銀座、東京	1950年
39	土門 拳	ふたり、銀座、東京	1955年
40	木村 伊兵衛	中山競馬場、千葉	1948年
41	林 忠彦	クリスマス・イブの喫茶店、東京	1948年
42	田沼 武能	SKDの踊り子、浅草国際劇場屋上、東京	1949年
43	林 忠彦	照明に浮かぶアーニーバイル劇場、日比谷、東京	1948年
44	林 忠彦	楽屋の踊り子、新宿セントラル劇場、東京	1954年
45	林 忠彦	客引き、吉原、東京	1954年
46	林 忠彦	蠟燭のもとで、浅草、東京	1954年
47	林 忠彦	ストリップ劇場前の僧侶、浅草、東京	1954年
48	木村 伊兵衛	本郷森川町、東京	1953年
49	長野 重一	パン屋さん、隅田公園、東京	1955年
50	土門 拳	紙芝居、東京	1953年
51	土門 拳	しんご細工、浅草雷門、東京	1954年
52	木村 伊兵衛	農作業帰りの子ども、上田、長野	1949年
53	土門 拳	子守り、佐渡、新潟	1950年
54	濱谷 浩	農家の子、横内、青森	1955年
55	長野 重一	海苔干場の子守り、羽田、東京	1956年
56	木村 伊兵衛	青年、仁井田、秋田	1952年
57	木村 伊兵衛	ギターを弾く青年、大曲、秋田	1954年
58	長野 重一	創価学会の集会、横浜、神奈川	1962年
59	田沼 武能	三社祭り、浅草、東京	1955年
60	奈良原 一高	<王国>沈黙の園No.12、函館、北海道	1958年
61	奈良原 一高	<王国>沈黙の園No.52、函館、北海道	1958年

2. 伝統と近代のはざままで

作家名	作品名	制作年
62 東松 照明	家・天草8	1959年
63 奈良原 一高	＜人間の土地＞No.79、火の山の麓、黒神村、鹿児島	1954-1957年
64 濱谷 浩	田植え女、富山	1955年
65 濱谷 浩	湯滝にうたれる女たち、酸ヶ湯温泉、青森	1957年
66 濱谷 浩	山の湯治場、谷地温泉、青森	1957年
67 木村 伊兵衛	車中の人、秋田	1953年
68 土門 拳	かつぎ屋専用荷物列車、秋田	1953年
69 濱谷 浩	雪季市、十日町、新潟	1955年
70 木村 伊兵衛	秋田おばこ、大曲、秋田	1953年
71 木村 伊兵衛	板塀、追分、秋田	1953年
72 土門 拳	田植え、秋田	1953年
73 濱谷 浩	稲刈り、酒田、山形	1955年
74 木村 伊兵衛	老農夫と孫、大曲、秋田	1958年
75 濱谷 浩	庄内美田、酒田、山形	1955年
76 長野 重一	エビ漁、尾岱沼、北海道	1958年
77 長野 重一	漁村の少年、島根半島	1953年
78 林 忠彦	下田港、静岡	1956年頃
79 長野 重一	石油精製基地建設で漁場を埋め立てられた漁民、川崎、神奈川	1959年
80 木村 伊兵衛	日本鋼管造船所にて、鶴見、神奈川	1951年
81 長野 重一	祝日休暇の社員住宅、八幡製鉄所、福岡	1958年
82 奈良原 一高	＜人間の土地＞No.107、火の山の麓、黒神村、鹿児島	1954-1957年
83 奈良原 一高	＜人間の土地＞No.13、緑なき島、軍艦島、長崎	1954-1957年
84 奈良原 一高	＜人間の土地＞No.9、緑なき島、軍艦島、長崎	1954-1957年
85 奈良原 一高	＜人間の土地＞No.41、緑なき島、軍艦島、長崎	1954-1957年
86 長野 重一	屋上の昼休み、銀座、東京	1958年
87 木村 伊兵衛	屋上の化粧場、銀座、東京	1954年
88 長野 重一	海拔ゼロメートル地帯の洪水、大島、東京	1959年
89 東松 照明	伊勢湾台風・名古屋	1959年
90 東松 照明	伊勢湾台風・名古屋	1959年
91 土門 拳	＜筑豊のこどもたち＞弁当を持ってこない子、福岡	1959年
92 石元 泰博	＜子供―東京＞	1953-1957年
93 石元 泰博	＜子供―東京＞	1953-1957年
94 奈良原 一高	＜Tokyo the '50s＞No.1、日比谷、東京	1954-1960年
95 奈良原 一高	＜Tokyo the '50s＞No.33、新宿、東京	1954-1960年
96 田沼 武能	お花見、上野公園、東京	1954年
97 長野 重一	お花見、隅田公園、東京	1955年
98 濱谷 浩	嫁入り、鳥越村、石川	1953年
99 濱谷 浩	船霊様の年取りのご馳走を運ぶ娘、山北、新潟	1956年
100 木村 伊兵衛	葵祭り、京都	1959年
101 濱谷 浩	加賀百万石祭りの行列、金沢、石川	1959年
102 田沼 武能	老妻を背負って浅草寺の朝詣で、浅草、東京	1955年
103 林 忠彦	職を求める人、飯田橋職業安定所、東京	1953年
104 木村 伊兵衛	浅草、東京	1953年
105 田沼 武能	写真撮影会、銀座、東京	1957年
106 田沼 武能	歌声喫茶、新宿、東京	1957年
107 長野 重一	小学校でのテレビ鑑賞、佐井、青森	1959年
108 長野 重一	三越デパートのファッションショー、日本橋、東京	1956年
109 土門 拳	新宿の夜、東京	1953年
110 田沼 武能	お酉さまに参詣する日本髪姿の娘さん、浅草、東京	1954年
111 田沼 武能	いきな娘と現代娘（三社祭り）、浅草、東京	1955年
112 長野 重一	サンドイッチマン、銀座、東京	1952年
113 長野 重一	バス停の女性、取手、茨城	1955年
114 長野 重一	渋谷駅前の交差点、東京	1956年

3. 新しい日本へ

作家名	作品名	制作年
115 川田 喜久治	＜地図＞コカ・コーラ	1960-1965年
116 川田 喜久治	＜地図＞ラッキー・ストライク	1960-1965年
117 川田 喜久治	＜地図＞原爆ドームと太田川、広島	1960-1965年
118 川田 喜久治	＜地図＞日の丸	1960-1965年
119 川田 喜久治	＜地図＞広島原爆死者、広島	1960-1965年
120 川田 喜久治	＜地図＞90歳日本人・下賜勲章	1960-1965年
121 奈良原 一高	＜Tokyo the '50s＞No.42、丸の内、東京	1954-1960年

122	石元 泰博	＜街で見たものー東京＞	1953-1958年
123	石元 泰博	＜桂離宮＞、京都	1953年
124	石元 泰博	＜街ー東京＞	1963年
125	濱谷 浩	糸満、沖縄	1960年
126	東松 照明	家・天草5	1959年
127	東松 照明	家・天草9	1959年
128	東松 照明	＜石油コンビナート＞ No.7 四日市・三重	1963年
129	東松 照明	＜石油コンビナート＞ No.3 四日市・三重	1960年
130	長野 重一	新生児室の赤ちゃん、新宿、東京	1960年
131	長野 重一	混同を防ぐため足裏に母の名を書かれた新生児、新宿、東京	1960年
132	田沼 武能	首都高建設中の道路でバレーボール、東京	1962年
133	長野 重一	戦後初めて建設された都営アパート、大久保、東京	1961年
134	木村 伊兵衛	昼休みの横浜港、神奈川	1958年
135	石元 泰博	東京	1963年
136	石元 泰博	東京	1955-57年
137	長野 重一	中央線の通勤電車、東京	1960年
138	長野 重一	午後5時のサラリーマン、丸の内、東京	1959年
139	長野 重一	管理職の研修を終えた証券会社のサラリーマン、池袋、東京	1961年
140	長野 重一	日立製作所の朝礼、茨城	1962年
141	長野 重一	座禅する企業研修生、尼崎、兵庫	1964年
142	長野 重一	朝礼する企業研修生、尼崎、兵庫	1964年
143	長野 重一	アメリカ合衆国訪問に出発する財界首脳代表団、羽田、東京	1961年
144	石元 泰博	東京	1962年
145	石元 泰博	東京	1962年
146	長野 重一	日米安保条約反対の学生デモ、東京	1960年
147	濱谷 浩	日米安保条約反対デモ、東京	1960年
148	濱谷 浩	日米安保条約反対デモ、東京	1960年
149	土門 拳	砂川闘争「座り込み」、砂川、東京	1955年
150	濱谷 浩	日米安保条約反対デモ、東京	1960年
151	長野 重一	日米安保条約反対デモで死亡した女子大生への献花、国会議事堂前、東京	1960年
152	土門 拳	＜筑豊のこどもたち＞座り込みする炭坑離職者たち、田川、福岡	1959年
153	土門 拳	＜筑豊のこどもたち＞閉ざされた抗口、田川、福岡	1959年
154	土門 拳	＜筑豊のこどもたち＞レイ子ちゃん、田川、福岡	1959年
155	長野 重一	閉山した炭鉱ロッカーの安全帽と地下足袋、田川、福岡	1962年
156	長野 重一	閉山で失職した若い炭鉱労働者、飯塚、福岡	1959年
157	長野 重一	乗馬クラブの遠乗り会に参加した義宮さまとご学友、東京	1961年
158	田沼 武能	銀座の若者、東京	1962年
159	田沼 武能	銀座の若者、東京	1960年
160	石元 泰博	＜街でー東京＞	1962年
161	細江 英公	＜おとこと女＞作品20	1960年
162	細江 英公	＜おとこと女＞作品24	1960年
163	細江 英公	＜きもの＞作品2	1963年
164	細江 英公	＜薔薇刑＞作品38	1961年
165	細江 英公	＜薔薇刑＞作品32	1961年
166	細江 英公	＜薔薇刑＞作品16	1961年
167	細江 英公	＜鎌鼬＞作品8	1965年

特集 渡辺義雄「古寺大観」

	作家名	作品名	制作年
168	渡辺 義雄	法隆寺 西院伽藍 7～8世紀前期	1968-69年
169	渡辺 義雄	法隆寺 南大門より中門・五重塔を望む	1968-69年
170	渡辺 義雄	法隆寺 金堂の内部	1968-69年
171	渡辺 義雄	法隆寺 夢殿（正面）	1968-69年
172	渡辺 義雄	東大寺 南大門（正面）12世紀後期	1968-69年
173	渡辺 義雄	東大寺 大仏殿の内部 18世紀前期	1968-69年
174	渡辺 義雄	東大寺 法華堂の正堂内部	1968-69年
175	渡辺 義雄	東大寺 大湯屋の鉄湯船	1968-69年
176	渡辺 義雄	薬師寺 東塔（西北面）8世紀前期	1968-69年
177	渡辺 義雄	唐招提寺 金堂の夜景（正面）8世紀後期	1968-69年
178	渡辺 義雄	唐招提寺 講堂内部の天井	1968-69年
179	渡辺 義雄	興福寺 北円堂の宝珠と露盤	1968-69年
180	渡辺 義雄	興福寺 北円堂内部の天井	1968-69年
181	渡辺 義雄	元興寺極楽坊 禅室の内部	1977年
182	渡辺 義雄	元興寺極楽坊 禅室の内部	1977年
183	渡辺 義雄	当麻寺 本堂（曼荼羅堂）（正面）12世紀中期	1978年
184	渡辺 義雄	当麻寺 本陣の内陣 当麻曼荼羅厨子	1978年



モーリス・ユトリロ展 憂愁のパリを描いた風景画家

【趣 旨】

静寂なパリの街角や、古びた教会を慈しむように描き出した芸術家モーリス・ユトリロ（1883～1955年）は、「モンマルトルの画家」として日本でも親しまれてきた。白を基調色として表現するいわゆる「白の時代」に描いたパリの街頭風景は、透明感のある深い美しさをたたえ、高い評価を受けている。

モデル出身の画家シュザヌ・ヴァラドン（私生児として生まれたユトリロは、幼くしてアルコール中毒に冒され、その治療のために絵画を始めたという数奇な人生を歩んだ。同時代のパリには、モディリアニやピカソらが頭角を現しており、キュビズムやシュルレアリスムなど様々な様式がめまぐるしく誕生していた時代であった。外国出身者の多いエコール・ド・パリのただ中であって、ユトリロは一貫して写実的な手法で郷愁を誘うパリを描き続けた稀有なフランス人画家だった。

闘病や作風の変化などでフランス国内における評価が定まらず、パリでは50年以上個展が開かれていなかったが、近年は積極的な再評価の動きがみられるようになった。この流れを受けて企画されたのが、今回の「モーリス・ユトリロ展」である。

世界有数の美術コレクターの所蔵する膨大なユトリロ作品から日本初公開となる92点の優品で構成。「白の時代」から「色彩の時代」を経て、時代の寵児となっていく生涯に合わせて、会場を四部構成とした。

【総 括】

●評価すべき点

作家ユトリロの壮絶な人生について高い関心が寄せられ、作風の変化と人生を重ね合わせた展示構成が、より理解が深められたと好評だった。また、展示室の最後に「感想カード」を設置し、記入されたカードを壁面に掲示したところ、予想を超えるコメントが多数寄せられ、来館者同士の対話の場が生まれたという手応えを得た。

●検討課題

実行委員会形式での開催だったことから、集客目標をクリアすることに時間とエネルギーを費やした。一方で、近代的都市風景の創造者としてのユトリロが生まれた背景や、作者の特異な造形性を丹念に紹介する工夫が不足したという反省がある。

【開催日・その他】

＝2010年7月10日(土)～8月25日(水) (47日間)＝
主 催：新潟県立近代美術館、新潟日报社、NST、

モーリス・ユトリロ展新潟展実行委員会

共 催：新潟日報美術振興財団

後 援：フランス大使館、長岡市・長岡市教育委員会、
新潟・フランス協会、エフエムラジオ新潟、
FM PORT 79.0、FMながおか80.7

協 力：日本貨物航空、カトーレック

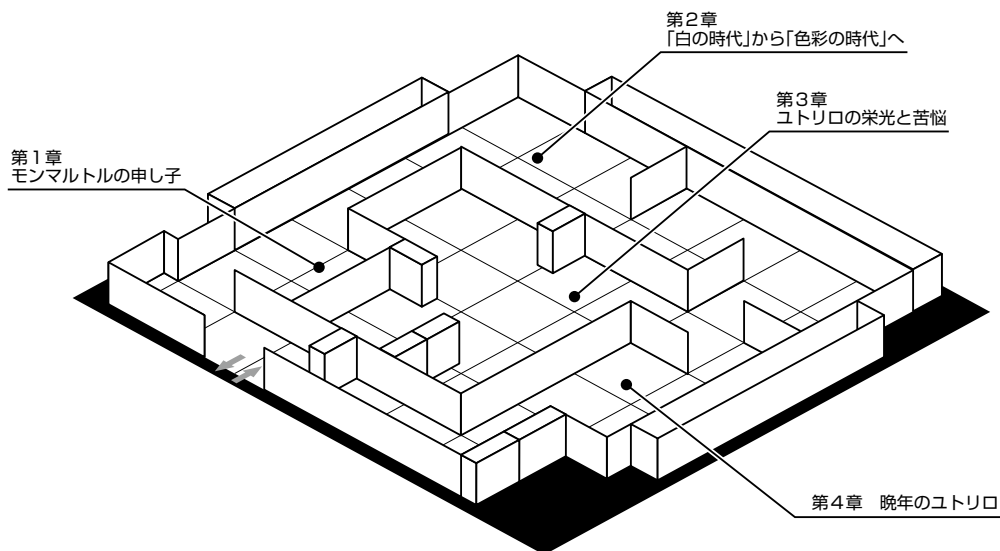
企画協力：イズアート

観覧料：一般……………1,000円 (800円)

大学・高校生……………800円 (600円)

※中学生以下無料

※() 内は20名以上の団体料金



【関連行事】

・美術鑑賞講座

「ユトリロの生涯とパリ」

7月31日(土) 14:00～15:30

講師：平石昌子（当館学芸課長代理）

参加人数：67名

「ユトリロの時代～エコール・ド・パリの芸術家たち」

8月14日(土) 14:00～15:30

講師：濱田真由美（当館主任学芸員）

参加人数：54名

・コンサート

「大森潤子 ヴァイオリン・マチネ」

7月25日(日) 15:00～15:30

当館エントランス・ホールにて

参加人数：100名

「神武夏子ピアノ・コンサート

ベルエポック1920 ～サティとプーランク」

8月1日(日) 14:00～15:00

当館講堂にて

参加人数：124名

・映画鑑賞会 当館講堂にて

10:00～／14:00～

「天井桟敷の人々」

7月24日(土) 参加人数：37名

長編アニメーション映画「ハードル」

8月7日(土) 参加人数：19名

「モディリアーニ 真実の愛」

8月21日(土) 参加人数：152名

・ワークショップ 14:00～

「大人のぬり絵—ユトリロが描いた街並み」

7月11日(日) 参加人数：11名

「ユトリロが描いたモンマルトルを探る」

7月25日(日) 参加人数：7名

「楽しく描こう石ころアート」

8月22日(日) 参加人数：15名

・作品解説会

会期中の日曜日 14:00～

参加人数：延べ205名

担当 平石昌子、濱田真由美

【図録】

製作部数：4会場で製作

仕様：A4判変型 本文215頁

編集：損保ジャパン東郷青児美術館、新潟県立近代美術館、美術館「えき」KYOTO、豊橋市美術博物館、IS ART INC.

執筆：ジャン・ファブリス

翻訳：平石昌子、濱田真由美、坂井功（IS ART INC.）

発行：IS ART INC.



内 容：

- ・「モンマルトルの丘の迷い子」
- ・「モーリス・ユトリロの主要テーマ解説」
- ・「モーリス・ユトリロの生涯」
(以上、ジャン・ファブリス)
- ・モーリス・ユトリロ略年譜
- ・フランス全土のモーリス・ユトリロ関連地図
- ・モンマルトル界隈のモーリス・ユトリロ関連地図
- ・作品リスト



【関連記事】

●新聞

7月10日(土) 新潟日報

「きょうから展示 ユトリロの作風堪能を」

7月17日(土) 新潟日報

特集「愛したパリ 詩情豊かに」

7月26日(月) 新潟日報

「ユトリロの時代音色豊かに表現 バイオリン
コンサート」

その他

新潟日報

(記事＝7/12、8/3、8/6、8/9、8/22)

(連載＝7/15、16、17、18、8/3、4、5、6、7)

十日町タイムス (6/18、6/25)

長岡新聞 (6/24、7/24)、魚沼新聞 (7/9)

栃尾タイムス (7/15)、読売新聞 (7/22)

●雑誌

Komachi (8月号)、キャレル (7月号、8月号)
ウィンド (7月号、8月号)、月刊にいがた (8月号)

●テレビ

NST

7/9、12、13、14、15、31、8/5、21

「NSTスーパーニュース」

NHK 教育テレビ

8/1 日曜美術館 (アートシーン)

NHK 新潟放送局

8/3 新潟ニュース610 (特集) 平石昌子

TBC 東北放送

7/19 「ウォッチン! みやぎ」 平石昌子

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	15,961
	前売	3,691
無料観覧者数	無料	4,762
	免除	1,480
総観覧者数		25,894
有料率 (%)		76

【出品リスト】

I. モンマルトルの申し子			
cat.no.	作品名	制作年	素材
2	モンマニーの風景（ヴァル・ドワーズ県）	1906年頃	油彩・厚紙
1	モンマニーの風景（ヴァル・ドワーズ県）	1905-06年頃	油彩・パネル
3	モンマニーの石切り場（ヴァル・ドワーズ県）	1907年頃	油彩・厚紙
11	パイアン通り、パリ	1915年頃	油彩・パネル
7	ラバン・アジル、モンマルトル	1914年	油彩・厚紙
8	ラバン・アジル、モンマルトル	1914年	油彩・キャンヴァス
4	ミミ＝パンソンの家、モンマルトル	1910-12年頃	油彩・木
5	スレーヌ（オー＝ド＝セーヌ県）	1912-14年頃	油彩・キャンヴァス
13	エリゼ・デ・ボザール小路、モンマルトル	1916年頃	油彩・パネル
6	メトロポール・ホテル	1912-14年頃	油彩・キャンヴァス
9	サン＝ローラン教会、ロッシュ（アンドル＝エ＝ロワール県）	1914年頃	油彩・厚紙
10	教会	1914-16年頃	油彩・厚紙
12	教会、ボーリュ	1916年頃	油彩・キャンヴァス
14	サン＝ヴァンサン通りとアンリ4世の茅葺き屋根の家、モンマルトル	1917年頃	油彩・キャンヴァス
15	モン＝スニ通り、ミミ＝パンソンの家、モンマルトル	1917年頃	油彩・キャンヴァス
16	ソール通り、モンマルトル	1917年頃	油彩・パネル
17	ロバンソンの小館	1918年頃	油彩・裏打ちされたパネル
II. 「白の時代」から「色彩の時代」へ			
cat.no.	作品名	制作年	素材
18	ノルヴァン通り、モンマルトル	1918-20年頃	油彩・キャンヴァス
20	カルボネルの家、トゥルネル河岸	1920年頃	油彩・厚紙
23	テルトル広場、モンマルトル	1921年頃	油彩・キャンヴァス
22	ブレ・カタランのレストランの2番目のファサード、ブローニュの森、パリ	1921年頃	油彩・木
24	カンカル近郊の果樹園のノートル＝ダム礼拝堂（イル＝エ＝ヴィレーヌ県）	1922年	油彩・キャンヴァス
21	ゴブラン路地、パリ	1921年	油彩・キャンヴァス
30	ムーラン・ド・ラ・ギャレット、モンマルトル	1922年頃	油彩・パネル
25	城壁	1922年	油彩・パネルに貼った紙
28	サン＝バルテルミ広場と教会、ムラン（セーヌ＝エ＝マルヌ県）	1922年頃	油彩・厚紙
27	風車の道、サノワ（ヴァル・ドワーズ県）	1922年頃	油彩・圧縮紙
29	ムーラン・ド・ラ・ギャレット、モンマルトル	1922年頃	油彩・厚紙
34	テルトル広場、モンマルトル	1923年頃	油彩・裏打ちされた厚紙
【参考出品】カミーユ・ピサロ 《ルヴシエンヌの画家の家、雪》		1871年	油彩・キャンヴァス
19	ノルヴァン通り、モンマルトル	1920年頃	グワッシュ・厚紙
33	ムーラン・ド・ラ・ギャレット、モンマルトル	1923年	グワッシュ・紙
31	雪の通り	1923年	グワッシュ・厚紙に貼った紙
32	フルイユの十字架、アンリ4世の狩りの待ち合せ場所、ベッシーヌ＝スル・ガルトンブ（オート＝ヴィエンヌ県）	1923年	グワッシュ・紙
35	風景	1923年頃	グワッシュ・紙
43	モンマルトル	1926年	グワッシュ・厚紙に貼った紙
42	オルシャン通り、モンマルトル	1925年	グワッシュ・紙
44	セールの教会、リュズ＝サン＝ソヴール（オート＝ピレネー県）	1927年	グワッシュ・厚紙
46	古い田舎風のホテルレストラン、ペルージュ（アン県）	1928年	グワッシュ、水彩・紙
56	サン＝ミッシェル教会、リモージュ（オート＝ヴィエンヌ県）	1934年	グワッシュ・紙
53	哲学者の城、マキ、モンマルトル	1933年	グワッシュ、油彩・厚紙に貼った紙
51	クレイエット城、サヴィニー・レ・ボヌ（コート＝ドール県）	1932年	グワッシュ・紙
52	モンマルトルのサクレ＝クール寺院	1933年	グワッシュ・厚紙
57	雪のムーラン・ド・ラ・ギャレット、モンマルトル	1934年	グワッシュ・紙
59	サン＝ピエール広場とサクレ＝クール寺院、モンマルトル	1935年頃	グワッシュ・紙
26	雪のムーラン・ド・ラ・ギャレット、モンマルトル	1922年	グワッシュ・紙

Ⅲ. ユトリロの栄光と苦悩

cat.no.	作品名	制作年	素材
36	ラバン・アジル、モンマルトル	1923年頃	油彩・厚紙
37	17区の通り	1924年	油彩・キャンヴァスに貼った紙
38	ムーラン・ド・ラ・ギャレット、モンマルトル	1924年	油彩・キャンヴァス
39	ノートルダム・ド・ボンヌ・ギャルド大聖堂、ロンポン＝スュル＝オルジュ（エソンヌ県）	1925年	油彩・キャンヴァス
40	パリ北部の城壁跡	1925年	油彩・紙
47	マキ、モンマルトル	1928年頃	油彩・厚紙
41	慰霊碑	1925年	油彩・キャンヴァス
58	サン＝ピエール広場とサクレ＝クール寺院、モンマルトル	1935年頃	油彩・厚紙
50	教会、サント＝マリー＝ド・ラ・メール（ブーシュ＝デュ＝ローヌ県）	1931年頃	油彩・キャンヴァス
48	サン＝フィリベール教会、トゥルニュ（ソーヌ＝エ＝ロワール県）	1930年	油彩・キャンヴァス
54	サン＝ドニ・ド・ラ・シャペル教会、パリ	1933年	油彩・キャンヴァス
45	教会の前の人々	1928年	油彩・パネル
55	教会、クレミュー（イゼール県）	1934年	油彩・キャンヴァス
60	サン＝ヴァンサン通り、モンマルトル	1936年	油彩・キャンヴァス
61	雪の教会、ドゥルッ（ウール＝エ＝ロワール県）	1936年	油彩・キャンヴァス
63	雪の通り、モンマルトル	1936年頃	油彩・キャンヴァス
69	雪のモン＝スニ通り、モンマルトル	1940年頃	油彩・キャンヴァス
68	村の通り	1940年頃	油彩・キャンヴァス
64	イル・ド・サンジュの酒場にて、ゴブラン、パリ	1937年	油彩・キャンヴァス
70	教会、サン＝ティラリオン（イヴリーヌ県）	1940年頃	油彩・キャンヴァス
67	サン＝ドミニク通りとエッフェル塔	1938-40年頃	油彩・キャンヴァス
66	サント＝マリー教会、イル・ド・レ（シャラント＝アンフェリエール県）	1938年頃	油彩・キャンヴァス
73	教会の通り、ピュトー（オー＝ド＝セーヌ県）	1940年頃	油彩・キャンヴァス
74	ピエール通り、ブール＝ラ＝レーヌ（オー＝ド＝セーヌ県）	1943年	油彩・キャンヴァス
62	ポントワーズの通り（ヴァル＝ドワーズ県）	1936年	グワッシュ・紙
71	サン＝ヴァンサン通り、モンマルトル	1940年頃	グワッシュ・紙
65	シャトゥの通り（イヴリーヌ県）	1938年頃	グワッシュ・紙
72	ミミ＝パンソンの家と雪のモン＝スニ通り、モンマルトル	1940年頃	グワッシュ・紙
80	アブルヴォワール通り、モンマルトル	1946年頃	グワッシュ・鉛筆・紙
78	サクレ＝クール寺院、モンマルトル	1945年頃	グワッシュ・厚紙
75	ラバン・アジル、モンマルトル	1945年頃	油彩・キャンヴァス
76	モンマルトルのジャン＝パティスト・クレマン広場	1945年頃	油彩・キャンヴァス
77	ベル＝ガブリエルの酒場とサン＝ヴァンサン通り	1945年頃	油彩・キャンヴァス
79	郊外の工場	1946年頃	油彩・キャンヴァス
49	ロンサール通り、モンマルトル	1931年	油彩・キャンヴァス

Ⅳ. 晩年のユトリロ

cat.no.	作品名	制作年	素材
83	モン＝スニ通り、モンマルトル	1948年頃	油彩・キャンヴァス
81	ベル＝ガブリエルの酒場と雪のサン＝ヴァンサン通り、モンマルトル	1946年頃	油彩・厚紙
82	ベル＝ガブリエルの酒場とサン＝ヴァンサン通り、モンマルトル	1948年頃	油彩・キャンヴァス
85	雪のサン＝ヴァンサン通りとアンリ4世の茅葺き屋根の家、モンマルトル	1948年頃	油彩・キャンヴァス
84	サン＝リュスティック通り、モンマルトル	1948年頃	油彩・パネル
86	雪のサン＝ピエール広場とサクレ＝クール寺院、モンマルトル	1948年頃	油彩・キャンヴァス
89	小さな工場	1950年頃	油彩・キャンヴァス
88	雪の積もったパンソンの丘の通り、モンマニー（ヴァル＝ドワーズ県）	1950年頃	油彩・木
87	モンマルトルのパリ祭	1948年頃	油彩・パネル
90	ムーラン・ド・ラ・ギャレット、モンマルトル	1955年頃	油彩・表具された紙
91	雪の教会、クリシィ（オー＝ド＝セーヌ県）	1955年頃	油彩・キャンヴァス
92	雪のサン＝ヴァンサン通り、モンマルトル	1955年頃	油彩・厚紙



ポンペイ展

世界遺産 古代ローマ文明の奇跡

【趣 旨】

西暦79年、一夜で街を埋めてしまったヴェスヴィオ山の大噴火によって、ポンペイは「あの日」のままの姿を奇跡的に残した。18世紀に発掘された街の姿は大噴火による悲劇の姿ではなく、優れた文化や芸術が花開いた楽園であり、自然の恵みを楽しむ人々の豊かな暮らしを今に伝えるものであった。本展覧会では、ポンペイの出土品を中心に、古代ローマの人々の美に囲まれた「暮らし」を、信仰、娯楽、生産活動、饗宴、憩いといった観点から紹介した。

本展覧会では、ナポリ国立考古学博物館の全面的な協力のもと、ポンペイからの出土品を中心に、日本初公開を含む壁画、彫刻、工芸品、日用品など約250点を紹介した。家々を飾った色鮮やかなフレスコ画をはじめとして、イタリア国外へは初出品となる約60点の銀食器群、ポンペイの郊外にある別荘から出土した浴槽および給湯システム、その床面を飾っていたモザイク画が本展のみどころであった。豪華な宝飾品、凝った意匠の家具や調度などを通し、当時の富裕者たちの生活水準の高さがうかがえ、生きることを楽しむ古代ローマ人の姿が浮かび上がらせた。

【総 括】

●評価すべき点

・本展は巡回展ではあるが、作品タイトルの翻訳や図録編集の段階から学芸員が積極的に関わった。また、学芸員の専門性を活かした美術鑑賞

講座を行うことができた。

- ・順路や作品配置の工夫によって、国内の他の会場に比べて見やすい展示になった。
- ・主に小中学生向けに「ぼん平くんとゆく！ ポンペイのくらし たんけんマップ」を作成し館内で配布。また、歴史クイズ「ぼんべいどりる。」を作成し、館内で配布した他、県内の高校・予備校に送付。ミュージアム・コンサートを長岡市芸術文化財団と共催することにより、リリック・ホールの客層へのアプローチも実現できた。

●検討課題

- ・広報展開の面において、テレビと雑誌には力を注ぐことができたものの、この手の世界遺産関連のコアなファン層が一番親しんでいる媒体と考えられる新聞での展開があまりできなかった。
- ・予算編成の際、実際に想定される入館者数ではなく、分担金を含む予算から逆算した入館者数が目標となってしまった。

【開催日・その他】

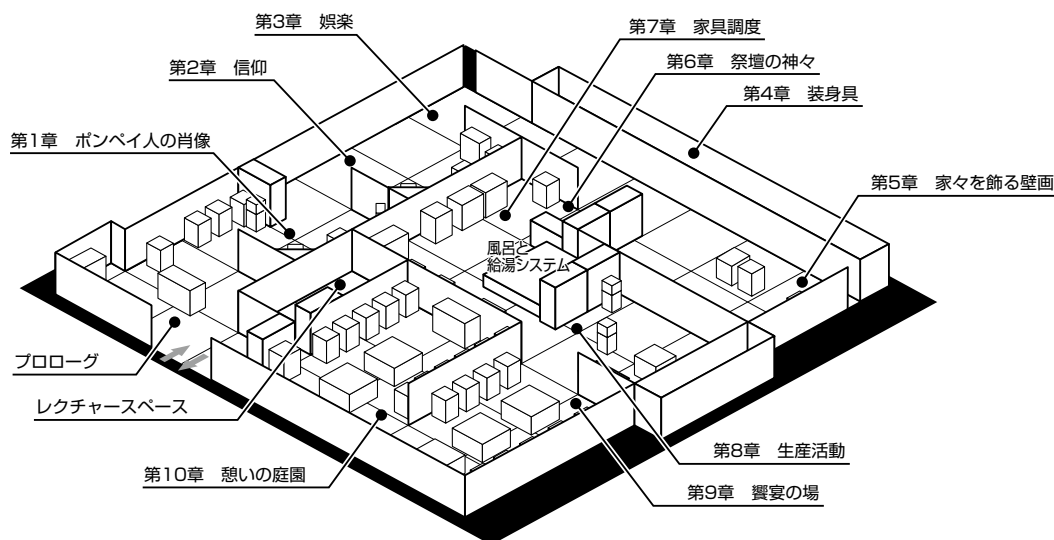
＝2010年9月11日(土)～11月23日(日) (66日間)＝

主 催：新潟県立近代美術館、TeNYテレビ新潟、ポンペイ展新潟展実行委員会、読売新聞社、ナポリ・ポンペイ考古学監督局

協 賛：大和ハウス工業株式会社新潟支店、福田組

協 力：日本航空、日本貨物航空、日本通運、日本興亜損保、JR東日本新潟支社

後 援：イタリア大使館、イタリア文化会館、長岡市、長岡市教育委員会、長岡市芸術文



化振興財団、新潟イタリア協会、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FMながおか80.7

企画協力：アール・プランニング

観覧料：一般…1,200円(1,000円)〈1,000円〉
大学・高校生…1,000円(800円)〈800円〉
中学生以下は無料

※ () 内は20名以上の団体料金、
〈 〉 内は前売券料金

【関連行事】

・記念講演会

- ①「ポンペイの産業と交易」(講師：同志社大学
名誉教授・本展総合監修者 浅香正)
9月11日(土) 14:00～
参加者数：72名
- ②「ローマ史からみたポンペイ」(講師：同志社
大学講師・本展監修者 坂井聰)
10月30日(土) 15:00～
参加者数：90名

・美術鑑賞講座

- ①「ポンペイ壁画とヘレニズム・ローマ時代の
絵画」(講師：当館主任学芸員 高晟俊)
10月23日(土) 14:00～
参加者数：42名
- ②「ポンペイの遺産—いわゆる「古代印象主義」
と西洋中世の絵画」(講師：当館主任学芸員
高晟俊)

11月6日(土) 14:00～
参加者数：30名

・ミュージアム・コンサート

- ①「宮澤優子の歌うイタリア」(出演：宮澤優子
(ソプラノ)・大園麻衣子 (ピアノ))
10月23日(土) 13:00～
参加者数：30名
- ②「溝口肇ミニコンサート」(出演：溝口肇 (チ
ェロ))
10月31日(日) 11:30～
美術館講堂にて。参加者数：200名
- ③「カンツォーネより愛を込めて」(出演：五十
嵐郊味 (ソプラノ)・齋藤淳子 (ピアノ))
11月7日(日) 14:00～
美術館講堂にて。参加者数：200名

・映画鑑賞会

- ①「ローマの休日」(1953年)
9月25日(土) 10:00～／14:00～
(2回上映)。美術館講堂にて。
参加者数：124名
- ②「ポンペイ最後の日」(1935年)
10月16日(土) 10:00～／14:00～
(2回上映)。美術館講堂にて。
参加者数：280名

・みんなのイタリア写真展

イタリアで撮影した観光写真を広く県民一般が

ら募集し、ポンペイ展の会期中、美術館のロビーで展示。

・テルマエ・ロマエ・デー

古代のローマの公衆浴場を題材とした漫画『テルマエ・ロマエ』の原画複製を美術館ロビーで展示すると共に、10月31日～11月3日のあいだ、本作品に関連したものを持参した観客に景品を贈呈。

・ポンペイ・マップ

長岡市中心部のイタリア料理店・パスタ店17店の地図1万部を作成・配布し、各料理店のご協力をもとに、ポンペイ展チケットをご提示の方を対象に特典を用意。

・児童・生徒向け資料の配布

主に小中学生向けに「ぼん平くんとゆく！ポンペイのくらし たんけマップ」を作成し館内で配布した。また、歴史クイズ「ぼんぺいどりる。」を作成し、館内で配布した他、県内の高校・予備校に送付した。

・作品解説会

9月12日(日)、19日(日)、26日(日)、10月3日(日)、10日(日)、17日(日)、24日(日)、31日(日)、11月14日(日)、21日(日)
14:00～
のべ参加人数:275名

【図録】

仕様:280mm×227mm 260頁

編集:日本テレビ放送網

発行:日本テレビ放送網

内容:「ポンペイに生きる」序文／マリア＝ロザリア・ポリエッロ
世界遺産 ポンペイの理解のために／浅香正プロローグ
1 ポンペイ人の肖像
2 信仰
3 娯楽
4 装身具
5 家々を飾る壁画
6 祭壇の神々
7 家具調度
8 生産活動

9 宴会の場

10 憩いの庭園

ローマ世界の中のポンペイ遺跡／坂井聡

関連年表

用語解説

参考文献

【関連記事】

●新聞

4月28日(水) 『読売新聞』

「『現世を楽しめ』ポンペイ悲劇前の繁栄」／清岡央

9月18日(土) 『長岡新聞』

「自然災害への視点に欠け空しい ポンペイ展はじまる」

10月4日(月) 『新潟日報』

「ローマ人の美意識に焦点」／高晟俊

その他

『読売新聞』1/1(金)、8/2(月)、9/11(土)、9/12(日)、10/29(金)、11/3(水)

『新潟日報』1/4(月)、9/10(金)、9/11(土)、9/19(日)、10/9(土)、10/18(月)、10/23(土)、10/28(木)、10/31(日)、11/2(火)、11/12(金)

『長岡新聞』9/2(木)、9/11(土)、11/6(土)

『十日町タイムス』8/20(金)

『十日町新聞』8/30(月)

『魚沼新報』10/29(金)



〈連載〉

『読売新聞』「ポンペイ展」

- ①「ポンペイ展（上）」／坂井聰（9/15(水)）
- ②「珍しい『額縁画』」／坂井聰（9/16(木)）
- ③「入浴法 様々に満喫」／坂井聰（9/17(金)）

●雑誌

『WEEK!』1/23－2/5号、2/5－2/18号、
2/20－3/5号、5/21－6/3号、
5/22－6/4号、6/19－7/12号、
8/7－8/20号、8/21－9/3号、
9/4－9/17、9/17－9/30、
10/15－11/4

『Carrel』5月号、9月号、

『Komachi』10月号、11月号、12月号

『県民だより』夏号、秋号

『月刊にいがたタウン情報』9月号、10月号、11月号

『生活まるごと情報』8/28号

『月刊ウインド』9月号

『月刊JACKLAND』9月号

『長岡ケーブルテレビ チャンネルガイド』9月号

『DOOS』9月号

『暮らしの通信』8/21号

『INTRO G』（O－Net機関紙）9月号

『長岡よみうり』9/15、10/27、11/10、11/23

『ECHIGO BIJIN』第2号

『旅行読売』11月号

『HOT PEPPER（長岡）』10月号

『市政だより ながおか』10月号

『アーケベルプレス』Vol.58

『マイスキップ』11月号

『あいづね』11月号

『りゅーとびあマガジン』夏号、秋号

●テレビ

4/9(金) TeNYテレビ新潟「NNNストレイト
ニュース」「新潟一番」

8/28(土) TeNYテレビ新潟「ZERO 特別版
ローマ帝国の秘宝が語る三つの謎
失われた古代都市ポンペイの秘密」

9/1(水) TeNYテレビ新潟「Oh! すすめTeNY」

9/6(月) TeNYテレビ新潟「新潟一番」

9/10(金) TeNYテレビ新潟「新潟一番」

9/11(土) TeNYテレビ新潟「NNNストレイト
ニュース」

9/28(火) TeNYテレビ新潟「新潟一番」

9/30(木) TeNYテレビ新潟「Oh! すすめ
TeNY」

10/8(金) TeNYテレビ新潟「新潟一番」

10/25(月) TeNYテレビ新潟「NNNストレイト
ニュース」

10/26(火) TeNYテレビ新潟「新潟一番」

11/3(水) TeNYテレビ新潟「Oh! すすめ
TeNY」

11/5(金) TeNYテレビ新潟「ZERO 特別版
ローマ帝国の秘宝が語る三つの謎
失われた古代都市ポンペイの秘密」

11/6(土) TeNYテレビ新潟「NNNストレイト
ニュース」

●ラジオ

9/10(金) FM新潟「Smile Crew」

10/29(金) FM新潟「サウンド・スブラッシュ」

11/1(月) FM新潟「サウンド・スブラッシュ」

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	26,823
	前売	8,857
無料観覧者数	無料	7,968
	免除	1,792
総観覧者数		45,440
有料率 (%)		78.5

担当 高 晟俊、藤田裕彦

【出品リスト】

プロローグ				
No.	タイトル	材質・技法	出土地	年代
1	建物のある風景	フレスコ	ポンペイ、I,4,5/25、「キタラ奏者の家」	後1世紀半ば
2	川辺の風景	フレスコ	カステッラマーレ・ディ・スタビア	後1世紀半ば
3	海辺の風景	フレスコ	カステッラマーレ・ディ・スタビア	後1世紀半ば
4	噴火犠牲者の型取り	エポキシ樹脂	ポンペイ城壁第9塔付近城壁北側	後79年
5	輪形足枷	鉄	ポンペイ城壁第9塔付近城壁北側	後1世紀後半
6	指輪	鉄	ポンペイ城壁第9塔付近城壁北側	後1世紀後半
7	バックル	青銅	ポンペイ城壁第9塔付近城壁北側	後1世紀後半
8	腕輪	青銅	ポンペイ城壁第9塔付近城壁北側	後1世紀後半
9	奴隷の足枷	鉄	ポンペイ、おそらくVIII,7,16-17、「剣闘士の宿営」	後1世紀

1.ポンペイ人の肖像

No.	タイトル	材質・技法	出土地	年代
10	マルクス・ノニウス・バルプスの彫像	灰色の編目模様の入った白色大理石	エルコラーノ、VII, 16、「ノニウスのバシリカ」	アウグストゥス帝時代(前27—後14年)
11	伝マルケッルススの肖像	白色大理石(おそらく小アジア・フリュギア地方産)	ポンペイ、I, 4, 5/25、「キタラ奏者の家」	後1世紀、アウグストゥス帝時代(前27—後14年)末期
12	女性像	白色大理石	エルコラーノ(?)	後1世紀
13	行政官の像	白色大理石	ポンペイ、おそらくフォルム付近(1816年出土)	クラウディウス帝時代(後41—54年)
14	女性肖像(小アグリッピーナ?)	白色大理石	出土地不詳	後1世紀半ば
15	伝ルキウス・カエキリウス・ユクンドゥスの肖像付ヘルマ柱	大理石、青銅	ポンペイ、V, 1, 26、「ルキウス・カエキリウス・ユクンドゥスの家」、アトリウム	前1世紀後半—後1世紀第1四半期
16	蠟引き書字板	炭化させた木材(モミ)、蠟	ポンペイ、V, 1, 26、「ルキウス・カエキリウス・ユクンドゥスの家」	「後55年1月22日」の記載

2.信仰

No.	タイトル	材質・技法	出土地	年代
17	ウェヌス像	パロス島(ギリシア)産大理石、彩色の痕跡	ポンペイ、I, 2, 17、中庭に面した壁がん	前1世紀
18	ポセイドン像	大理石	出土地不詳	後1世紀
19	リラ奏者のアポロ	青銅に銀と銅の象嵌	ポンペイ、VI, 7, 23、「アポロの家」	前1世紀—後1世紀
20	ヘルクレス小像	青銅、石灰岩	サルノ川河畔のウィッラ	前1世紀
21	アキレスとキローン	フレスコ	エルコラーノ	後1世紀半ば
22	玉座に座るディオニュソス	フレスコ	ポンペイ、VI, 10, 11、「船団の家」	後1世紀半ば
23	マルスとウェヌス	フレスコ	エルコラーノ	後1世紀半ば
24	捧げ物をする男女	フレスコ	カステッラマーレ・ディ・スタビア	後1世紀半ば
25	捧げ物をする男女	フレスコ	カステッラマーレ・ディ・スタビア	後1世紀半ば

3.娯楽

No.	タイトル	材質・技法	出土地	年代
26	剣闘士の兜	青銅	ポンペイ、VIII, 7, 16-17、「剣闘士の宿営」	後1世紀第3四半期
27	ボクシング用グローブをつけた前腕	青銅	エルコラーノ	後1世紀
28	脛当	青銅	ポンペイ、VIII, 7, 16-17、「剣闘士の宿営」	後1世紀
29	レスリング	フレスコ	ポンペイ、コントラーダ・スピネリのウィッラ	後1世紀半ば
30	短剣	鉄、骨、象牙	ポンペイ、VIII, 7, 16-17、「剣闘士の宿営」	後1世紀
31	剣闘士の小像	テラコッタ	ローマ	後2世紀
32	剣闘士の小像	テラコッタ、彩色	ポンペイ、IX, 3, 5、「マルクス・ルクレティウスの家」	後1世紀
33	剣闘士の小像	テラコッタ、彩色	ポンペイ、IX, 3, 5、「マルクス・ルクレティウスの家」	後1世紀
34	剣闘士の落書き	漆喰	ポンペイ	後1世紀
35	悲劇の仮面	フレスコ	エルコラーノ、IV, 21、「鹿の家」	後1世紀半ば
36	仮面	フレスコ	エルコラーノ	後1世紀半ば
37	遊技用チップ	骨	ポンペイ	後1世紀
38	魚形遊技用チップ	骨	ポンペイ	後1世紀
39	アーモンド形遊技用チップ	骨	ポンペイ、VIII, 2	後1世紀
40	鶏形遊技用チップ	骨	ポンペイ、IX, 3, 18	後1世紀
41	垢すりヘラ	青銅、銀	ポンペイ	後1世紀
42	運動競技者のためのボディケアセット	青銅	ポンペイ	後1世紀
43	コルヌス(ホルン)	青銅	ポンペイ	後1世紀
44	ティピア(豎笛)	骨、青銅、銀	ポンペイ、VII, 2, 18	後1世紀

4.装身具

No.	タイトル	材質・技法	出土地	年代
47	首飾り	金	ヴェスヴィオ山周辺	前1世紀-後1世紀
48	首飾り	金、緑玉髓	エルコラーノ	前1世紀-後1世紀
49	腕輪	金	ボンペイ	前1世紀-後1世紀
50	蛇形腕輪	金	ボンペイ	前1世紀-後1世紀
51 52	耳飾り	金、真珠	ヴェスヴィオ山周辺	前1世紀-後1世紀
53 54	耳飾り	金、練りガラス	ボンペイ	前1世紀-後1世紀
55	印章付指輪	金	サンタ・マリア・カプア・ヴェーテレ	前2世紀-前1世紀
56	指輪	金、練りガラス	ボンペイ	前1世紀-後1世紀
57	指輪	金、エメラルド	ボンペイ	後1世紀
58	指輪	金	エルコラーノ	前1世紀-後1世紀
59	宝石箱	骨(木部は後補)	サントルビーノ(ナポリ県)、1号墓	前2世紀末
60	宝石箱	象牙(木部は後補)	クーマ	前2世紀
61	鳩形の香油入れ	青色ガラスを吹き成形	ボンペイ	後1世紀
62	小壺	群青色ガラスを吹き成形、白色ガラスを貼り付け	ボンペイ	後1世紀
63	蓋に鎖のついたアリュパロス(香油壺)	オリーブ色ガラスを吹き成形、青銅	ボンペイ、VI, 14	後1世紀
64	入浴する女性像のある手桶	銀	おそらくローマ(エスキリヌスの秘宝、元エルコラーノ王立博物館蔵)	後3世紀
65	彩色画のある櫛	骨、彩色	ボンペイ、IX, 5, 18	後1世紀後半
66	髪を整えるウェヌス	フレスコ	ボンペイ	後1世紀半ば

5.家々を飾る壁画

No.	タイトル	材質・技法	出土地	年代
67	三脚を飾るクピッドたち	フレスコ	エルコラーノ、V, 17、商店の2階(1937年12月22日出土)	後1世紀後半
68	ディオニュソスとアリアドネ	フレスコ	ボンペイ、I, 4, 5/25、「キタラ奏者の家」、35室(エクセドラ)	後1世紀半ば
69	スキロス島のアキレス	フレスコ	ボンペイ、IX, 5, 2、「アキレスの家」	後1世紀半ば
70	タウリスのイビゲネイア	フレスコ	ボンペイ、I, 4, 5/25、「キタラ奏者の家」、35室(エクセドラ)	後1世紀半ば
71	レダ	フレスコ	ボンペイ、VIII, 2, 39、「ヨーゼフ2世の家」	後1世紀半ば
72	戦利品を持ち天翔ける女性像	フレスコ	ボンペイ	後1世紀半ば
73	コルヌコピアを持つ女性像	フレスコ	ボンペイ(1761年8月26日出土)	後1世紀半ば
74	踊るマエナス	フレスコ	ボンペイ	後1世紀半ば
75	横たわる人物像	フレスコ	ボンペイ	後1世紀半ば
76	少女の肖像	フレスコ	ボンペイ	後1世紀半ば
77	屋外での朗読	フレスコ	ボンペイ	後1世紀前半
78	画面を仕切る装飾	フレスコ	ヴェスヴィオ山周辺	後1世紀半ば
79	垂れ幕のあるアエディクラ	フレスコ	エルコラーノ	後1世紀半ば
80	花綱	フレスコ	ボンペイ	後1世紀半ば

6.祭壇の神々

No.	タイトル	材質・技法	出土地	年代
81	ウェヌス小像	青銅、銀	ボンペイ	後1世紀後半
82	ヘルクレス小像	青銅	ボンペイ、VIII, 5, 37、「赤い壁の家」	後1世紀後半
83	メルクリウス小像	青銅	ボンペイ	後1世紀後半
84	ミネルヴァ小像	青銅	ボンペイ(?)	後1世紀後半
85	ユピテル小像	青銅、銀	ボンペイ	後1世紀後半
86 87	ラル小像(2体)	青銅	ボンペイ	後1世紀後半
88	ゲニウス小像	青銅	ボンペイ、V, 1(?)	後1世紀後半
89	イシス=フォルトゥーナ小像	青銅	ボンペイ(?)	後1世紀後半

7.家具調度

No.	タイトル	材質・技法	出土地	年代
90	ボスコレアーレ、ピサネッラ荘の高 温浴室(部分)	オリジナル部分:大理石製 浴槽、鉛製水槽、鉛製給湯槽、鉛 製管、青銅製筒状釜、青銅製 蛇口		後1世紀後半
91	イルカのモザイク	白色石灰岩と黒色大理石のモ ザイク片	ボスコレアーレ、「ピサネッラ荘」、N室(テビダリ ウム)	後1世紀
92	食事用臥台	青銅	ヴェスヴィオ山周辺	後1世紀
93	両面にエロティックな浮彫のある円盤	骨	サントルビーノ(ナポリ県)、1号墓	前2世紀末

94	ヘルマ柱形装飾	青銅	ボンペイ	後1世紀
95	金庫	青銅、鉄	ボンペイ	前1世紀-後1世紀
96	飲料加熱器	青銅	ボンペイ	後1世紀
97	飲料加熱器(「サモワール」)	青銅	ボンペイ	前1世紀
98	脚置き	青銅	ボンペイ、VII,7,10、「ロムルスとレムスの家」、タブリヌム右脇の部屋	後1世紀
99	折りたたみ式三脚	青銅、銀の象嵌	ノチェーラ	後1世紀
100	3本脚の小卓	青銅	ボンペイ	後1世紀
101	伸縮式燭台	青銅	エルコラーノ	前1世紀末
102	伸縮式燭台	青銅	ボンペイ	前1世紀末
103	三灯式樹木形燭台	青銅、銀の象嵌	エルコラーノ	アウグストゥス帝時代(前27-後14年)
104	吊り下げ式ランプ	青銅	ヴェスヴィオ山周辺	後1世紀
105	飾り鉄	青銅	ボンペイ	後1世紀
106	獣像台座	白色大理石	ボンペイ	後10-20年

8.生産活動

No.	タイトル	材質・技法	出土地	年代
108	子豚の形をした焼型	青銅	ボンペイ	後1世紀
109	菓子用焼型	青銅	ボンペイ	後1世紀
110	方形焼型	青銅	ボンペイ	後1世紀
111	盆	青銅	ボンペイ	後1世紀
112	ろうと	青銅	ヴェスヴィオ山周辺	後1世紀
113	ひしゃく	青銅	ボンペイ	後1世紀
114	フライパン	青銅	ボンペイ	後1世紀
115	深鍋	青銅	ボンペイ	後1世紀
116	竿秤	青銅	ボンペイ	後1世紀
117	ヤギ形おもり	青銅、鉛	ボンペイ	後1世紀後半
118				
119	片把手付方形瓶	青緑色ガラスを型吹き成形(No.118)	ヴェスヴィオ山周辺	後1世紀
120		無色ガラスを型吹き成形(No.119,120)		
121	小型ナイフ	骨	ボンペイ(?)	後1世紀
122	鍋	土器(橙色の土)	ヴェスヴィオ山周辺	前1世紀-後1世紀
123	鉢	粗製土器	ボンペイ(?)	後1世紀後半
124	ヤマネ飼育壺	粗製土器	ヴェスヴィオ山周辺	後1世紀
125	食卓用椀	南ガリア産シギラータ土器、型押し	ボンペイ、VIII,5,9、タブリヌム	後1世紀後半
126	人面のある両把手付小杯	薄手土器、粘土貼り付け	ヴェスヴィオ山周辺	前1世紀-後1世紀
127	小アンフォラ	土器、ろくろ成形	ボンペイ(?)	後1世紀後半
128	ガラム用大壺	土器、ろくろ成形	ボンペイ	後1世紀後半
129	ガラム用の壺が描かれたモザイク床の断片	白色石灰岩と黒色板岩のモザイク片	ボンペイ、VII,16(西街区)、15、「A.ウンプリキウス・スカウルスの家」、第2アトリウム	後1世紀第2四半世紀
130	ガラム用の壺が描かれたモザイク床の断片	白色石灰岩と黒色板岩のモザイク片	ボンペイ、VII,16(西街区)、15、「A.ウンプリキウス・スカウルスの家」、第2アトリウム	後1世紀第2四半世紀
131	くま手	鉄	ヴェスヴィオ山周辺	後1世紀
132	金槌	鉄	ヴェスヴィオ山周辺	後1世紀
133	斧	鉄	ボンペイ	後1世紀
134	鋤	鉄	ヴェスヴィオ山周辺	後1世紀
135	大鎌	鉄	ヴェスヴィオ山周辺	後1世紀
136	鉗子	青銅	ボンペイ	後1世紀
137	吸い球	青銅	ヴェスヴィオ山周辺	後1世紀
138	医療器具と円筒形容器	青銅	ボンペイ	後1世紀
139	魚のあるヴィネッタ	フレスコ	ボンペイ	後1世紀半ば
140	果物と野禽のある静物	フレスコ	ボンペイ	後1世紀半ば
141	パン	フレスコ	エルコラーノ	後1世紀半ば
142	イチジクのある静物	フレスコ	ボンペイ	後1世紀半ば
143	魚介のある静物	フレスコ	ボンペイ	後1世紀半ば
144	魚介のある静物	フレスコ	ボンペイ	後1世紀半ば
145	果物のある静物	フレスコ	エルコラーノ	後1世紀半ば
146	働くクビドたち	フレスコ	エルコラーノ、IV,21、「鹿の家」	後1世紀半ば
147	遊ぶクビドたち	フレスコ	エルコラーノ、IV,21、「鹿の家」	後1世紀半ば
148	葡萄を収穫するクビドたち	フレスコ	ボンペイ、IX,3,5、「マルクス・ルクレティウスの家」、25室(エクセドラ)	後1世紀半ば

9. 饗宴の場				
No.	タイトル	材質・技法	出土地	年代
149 152	皿	銀	ポンペイ、VI,7,19、「イナクスとイオの家」	前1世紀-後1世紀
153	キツタと葡萄の装飾のあるモディオルス	銀(二重薄板)、打出し、レリーフ、鍍金の痕跡	ポンペイ、VI,7,19、「イナクスとイオの家」	前1世紀-後1世紀
154 157	皿	銀	ポンペイ、VI,7,19、「イナクスとイオの家」	前1世紀-後1世紀
158 161	椀	銀	ポンペイ、VI,7,19、「イナクスとイオの家」	前1世紀-後1世紀
162 165	皿	銀	ポンペイ、VI,7,19、「イナクスとイオの家」	前1世紀-後1世紀
166	皿	銀	ポンペイ、VI,7,19、「イナクスとイオの家」	前1世紀-後1世紀
167 170	椀	銀	ポンペイ、VI,7,19、「イナクスとイオの家」	前1世紀-後1世紀
171 173	小椀	銀	ポンペイ、VI,7,19、「イナクスとイオの家」	前1世紀-後1世紀
174 175	小椀	銀	ポンペイ、VI,7,19、「イナクスとイオの家」	前1世紀-後1世紀
176 179	小杯	銀	ポンペイ、VI,7,19、「イナクスとイオの家」	前1世紀-後1世紀
180 181	小椀	銀	ポンペイ、VI,7,19、「イナクスとイオの家」	前1世紀-後1世紀
182 183	パテラ	銀	ポンペイ、VI,7,19、「イナクスとイオの家」	前1世紀-後1世紀
184	獣に乗るクビドたちのいるカンタロス	銀(二重薄板)、打出し	ポンペイ、VI,7,19、「イナクスとイオの家」	前1世紀半ば-後1世紀
185	獣に乗るクビドたちのいるカンタロス	銀(二重薄板)、打出し、鍍金の痕跡	ポンペイ、VI,7,19、「イナクスとイオの家」	前1世紀半ば-後1世紀
186	スプーン	銀	ポンペイ(?)	前1世紀-後1世紀
187 191	スプーン	銀	ポンペイ、VI,7,19、「イナクスとイオの家」	前1世紀-後1世紀
192 195	器台	銀	ポンペイ、VI,7,19、「イナクスとイオの家」	前1世紀-後1世紀
196 199	小鉢	銀、鑄造	ポンペイ、VI,7,19、「イナクスとイオの家」	前1世紀-後1世紀
200 201	小鉢	銀、鑄造	ポンペイ、VI,7,19、「イナクスとイオの家」	前1世紀-後1世紀
202	水差し	銀	ポンペイ、VI,7,19、「イナクスとイオの家」	前1世紀-後1世紀
203	小さなしゃくし	銀	ポンペイ、VI,7,19、「イナクスとイオの家」	前1世紀-後1世紀
204	鏡	銀	ポンペイ、VI,7,19、「イナクスとイオの家」	前1世紀-後1世紀
205	スプーン	銀	ポンペイ、V,1,18、「エビグラムの家」	前1世紀-後1世紀
206	葡萄の装飾のある杯	銀	ファルネーゼ家のコレクション (元エルコラーノ王立博物館蔵)	前1世紀末
207	貝殻形の椀	銀	ポンペイ、I,10,4、「メナンドロスの家」	後1世紀
208	手桶	青銅、銀と銅の象嵌	ポンペイ	前1世紀
209	菓子売りの小像	青銅、銀(台座と盆)	ポンペイ、I,7,10-12、「エフェブスの家」	前1世紀
210	パンを盛る盆	青銅	ポンペイ(?)	後1世紀
211	エロティックな情景のあるたらい	青銅	ポンペイ	後1世紀
212	カメオガラスのパテラ	群青色ガラスを吹き成形、不透明白色ガラス	ポンペイ、VII,4,59、「黒い壁面の家」	後1世紀
213	円形注口を持つオイノコエ	群青色ガラスを吹き成形、白色練りガラスを貼り付け	ポンペイ	後1世紀
214	オイノコエ	群青色ガラスを吹き成形	ポンペイ	後1世紀
215	沈線のある椀	エメラルドグリーンガラスを吹き成形	ポンペイ	後1世紀
216	杯	水晶	サンタ・マリア・カプア・ヴェーテレ	前1世紀-後1世紀
217	レリーフ装飾のあるグラス	無色ガラスを型吹き成形	ポンペイ	後1世紀後半
218	レリーフ装飾のあるグラス	ガラスを型吹き成形	ポンペイ	後1世紀
219	くぼみのあるグラス	無色ガラスを吹き成形	ポンペイ	後1世紀
220 221	リブ状装飾のある椀	半透明の緑青色ガラスを型吹き成形	ヴェスヴィオ山周辺	後1世紀
222	レリーフ装飾のあるグラス	半透明の薄緑色ガラスを吹き成形	ヴェスヴィオ山周辺	後1世紀

223	片把手付グラス	半透明の明るいオリーブ色ガラスを型吹き成形	ボンペイ	後1世紀
224	飲料用の角形杯	無色ガラスを吹き成形	ヴェスヴィオ山周辺	後1世紀
225	レリーフ装飾のある水差し	無色ガラスを型吹き成形	ボンペイ	後1世紀
226	香油壺	虹彩のある明るいオリーブ色	ヴェスヴィオ山周辺	後1世紀
227	マーブル模様のあるガラス皿	白、群青および黄色の縞目のあるマーブルガラス	ボンペイ、VI,14	前1世紀-後1世紀
228	クビドたちの宴	フレスコ	ボンペイ、IX,3,5、「マルクス・ルクレティウスの家」	後1世紀半ば
229	宴会の情景	フレスコ	ボンペイ	後1世紀半ば
230	宴会の情景	フレスコ	ボンペイ、V,2,4、部屋(r)	後1世紀半ば
231	宴会の情景	フレスコ	ボンペイ、V,2,4、部屋(r)	後1世紀半ば
232	宴会の情景	フレスコ	ボンペイ、VI,14,29、「ラオコーンの家」	後1世紀半ば

10.憩いの庭園

No.	タイトル	材質・技法	出土地	年代
233	ディオニュソスと子供のサテュロス	青銅、銀と銅の象嵌	ボンペイ、VI,6,1、「パンサの家」	前1世紀-後1世紀
234	噴水彫刻:ガチョウを抱く童子	青銅	ボンペイ、VI,8,23-24、「小噴水の家」	後1世紀
235	ラッパを持つ童子	青銅、銀	エルコラーノ	後1世紀
236	ヒョウを従えたサテュロス	ギリシア産大理石	カンパニア山間部ボネアのウィッラ	後1世紀-2世紀
237	果物を持つファウヌス Statuetta di Fauno con frutta	白色大理石、頭髮と右大腿部に 赤い彩色の痕跡	ボンペイ、VI,8,3-8、「悲劇詩人の家」	前1世紀
238	噴水彫刻:葡萄酒の革袋を持つサテュロス	大理石	ボンペイ、VII,2,43、アトリウム	後1世紀
239	噴水彫刻:童子とイルカ	白色大理石、彩色の痕跡	ボンペイ、VII,12,3、「ルキウス・カエキリウス・カベラの家」	前1世紀
240	噴水彫刻:果物を持つ童子	白色大理石、頭髮、眉、毛皮、果 物に彩色の痕跡	ボンペイ、VII,12,22-23、「カミルスの家」、ウィ リタリウム	後69年以降
241	ゴブレット形クラテル	青銅、銀の象嵌	ボンペイ	前1世紀-後1世紀
242	ゴブレット形クラテル	青銅、銀の象嵌	ボンペイ(?)	前1世紀-後1世紀
243	ディオニュソス神話の表された庭 園用クラテル	パロス島(ギリシア)産大理石	ラツィオ州南部フォルミア付近	前1世紀
244	ディオニュソス的情景の表された クラテル	ペンテリコン(ギリシア)産大理石	カステッラマーレ・ディ・スタビア、サン・マルコ荘	前1世紀
245	装飾付台座のある水盤	大理石	ボンペイ	後1世紀
246	噴水用水盤	白色大理石	ボンペイ、VIII,5,39、「アクセプトゥスとエウホデ イアの家」	後1世紀
247	水盤	大理石	ヴェスヴィオ山周辺	後1世紀
248	神託を伺うアキレスの表された円形浮彫	大理石	エルコラーノ、おそらくVII,16、「ノニウスのパシリカ」	後1世紀後半
249	囲いのある庭園	フレスコ	エルコラーノ	後1世紀前半
250	庭園	フレスコ	ヴェスヴィオ山周辺	後1世紀半ば
251	柵の上の鳥	フレスコ	ヴェスヴィオ山周辺	後1世紀半ば
252	鳥	フレスコ	ボンペイ	後1世紀半ば
253	鳥	フレスコ	ボンペイ	後1世紀半ば
254	鳥	フレスコ	エルコラーノ	後1世紀半ば



牧野虎雄展

【趣 旨】

牧野虎雄（1890～1946年）は、本県上越市出身の洋画家で、文展や帝展で活躍した。その画風は、西洋画をそのまま模倣するのではなく、南画の技法を取り入れるなどして日本的洋画を希求する姿は異彩を放つものだった。

また、「槐樹社」や「六潮会」などの美術団体を創立するとともに、現在の武蔵野美術大学や多摩美術大学の前身の美術学校で後進の指導に当たるなど、日本洋画壇に数々の功績を残している。

生誕120年を迎えた本年、独特な筆致で描かれた日本的洋画と、その構想などを記した素描類を展示し、牧野虎雄の画業を振り返り、孤高の画家の再評価を図る。

【総 括】

●評価すべき点

久しく開かれなかった牧野虎雄作品をまとめた形で鑑賞する機会ができ、本県出身作家の画業の再認識が図る機会を設けられた。

●検討課題

前年の準備不足から借用交渉が本年度の作業とってしまったことで、全ての準備作業が後手となった。

多くの作品をまとめて借用する企画展を構成する場合は、早くから打診し、展覧会として成立するのか否か検討を加えた上で開催決定するように職員の共通認識を図る。

【開催日・その他】

＝2011年2月5日(土)～3月27日(日) (44日間)＝

主 催：新潟県立近代美術館

後 援：新潟日報社、NHK新潟放送局、BSN
新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、
UX新潟テレビ21

観覧料：一般……………600円（400円）

大学・高校生……………800円（600円）

※中学生以下は無料

※（ ）内は有料20名以上の団体料金

【関連行事】

・美術鑑賞講座「郷土の作家シリーズ2 牧野虎雄」

日 時：2月19日(土) 14：00～

会 場：当館講堂

講 師：松矢国憲（当館専門学芸員）

参加人数：30名

【リーフレット】

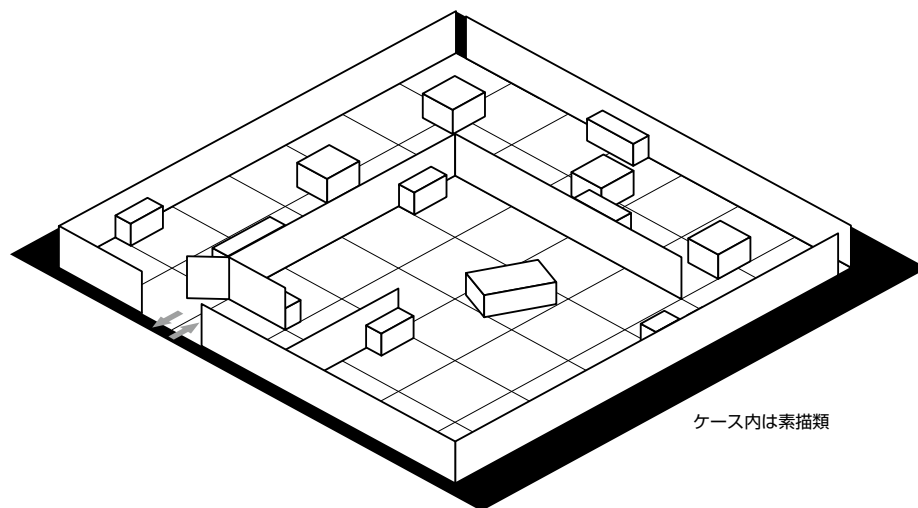
仕 様：B2版12折

編 集：新潟県立近代美術館

松矢国憲 濱田真由美

発 行：新潟県立近代美術館

内 容：表面／ポスター同図（全油彩70点掲載）
裏面／牧野虎雄略年譜・出品作品一覧・
作品解説



ケース内は素描類

【関連記事】

●新聞

2月4日 新潟日報

「大正～昭和に中央で活躍 上越市出身の洋画家牧野虎雄」(新潟県立近代美術館専門学芸員 松矢国憲)

2月5日 新潟日報

「牧野虎雄の作品展」



●雑誌

「郷土出身の画人「牧野虎雄」展―孤高の業績の再評価を願う―」(新潟県立近代美術館専門学芸員 松矢国憲) 文芸たかだ第311号

平成23年1月

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	1,261
無料観覧者数	無料	474
	免除	141
総観覧者数		1,876
有料率 (%)		67.2

担当：松矢国憲、濱田真由美

【出品リスト】

作品名	制作年	技法、材質	出品展覧会	所蔵
1 朝の磯	大正元年 (1912)	油彩、画布	第6回文展	東京都現代美術館
2 漁村	大正元年 (1912)	油彩、画布	第6回文展	東京都現代美術館
3 白き岩	大正2年 (1913)	油彩、画布		東京都現代美術館
4 嵐の後	大正3年 (1914)	油彩、画布		東京都現代美術館
5 柿	大正4年 (1915)	油彩、画布		東京都現代美術館
6 雑木林の初冬	大正6年 (1917)	油彩、画布		東京都現代美術館
7 麦扱く農婦等	大正7年 (1918)	油彩、画布	第12回文展	当館
8 林の秋	大正8年頃 (C.1919)	油彩、画布		東京都現代美術館
9 磯にて	大正8年頃 (C.1919)	油彩、画布		東京都現代美術館
10 磯	大正9年 (1920)	油彩、画布	第2回帝展	宮城県美術館
11 花苑	大正9年 (1920)	油彩、画布	第2回帝展	東京都現代美術館
12 少女	大正9年 (1920)	油彩、画布		東京都現代美術館
13 秋	大正9年頃 (C.1920)	油彩、画布		東京都現代美術館
14 庭の少女(中庭)	大正10年 (1921)	油彩、画布	第3回帝展	東京都現代美術館
15 園の花	大正11年 (1922)	油彩、画布	第4回帝展	東京都現代美術館
16 早春	大正11年 (1922)	油彩、画布	平和記念東京博覧会	東京都現代美術館
17 男の裸像	大正11年頃 (C.1922)	油彩、画布		東京都現代美術館
18 向日葵	大正12年 (1923)	油彩、画布		東京都現代美術館
19 向日葵	大正12年頃 (C.1923)	油彩、画布		東京都現代美術館
20 山茶花	大正12年頃 (C.1923)	油彩、画布		東京都現代美術館
21 風揚	大正13年 (1924)	油彩、画布	第5回帝展	東京国立近代美術館
22 葱の花	大正13年頃 (C.1924)	油彩、画布		東京都現代美術館
23 夏	大正13年頃 (C.1924)	油彩、画布		東京都現代美術館
24 山百合	大正13年頃 (C.1924)	油彩、画布		東京都現代美術館
25 春去らんとす	大正14年 (1925)	油彩、画布	第6回帝展	当館
26 乱れ咲	大正14年頃 (C.1925)	油彩、画布		東京都現代美術館
27 芥子	大正14年頃 (C.1925)	油彩、画布		東京都現代美術館
28 裸婦	大正15年 (1926)	油彩、画布	第7回帝展	東京都現代美術館
29 裸婦	昭和2年 (1927)	油彩、画布	第4回槐樹社展	東京都現代美術館
30 裸婦	昭和2年 (1927)	油彩、画布	第4回槐樹社展	東京都現代美術館
31 向日葵と百合	昭和2年 (1927)	油彩、画布		東京都現代美術館
32 肖像	昭和3年 (1928)	油彩、画布		東京都現代美術館
33 鳥籠	昭和3年 (1928)	油彩、画布		東京都現代美術館
34 花静物	昭和3年頃 (C.1928)	油彩、画布		東京都現代美術館
35 T婦人像	昭和3年 (1928)	油彩、画布	第5回槐樹社展	当館
36 サンルーム	昭和4年 (1929)	油彩、画布	第6回槐樹社展	当館
37 父の像	昭和4年 (1929)	油彩、画布		東京都現代美術館
38 當世洋装婦人	昭和5年 (1930)	油彩、画布	第7回槐樹社展	東京都現代美術館
39 へちま	昭和5年 (1930)	油彩、画布	第11回帝展	東京国立近代美術館
40 へちま	昭和5年頃 (C.1930)	油彩、画布		東京都現代美術館
41 婦人像	昭和5年頃 (C.1930)	油彩、画布		東京都現代美術館
42 白閑鳥	昭和6年 (1931)	油彩、画布	第12回帝展	宮城県美術館
43 自画像	昭和6年 (1931)	油彩、画布		東京国立近代美術館
44 明るい部屋	昭和6年 (1931)	油彩、画布	第8回槐樹社展	東京国立近代美術館
45 箱根	昭和6年 (1931)	油彩、画布		東京国立近代美術館
46 村の娘達	昭和7年 (1932)	油彩、画布	第13回帝展	宮城県美術館
47 房州風景	昭和7年頃 (C.1932)	油彩、画布		東京都現代美術館
48 初夏の風	昭和8年 (1933)	油彩、画布		東京都現代美術館
49 けし	昭和8年頃 (C.1933)	油彩、画布		東京都現代美術館
50 芥子畑	昭和9年 (1934)	油彩、画布	第4回六潮会展	東京都現代美術館
51 秋近き濱	昭和9年 (1934)	油彩、画布	第15回帝展	当館
52 麦	昭和11年頃 (1936)	油彩、画布		東京都現代美術館
53 母の像	昭和12年 (C.1937)	油彩、画布		東京都現代美術館
54 菊懸崖	昭和14年頃 (C.1939)	油彩、画布		東京都現代美術館
55 函嶺風景	昭和14年頃 (C.1939)	油彩、画布		東京都現代美術館
56 藤棚春紅葉	昭和15年 (1940)	油彩、画布		当館
57 檜の廻廊	昭和15年頃 (C.1940)	油彩、画布		東京都現代美術館
58 桜	昭和15年頃 (C.1940)	油彩、画布		東京都現代美術館
59 枇杷	昭和17年頃 (C.1942)	油彩、画布		東京都現代美術館
60 朝顔	昭和17年頃 (C.1942)	油彩、画布		東京国立近代美術館
61 梨の花	昭和17年頃 (C.1942)	油彩、画布		東京国立近代美術館
62 朝顔	昭和18年頃 (C.1943)	油彩、画布		東京都現代美術館
63 白椿	昭和18年頃 (C.1943)	油彩、画布		東京都現代美術館
64 風景	昭和18年頃 (C.1943)	油彩、画布		東京都現代美術館

65	白梅	昭和19年頃 (C.1944)	油彩、画布	東京都現代美術館
66	朝顔	昭和20年頃 (C.1945)	油彩、画布	東京都現代美術館
67	あさがお	昭和21年 (1946)	油彩、画布	当館
68	柿	制作年不明	油彩、画布	当館
69	柿	制作年不明	油彩、画布	当館
70	朝顔	制作年不明	油彩、画布	当館
	画帳、素描類より		素描、紙	当館

共 催 展

奈良の古寺と仏像 —會津八一のうたにのせて—

【趣旨及び総括】

本年が「平城遷都1300年」にあたることから、會津八一の奈良歌とともに奈良の仏教美術を紹介する展覧会として企画されたもの。13か寺と奈良国立博物館から、国宝1件・重要文化財13件を含む43件が出品された。

当初は新潟市美術館において開催予定であったが、諸般の事情により当館での開催となった。中宮寺の本尊である国宝《菩薩半跏像》の公開（5月25日～6月6日）が大きな反響を呼び、総入場者数130,523人、一日平均3,200人弱、1日最高入場者数8,504人という結果を記録した。

開幕間際の会場変更によって、展覧会準備が過酷なものとなり、開催中も関係団体との意思疎通に苦慮することとなった。また国宝展示期間には、来場者の列が信濃川河川敷にまで伸び、入場まで1時間を要する状況ともなった。イレギュラーな形態での開催であり、運営が他団体であったとはいえ、本展のような大型展の際には入念な事前協議が不可欠であり、そうした体制づくりも今後の検討課題として残された。一方、当館が公開承認施設であり、限られた準備時間のなかでも国宝・重要文化財の展示が可能であることが広く周知される効果も生んだ。

【開催日・その他】

＝2010年4月24日(土)～6月6日(日) (41日間)＝

会 場：新潟県立近代美術館 企画展示室

主 催：「奈良の古寺と仏像—會津八一のうたにのせて—」新潟展実行委員会（財団法人會津八一記念館・新潟県立近代美術館・新潟市美術館・新潟日報社・BSN新潟放送）、日本経済新聞社

特別協賛：第四銀行

特別協力：奈良県立美術館

協 力：奈良国立博物館、早稲田大学會津八一記念博物館、入江泰吉記念奈良市写真美術館、飛鳥園、奈良大学、新潟県仏教会、長岡市、(社)長岡観光コンベンション協会

後 援：文化庁、奈良市、平城遷都1300年記念事業協会、早稲田大学、新潟県、新潟県教育委員会、JR東日本新潟支社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、NHK新潟放送局、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、エフエムラジオ新潟、FM PORT79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、(財)新潟市芸術文化振興財団、(財)新潟観光コンベンション協会

観覧料：一般…1,500円(1,200円)〈1,200円〉

大学・高校生……………1,000円(800円)

※ 中学生以下無料

※ () 内は20名以上の団体料金

※ 〈 〉 内は前売券料金

担当 長嶋圭哉、藤田裕彦

ユネスコ無形文化遺産登録記念 重要無形文化財 小千谷縮・越後上布展

【趣旨及び総括】

国の重要無形文化財である「小千谷縮・越後上布」は、2009年9月に工芸品としてはじめて、ユネスコ無形文化遺産に登録された。同登録を記念して、本展では文化庁、東京国立博物館、東京国立近代美術館をはじめとする名品を一堂に会し展示するとともに、原料の紹介や実演を交えるなどして、多角的に紹介した。

小千谷縮・越後上布は本県を代表する伝統文化であると同時に、国の重要無形文化財でもある。その貴重な技や作品を広く県内外に発信できる貴重な機会となった。

展覧会構成は時代順となっており、初期の稀少な資料や作品は小千谷の関係各所から借用し、まとめて披露することができた。また、現代の高い技術と美術的価値を持つ代表作品を、県内の美術・博物館のみならず、文化庁や東京国立博物館、東京国立近代美術館から借用し展示できたことで、より充実した内容となった。

また、現在では少なくなってしまう職人の方々にその技を実演してもらうことで、技術的価値や希少性を具体的に伝えることができた。その他、展覧会にあわせて図録を制作したことは、これらの貴重な資料や作品を記録として残していく上でも意義があったと考えている。

【開催日・その他】

=2010年6月12日(土)～6月27日(日)(16日間)=

主 催：ユネスコ無形文化遺産登録記念 重要無形文化財「小千谷縮・越後上布」展実行委員会、小千谷市、南魚沼市、越後上布・小千谷縮布技術保存協会、新潟県立近代美術館、長岡造形大学、財団法人綾玄社、新潟日報社、NST

後 援：文化庁、日本ユネスコ国内委員会、長岡市、長岡市教育委員会、十日町市、新潟市ユネスコ協会、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、日本経済新聞社新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、FM ながおか80.7、小千谷新聞社、十日町新聞社、魚沼新報

協 力：東京国立博物館、東京国立近代美術館、鈴木牧之記念館、十日町市博物館、昭和村教育委員会からむし工芸博物館、小千谷織物同業協同組合、塩沢織物工業協同組合、十日町織物工業協同組合

特別協力：新潟日報美術振興財団

特別協賛：JR東日本、麒麟ビール株式会社・キリンビバレッジ株式会社、株式会社植木組

観覧料：一般……………500円
大学・高校生……………300円
※ 中学以下無料
※ () 内は有料20名以上の団体料金

【関連行事】

- ・実演
毎週土曜、日曜 9:00～17:00
企画展示室ロビー
- ・作品解説会
毎週日曜 14:00～ 企画展示室
参加人数 計210名
- ・着装体験会
毎週土曜 12:00～ 館内
参加人数 計32名
- ・講演会&ファッションショー
6月19日 13:00～15:00 講堂
「“夏衣” 現代に楽しむ」
講師：木村孝（染織研究家・エッセイスト）
「夏着物ファッションショー」
- ・関連企画「世良武史写真展～和の美～」
展覧会会期中 企画展示室ロビー

担当 濱田真由美、藤田裕彦

第65回新潟県美術 展覧会長岡展

【趣旨及び総括】

県民の日頃の創作活動の発表の場を提供し、併せて新潟県の芸術文化の振興に寄与することを目的に開設され、65回展を迎えた。

日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、書道、写真の7部門に3,038人4,320点の応募があり、入賞作品54点、入選作品984点が選ばれた。

長岡展では、7部門の県展賞、奨励賞、新潟日報美術振興賞の入賞作品、長岡市及び周辺地域の入選作品、ならびに審査員、委員の作品、無鑑査作品を展示し、5日間で4,038名と多数の来館者があり、盛況であった。

【開催日・その他】

=2010年6月30日(水)～7月4日(日)=

主 催：新潟日报社、新潟県、新潟県教育委員会、新潟市、長岡市、上越市教育委員会、糸魚川市教育委員会、佐渡市教育委員会、胎内市教育委員会

後 援：新潟市教育委員会、長岡市教育委員会、上越市、糸魚川市、佐渡市、胎内市、(財)新潟日報美術振興財団

入場料：一般450円 大学生以下無料

審査員：日本画 斎藤 満栄（日本美術院同人）

戸田 康一（創画会会員）

洋 画 金山 桂子（日展評議員）

鈴木 順一（一水会常任委員）

版 画 上野 遼（日本版画協会会員）

白鳥 勲（国画会会員）

彫 刻 中垣 克久

（現代日本彫刻作家連盟副代表）

日原 公大（二紀会副理事長）

工 芸 奥田小由女（日展常務理事）

篠原 行雄（東京藝術大学教授）

書 道 清水 透石（日展評議員）

仲川 恭司（専修大学教授）

写 真 佐藤 秀明

（日本写真家協会会員）

高橋 国博

（冬青社代表取締役社長）

長岡展作品解説会

6月30日(水) 石丸 雨虹（書道）

倉茂 義隆（写真）

7月1日(木) 小川 宏（版画）

7月2日(金) 渡辺 寿（洋画）

7月3日(土) 浦上 義昭（日本画）

担当 佐藤克己

第50回長岡市美術 展覧会

【趣旨及び総括】

美術を愛する市民の創作活動の成果を発表する場として、また、生活の仲に美術を味わう楽しさを普及していくことをねらいとして開催された。

日本画、洋画、彫刻、工芸、書道、写真の6部門に710人946点の応募があり、入賞作品65点、入選作品578点選ばれた。長岡市長賞、第50回記念賞、奨励賞、新潟日報美術振興賞の入賞作品と入選作品、ならびに審査員の作品を展示し、5日間で5,944名と多数の来館者があり、盛況であった。

【開催日・その他】

=2010年12月11日(土)～12月16日(木)=

会 場：新潟県立近代美術館企画展示室、県民ギャラリー

主 催：長岡市、長岡市教育委員会

共 催：新潟県立近代美術館

後 援：新潟日报社、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ、FMながおか80.7、長岡新聞社、栃尾タイムス社、(財)新潟日報美術振興財団、(財)新潟県文化振興財団、(財)長岡市芸術文化振興財団

主 管：長岡市美術協会

事務局：長岡市 市民協働部 生涯学習文化課内

観覧料：無料

審査員：日本画 大矢十四彦（日本美術院特待）

柴田 長俊（創画会常務理事）

洋 画 福岡 奉彦（独立美術協会会員）

渡辺 啓輔（日展評議員）

彫 刻 小林 花子

（長岡造形大学准教授）

工 芸 小磯 稔（新潟大学名誉教授）

鈴木 均治（国画会工芸部会員）

書 道 佐藤 光堂

（日新現代書研究会会長）

田中 信泉（独立書人団参与）

写 真 大島 謙一

（日本写真家協会会員）

斎藤 康一

（日本写真家協会名誉会員）

担当 佐藤克己

第12回亀倉雄策賞受賞「浅葉克己」 展ならびに JAGDA 新人賞作家作品展2010

【趣旨及び総括】

JAGDA（社団法人日本グラフィックデザイナー協会）初代会長の故亀倉雄策氏のコレクションを所蔵する新潟県立近代美術館において、同氏を讃えて創設された「亀倉雄策賞」の受賞作家作品展を継続開催することで、更なるグラフィックデザインの発展に寄与する。また、「JAGDA新人賞」の受賞作家の作品展を併せて開催することによって、日本のグラフィックデザインの最新かつ最良の作品を展示し、多くの人にグラフィックデザインの創造性と面白さを感じてもらい、デザインへの理解と親近感を醸成することを目的とする。

作品展示と併せて、会期中に出品作家によるトークイベントを開催したことで、県内在住のデザインを学ぶ若者やデザイナーとの交流を図ることができた。

【開催日・その他】

=2010年10月23日(土)～10月31日(日) (8日間)=

会 場：新潟県立近代美術館 ギャラリー

主 催：新潟県立近代美術館、長岡造形大学、社団法人日本グラフィックデザイナー協会 (JAGDA)

協 力：長岡デザインフェア2010実行委員会、新潟県立近代美術館友の会、長岡デザインフォーラム、クリエイションG8、亀倉雄策賞事務局、ミサワホーム株式会社、ミサワ パウハウスコレクション

協 賛：株式会社第一印刷所

入場無料

開催記念トークイベント：10月31日(日)

13：30～16：45

(新潟県立近代美術館
講堂)

パート1 13：30～15：00

JAGDA新人賞トーク

(木住野彰悟・長嶋りかこ・八木秀人)

パート2 15：15～16：45

亀倉雄策賞トーク (浅葉克己)

担当 濱田真由美

第41回新潟県ジュニア 美術展覧会長岡展

【趣旨及び総括】

園児、児童、生徒を対象とした全県規模のコンクール。今回で41回目を迎えた。

県内753の幼稚園、小・中学校、特別支援学校などから38,345点の応募があり、県内外の審査員により選ばれた2,060点を新潟市、上越市、柏崎市、長岡市の4カ所で開催した。長岡展は当館で開催され、土・日曜日には親子連れの観覧者も多かった。

【開催日・その他】

新潟展 2010年11月28日(日)～12月9日(木)
(新潟県民会館ギャラリー)

長岡展 2011年1月4日(火)～1月16日(日)
(新潟県立近代美術館)

柏崎展 2011年1月20日(木)～1月25日(火)
(柏崎市ソフィアセンター)

上越展 2011年1月28日(金)～2月2日(火)
(上越市市民プラザ)

主 催：新潟日報社・新潟県教育委員会・新潟県立近代美術館・新潟県美術教育連盟・新潟市教育委員会・長岡市教育委員会・上越市教育委員会・柏崎市教育委員会

後 援：新潟日報美術振興財団

入場無料

審査員

幼稚園・保育園 (3～5歳)

松本健義 (上越教育大学准教授)

小学校 (1年)

降旗 孝 (山形大学教授)

小学校 (2年)

結城和廣 (長岡造形大学教授)

小学校 (3年)

岩崎由紀夫 (大阪教育大学教授)

小学校 (4年)

林 耕史 (群馬大学准教授)

小学校 (5年)

阿部靖子 (上越教育大学教授)

小学校 (6年)

服部鋼資 (東京福祉大学短期大学部教授)

中学校 (1年～3年)

柳沼宏寿 (新潟大学准教授)

特別支援学校

藤江 充 (愛知教育大学教授)

担当 佐藤克己

第14回新潟県立美術館 友の会作品展

応募点数 幼児 4,867点
特賞3点 優秀賞26点
奨励賞253点 佳作4,585点
小学校 30,423点
特賞18点 優秀賞147点
奨励賞1,431点 佳作28,827点
中学校 3,055点
特賞9点 優秀賞17点
奨励賞156点 佳作2,873点
総合計 38,345点
特賞30点 優秀賞190点
奨励賞1,840点 佳作36,285点

担当 野村宏毅

【趣旨及び総括】

友の会会員の制作した作品を募集し、会員の結束を図りながら、美術館の運営や活動に協力することを目的として、平成9年度に企画、以来開催を続けている。

第14回展では、会員19名による31点、および近代美術館長を始めとする美術館職員3名による3点、長岡市美術協会の賛助作品8点を展示紹介した。

賛助作品については、平成16年度、友の会10周年にあたる第8回展より、当会発足に、ご尽力くださった長岡市美術協会への感謝を表すとともに、展示を通じた交流の機会としている。

また、作品制作の楽しさを、広く身近に感じてもらうため、同時開催として、会場内にコーナーを設け、平成22年3月、佐渡市相川で開催された『第10回全国高等学校版画選手権大会「はんが甲子園」本選大会』の高校生による版画作品14点を展示紹介した。

【開催日・その他】

=2010年9月18日(土)～9月26日(日)=

会 場：新潟県立近代美術館ギャラリー

主 催：新潟県立美術館友の会、新潟県立近代美術館

入場無料

担当 佐藤和子（新潟県立美術館友の会事務局）

企 画 展



ピーターラビットの生みの親 ビアトリクス・ポター展

【趣 旨】

ビアトリクス・ポター（1866～1943年）は、世界中で愛され続ける絵本『ピーターラビットのおはなし』をはじめとする23冊の絵本の作者としてその名が知られている。しかしそれだけでなく、彼女の活動はキノコの研究や農場経営、羊の飼育や自然保護活動など驚くほど多彩でまたその功績も大きい。彼女がそれを成し遂げた背景には彼女の自然を観察する冷静な眼と豊かな想像力、そして小さなものと自然に対する愛情と慈しみの心がある。

本展では、絵本やカードのために描かれた絵だけでなく、スケッチや水彩による動植物画や風景画、精密な博物画などを、初版本などの貴重な数々の資料と併せて展示し、これまであまり知られてこなかったビアトリクス・ポターの世界を紹介した。

展示作品には資料が多く比較的大人向けの内容であったが、親子連れの来館を想定し、絵本コーナー・ぬりえコーナー・ゲームコーナーを展示室内に、ロビーにも写真撮影コーナーを設けた。さらに「ピーターラビットの絵本」シリーズに登場するキャラクターのパネルも展示室内の随所に設置した。

また、映画館やえほん館とのタイアップ企画や館外の人材を生かした読み聞かせや朗読など多彩なイベントを実施した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・キャラクターばかりが有名であったビアトリクス・ポターという人物について、多くの人に知ってもらい印象づけることができた。
- ・子どもの来館に配慮するため設けた絵本やぬりえのコーナー、展示室内に設置したキャラクターパネルは概ね好評で、大人にも展覧会を楽しんでもらえた。
- ・よみかせ、朗読、えほん館司書など、館外から多くの人の協力を得ることができた。
- ・映画上映、講演会など、館外の施設とのタイアップを行い美術館外への広がりをはかった。

●検討課題

- ・展示物に資料が多く、また絵本原画も少なかったが、これをカバーするために、展示室内に子どもを楽しませるためにいっそう工夫する必要があった。

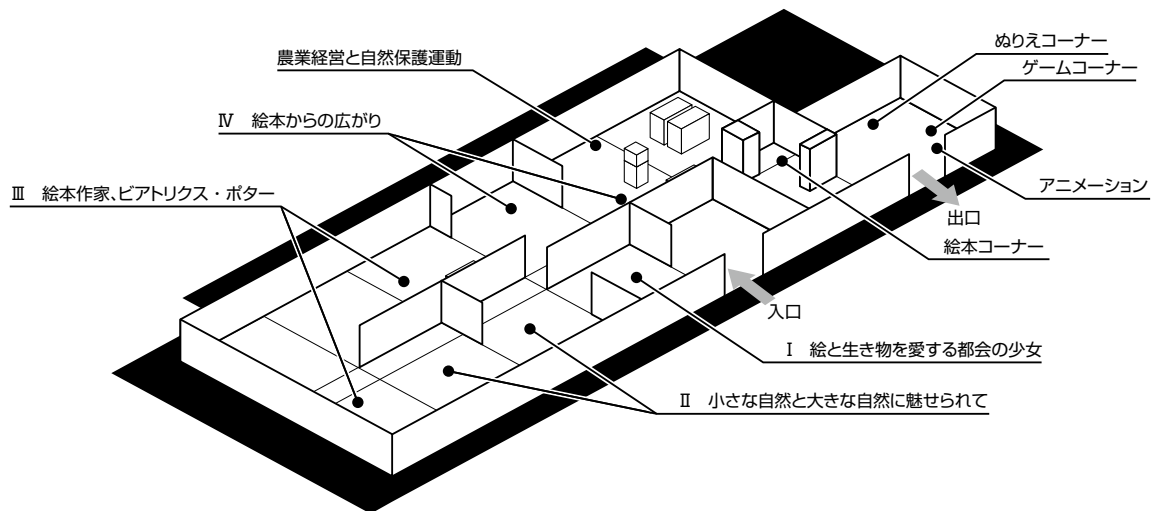
【開催日・その他】

＝2010年6月4日(金)～7月11日(日) (38日間)＝

主 催：新潟県立万代島美術館、新潟日报社、BSN新潟放送、ビアトリクス・ポター展新潟展実行委員会

特別協力：国立ヴィクトリア アンド アルバート美術館、フレデリック・ウォーン社

後 援：ブリティッシュ・カウンシル、勅文字・活字文化推進機構
新潟市、新潟市教育委員会、新潟県書店商



業組合、NHK新潟放送局、FM KENTO、
ラジオチャット・エフエム新津、エフエ
ムしばた、燕三条エフエム放送株式会社
協 力：フリー・ライブラリー・オブ・フィラデル
フィア、プリンストン大学図書館コットス
ン・チルドレンズ・コレクション、ピア
トリクス・ポター・ソサエティー、リン
ダ・リア、河野芳英、日本航空、日本通運、
コピーライツアジア株式会社

観覧料：一般……1,000円(800円)〈800円〉
大学・高校生 ……800円(600円)
中学生以下無料
※ () 内は20名以上の団体料金、
〈 〉 内は前売券料金

【関連行事】

・館内コーナー「ピーターラビットであそぼう！」
絵本コーナー（展示室内）
絵本よみかせ
日時：毎週日曜日（6月6日を除く）
14：00～15：00
よみかせ：絵本を楽しむ会
参加者数：5回 合計111名
キッズ・プロジェクト
日時：6月6日(日) 14：00～15：00
朗読：武内実江（BSNアナウンサー）
参加者数：20名
ぬりえコーナー（展示室内）

ゲームコーナー（展示室内）
写真撮影コーナー（万代島美術館ロビー）

・トーク
絵本でゆたかに！
日時：6月13日(日)、7月4日(日) 13：30～
会場：万代島美術館ロビー
お話：大矢美智子氏（NIC木戸えほん館司書）
テーマ：家庭でのよみかせ
参加者数：6月13日 28名／7月4日 36名

・美術鑑賞講座
「ビアトリクス・ポターとイギリス絵本の黄金時代」
日時：7月3日(土) 14：00～
会場：NICOプラザ会議室（万代島ビル11階）
講師：宮下東子（当館主任学芸員）
参加者数：37名

・朗読
「ピーターラビット」おはなしタイム～日英対訳～
日時：6月26日(土)／7月10日(土)
15：00～16：00
会場：万代島美術館ロビー
朗読：たんぽぽ絵本
コカリナ：木音（このん）
参加者数：6月26日 46名／7月10日 40名

・講演会（共催）
「日本のポター研究の第一人者 吉田新一氏講演会」

主催：NIC木戸えほん館
日時：6月27日(日) 14:00～
会場：NICOプラザ会議室（万代島ビル11階）
参加者数：137名

・映画上映会（タイアップ企画）

「ミス・ポター」上映
主催：T-joy新潟万代
上映日：6月12日(土)～18日(金)
料金：一般1,000円
鑑賞者数：209名

・解説会

ギャラリー・レクチャー
日時：会期中土・日・祝（全12回）14:00～
（他にイベントのある日を除く）
場所：万代島美術館展示室
担当：当館学芸員
参加者数：延べ 225名

【図録】

仕様：220mm×200mm 30頁
編集：郡山市立美術館
発行：ブックグローブ社©2010
内容：ビアトリクス・ポター展によこそ／
エマ・ローズ
ごあいさつ
ヴィクトリアン・ルネッサンスの潮流の
なかに 19世紀末のイギリスとポターの
芸術／林望
第1章 絵と生き物を愛する都会の少女
第2章 小さな自然と大きな自然に魅せ
られて
第3章 絵本作家ビアトリクス・ポター
第4章 絵本からの広がり
自然の大切さと美しさ…／伊藤元雄
年譜
出品目録



【関連記事】

●新聞

6月3日(木) 『新潟日報』
「卓越した観察力と描写力」
（特集記事）／宮下東子

その他 新潟日報
（6/5(土)、6/13(日)、6/28(月)、7/3(土)、
7/8(木)、7/26(月)夕刊）

〈連載〉

・新潟日報「ポター展開催中」
①カリフラワーと手紙を持つピーター（6/17
(木)）②ヒルトップの玄関にいるピーターとベン
ジャミン（6/19(土)）③『のねずみのチュウチ
ュウおくさんのおはなし』チュウチュウおくさ
んとハサミムシの下絵（6/22(火)）④ベンジャ
ミン・パニー父子の八百屋さん（6/23(水)）⑤
クリスマスカード（ICAA）（6/24(木)）⑥『セ
シリ・パセリのわらべうた』『ニニイ ナニイ
ネティコート』の下絵（6/25(金)）⑦クリスマ
スカード（ヒルデスハイマー&フォークナー社）
（6/29(火)）⑧『セシリ・パセリのわらべうた』『セ
シリ・パセリにげだした』の下絵（6/30(水)）

●テレビ

6月15日(火)～17日(木) BSN新潟放送
Nスタ新潟（作品紹介①～③）／宮下東子

●ラジオ

5月27日(木) BSN新潟放送
モーニングカフェ／宮下東子
6月4日(金) BSN新潟放送
ゴゴラク スナッピー中継／宮下東子

●雑誌 「トツときガイド」 5・6月号／宮下東子

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	8,174
	前売	4,176
無料観覧者数	無料	3,864
	免除	700
総観覧者数		16,914
有料率 (%)		73.0

担当 宮下東子、飯島沙耶子

【出品リスト】

no.	作品名	制作年	技法・材質等	寸法(縦×横cm)	所蔵先
I 絵と生き物を愛する都会の少女					
1	ビアトリクス・ポター(10歳、父ルパート撮影)	1876年	写真・モダンプリント	20.7×14.6	国立ヴィクトリア&アルバート美術館
2	ビアトリクス・ポター(10歳、父ルパート撮影)	1876年	写真・モダンプリント	20×16.3	〃
3	父ルパート・ポターへの手紙		インク・紙	17.8×22.7	〃
4	風景画	1877年	鉛筆・紙	17.7×25.2	〃 LB
5	暗号文字で書かれたポターの日記		インク・紙	16.9×5.1	〃
6	犬のスポットを連れたビアトリクス・ポター(14歳、父ルパート撮影)	1880年	写真・アルバニューメンプリント	11.5×8.4	〃
7	犬のスポットを連れたポター一家		写真・モダンプリント	15.2×18.1	〃
8	ビアトリクス(8歳)と両親	1874年	写真・モダンプリント	18.9×16.1	〃
9	死んだシスキンの習作	1879年	鉛筆・紙	24.7×13.5	〃
10	ヤグルマソウとヒナギク	1881年	水彩・鉛筆・紙	23×21	〃
11	リンゴの静物習作	1880年	水彩・紙	23.4×31.7	〃
12	ぶどうと桃の静物	1882年	水彩・鉛筆・紙	23.2×26.3	〃 LB
13	ぶどうと桃の静物		水彩・鉛筆・紙	23.1×29.4	〃
14	花瓶、花、燭台の静物	1883年	水彩・紙	37.5×28.5	〃
II 小さな自然と大きな自然に魅せられて					
15	シドマス海岸	1902年	水彩・紙	20.3×27.3	国立ヴィクトリア&アルバート美術館
16	グウェニノグ(ビアトリクスの叔父、フレッド・バートンの家)の室内	1904年	水彩・セピアインク・鉛筆・紙	22.8×18.9	〃 LB
17	3方向から眺めた羽を畳んだコウモリ	1886年	水彩・紙	9.0×11.3	〃
18	3方向から眺めた羽を畳んだコウモリ	1886年	水彩・紙	9.0×11.4	〃
19	3方向から眺めた羽を畳んだコウモリ	1886年	水彩・紙	7.7×11.4	〃
20	上から見たコウモリ	1884年	水彩・紙	10.1×18.2	〃
21	犬の頭骨のスケッチ	1886年	ペン・インク・紙	12.1×22.4	〃
22	顕微鏡で見たスズメガ	1887年	水彩・インク・鉛筆・紙	24.5×26.9	〃 LB
23	クモの習作	1887年	水彩・ペン・インク・紙	26.9×36.7	〃
24	ヤマネの習作	1887年	セピアインク・鉛筆・紙	17.8×11.4	〃
25	野の花の束	1885年頃	水彩・鉛筆・紙	31.7×23.3	〃 LB
26	ピンクのバラのつぼみ	1896年	水彩・紙	20.9×13.6	〃
27	リンゴの花の枝の習作	1896年頃	水彩・ペン・インク・紙	15.5×23.4	〃
28	枯れたイラクサの習作	1896年頃	水彩・インク・紙	27.5×22.1	〃
29	パンジーの習作	1896年頃	水彩・鉛筆・紙	13.5×21.0	〃
30	マツユキソウの習作	1900年頃	水彩・ペン・インク・鉛筆・紙	16.4×13.2	〃 LB
31	ヤマイグチ属のキノコ2種	1897年	水彩・ペン・インク・鉛筆・紙	29.7×42	〃 LB
32	キノコ		水彩・鉛筆・紙	18.4×25.9	〃 LB
33	キノコ		水彩・鉛筆・紙	19×25.3	〃 LB
34	おにゆりの花の習作	1902年	水彩・セピアインク・紙	29.3×22.6	〃
35	キンギョソウの習作	1903年頃	水彩・セピアインク・鉛筆・紙	29.4×23	〃 LB
36	ジギタリスの花の習作	1903年頃	水彩・墨・鉛筆・紙	28.9×22.4	〃 LB
37	北米産カメ	1905年頃	水彩・ペン・インク・紙	10×15.6	〃 LB
38	ティギーお婆さんの頭部の習作	1904年頃	水彩・鉛筆・紙	16.5×16.2	〃 LB
III 絵本作家、ビアトリクス・ポター					
39	エリック・ムーアへの手紙	1894年	インク・紙	各18.0×22.8	国立ヴィクトリア&アルバート美術館
40	マージョリー・ムーアへの手紙	1900年	インク・紙	18.0×22.5	〃
41	“Double Dutch”への手紙		インク・紙	17.9×24.1	〃 FFB
42	『ピーターラビットのおはなし™』初版本	1902年	本	14.4×10.8	フリーライブラリー・オブ・フィラデルフィア
43	木の幹のうろの習作		水彩・ペン・インク・鉛筆・紙	24.2×30.3	国立ヴィクトリア&アルバート美術館
44	フレデリック・ウォーンからポターへの手紙	1901年	インク・紙		フレデリック・ウォーン社
45	ウォーン社への手紙	1901年	インク・紙		〃
46	『ベンジャミン・バニーのおはなし™』初版本	1904年	本	14.2×10.2	フリーライブラリー・オブ・フィラデルフィア
47	フォー・パーク邸の菜園でスケッチした玉ねぎ畑	1903年	水彩・紙	19×22.7	国立ヴィクトリア&アルバート美術館
48	フォー・パーク邸の菜園でスケッチした玉ねぎ	1903年	水彩・セピアインク・紙	22.3×28.4	〃
49	『ベンジャミン・バニーのおはなし™』の下絵	1903年	水彩・紙	22.8×18.9	〃
50	ノーマン・ウォーンが姪のウィニフレッドに贈ったドールハウス(内部)		写真・モダンプリント	14×18	〃
51	ノーマン・ウォーンが姪のウィニフレッドに贈ったドールハウス(外観)		写真・モダンプリント	14×18.1	〃
52	『2ひきのわるいねずみのおはなし™』初版本	1904年	本	11.5×10	フリーライブラリー・オブ・フィラデルフィア
53	『「ジンジャーとビクルズや」のおはなし™』初版本	1909年	本	18×14	〃
54	『「ジンジャーとビクルズや」のおはなし™』の下絵	1908年	水彩・鉛筆・紙	25.4×17.3	国立ヴィクトリア&アルバート美術館 LB
55	『こぶたのビグルン・ブランドのおはなし™』初版本	1913年	本	14.2×10.8	フリーライブラリー・オブ・フィラデルフィア
56	『こぶたのビグルン・ブランドのおはなし™』ビグルン・ブランドとアレクサンダーの下絵	1910年頃	水彩・インク・鉛筆・紙	19.3×15.6	国立ヴィクトリア&アルバート美術館 LB
57	ヒルトップ裏手の分かれ道	1909年	水彩・鉛筆・紙	25.4×17.9	〃 LB
58	『アプリー・ダブリのわらべうた™』初版本	1917年	本	13×10.8	フリーライブラリー・オブ・フィラデルフィア

59	『アプリー・ダブリーのわらべうた™』『ばあやのブタに陽気なお歌』の下絵	1905年頃	ペン・インク・紙	20.8×25.1	国立ヴィクトリア&アルバート美術館	
60	『アプリー・ダブリーのわらべうた™』『ばあやのブタに陽気なお歌』の下絵	1905年頃	水彩・ペン・インク・紙	18.2×20.2	//	
61	『アプリー・ダブリーのわらべうた™』アプリー・ダブリーの下絵	1905年頃	ペン・インク・鉛筆・水彩・紙	19.8×15.5	//	
62	『アプリー・ダブリーのわらべうた™』編み物をするネズミ	1905年頃	ペン・インク・紙	20.5×11.9	//	LB
63	『セシリ・パセリのわらべうた™』テンジクネズミの下絵	1893年	水彩・ペン・インク・鉛筆・紙	9.2×16.3	//	LB
64	『セシリ・パセリのわらべうた™』『ニニィ ナニィ ネティコート』の下絵	1897年頃	水彩・ペン・インク・紙	15.8×21	//	LB
65	『セシリ・パセリのわらべうた™』『セシリ・パセリ にげだした』の下絵	1902年	水彩・ペン・インク・鉛筆・紙	21.2×26.7	//	LB
66	『パイがふたつあったおはなし™』のための情景	1902年	水彩・インク・鉛筆・紙	19.7×22.3	//	
67	『パイがふたつあったおはなし™』の下絵	1902年頃	水彩・セピアインク・鉛筆・紙	22.7×29	//	LB
68	『のねすみチュウチュウおくさんのおはなし™』扉の下絵	1910年頃	ペン・インク・紙	10.6×13.3	//	
69	『のねすみチュウチュウおくさんのおはなし™』チュウチュウおくさんとハサミシの下絵	1910年頃	水彩・セピアインク・墨・鉛筆・紙	13.6×10.5	//	LB
70	『キツネどんのおはなし™』の下絵	1912年頃	ペン・インク・紙	10.8×13.6, 11.2×13.2	//	LB
71	『イソップ寓話／キツネとコウノトリ』の挿絵	1919年	水彩・鉛筆・紙	15.3×20.4	//	
72	『不思議の国のアリス(ルイス・キャロル作)』から白ウサギの挿絵	1892年頃	水彩・鉛筆・紙	21.5×27.7	//	LB
73	『グロスターの仕立て屋™』初版本	1903年	本	14.4×10.8	フリーライブラリー・オブ・フィラデルフィア	
74	『モベットちゃんのおはなし™』初版本(パノラマ本)	1906年	本	11.4×9.2(長さ260)	コットスン・チルドレンズ・コレクション	
75	『こわいわるいうさぎのおはなし™』初版本(パノラマ本)	1906年	本	?(長さ260)	//	
76	『ローリー・ポーリー・プディング』初版本(後に『ひげのサムエルのおはなし™』に改題)	1908年	本	20.2×16	//	
77	『カルア・シ・チミーのおはなし™』初版本	1911年	本	14.4×10.8	//	
78	『まねねすみジョニーのおはなし™』初版本	1918年	本	14.2×10.6	フリーライブラリー・オブ・フィラデルフィア	

IV 絵本からの広がり

79	ビアトリクス・ポター、ヒルトップにて	1907年頃	写真・モダンプリント	20.4×15.8	国立ヴィクトリア&アルバート美術館	
80	ビアトリクス・ポター、ヒルトップで犬のケップと一緒に		写真・モダンプリント	19.1×14.1	//	
81	ベンジャミン・パニー父子の八百屋さん	1891年	水彩・ペン・インク・紙	20×25.3	//	
82	ベンジャミン・パニー父子の八百屋さん(複製)		紙	23.6×29.3	//	
83	ニューイヤーカード(ヒルデスハイマー&フォークナー社)		印刷・紙	11.2×8.2	//	
84	クリスマスカード(ヒルデスハイマー&フォークナー社)		印刷・紙	11.2×9.4	//	
85	クリスマスカード(ヒルデスハイマー&フォークナー社)		印刷・紙	11.2×9.4	//	
86	クリスマスカード(ヒルデスハイマー&フォークナー社)		印刷・紙	9.8×13.1	//	
87	ニューイヤーカード(ヒルデスハイマー&フォークナー社)		印刷・紙	9.9×13.1	//	
88	クリスマスカード		印刷・紙	15.4×12.1	//	
89	クリスマスカード(ICA)		印刷・紙	15.3×10.9	//	
90	クリスマスカード(ICA)	1925年	印刷・紙	14.5×10.5	//	
91	クリスマスカード(ICA)	1925年	印刷・紙	14.4×10.3	//	
92	クリスマスカード(ICA)	1935年	印刷・紙	15.3×10.8	//	
93	ヒルトップの玄関にいるピーターラビットとベンジャミン・パニー	1930年	水彩・ペン・インク・紙	9.5×8	フレデリック・ウォーン社	
94	カリフラワーと手紙を持つピーター		水彩・ペン・インク・紙	8×5.5	//	
95	『ピーターラビットのぬりえ帖』表紙試し刷り	1911年頃	水彩・ペン・インク・紙	21.1×18.2	//	
96	『ピーターラビットのぬりえ帖』ティギーおばさんの下絵	1911年頃	墨・鉛筆・紙	23.3×17.8	国立ヴィクトリア&アルバート美術館	LB
97	『ピーターラビットのぬりえ帖』ピーターラビットの下絵	1911年頃	墨・鉛筆・紙	21×17.6	//	LB
98	『ピーターラビットのぬりえ帖』ピーターに菓を飲ませるおかあさんの下絵	1911年頃	墨・鉛筆・紙	25.4×18.8	//	LB
99	『ピーターラビットのぬりえ帖』見返しと扉の下絵		ペン・インク・鉛筆・紙	25.5×19.3	//	
100	『ピーターラビットのぬりえ帖』見返しと扉の下絵		ペン・インク・鉛筆・紙	25.5×19.9	//	
101	ピーターラビット人形	1905年	布	25.8×8	フレデリック・ウォーン社	
102	「ピーターラビットの追いかけっこ」ゲーム	1950年	印刷・紙		個人	

農業経営と自然保護運動

103	菜園入口	1903年頃	水彩・鉛筆・紙	29.1×21.5	国立ヴィクトリア&アルバート美術館	LB
104	ヒルトップのスケッチ	1905年	セピアインク・鉛筆・紙	18.6×26.7	//	LB
105	朝もやのコンiston湖	1909年	水彩・鉛筆・紙	17.9×25.5	//	
106	ソーリー村の雪景色	1909年	水彩・鉛筆・紙	23.9×18.4	//	
107	ブタの頭部の習作		水彩・鉛筆・紙	25.7×17.6	//	LB
108	牛の習作		ペン・インク・鉛筆・紙	25.1×17.6	//	

※国立ヴィクトリア&アルバート美術館所蔵品のうち、“LB”はレズリー・リンダー・コレクション、“FFB”はフランチェスカ・フェローズ・コレクションであることを示します。



彫刻家・藪内佐斗司展 —動き出す彫刻たち—

【趣 旨】

藪内佐斗司氏（1953年、大阪市阿倍野生まれ）は、東京藝術大学、同大学院で彫刻を学んだ後、東京藝術大学大学院の保存修復技術研究室に勤め、文化財の修復を通じて、仏像の寄木造や彩色など、我が国木彫像の伝統的な古典技法を修得した。そうした確かな技術を駆使して制作された作品はおおらかなユーモアをたたえ、多くの人に愛される魅力にあふれている。現在は、創作活動とならび文化財保護の人材育成にも積極的に取り組んでいる。

本展は、作品を形作る技の背景に日本彫刻の豊かな伝統を持ち、創作の底に一貫して仏教的な世界観、東洋的な自然観が流れる藪内氏の多様な作品世界を、二部構成で紹介するもの。第一部では、藪内氏の基本的な考えを代表する作品を始めに、広く人気のある童子たちの作品の数々を出品。第二部では、「せんとかん」誕生以降、新たに展開している《平成伎楽団》を展示した。

【総 括】

●評価すべき点

初めての試みとして、敢えて会場内で作者の講演会、パフォーマンスを実施した。鑑賞の妨げになることも懸念されたが、当日のクレームはなかった。作品の隣で直に話が聞けたこと、作品に囲まれてパフォーマンスを鑑賞できたことで、来館者は氏の作品世界を十二分に堪能できたように思える。

また、作者の許可で会場内での写真撮影を第二

部のみ可能とし、加えて、作品の人気投票を行った。これらの試みにより、来館者が能動的に鑑賞し、作品により親しめる環境を提供できたため、たいへん好評だった。

●検討課題

予定していた入館者数（20000人）に及ばなかった。その理由としては、①「せんとかん」の知名度は抜群だが、新潟では関西ほど作者が認知されてなかったこと、②「せんとかん」自身に一般の反応が好悪分かれていることなどが考えられ、地元の一般来館者に浸透させることが難しかった。

【開催日・その他】

＝2010年7月24日(土)～9月26日(日)(62日間)＝

主 催：新潟県立万代島美術館、新潟日报社、UX
新潟テレビ21

後 援：新潟市、新潟市教育委員会、エフエムラジオ
新 潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、
ラジオチャット・エフエム新津、エフエム
しばた、燕三条エフエム放送株式会社

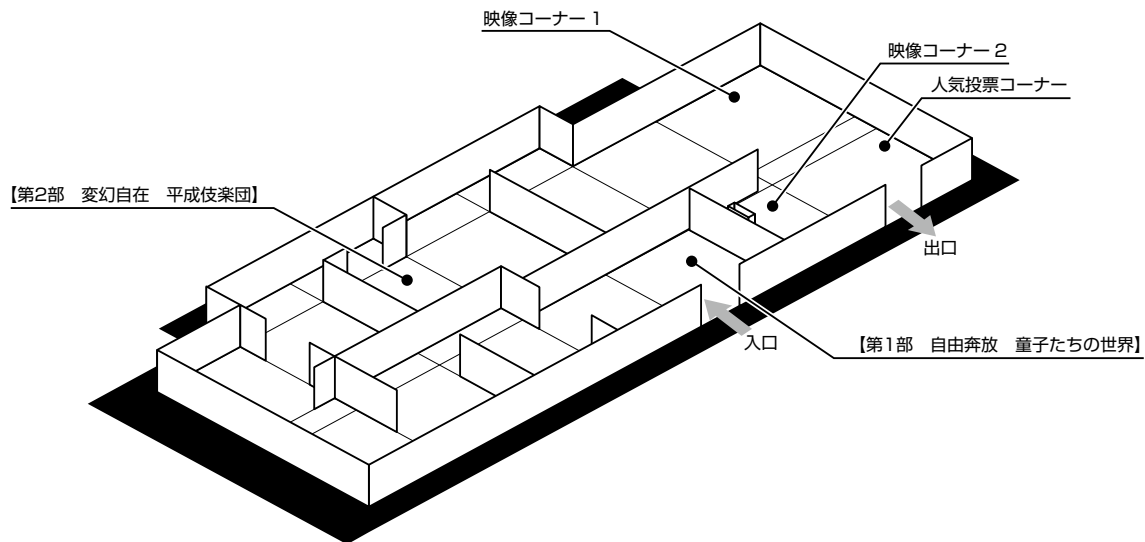
観覧料：一般……………900円(700円)〈700円〉

大学・高校生…700円(500円)

中学生以下無料

※（ ）内は20名以上の団体料金

※〈 〉内は前売券料金



【関連行事】

・講演会

「簀内佐斗司氏講演会」

日時：8月1日(日) 14:00～15:00

会場：万代島美術館展示室

講師：簀内佐斗司氏(東京藝術大学大学院教授)

平成伎楽団

参加者数：90名



・イベント

「平成伎楽団パフォーマンス」

日時：8月1日(日) 15:40～16:00

会場：万代島美術館展示室

演者：平成伎楽団

参加者数：90名

「ワークショップ 展覧会をめぐるさげさげ！

ヤブウチ・ワールド」

日時：8月8日(日) 14:00～

会場：万代島美術館展示室

参加者数：8名

「平成伎楽団ワークショップ

踊ってみよう・着てみよう あなたも平成伎楽団!」

日時：8月28日(土)

13:00～13:40、15:00～15:30

会場：万代島美術館展示室

講師：平成伎楽団

参加者数：17名/23名 計40名

「せんとくんと写ろう！ せんとくん撮影会」

日時：7月24日(土)、8月29日(日)

各日11:00～、13:30～、15:00～

各30分

会場：万代島美術館ロビー

参加者数：7月24日 25名/23名/16名 計64名

8月29日 34名/35名/34名 計103名

・作品解説会

日時：会期中の土・日・祝日(全16回)14:00～

(ただし他のイベントがある日を除く)

会場：万代島美術館展示室

担当：当館学芸員

参加者数：延べ134名

担当 桐原 浩、宮下東子、飯島沙耶子

【図録】

仕様：A4版、96頁、DVD資料付

編集：新潟県立万代島美術館

【桐原 浩／宮下東子／飯島沙耶子】

印刷制作：株式会社第一印刷所

発行：新潟県立万代島美術館

内容

「展覧会によせて」 簀内佐斗司

「動き出す彫刻たち」 桐原 浩

【出品作品図版】



第1部 自由奔放—童子たちの世界—

第2部 変幻自在—平成伎楽団—

資料

簀内佐斗司作品MAP

出品目録

※「第2部 変幻自在—平成伎楽団—」

関連DVD付録



【関連記事】

●新聞

7月22日(木) 『新潟日報』文化欄

「24日から『彫刻家・簀内佐斗司展』」／桐原 浩

8月9日(月) 『新潟日報』夕刊

「彫刻家 簀内佐斗司展 いろんな顔」

9月8日(水) 『朝日新聞』夕刊(東京版)記事

「彫刻家・簀内佐斗司展 「せんとくん」生んだ古典技法」

9月22日(木) 『読売新聞』記事

「顔」欄 (新潟で彫刻作品展を開催中の東京芸
大大学院教授 簀内佐斗司さん 57)

その他 新潟日報 (7/24(土)、8/4(水))

新美術新聞 (8/21(土))

●雑誌

『婦人公論』8月7日号(展覧会紹介記事)

『芸術新潮』8月号(展覧会紹介)

『トットときガイド』7・8月号／桐原 浩

『月刊美術』9月号(No.420)

『家庭画報』10月号

●テレビ

7月22日(木) UX21

『スーパー Jチャンネルにいがた』

7月23日(金) UX21

『レクスタ昼どきキンコンカン』

9月4日(土) UX21

『まるどりっ!』

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	4,059
	前売	337
無料観覧者数	無料	2,127
	免除	464
総観覧者数		6,987
有料率 (%)		62.9

【出品リスト】

no.	作品名	制作年	素材	寸法(高さ×幅×奥行cm)	所蔵先
第1部 自由奔放 ー童子たちの世界ー					
1	犬モ歩ケバ	1989年	木	57.7×27.2×89	兵庫県立美術館蔵
2	音声五童子	1990年	檜、漆、顔料、組紐、馬毛	H.30	個人蔵
3	女の鎧ーおつまみ	1990年	檜、漆、顔料	115.0×105.0×35.0	刈谷市美術館蔵
4	男の鎧ー阿	1991年	檜、漆、顔料	78.5×121.0×29.0	刈谷市美術館蔵
5	男の鎧ー吽	1991年	檜、漆、顔料	60.0×82.5×38.0	刈谷市美術館蔵
6	走る童子	1996年	ブロンズ、彩色	79×46×25 79×46×25(4体)	新潟県立近代美術館・ 万代島美術館蔵
7	牛頭大王、丑寅を脱む	1991年	檜、漆、顔料	97×66×41	靖雅堂夏目美術店蔵
8	火伏せ童子	1991年	檜、漆、顔料	68×46×46	靖雅堂夏目美術店蔵
9	火伏せ童子	1992年	檜、漆、顔料	65×50×40	うるし蔵蔵
10	追い風童子	1993年	檜、漆、顔料	53×46×41	うるし蔵蔵
11	火伏せ童子	1998年	檜、漆、顔料	35×30×31	清水英一氏蔵
12	小雷公、金雲を耕す	1997年	檜、漆、顔料	25×35×140	うるし蔵蔵
13	小雷公、光明を見る	1998年	檜、漆、顔料	113×60×28	個人蔵
14	旭日昇運童子	1997年	檜、漆、顔料	53×93×55	個人蔵
15	朝露童子	2009年	檜、漆、顔料	37.5×30.3×30.3	個人蔵
16	五月童子	1993年	檜、漆、顔料	44×87×39.5	個人蔵
17	豊年大黒童子	1995年	檜、漆、顔料	45×35×75	大洋薬品工業株式会社蔵
18	六瓢神農童子	1998年	檜、漆、顔料	36×19×20	大山治郎氏蔵
19	福童子	1995年	檜、漆、顔料	40×35×30	スガキコシステムズ株式会社蔵
20	禄童子	1995年	檜、漆、顔料	38×26.5×22	スガキコシステムズ株式会社蔵
21	寿童子	1995年	檜、漆、顔料、馬毛	41.5×22×26	スガキコシステムズ株式会社蔵
22	守銭童子	2009年	檜、漆、顔料	21×18×18	個人蔵
23	こぼすな様	1993年以前	檜、漆、顔料	46×20×20	うるし蔵蔵
24	こぼすな様	1998年	檜、漆、顔料	H.30	個人蔵
25	うたたね童子	1994年	檜、漆、顔料	H.14	個人蔵
26	振鈴童子	1998年	檜、漆、顔料	H.35	個人蔵
27	雲上 百万遍童子	2010年	檜、漆、顔料	24.5×155.5×155.5	作者蔵
28	座敷童子	1991年	檜、漆、顔料	H.36.7	銀座 黒田陶苑蔵
29	桃太郎、白刃取り	2008年	檜、漆、顔料	34.5×29.0×19.3	個人蔵
30	竹林小町	2008年	檜、漆、顔料	24.6×35.4×35.4	個人蔵
31	足柄童子	2008年	檜、漆、顔料	51×45.5×45.5	新生堂蔵
32	藁苺童子	2009年	檜、漆、顔料	29.5×18.2×18.2	個人蔵
33	蜘蛛のいと	1997年	ブロンズ(蜘蛛、童子)	蜘蛛の巣高さ254、直径160 蜘蛛50×49	うるし蔵蔵
34	やもりん	2008年	ブロンズ	15.2×21.5×10.3	作者蔵
35	やもらん	2008年	ブロンズ	15.0×21.0×10.3	作者蔵

第2部 変幻自在 ー平成伎楽団ー

36	黒鹿坊	2008年	漆、麻、顔料	30.1×53.5×31	作者蔵
37	白鹿坊	2008年	漆、麻、顔料	30.1×53.5×31	作者蔵
38	赤鹿坊	2008年	漆、麻、顔料	30.1×53.5×31	作者蔵
39	黄鹿坊	2008年	漆、麻、顔料	30.1×53.5×31	作者蔵
40	青鹿坊	2008年	漆、麻、顔料	30.1×53.5×31	作者蔵
41	鹿爺	2008年	漆、麻、顔料	57.3×70.7×47.8	作者蔵
42	阿修羅童子	2008年	漆、麻、顔料	42.5×31.9×35.4	作者蔵
43	酒仙童子	2008年	漆、麻、顔料	29×33×35.5	作者蔵
44	善財童子	2008年	漆、麻、顔料	28.8×37.8×31	作者蔵
45	五智童子	2009年	漆、麻、顔料	30.5×31×37	作者蔵
46	治道翁	2009年	漆、麻、顔料	36×35×45.5	作者蔵
47	小天狗	2009年	漆、麻、顔料	33.5×30.5×44.5	作者蔵
48	迦楼羅童子	2009年	漆、麻、顔料	32×28.6×43.5	作者蔵
49	沙羯羅童子	2009年	漆、麻、顔料	43.5×29.2×35.3	作者蔵
50	龍神童子	2009年	漆、麻、顔料	51.3×31.1×37.5	作者蔵
51	乾闥婆童子(赤)	2010年	漆、麻、顔料	32×31×33	作者蔵
52	乾闥婆童子(白)	2010年	漆、麻、顔料	32×31×33	作者蔵



物語の絵画

【趣 旨】

神話、歴史、文学など広く知られた「物語」はもちろんのこと、個人の身の回りの出来事や、頭で思い描いた空想世界の断片に至るまで、絵画は様々な「物語」を描き出す。また、制作にまつわるエピソードや作品の来歴などが語られる時、絵画は「物語」の主役でもある。鑑賞者は、これらの絵画から「物語」を読み解いたり、時には、想像や自身の体験と重ね合わせたりしながら、絵画から自分だけの新しい「物語」を紡ぎだすことができる。

本展では、デューラーによる聖書主題の版画や、鍋木清方による歌舞伎を題材にした日本画、山口晃、鴻池朋子ら現代作家による物語性あふれる作品まで、約180点を、「物語」の絵画、「絵画の物語」、「現代絵画と「物語」」の3部構成で紹介した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・8点の作品について、鑑賞の補助になる資料（セルフガイド）を作成して展示室内に設置し、おおむね好評であった
- ・初の試みとして、学校団体を対象にギャラリートーク（対話型鑑賞）や出張授業を実施。学校を対象にしたあらたな働きかけを展開できた。またギャラリートーク以外でも、学校団体を対象に充実した解説会を実施することができた。

●検討課題

- ・宗教主題などになじみの薄い来館者を想定し、

ほぼ全作品に解説をつけたが、展覧会のテーマ設定を「難しい」と感じた来館者もあってか、観覧者数は目標を下まわった。

【開催日・その他】

=2010年10月9日(土)~11月28日(日)(46日間)=

※会期中展示替あり

前期：10月9日(土)~10月31日(日) 21日間

後期：11月2日(火)~11月28日(日) 25日間

主 催：新潟県立万代島美術館

後 援：新潟市、新潟市教育委員会、新潟日報社、

朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、

読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、

NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST、

TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、

NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、

FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオ

チャット・エフエム新津、エフエムしばた、

燕三条エフエム放送株式会社

観覧料：一般……………700円(500円)<500円>

大学・高校生……………500円(300円)

中学生以下は無料

※（ ）内は20名以上の団体料金

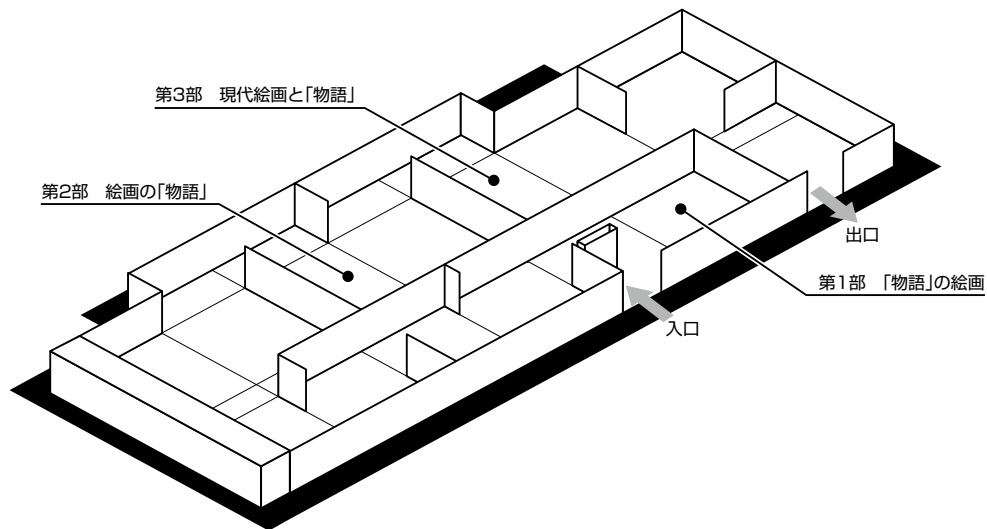
※〈 〉内は前売券料金

【関連行事】

・美術鑑賞講座

「描かれた物語 ―源氏絵の世界」

日時：10月9日(土) 14：00～



会場：NICO プラザ会議室（万代島ビル11階）
講師：飯島沙耶子（当館美術学芸員）
参加者数：14名

「絵画を読む 一藤田嗣治《私の夢》」
日時：10月23日(土) 14:00～
会場：NICO プラザ会議室（万代島ビル11階）
講師：澤田佳三（県文化行政課主任学芸員）
参加者数：21名

「お釈迦様の物語絵」
日時：11月6日(土) 14:00～
会場：NICO プラザ会議室（万代島ビル11階）
講師：宮下東子（当館主任学芸員）
参加者数：12名

「絵で見る聖書」
日時：11月20日(土) 14:00～
会場：NICO プラザ会議室（万代島ビル11階）
講師：桐原 浩（当館業務課長）
参加者数：16名

【関連記事】

●新聞

10月23日(土) 新潟日報
「油彩画の魅力堪能」
10月29日(金) 新潟日報
あーとびっくす「いかにようにも変化する物語」
／今井 有

●テレビ

11月17日(水) NHK新潟放送局
「お昼はじょんのび 暮らし情報便・ミニキテ！」
／今井 有

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	2,359
	前売	196
無料観覧者数	無料	1,409
	免除	480
総観覧者数		4,444
有料率 (%)		57.5

担当 今井 有、宮下東子、飯島沙耶子



【出品リスト】

第1部 「物語」の絵画								
no.	前期	後期	作品名	作家名	制作年(西暦)	技法・素材(形状)	寸法(縦×横cm)	所蔵先
1	○		《オヴィディウス『変身譚』の犠牲者の救済》1. 表紙	マックス・クリンガー	1879年(第5刷 1898年刊行)	エッチング・アクアチント	26.5×38.9	
2	○		2. 呼びかけ(絵画の捧げ物)	//	1879年(第5刷 1898年刊行)	エッチング・アクアチント	40.5×25.1	
3	○		3a. ピュラモスとティスベ 1a	//	1879年(第5刷 1898年刊行)	エッチング・アクアチント	20.8×29.4	
4	○		3b. ピュラモスとティスベ 2a	//	1879年(第5刷 1898年刊行)	エッチング・アクアチント	20.0×28.7	
5	○		4. ライオン(ピュラモスとティスベ2)	//	1879年(第5刷 1898年刊行)	エッチング・アクアチント	20.2×28.7	
6	○		5. 遭遇(ピュラモスとティスベ3)	//	1879年(第5刷 1898年刊行)	エッチング・アクアチント	29.5×41.0	
7	○		6. とどのつまり(ピュラモスとティスベ4)	//	1879年(第5刷 1898年刊行)	エッチング・アクアチント	22.0×29.0	
8	○		7. 第一間奏曲	//	1879年(第5刷 1898年刊行)	エッチング・アクアチント	30.8×20.9	
9		○	8. ナルキッソスとエコー(1)	//	1879年(第5刷 1898年刊行)	エッチング・アクアチント	28.9×41.0	
10		○	9. ナルキッソスとエコー(2)	//	1879年(第5刷 1898年刊行)	エッチング・アクアチント	29.0×22.0	
11		○	10. 第二間奏曲	//	1879年(第5刷 1898年刊行)	エッチング・アクアチント	24.0×35.6	
12		○	11. アポロンとダフネ(1)	//	1879年(第5刷 1898年刊行)	エッチング・アクアチント	15.0×26.0	
13		○	12. アポロンとダフネ(2)	//	1879年(第5刷 1898年刊行)	エッチング・アクアチント	17.4×20.4	
14		○	13. アポロンとダフネ(3)	//	1879年(第5刷 1898年刊行)	エッチング・アクアチント	13.4×29.0	
15		○	14. オヴィディウス(サテュルヌス)	//	1879年(第5刷 1898年刊行)	エッチング・アクアチント	16.9×23.8	
16	○	○	ビプリ	カミーユ・コロー	1874-75年	油彩・キャンバス	113.5×152.5	
17	○	○	晩秋 No.3	ジョルジュ・ルオー	1948-52年	油彩・板	104.0×74.0	
18	○		《聖地巡礼シリーズ》 1. マリアの驚き	宮 芳平	1970年	油彩・キャンバス	29.0×38.0	
19	○		2. 降誕	//	1970年	油彩・キャンバス	40.0×32.0	
20	○		3. 逃避	//	1970年	油彩・キャンバス	31.5×40.5	
21	○		4. ベテスダの池	//	1970年	油彩・キャンバス	41.0×32.0	
22	○		5. ニカノルの門	//	1970年	油彩・キャンバス	31.5×40.5	
23		○	6. ユダの椅子	//	1970年	油彩・キャンバス	31.5×40.5	
24		○	7. ニザンの月	//	1970年	油彩・キャンバス	40.5×31.5	
25		○	8. ゴルゴダ	//	1970年	油彩・キャンバス	52.5×45.0	
26		○	9. 埋葬	//	1970年	油彩・キャンバス	38.0×45.5	
27		○	10. マグダラのマリアの悲しみ	//	1970年	油彩・キャンバス	45.5×38.0	
28	○		11. エフタとその娘	//	1970年	油彩・キャンバス	45.5×38.0	
29		○	12. サロメ	//	1970年	油彩・キャンバス	45.5×37.5	
30		○	13. ルツとナオミ	//	1970年	油彩・キャンバス	31.5×41.0	
31	○	○	ウィリアム物語	笹岡 了一	1978年	油彩・キャンバス	162.5×130.8	
32	○		《大受難伝》 3. オリーブ山上のキリスト	アルブレヒト・デューラー	1497年~1500年 (1511年刊行)	木版・水彩		
33		○	4. キリスト捕縛	//	1510年 (1511年刊行)	木版・水彩	39.6×27.8	
34	○		《黙示録》 扉絵 聖母子を仰ぎ見るヨハネ	//	1511年	木版	32.0×18.2	
35	○		初版扉絵 ヨハネの殉教	//	1498年 (1511年の版)	木版	39.3×28.1	
36	○		1. 七つの燭台を見るヨハネ	//	1498年 (1511年の版)	木版	39.5×28.2	
37	○		2. 神の玉座を囲む二十四人の長老	//	1498年 (1511年の版)	木版	39.2×28.0	
38	○		3. 四人の騎者	//	1498年 (1511年の版)	木版	39.6×28.1	
39	○		4. 第五および第六の封印を切る	//	1498年 (1511年の版)	木版	39.3×28.1	
40	○		5. 風を止める四位の天使	//	1498年 (1511年の版)	木版	39.5×28.3	
41	○		6. 喇叭を吹く七位の天使	//	1498年 (1511年の版)	木版	39.4×28.1	
42		○	7. エウフラテス河畔の四位の天使	//	1498年 (1511年の版)	木版	39.5×28.3	

43	○	8. 書物を食べるヨハネ	アルブレヒトデューラー	1498年 (1511年の版)	木版	39.3×28.3
44	○	9. 太陽の女性と七頭の竜	//	1498年 (1511年の版)	木版	39.2×27.9
45	○	10. 聖ミカエル、竜を倒す	//	1498年 (1511年の版)	木版	39.2×28.2
46	○	11. 海から上る獣と仔羊の角を持つ獣	//	1498年 (1511年の版)	木版	39.3×28.1
47	○	12. 仔羊の前の選ばれしものたち	//	1498年 (1511年の版)	木版	39.3×28.0
48	○	13. バビロンの娼婦	//	1498年 (1511年の版)	木版	39.4×28.0
49	○	14. 深淵の鍵をもつ天使と新しきエルサレム	//	1498年 (1511年の版)	木版	39.4×28.3
50	○	《われらの父よ(主の祈り)》 扉絵	マックス・ペヒシュタイン	1921年刊行	木版・水彩	40.0×29.6
51	○	天にましますわれらの父よ	//	1921年刊行	木版・水彩	40.0×29.8
52	○	御名が崇められますように	//	1921年刊行	木版・水彩	39.8×29.8
53	○	御国が来ますように 御心が天における ように 地の上にも行われますように	//	1921年刊行	木版・水彩	39.8×29.8
54	○	われらに日々の糧を今日も与えてくだ さい	//	1921年刊行	木版・水彩	39.8×29.5
55	○	われらの負い目を赦してください	//	1921年刊行	木版・水彩	39.8×29.7
56	○	われらが自分たちに負い目あるものを 赦しましたように	//	1921年刊行	木版・水彩	39.8×29.6
57	○	われらを誘惑に遭わせないでください	//	1921年刊行	木版・水彩	40.0×29.5
58	○	さもなくば、悪いものから救って下さい	//	1921年刊行	木版・水彩	39.6×29.5
59	○	御国はあなたのものだからです	//	1921年刊行	木版・水彩	39.8×29.5
60	○	そしてその力と栄光は	//	1921年刊行	木版・水彩	39.8×29.8
61	○	永遠にアーメン	//	1921年刊行	木版・水彩	39.8×29.6
62	○	聖アウグスティヌスの祝福	ヤントーロップ	1915年	紙・鉛筆・パステル・コンテ	76.2×62.9
63	○	《神の変容》 第1日	エルンスト・バルラッハ	1920-21年 (1922年刊行)	木版	25.7×35.9
64	○	大聖堂	//	1920-21年 (1922年刊行)	木版	25.7×36.0
65	○	神の乞食	//	1920-21年 (1922年刊行)	木版	25.5×35.8
66	○	死の舞踏2	//	1920-21年 (1922年刊行)	木版	25.0×36.0
67	○	神の腹	//	1920-21年 (1922年刊行)	木版	25.7×35.8
68	○	岩山	//	1920-21年 (1922年刊行)	木版	25.7×35.8
69	○	第7日	//	1920-21年 (1922年刊行)	木版	25.5×35.8
70	○	《戦争》 1. 犠牲	ケーテ・コルヴィッツ	1922-23年	木版	37.0×40.0
71	○	2. 志願兵	//	1921-23年	木版	35.0×49.0
72	○	3. 両親	//	1921-22年	木版	35.0×42.0
73	○	4. 寡婦I	//	1921-22年	木版	44.0×37.0
74	○	5. 寡婦II	//	1922-23年	木版	34.0×55.0
75	○	6. 母親たち	//	1921-22年	木版	34.0×40.0
76	○	7. 民衆	//	1922-23年	木版	47.0×36.0
77	○	《使徒たちの殉教》 扉絵:キリスト磔刑図	ジャック・カロ	1632年	エッチング	7.2×4.5
78	○	1. ベテロの殉教	//	1632年	エッチング	7.2×4.6
79	○	2. パウロの殉教	//	1632年	エッチング	7.2×4.6
80	○	3. アンデレの殉教	//	1632年	エッチング	7.2×4.6
81	○	4. 大ヤコブの殉教	//	1632年	エッチング	7.2×4.6
82	○	5. ヨハネの殉教	//	1632年	エッチング	7.0×4.4
83	○	6. トマスの殉教	//	1632年	エッチング	7.1×4.6
84	○	7. 小ヤコブの殉教	//	1632年	エッチング	7.2×4.6
85	○	8. ビリポの殉教	//	1632年	エッチング	7.0×4.4
86	○	9. バルトロマイの殉教	//	1632年	エッチング	7.2×4.6
87	○	10. シモンの殉教	//	1632年	エッチング	7.2×4.6
88	○	11. マティアの殉教	//	1632年	エッチング	7.0×4.4
89	○	12. タダイの殉教	//	1632年	エッチング	7.2×4.6
90	○	13. マタイの殉教	//	1632年	エッチング	7.2×4.6
91	○	14. ユダの死	//	1632年	エッチング	7.2×4.6
92	○	15. バルナバの殉教	//	1632年	エッチング	7.0×4.4

93	○	《戦争の惨禍(大)》 1. 扉絵	ジャック・カロ	1633年	エッチング	9.2×19.3
94	○	2. 軍籍登録(徴収)	//	1633年	エッチング	8.4×18.9
95	○	3. 戦闘	//	1633年	エッチング	8.3×18.8
96	○	4. 略奪	//	1633年	エッチング	8.3×18.7
97	○	5. 農家の略奪	//	1633年	エッチング	8.3×18.6
98	○	6. 修道院の強奪	//	1633年	エッチング	8.3×18.7
99	○	7. 村の略奪と放火	//	1633年	エッチング	8.4×18.7
100	○	8. 乗合馬車の襲撃	//	1633年	エッチング	8.2×18.7
101	○	9. 悪党狩り	//	1633年	エッチング	8.4×18.8
102	○	10. 吊り落としの刑	//	1633年	エッチング	8.4×19.2
103	○	11. 絞首刑	//	1633年	エッチング	8.1×18.6
104	○	12. 銃殺	//	1633年	エッチング	8.1×18.6
105	○	13. 焚刑	//	1633年	エッチング	8.2×18.7
106	○	14. 車裂きの刑	//	1633年	エッチング	8.3×18.6
107	○	15. 施療院	//	1633年	エッチング	8.1×18.6
108	○	16. 路傍で死にゆく人々	//	1633年	エッチング	8.3×18.7
109	○	17. 農民の復讐	//	1633年	エッチング	8.3×18.7
110	○	18. 褒賞の授与	//	1633年	エッチング	8.3×18.8
111	○	《神は共にあり》 1. 神は共にあり	ジョージ・グロス	1920年	リトグラフ	33.8×44.9
112	○	2. ドイツの権利、ドイツの道徳のために (ドイツ人は敗北しドイツ主義が勝利 者となる-“最前線にきたドイツ人”)	//	1920年	リトグラフ	46.0×35.8
113	○	3. 終業(ミュンヘンのお告げの祈り- “私は奉仕した”)	//	1920年	リトグラフ	43.5×34.0
114	○	4. 労働者の光と風(自由、平等、博愛- 労働者の休日)	//	1920年	リトグラフ	39.8×34.0
115	○	5. 加持祈祷師(精密科学の勝利-閉塞 と闘うドイツ人医師)	//	1920年	リトグラフ	37.0×33.8
116	○	6. 死の女術	//	1920年	リトグラフ	44.8×34.0
117	○	7. 完成された民主主義(朕は国家なり- “民主主義にとって安全な世界”)	//	1920年	リトグラフ	46.9×35.8
118	○	8. 共産主義者は倒れ、標語ばかりが高 声に(飢饉を粉碎せよ!-血は最高の ソース)	//	1920年	リトグラフ	35.0×46.8
119	○	9. その件では誰も我々の真似はでき ない(悪しき思いを抱くものに災い あれ-“ドイツ産”)	//	1920年	リトグラフ	41.8×33.8
120	○	私の夢	藤田 嗣治	1947年	油彩・キャンバス	65.5×100.0
121	○	スジャータ奉粥	畠中 光亨	1988年	綿本彩色(二曲一雙屏風)	165.0×340.0
122	○	釈尊一代記	桐谷 洗鱗	1915年	絹本彩色(卷子装)	幅41.8
123	○	渡し	尾竹 越堂	大正初期	紙本彩色(六曲一雙屏風)	各168.5×354.0
124	○	狐火	鍋木 清方	1943年頃	紙本彩色(扇面軸装)	23.5×52.0
125	○	保名	//	1943年頃	紙本彩色(扇面軸装)	23.5×52.0
126	○	梅王	//	1943年頃	紙本彩色(扇面額装)	23.5×52.0
127	○	お嬢吉三	//	1943年頃	紙本彩色(扇面額装)	23.5×52.0
128	○	浜名を渡る源九郎義経	岩田 正巳	1936年	絹本彩色(額装)	147.0×209.0
129	○	御髪上	広川 操一	1972年	紙本彩色(二曲一雙屏風)	170.5×169.1
130	○	巴	尾竹 国観	1930年	絹本彩色(額装)	233.0×172.0
131	○	放鶴	菱田 春草	1904年	絹本彩色(軸装)	81.8×49.1
132	○	茶々	北野 恒富	制作年不詳	絹本彩色(軸装)	59.0×72.5
133	○	越前国勝山町左義長祭り	三浦 文治	制作年不詳	紙本彩色(卷子装)	45.0×950.0
134	○	武陵桃源之図	竹内 蘆風	1928年	紙本彩色(六曲一雙屏風)	各175.0×352.0
135	○	桜姫	鍋木 清方	1923年頃	絹本彩色(軸装)	135.5×50.2
136	○	辰橋	//	1943年頃	紙本彩色(扇面軸装)	23.5×52.0
137	○	毛剃	//	1943年頃	紙本彩色(扇面額装)	23.5×52.0
138	○	鏡獅子	//	1943年頃	紙本彩色(扇面額装)	23.5×52.0
139	○	うたげの装	津端 道彦	1911年	絹本彩色(額装)	116.0×198.0
140	○	阿仏尼	広川 操一	1940年	紙本彩色(額装)	200.0×327.5
141	○	蓬萊山	三輪 晁勢	制作年不詳	絹本彩色(軸装)	各133.0×42.0
142	○	佐久良比東	安田 靱彦	1939年	絹本彩色(軸装)	54.9×73.4

第2部 絵画の「物語」

no.	前期	後期	作品名	作家名	制作年(西暦)	技法・素材(形状)	寸法(縦×横cm)	所蔵先
143	○	○	夕映えの中のマルト	モーリス・ドニ	1892年	油彩・キャンバス	130.0×71.0	
144	○	○	農婦	佐藤 哲三	1940年	油彩・キャンバス	105.6×73.3	
145	○	○	洲崎義郎氏の肖像	中村 彝	1919年	油彩・キャンバス	83.0×64.0	
146	○	○	十勝岳	横山 操	1962年	岩絵具・紙	243.2×639.0	

147	○	信濃川洪水図	川端 玉章	1897年	絹本彩色	37.7×55.4
148	○	信濃川洪水図	久保田 米僊	1897年	絹本彩色	37.6×56.6
149	○	信濃川洪水図	川崎 千虎	1897年	絹本彩色	37.6×56.0
150	○	信濃川洪水図	邨田 丹陵	1897年	絹本彩色	37.6×56.0
151	○	信濃川洪水図	松本 楓湖	1897年	絹本彩色	37.6×53.3
152	○	信濃川洪水図	寺崎 広業	1897年	絹本彩色	37.8×56.3
153	○	信濃川洪水図	久保田 米僊	1897年	絹本彩色	37.6×56.0
154	○	信濃川洪水図	川崎 千虎	1897年	絹本彩色	37.6×54.3
155	○	信濃川洪水図	邨田 丹陵	1897年	絹本彩色	37.7×55.2
156	○	信濃川洪水図	松本 楓湖	1897年	絹本彩色	37.6×53.3
157	○ ○	小春の日和	小泉 成一	1888年	油彩・キャンバス	57.0×79.3
158	○	101年の胎動	木下 晋	2001年	鉛筆・紙	190.0×100.0

第3部 現代絵画と「物語」

no.	前期	後期	作品名	作家名	制作年(西暦)	技法・素材(形状)	寸法(縦×横cm)	所蔵先
159	○		《日記》 1980年7月11日、成田へ	野田 哲也	1980年	木版・シルクスクリーン	44×65.5	
160	○		1980年8月10日、デンマーク、ヘル シングボルグ	//	1980年	木版・シルクスクリーン	44.7×64.3	
161	○		1980年8月26日、ドイツ、オスナブリ ュック	//	1980年	木版・シルクスクリーン	44.3×67.2	
162	○		1996年4月7日、ボストン	//	1996年	木版・シルクスクリーン	52.5×87.0	
163	○		1996年4月11日、サンノゼ	//	1996年	木版・シルクスクリーン	33.8×53.8	
164	○		1996年4月14日、サンフランシスコ	//	1996年	木版・シルクスクリーン	35.7×53.8	
165	○ ○		何かを造る圖	山口 晃	2001年	油彩・キャンバス	112×372	高橋コレクション蔵
166	○ ○		九相圖	山口 晃	2003年	油彩・キャンバス	73×244	高橋コレクション蔵
167	○ ○		Death of Father	森村 泰昌	1991年	カラー写真に透明メディウム	266.0×346.0	
168	○ ○		ブッシュ大統領に話しかけるキリスト	福田 美蘭	2002年	アクリル・板	130.3×162.0	
169	○ ○		untitled	池田 光弘	2007年	アクリル・油彩・綿布	250×183	第一生命保険株式会社蔵
170	○ ○		水路-王の方舟	山口 啓介	1990年	エッチング	120.0×234.0	
171	○ ○		Class Room	小林 孝亘	1993年	油彩・綿布張りパネル	200×200	高橋コレクション蔵
172	○ ○		風景	猪爪 彦一	1990年	油彩・キャンバス	162.1×227.3	
173	○ ○		捜査	石田 徹也	2001年	アクリル・カンヴァス	112.1×162.1	第一生命保険株式会社蔵
174	○ ○		前線	石田 徹也	2001年	アクリル・カンヴァス	112.1×162.1	第一生命保険株式会社蔵
175	○ ○		THE DINNER(WALL)	杉戸 洋	1998年	アクリル、紙、パネル	79.6×85.5	第一生命保険株式会社蔵
176	○ ○		THE DINNER(TABLE)	杉戸 洋	1998年	アクリル、紙、パネル	180.0×220.5	第一生命保険株式会社蔵
177	○ ○		屋上公園	榎木 知子	2009年	アクリル・鉛筆・紙・綿布・パネル	225×183	第一生命保険株式会社蔵
178	○ ○		第4章 帰還-シリウスの曳航	鴻池 朋子	2004年	アクリル、墨、雲肌麻紙、木パネル	220×630×5	高橋コレクション蔵

※会期中、展示替えを行った。(前期:~10/31 後期:11/2~)

※所蔵先表記のないものは、新潟県立近代美術館・万代島美術館蔵



岩合光昭写真展～ねこ～

【趣 旨】

野生動物の生態をとらえた写真で、国内のみならず海外においても高い評価を得ている動物写真家・岩合光昭（1950年～）。「ネコが幸せになればヒトも幸せになり、地球も幸せになる！」と語る岩合氏は、身近に生きる猫たちを被写体にして数多くの写真を撮り続けてきた。そしてその表情豊かな猫たちの姿は、世代を越えた多くの人々の心をとらえている。

今回の展覧会では、岩合氏が約40年にわたる写真家人生の中で、国内のみならず世界各地を旅して撮り続けてきた猫の写真、約250点を一堂に展示した。旅先で出会った猫たちとあたたかも会話を交わすように撮影した作品には、愛らしい猫のしぐさや表情、猫と人間との交流がいきいきと写しだされている。

本展では、岩合氏がかつて一緒に暮らした猫「海ちゃん」の写真もあわせて展示し、海ちゃんが子猫からやがて母親へと成長していく過程を、愛情あふれる視点からとらえた数々の写真で紹介した。また、島民よりも猫の数が多く、「ネコ島」として知られる田代島（宮城県）で撮影した作品など、思わず笑みがこぼれ、心がほっと温まる猫の世界を存分に紹介できた展覧会であった。

【総 括】

●評価すべき点

- ・目標を大きく上回る来館者数であった。親しみやすい内容の展覧会であったため、これまで美

術館に足を運んだことのない方に来てもらうことができた。

- ・展示室内の床面にねこの足跡の形をしたステッカーを貼り、順路表示とした。わかりやすいと好評を得ることができた。

●検討課題

- ・キャプションは巡回してきた既製のものを使ったため、文字の大きさや色など見づらいといった意見が多かった。
- ・展示室内でのトークイベントの際、十分な場所を確保できなかった。

【開催日・その他】

＝2010年12月11日(土)～2011年2月20日(日)
(59日間)＝

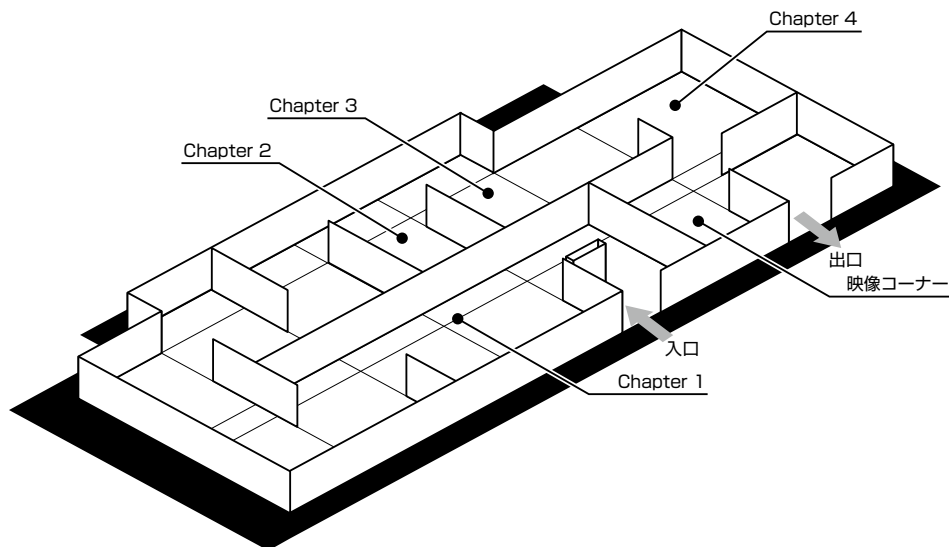
主 催：新潟県立万代島美術館、NST

協 賛：オリンパスイメージング株式会社

企画制作：クレヴィス

後 援：新潟市、新潟市教育委員会、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

観覧料：一般………900円（700円）〈700円〉
大学・高校生…700円（500円）
中学生以下無料
※（ ）内は20名以上の団体料金
※〈 〉内は前売券料金



【関連行事】

・「岩合光昭氏によるギャラリートーク&サイン会」

日時：12月11日(土)、12月12日(日)

各日11:00～/14:30～

場所：万代島美術館展示室およびロビー

講師：岩合光昭氏

参加者数

11日 ギャラリートーク：110名/121名

11日 サイン会：100名/60名

12日 ギャラリートーク：120名/125名

12日 サイン会：64名/57名



・「集まれ！うちのネコ」

募集期間：11月1日(月)～2月14日(月)

展示期間：12月11日(土)～2月20日(日)

※一般の方々が撮影したねこの写真を募集し展示

場所：万代島美術館ロビー

応募総数：延べ268通

・学芸員トーク

日時：会期中の土・日・祝日（全21回）

14:00～

（他のイベントがある日を除く）

場所：万代島美術館ロビー

担当：当館学芸員

参加者数：延べ295名

【図録】

販売部数：1857冊

無料配布部数：104冊

仕様：B5変形、128頁

著者：岩合光昭

編集：江水彰洋・佐藤正子

発行：株式会社クレヴィス

内容：Chapter1 生きることは動くこと-In My Life-

Chapter2 暮らしの中で-With People-

Chapter3 海ちゃん-Kai Chan-

Chapter4 田代島のねこたち-The Island Cats-

・岩合光昭ニャン暦

・あとがき



【関連記事】

●新聞

12月22日(水)

新潟日報「あーとびっくす」／飯島沙耶子

その他

新潟日報 12月11日(土)



●雑誌

『月刊にいがたタウン情報』12月号

『キャレル』1月号

『美術手帖』2月号

『トツときガイド』11・12月号／飯島沙耶子

『トツときガイド』1・2月号／今井 有

●テレビ

・11月16日(火)・17日(水)

NST TVウォッチング

・11月27日(土) NST スマイルスタジアム

・12月11日(土) NSTスーパーニュース内

「展覧会オープン」

・1月11日(火) NSTスーパーニュース内

「1万人セレモニー」

●ラジオ

12月10日(金) 18:25～

ラジオチャット・エフエム新潟「CHAT'n'ROLL」

岩合光昭インタビュー

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	22,474
	前売	4,181
無料観覧者数	無料	5,622
	免除	787
総観覧者数		33,064
有料率 (%)		80.6

担当 飯島沙耶子、今井 有

【出品リスト】

	no.	作品名(撮影地)	寸法(縦×横 cm)
Chapter1 生きることは動くこと			
こんにちは			
	1	島根県・出雲市	100.0×150.0
	2	東京都・台東区	48.0×72.0
	3	新潟県・佐渡市	48.0×72.0
	4	イタリア・ポルトベネーレ	48.0×72.0
	5	モロッコ・シャウエン	60.0×90.0
	6	福井県・福井市	48.0×72.0
	7	福井県・福井市	48.0×72.0
	8	エジプト・カイロ	100.0×150.0
	9	北海道・天売島	60.0×90.0
	10	山形県・天童市	48.0×72.0
	11	愛媛県・八幡浜市	60.0×90.0
確かめる			
	12	北海道・夕張市	60.0×90.0
	13	北海道・小樽市	48.0×72.0
	14	滋賀県・沖島	48.0×72.0
	15	北海道・小樽市	48.0×72.0
	16	岡山県・備前市	90.0×60.0
	17	モロッコ・チェビ砂丘	72.0×48.0
	18	福井県・小浜市	48.0×72.0
	19	モロッコ・ムーレイドリス	48.0×72.0
	20	香川県・土庄町	48.0×72.0
	21	イタリア・シチリア島	60.0×90.0
のびる			
	22	宮城県・日南市	60.0×90.0
	23	愛知県・佐久島	48.0×72.0
	24	北海道・天売島	48.0×72.0
	25	イタリア・ポルトベネーレ	60.0×90.0
	26	長崎県・長崎市	48.0×72.0
	27	滋賀県・沖島	48.0×72.0
	28	和歌山県・岩出市	60.0×90.0
	29	愛媛県・松山市	48.0×72.0
	30	愛媛県・松山市	72.0×48.0
	31	静岡県・富士市	60.0×90.0
メイクアップ			
	32	栃木県・那須町	60.0×90.0
	33	香川県・伊吹島	60.0×90.0
	34	三重県・鳥羽市	36.0×54.0
	35	新潟県・佐渡市	36.0×54.0
	36	神奈川県・鎌倉市	36.0×54.0
	37	大阪府・枚方市	36.0×54.0
	38	新潟県・新潟市	60.0×90.0
	39	沖縄県・竹富島	90.0×60.0
散歩する			
	40	愛媛県・松山市	100.0×150.0
	41	ギリシア・アテネ	48.0×72.0
	42	奈良県・東大寺	48.0×72.0
	43	ギリシャ・サントリーニ島	48.0×72.0
	44	グリーンランド・ナルサック	150.0×100.0
	45	福島県・南会津町	48.0×72.0
	46	広島県・宮島	48.0×72.0
	47	沖縄県・竹富島	60.0×90.0
	48	広島県・福山市	48.0×72.0
	49	富山県・砺波市	48.0×72.0
	50	山口県・祝島	48.0×72.0

遊ぶ		
51	山梨県・北杜市	100.0×150.0
52	秋田県・田沢湖町	48.0×72.0
53	スペイン・アルハンブラ	48.0×72.0
54	イタリア・ボルトベネーレ	48.0×72.0
55	モロッコ・マラケシュ	48.0×72.0
ジャンプ		
56	山口県・萩島	180.0×120.0
57	ギリシア・サントリーニ島	120.0×180.0
58	ギリシア・サントリーニ島	180.0×120.0
59	ギリシア・サントリーニ島	180.0×120.0
60	奈良県・奈良市	48.0×72.0
61	福岡県・藍島	48.0×72.0
62	沖縄県・竹富島	48.0×72.0
63	モロッコ・ラバト	60.0×90.0
64	トルコ・ワン湖	100.0×150.0
65	熊本県・山都町	60.0×90.0
きめる		
66	オーストラリア・ウルルカタジュタ	100.0×150.0
67	モロッコ・ラバト	100.0×150.0
68	新潟県・新潟市	100.0×150.0
69	ギリシア・ミコノス島	150.0×100.0
70	福岡県・藍島	150.0×100.0
71	静岡県・富士市	100.0×150.0
72	神奈川県・鎌倉市	100.0×150.0
73	宮城県・網地島	150.0×100.0
74	福岡県・太宰府市	100.0×150.0
育てる		
75	岩手県・沢内村	48.0×72.0
76	トルコ・イスタンブール	100.0×150.0
77	モロッコ・カサブランカ	48.0×72.0
78	広島県・尾道市	60.0×90.0
一緒に		
79	青森県・弘前市	90.0×60.0
80	イタリア・ボルトベネーレ	48.0×72.0
81	島根県・松江市	48.0×72.0
82	福井県・坂井市	48.0×72.0
83	鹿児島県・枕崎市	48.0×72.0
友だち		
84	広島県・福山市	60.0×90.0
85	広島県・広島市	48.0×72.0
86	長崎県・福江島	60.0×90.0
87	モロッコ・ムーレイイドリス	90.0×60.0
88	ニュージーランド・スチュアート島	48.0×72.0
89	北海道・倶知安町	48.0×72.0
90	スペイン・コルドバ	48.0×72.0
91	スペイン・グラナダ	48.0×72.0
店番をする		
92	イタリア・ヴェネツィア	48.0×72.0
93	鳥取県・境港市	48.0×72.0
94	愛知県・名古屋市	48.0×72.0
95	静岡県・静岡市	48.0×72.0
96	山形県・朝日町	48.0×72.0
97	東京都・台東区	48.0×72.0
ミャー		
98	鹿児島県・枕崎市	60.0×90.0
99	和歌山県・みなべ町	48.0×72.0
100	群馬県・みなかみ町	60.0×90.0

	101	ギリシア・ミコノス島	36.0×54.0
	102	トルコ・イスタンブール	48.0×72.0
	103	ギリシア・サントリーニ島	90.0×60.0
集う			
	104	宮城県・田代島	60.0×90.0
	105	岡山県・真鍋島	48.0×72.0
	106	栃木県・那須町	48.0×72.0
	107	静岡県・富士市	60.0×90.0
	108	広島県・尾道市	60.0×90.0
	109	岡山県・犬島	48.0×72.0
	110	岡山県・六島	48.0×72.0
見上げる			
	111	長崎県・福江島	90.0×60.0
	112	神奈川県・横浜市	90.0×60.0
	113	秋田県・田沢湖町	100.0×150.0
	114	東京都・台東区	48.0×72.0
	115	東京都・台東区	48.0×72.0
	116	広島県・福山市	48.0×72.0
	117	大分県・臼杵市	48.0×72.0
集中する			
	118	群馬県・前橋市	60.0×90.0
	119	奈良県・奈良市	100.0×150.0
	120	イタリア・ヴェネツィア	48.0×72.0
	121	モロッコ・エルラシディア	48.0×72.0
	122	山梨県・北杜市	48.0×72.0
	123	山梨県・北杜市	48.0×72.0
	124	愛知県・名古屋市	90.0×60.0
マーキング			
	125	大分県・日田市	48.0×72.0
	126	長崎県・長崎市	100.0×150.0
	127	佐賀県・伊万里市	60.0×90.0
	128	長野県・塩尻市	60.0×90.0
考える			
	129	岡山市・備前市	60.0×90.0
	130	長崎県・長崎市	150.0×100.0
	131	和歌山県・岩出市	48.0×72.0
	132	山口県・岩国市	48.0×72.0
	133	山梨県・北杜市	48.0×72.0
	134	モロッコ・マラケシュ	48.0×72.0
	135	イタリア・ヴェネツィア	48.0×72.0
眺める			
	136	栃木県・佐野市	60.0×90.0
	137	山梨県・北杜市	48.0×72.0
	138	熊本県・天草市	48.0×72.0
	139	福島県・南会津町	36.0×54.0
	140	イタリア・ヴェネツィア	72.0×48.0
	141	神奈川県・横浜市	60.0×90.0
眠い			
	142	奈良県・明日香村	100.0×150.0
	143	北海道・天売島	48.0×72.0
	144	岡山県・備前市	90.0×60.0
	145	奈良県・奈良市	48.0×72.0
	146	新潟県・佐渡市	48.0×72.0
	147	秋田県・西目町	60.0×90.0
	148	北海道・函館市	60.0×90.0
	149	福井県・大飯町	48.0×72.0
	150	神奈川県・横浜市	150.0×100.0

冬物語		
151	岐阜県・白川村	48.0×72.0
152	青森県・弘前市	48.0×72.0
153	青森県・弘前市	48.0×72.0
154	青森県・弘前市	48.0×72.0
155	青森県・弘前市	48.0×72.0
156	岐阜県・白川村	100.0×150.0
157	青森県・弘前市	60.0×90.0
お疲れ様		
158	山梨県・北杜市	48.0×72.0

Chapter2 暮らしの中で

159	熊本県・山都町	72.0×96.0
160	宮城県・田代島	60.0×78.0
161	東京都・文京区	60.0×78.0
162	沖縄県・竹富島	60.0×78.0
163	北海道・函館市	60.0×78.0
164	岡山県・備前市	78.0×60.0
165	大阪府・枚方市	60.0×78.0
166	岡山県・犬島	60.0×78.0
167	岡山県・六島	60.0×78.0
168	愛媛県・松山市	60.0×78.0
169	福岡県・田川市	84.5×114.5
170	岩手県・遠野市	84.5×114.5
171	新潟県・新潟市	84.5×114.5
172	佐賀県・伊万里市	114.5×84.5
173	愛知県・名古屋市	84.5×114.5
174	群馬県・渋川市	84.5×114.5
175	岐阜県・飛騨市	72.0×96.0
176	北海道・小樽市	96.0×72.0
177	広島県・因島	72.0×96.0
178	青森県・弘前市	96.0×72.0
179	岡山県・備前市	96.0×72.0
180	兵庫県・篠山市	96.0×72.0
181	和歌山県・黒江	96.0×72.0
182	佐賀県・呼子町	96.0×72.0
183	スペイン・アルプハラ	84.5×114.5
184	スペイン・コルドバ	72.0×96.0
185	トルコ・ヤヒヤル村	72.0×96.0
186	エジプト・ルクソール	72.0×96.0
187	スリランカ・コロンボ	96.0×72.0
188	エジプト・アスワン	114.5×84.5

Chapter3 海ちゃん

189	海ちゃん	104.0×69.0
190	//	66.5×44.0
191	//	44.0×66.5
192	//	66.5×44.0
193	//	68.0×102.0
194	//	96.5×144.5
195	//	69.0×104.0
196	//	44.0×66.5
197	//	44.0×66.5
198	//	68.0×102.0
199	//	66.5×44.0
200	//	66.5×44.0
201	//	66.5×44.0

202	海ちゃん	66.5×44.0
203	//	66.5×44.0
204	//	44.0×66.5
205	//	44.0×66.5
206	//	44.0×66.5
207	//	44.0×66.5
208	//	144.5×96.5
209	//	44.0×66.5
210	//	44.0×66.5
211	//	44.0×66.5
212	//	44.0×66.5
213	//	102.0×68.0
214	//	44.0×66.5
215	//	44.0×66.5
216	//	144.5×96.5

Chapter4 田代島のねこたち

217	宮城県・田代島	60.0×90.0
218	//	100.0×150.0
219	//	48.0×72.0
220	//	48.0×72.0
221	//	60.0×90.0
222	//	36.0×54.0
223	//	72.0×48.0
224	//	48.0×72.0
225	//	36.0×54.0
226	//	48.0×72.0
227	//	48.0×72.0
228	//	48.0×72.0
229	//	48.0×72.0
230	//	60.0×90.0
231	//	72.0×48.0
232	//	72.0×48.0
233	//	48.0×72.0
234	//	48.0×72.0
235	//	48.0×72.0
236	//	48.0×72.0
237	//	90.0×60.0
238	//	36.0×54.0
239	//	36.0×54.0
240	//	60.0×90.0
241	//	60.0×90.0
242	//	48.0×72.0
243	//	48.0×72.0
244	//	60.0×90.0

所蔵品展



花鳥風月—現代日本画にみる自然の美

【趣 旨】

日本は豊かな自然に恵まれ、季節ごとに様々な表情を持っている。そしてそこに暮らす人々は、季節ごとの植物や生物、自然の情景を日々大切にしてきた。それらはまた美術作品の重要な主題ともなり、今なお豊かな作品を生み出し続けている。本展では、日本の自然の豊かさや美しさを象徴的に言い表す「花鳥風月」という言葉をテーマにして、戦後から現代の日本画を約90点紹介した。会場は2章から構成され、第1章「花鳥—生命に託す心」では、植物や様々な生物の姿を描いた作品を、第2章「風月—風景に託す心」では風景や自然の姿を描いた作品を展示し、それぞれの作品に息づく自然の美や生命の輝きを紹介した。

また特別展示として、江戸末期に活躍した新潟の画人、行田魁庵（1812－1874）らによって描かれた《新潟年中行事絵巻》（平成20年度新収蔵品）を修復後に初めて公開した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・新しい視点から所蔵作品を紹介し、来館者にその魅力を再認識してもらうことができた。
- ・万代島美術館で初めて《新潟年中行事絵巻》を展示し、多くの観覧者が江戸時代末期の新潟の風俗行事の様子を楽しんで鑑賞し、関心を持っていた。

●検討課題

- ・来館者数は辛うじて目標数値に届いたが、幅広く広報すれば来館者数をもっと伸びたと考えられる。

【開催日・その他】

=2010年4月1日(木)～4月11日(日) (10日間) =

※全体会期は2月27日(土)～4月11日(日) (38日間)

主 催：新潟県立万代島美術館

後 援：新潟市、新潟市教育委員会、新潟日報社、

朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、
読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、
NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST
新潟総合テレビ、TeNYテレビ新潟、
UX新潟テレビ21、NCV新潟センター、
エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、
FM KENTO、ラジオチャット・エフエム
新津、エフエムしばた、燕三条エフエム
放送株式会社

観覧料：一般……………310円 (250円)

大学・高校生……………150円 (120円)

中学生以下無料

※ () 内は20名以上の団体料金

【関連行事】

- ・作品解説会

日時：会期中の土・日・祝日 (全4回)

14:00～

(他にイベントのある日を除く)

場所：万代島美術館展示室
担当：当館学芸員
参加者数：延べ 59名

【関連記事】

- 雑誌
『トツときガイド』3・4月号／飯島沙耶子



【観覧者数】

有料観覧者数	当日	810
	前売	—
無料観覧者数	無料	348
	免除	44
総観覧者数		1,202
有料率（％）		67.4

担当 飯島沙耶子、桐原 浩

※本展の展示図面、出品リストは『新潟県立近代美術館／万代島美術館 年報（平成21年度）』に掲載



ジャポニズムとナビ派の版画

【趣 旨】

19世紀後半の西欧には、様々な側面で日本美術の影響を受けた「ジャポニズム」の動きがあった。単に異国情緒としての物珍しさに留まる場合もあったが、優れた画家たちは、西欧のものの見方とは異なる新鮮な視覚を感じ取り、美術の革新につなげていった。

また19世紀も終わる頃のパリでは、ゴーギャンの影響を受けた若い画家たちが、自ら「ナビ」（ヘブライ語で「預言者」の意）を名乗り、新たな芸術の先駆者としてグループを結成した。

本展では、所蔵する版画作品の中から、ジャポニズムとナビ派に関連する作品を「第1部 ジャポニズムの版画」、「第2部 ナビ派の版画」に分けて紹介した。中でも、画商ヴォーラルが出版した魅力的なカラーリトグラフ集のうち、ナビ派のドニ、ボナール、ヴューヤールの3人が手がけたセットを一堂に展示し、見どころとした。

【総 括】

●評価すべき点

- ・当館のコレクションの柱でもあるジャポニズムやナビ派の作品群を一堂に展示し、日本美術と西洋美術の影響関係を詳しく紹介することができた。
- ・ほぼ全ての作品に解説を付すことにより、来館者に作品に対する知識や理解を深めていただくことができた。
- ・通常はNICOプラザ会議室を会場とする美術鑑

賞講座を美術館ロビーで行い、来館者が気軽に参加できる雰囲気を作ることができた。

●検討課題

- ・来館者数は目標を下回った。一般の人にとってはなじみの薄い「ナビ派」などの言葉や、版画を中心とした内容が影響したと推測される。

【開催日・その他】

＝2010年4月17日(土)～5月23日(日)(33日間)＝

主 催：新潟県立万代島美術館

後 援：新潟市、新潟市教育委員会、新潟日報社、

朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

観覧料：一般……………310円（250円）

大学・高校生……………150円（120円）

中学生以下は無料

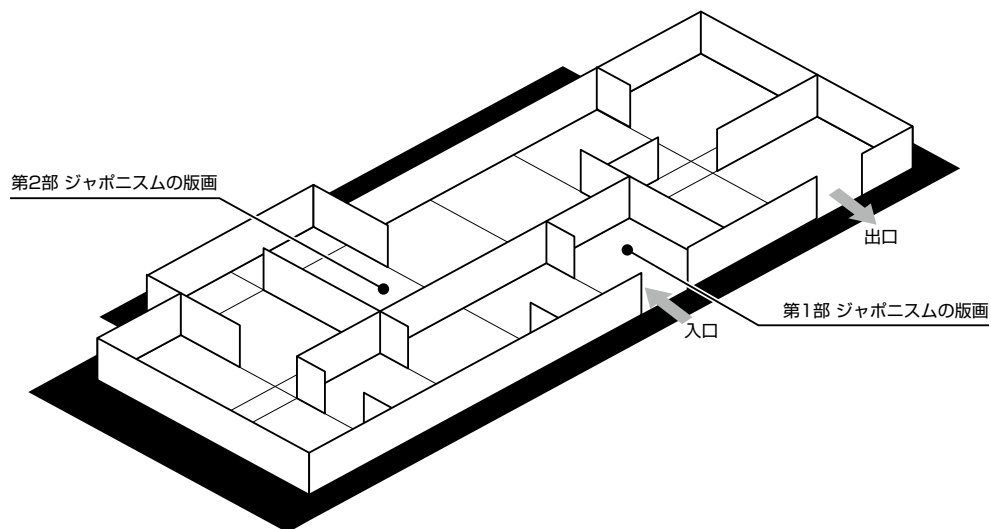
※（ ）内は20名以上の団体料金

【関連行事】

- ・美術鑑賞講座

「ロビーレクチャー ①ジャポニズムの版画」

日時：4月24日(土) 14：00～



場所：万代島美術館ロビー
講師：桐原 浩（当館業務課長）
参加者数：5名

「ロビーレクチャー ②ナビ派の版画」
日時：5月22日(土) 14:00～
場所：万代島美術館ロビー
講師：桐原 浩(当館業務課長)
参加者数：21名



・作品解説会

日時：会期中の土・日・祝日（全14回）
14:00～
（他のイベントのある日を除く）

場所：万代島美術館展示室

担当：当館学芸員

参加者数：延べ101名

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	1,531
	前売	—
無料観覧者数	無料	370
	免除	335
総観覧者数		2,236
有料率 (%)		68.5

担当 桐原 浩、今井 有

【関連記事】

●新聞

4月30日(金) 新潟日報

「浮世絵が西洋刺激 季節感や詩情生き生き描く」

／今井 有

●ラジオ

5月21日(金) BSNラジオ

『和田朋子のゴゴラク!』内「株式会社ゴゴラク

商事 完熟乙女の底力向上部」／桐原 浩

●雑誌

『トツときガイド』3・4月号／今井 有



【出品リスト】

■第1部 ジャポニスムの版画

no.	作品名	作家名	制作年	技法	寸法(縦×横cm)
1	日本の装飾の研究	アンリ=シャルル=ゲラル	制作年不詳	エッチング、アクアチント	35.0×25.8
2	〈ジャポニスム:10のエッチング〉 扉絵	フェリックス・ビュオ	1883年	エッチング、アクアチント	28.0×20.0
3	書票:蝶と蜻蛉	アンリ=シャルル=ゲラル	1883年	エッチング、アクアチント	14.5×17.0
4	木彫りのお面	フェリックス・ビュオ	1875年	エッチング	20.7×16.8
5	象牙の葉入れ	//	1875年	エッチング	21.0×16.8
6	ブロンズの精	//	1875年	エッチング	21.0×16.8
7	磁器のお茶入れ	//	1875年	エッチング	23.0×17.0
8	漆塗の錫製の花瓶	//	1875年	エッチング	23.3×17.3
9	騎手	//	1875年	エッチング	26.0×18.0
10	ヒキガエル=ブロンズのインク壺	//	1883年	エッチング、アクアチント	23.5×17.9
11	大黒船	//	1875年	エッチング	28.3×37.2
12	断崖:サン=マロの入江	//	1886-90年	エッチング、アクアチント、ドライポイント	32.3×42.0
13	飾り絵	アンリ=ラシュー	1893年	カラーリトグラフ	52.2×32.5
14	ベニバナトチノキ No.2	ジョン・エドガー・ブラット	1927年	木版	39.3×22.7
15	『芸術の日本』	ジークフリート・ピング 編集	1888-91年		
16	老婦人とあひる	ジュール・シャデル	制作年不詳	木版	25.8×36.5
17	オーヴェルニュのガチョウの番人	ジュール・シャデル	制作年不詳	木版	21.8×15.0
18	櫓権船に乗った若い女性	アレクサンドル・シャルバンティエ	1895年	カラーリトグラフ	31.9×45.6
19	最も高い木の上でナイチンゲールが歌った	ジョルジュ・オリオール	1895年	カラーリトグラフ	21.7×25.0
20	〈ブラックモンによる6枚の腐食銅版画〉 表紙	フェリックス・ブラックモン	1887年	リトグラフ	52.0×36.0
21	雷雨	//	1887年	エッチング	24.0×34.0
22	かもめ	//	1887年	エッチング	30.7×47.6
23	葦と小鴨	//	1887年	エッチング	34.5×26.5
24	つばめ	//	1887年	エッチング	29.0×23.9
25	驚いた鴨	//	1887年	エッチング	40.0×29.0
26	朝霧	//	1887年	エッチング	27.0×37.0
27	ユイスマンズの肖像	ウジェーヌ・ドラートル	1894年	エッチング、アクアチント	37.0×28.0
28	ドイツ語版ラファディオ・ハーン著作集『KOKORO』	エミール・オルリク 装丁・挿画	1907年		★
29	日本の摺師	エミール・オルリク	1900-01年	木版	20.7×17.8
30	日本美術の友	アドルフ・ジラルドン	1907年	カラーリトグラフ	24.5×10.3
31	版画	ジョルジュ・レメン	1908年	カラーリトグラフ	31.7×21.1
32	モン・サン・ミシェル	アンリ・ジョルジュ・ジャン・ イシドール・ムーニエ	制作年不詳	アクアチント、エッチング	17.4×19.3
33	〈エッフェル塔36景〉 表紙	アンリ・リヴィエール	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
34	1 扉絵	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
35	2 エッフェル塔の工事現場	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
36	3 建築中のエッフェル塔、 トロカデロからの眺め	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
37	4 エッフェル塔の上で	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
38	5 ベートーベン通り	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
39	6 グルネルの野菜畑	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
40	7 サン・ペール橋	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
41	8 議場のある河岸	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
42	9 ノートルダム	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
43	10 クリシー大通り	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
44	11 夜明け	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
45	12 バリ祭	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
46	13 バッシー河岸	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
47	14 ラマルク通り	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
48	15 ロシュシュアル通り	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
49	16 バッシー河岸、雨	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
50	17 遊覧船	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
51	18 グルネル河岸	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
52	19 アベス通り	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
53	20 グルネル橋	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
54	21 屋根の上で	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
55	22 ブローニュの森	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
56	23 コンコルド広場	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
57	24 イル・デ・シーニュ	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
58	25 エッフェル塔の中で	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
59	26 オステルリッツ橋	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0

60	27 フルミエの鹿の陰から(トロカデロ)	アンリ・リヴィエール	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
61	28 ジャヴェル河岸(鉄道の転轍手の小屋)	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
62	29 パ＝ムードン、古い共同洗濯場	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
63	30 塔の中の鉛管工	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
64	31 パッシィ＝シャルボニエール河岸	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
65	32 パ＝ムードンの駅	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
66	33 棧橋	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
67	34 トロカデロ公園、秋	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
68	35 川船	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
69	36 塔の中の塗装工	//	1902年	カラーリトグラフ	17.0×21.0
70	〈時の仙境〉薄暮	//	1901年	カラーリトグラフ	60.0×24.0
71	〈時の仙境〉満月	//	1901年	カラーリトグラフ	60.0×24.0
72	モルガの幸福な朝	//	1915年	カラーリトグラフ	41.4×53.7
73	ベルト・モリゾの肖像	エドゥアール・マネ	1872年	リトグラフ	22.0×15.6
74	ロンドンのオールド・バターシー橋	ジェームズ・マクニール・ホイッスラー	1879年	エッチング	22.0×31.4
75	『オーブリー・ビアズリーによるオスカー・ワイルド著〈サロメ〉の挿絵のための素描集』、ジョン・レイン、1907年	オーブリー・ビアズリー (表紙デザイン)	1907年刊行 (原画1894年)	オフセット	★
76	1 表題紙デザイン	//	//	ラインブロック	★
77	2 挿絵一覧表	//	//	ラインブロック	★
78	3 月の中の女	//	//	ラインブロック	★
79	4 孔雀の裳裾	//	//	ラインブロック	★
80	5 黒いカーブ	//	//	ラインブロック	★
81	6 ヨカナンとサロメ	//	//	ラインブロック	★
82	7 プラトニックな嘆き	//	//	ラインブロック	★
83	8 ヘロディアス登場	//	//	ラインブロック	★
84	9 ヘロデ王の目	//	//	ラインブロック	★
85	10 サロメの化粧I	//	//	ラインブロック	★
86	11 サロメの化粧II	//	//	ラインブロック	★
87	12 ベリー・ダンス	//	//	ラインブロック	★
88	13 踊り手への褒美	//	//	ラインブロック	★
89	14 クライマックス	//	//	ラインブロック	★
90	15 章末飾り	//	//	ラインブロック	★
91	16 長椅子のサロメ	//	//	ラインブロック	★
92	『イエローブック』第1巻	オーブリー・ビアズリー 装丁	1894年4月		
93	『イエローブック』第2巻	//	1894年7月		
94	『イエローブック』第3巻	//	1894年10月		
95	『イエローブック』第4巻	//	1895年1月		
96	『イエローブック』第5巻	//	1895年3月		
97	夏のタベ	ジェームズ・ティソ	1882年	エッチング、ドライポイント	24.9×41.8
98	新聞	//	1883年	エッチング、ドライポイント	39.9×31.0
99	野心を抱く女	//	1885年	エッチング、ドライポイント	41.8×27.3
100	洋装店の女性たち (『エスタンブ・オリジナル』誌より)	リヒャルト・ランフト	1894年	エッチング、アクアチント	44.8×29.5
101	狩をする女たち	ガストンド・ラトネー	1896年	カラーリトグラフ	34.3×47.0

■第2部 ナビ派の版画

no.	作品名	作家名	制作年	技法	寸法(縦×横cm)
102	青い肩かけのブルターニュ婦人	エミール・ベルナール	1887年	水彩	27.3×21.5
103	サン＝プリアクの収穫	//	1887年	水彩	20.5×26.5
104	レゼビアン・サン＝プリアクの小湾	//	1888年	水彩	21.0×27.0
105	帽子を被って座るボン＝タヴァンの2人のブルターニュ婦人	//	1888年	水彩	21.0×27.0
106	ラヴァン川の大きな赤い帆	//	1889年	水彩	31.0×19.5
107	川を渡る船上の4人の人物	//	1889年	水彩	18.5×29.3
108	ブルターニュの谷間の風景	//	1888年	水彩	19.5×27.5
109	ボン＝タヴァンのぼら色の道	//	1892年	水彩	29.5×18.5
110	〈アムール(愛)〉 表紙	モーリス・ドニ	1898年	カラーリトグラフ	56.0×45.0
111	1 寓意	//	//	カラーリトグラフ	29.4×43.5
112	2 物腰は優しく清らかな	//	//	カラーリトグラフ	41.5×30.3
113	3 朝のブーケ、悲しみ	//	//	カラーリトグラフ	41.3×31.0
114	4 それは敬虔な神秘さだった	//	//	カラーリトグラフ	46.5×32.5
115	5 騎士は十字軍で死んではない	//	//	カラーリトグラフ	42.0×30.5
116	6 たそがれは古い絵画のような優しさを持つ	//	//	カラーリトグラフ	45.5×33.1
117	7 彼女は夢よりも美しかった	//	//	カラーリトグラフ	43.5×32.0
118	8 そして彼女の手が優しく触れる	//	//	カラーリトグラフ	42.5×31.5
119	9 私たちの魂はゆっくりとした動作の中に	//	//	カラーリトグラフ	31.0×43.0

120	10 青白い銀の長椅子の上で	モーリス・ドニ	1898年	カラーリトグラフ	43.7×31.3
121	11 人生は貴重な憤り深いものとなる	//	//	カラーリトグラフ	32.5×43.5
122	12 けれどあまりにも高鳴る心	//	//	カラーリトグラフ	47.8×32.1
123	悲しみ、あるいは嫉妬 (『ケンタウロス』より)	ポール＝エリー・ランソン	1896年	カラーリトグラフ	47.2×28.5
124	〈風景と室内〉 1 表紙	エドゥアール・ヴュイヤール	1899年 (1899年刊行)	カラーリトグラフ	60.4×44.8
125	2 チェッカーの勝負	//	//	カラーリトグラフ	38.0×31.0
126	3 大通り	//	//	カラーリトグラフ	38.0×31.0
127	4 野原を横切る	//	//	カラーリトグラフ	38.0×31.0
128	5 吊りランプのある室内	//	//	カラーリトグラフ	38.0×31.0
129	6 バラ色の壁紙のある室内I	//	//	カラーリトグラフ	38.0×31.0
130	7 バラ色の壁紙のある室内II	//	//	カラーリトグラフ	38.0×31.0
131	8 バラ色の壁紙のある室内III	//	//	カラーリトグラフ	38.0×31.0
132	9 暖炉	//	//	カラーリトグラフ	38.0×31.0
133	10 ヨーロッパ橋で	//	//	カラーリトグラフ	38.0×31.0
134	11 洋菓子店	//	//	カラーリトグラフ	38.0×31.0
135	12 料理女	//	//	カラーリトグラフ	38.0×31.0
136	13 義理の姉妹	//	//	カラーリトグラフ	38.0×31.0
137	〈パリ生活の諸相〉 1 表紙	ピエール・ボナール	1895-99年 (1899年刊行)	カラーリトグラフ	41.0×33.0
138	2 森のアヴェニュー	//	1898年 (1899年刊行)	カラーリトグラフ	31.5×46.0
139	3 街角	//	1896年頃 (1899年刊行)	カラーリトグラフ	27.5×35.0
140	4 中庭に面した家	//	1895-96年 (1899年刊行)	カラーリトグラフ	34.5×25.7
141	5 上方から見た街路	//	1897年頃 (1899年刊行)	カラーリトグラフ	37.0×22.5
142	6 大通り	//	1896年 (1899年刊行)	カラーリトグラフ	17.4×43.4
143	7 広場、夕暮れ	//	1897/98年頃 (1899年刊行)	カラーリトグラフ	28.0×39.0
144	8 八百屋	//	1897年頃 (1899年刊行)	カラーリトグラフ	29.0×34.0
145	9 橋	//	1896/97年 (1899年刊行)	カラーリトグラフ	27.0×41.0
146	10 劇場にて	//	1897-98年 (1899年刊行)	カラーリトグラフ	20.0×40.0
147	11 街路、夕暮れ、雨	//	1897/98年 (1899年刊行)	カラーリトグラフ	25.0×35.5
148	12 凱旋門	//	1898年 (1899年刊行)	カラーリトグラフ	32.0×47.0
149	13 上方から見た街角	//	1896/97年 (1899年刊行)	カラーリトグラフ	36.5×21.2
150	ラ・ベビニエール	フェリックス・ヴァロットン	1893年	カラーリトグラフ	121×90
151	エドガー・ボアの肖像	//	1894年	木版	15.9×12.4
152	シューマンに 『パン』第1巻1895年4-5月号	//	1893年	木版	15.2×12.3 ★
153	怠惰	//	1896年	木版	20.1×24.0
154	エミール・ゾラの肖像 『ザ・チャップ・ブック』1895年5月15日号	//	1895年	木版	11.0×6.8 ★
155	水浴 『ザ・チャップ・ブック』1894年12月15日号	//	1894年	木版	13.5×8.6 ★
156	〈小さな浴女たち〉 1 すわる二人の浴女	//	1893年	木版	4.3×5.8
157	2 水に入る	//	1893年	木版	4.9×6.6
158	3 草の上に横たわる浴女たち	//	1893年	木版	4.0×6.6
159	4 水から上がる	//	1893年	木版	5.6×6.6
160	5 下着姿の女の子ふたり	//	1893年	木版	4.4×5.8
161	6 下着を脱ぐ女の子	//	1893年	木版	4.4×5.8
162	7 太陽のもとで遊ぶ	//	1893年	木版	4.4×5.8
163	8 風に驚く浴女たち	//	1893年	木版	4.5×6.0
164	9 子供のいる浴女	//	1893年	木版	4.4×5.8
165	10 白鳥と浴女	//	1893年	木版	4.5×6.0
166	木版画家フェリックス・ヴァロットンの肖像(自画像) 『ラール・エ・リデ(芸術と理想)』1892年2月号	//	1892年	木版	13.0×10.8 ★
167	今日のブルー・カラー(労働者階級) 『ル・リール(笑い)』1894年12月1日号表紙	//	1894年12月	写真凸版	20.7×20.0 ★
168	手助け 『ル・リール(笑い)』1895年5月4日号裏表紙	//	1895年3月	写真凸版	26.1×18.2 ★

169	もう動かないで! 『ル・リール(笑い)』	1895年7月13日号表紙	フェリックス・ヴァロットン	1895年7月	写真凸版	19.5×20.2	★
170	(帝政期には、……) 『ル・リール(笑い)』	1895年10月19日号表紙	//	1895年10月	写真凸版	19.8×20.0	★
171	(かわいそうな暇人たち!……) 『ル・リール(笑い)』	1896年4月25日号表紙	//	1896年4月	写真凸版	22.5×19.0	★
172	道で 『ル・リール(笑い)』	1898年1月8日号表紙	//	1898年1月	写真凸版	19.9×20.0	★
173	(おい、御者!……) 『ル・リール(笑い)』	1898年6月25日号表紙	//	1898年6月	写真凸版	20.1×19.6	★

※★印の作品は、個人蔵



画家のまなざし スケッチ、構想、そして作品

【趣 旨】

新潟県立近代美術館及び万代島美術館では、県出身の日本画家である岩田正巳の天下絵、小島丹濤の小下絵、長井亮之の小下絵及びスケッチを多数所蔵している。また、抽象画に至る過程が見出せる末松正樹の素描や早世の画家田畑あきら子や難波田史男のドローイングも多数所蔵している。本展はこの所蔵品を生かし、画家たちの素顔により迫ろうとする展覧会である。

所蔵品展という位置づけの展覧会であるが、今回は特別出品として新潟市が所蔵する日本画家長井亮之の作品の中から当館所蔵のスケッチと合致するものを借用し、併せて展示した。

全体を2部構成とし、第1部は「スケッチから作品まで」と題し、推敲の痕跡が残る日本画を中心に、本作品とともに小下絵や天下絵、関連スケッチなどを展示し、作品制作の過程とそこに表れてくる画家の意図を探ろうとした。第2部では「日々のスケッチ」として、画家たちが日頃の鍛錬や興味の対象として描いた具象物の素描と、スケッチがそのまま作品となったような心象風景のドローイング及び水彩画に分けて展示し、全体に画家の意図や個性、内面が際立つよう工夫した。

また、会場の構成を、入口から自由に各コーナーにも行くことができるよう工夫し、結果的に非常に開放的な構成となった。

【総 括】

●評価すべき点

- ・展示する機会の少ない素描類を作品と関連づけて展示することにより、制作の過程や作家の特徴、感性、考え方等を提示することができた。
- ・県出身作家、特に岩田正巳の作品をまとめて展示する機会となり、地元の美術ファンに喜ばれた。

●検討課題

- ・会期が始まってまもなく震災が起こって来館者が途絶え、来館者数は目標に及ばなかった。

【開催日・その他】

＝2011年3月5日(土)～3月31日(23日間)＝

※全体会期は3月5日(土)～4月10日(日)(32日間)

主 催：新潟県立万代島美術館

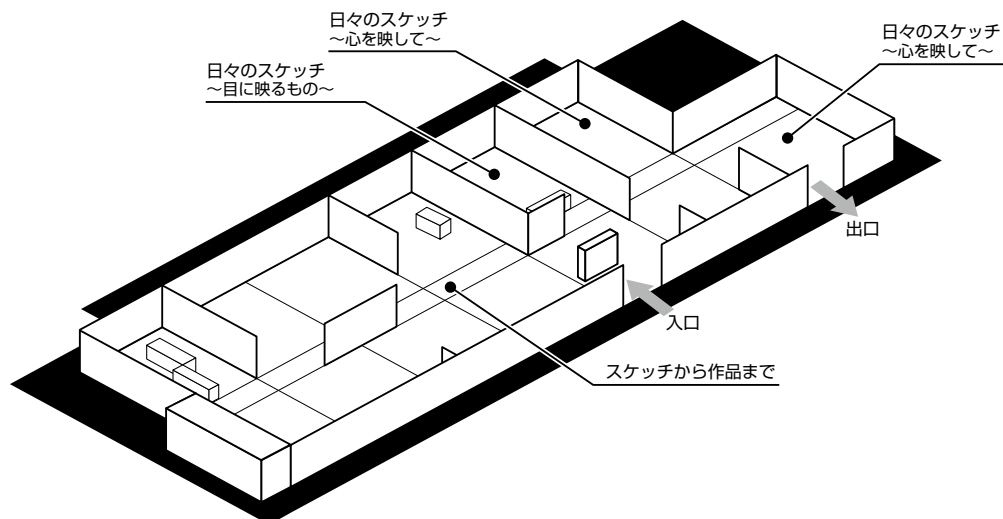
後 援：新潟市、新潟市教育委員会、新潟日报社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエムしばた、燕三条エフエム放送放送株式会社

観覧料：一般……………310円(250円)

大学・高校生……………150円(120円)

中学生以下は無料

※()内は有料20名以上の団体料金



【関連行事】

・作品解説会

日時：会期中の土・日・祝日（全13回）

14：00～

（他のイベントのある日を除く）

場所：万代島美術館展示室

担当：当館学芸員

参加者数：延べ118名



【関連記事】

●新聞

3月11日(金) 新潟日報

あーとびっくす／宮下東子

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	734
	前売	—
無料観覧者数	無料	179
	免除	114
総観覧者数		1,027
有料率（%）		71.5

担当 宮下東子、飯島沙耶子

【出品リスト】

スケッチから作品まで			
no.	作家名	作品名	制作年
1	岩田 正巳	春日垂迹	1927年
2	〃	春日垂迹下絵	1927年
3	〃	秋好中宮	1952年
4	〃	秋好中宮下絵	1952年
5	〃	いかすち	1955年
6	〃	いかすち下絵	1955年
7	〃	群飛	1974年
8	〃	群飛下絵	1974年
9	〃	緑扇	1969年
10	〃	緑扇下絵	1969年
11	〃	母と子	不明
12	〃	母と子下絵	不明
13	〃	夢の姫君	1954年
14	〃	夢の姫君下絵	1954年
15	小林 古径	異端（下絵）	1914年
16	小杉 放菴	春秋屏風下絵（春）	1937年
17	小杉 放菴	春秋屏風	1937年
18	柴田 武次	香炉	不明
19	柴田 武次	スケッチ（4点）	不明
20	小島 丹濤	河口暮色小下絵（4点）	1956年
21	〃	河口暮色	1956年
22	〃	待つ	1965年
23	〃	待つ小下絵（6点）	1965年
24	〃	雪の駅路小下絵（9点）	1954年
25	長井 亮之	青鷺	1986年
26	〃	フラミンゴ	1981年
27	〃	見学（小下絵）	1969年
28	〃	見学	1969年
29	〃	鵜	1970年
30	〃	五位鷺	不明
31	〃	仏像	不明
32	〃	石切山	1960年
33	〃	小下絵・スケッチ（10点）	
34	岩田 正巳	手向けの花下絵	1924年
35	〃	十六夜日記下絵	1926年
36	〃	大和路の西行下絵	1934年
37	〃	忠盛下絵	1941年
38	〃	愛犬下絵	1947年
39	〃	第一歩下絵	1948年
40	〃	鶯下絵	1979年
41	〃	宵下絵	1977年
42	〃	幸若下絵	1954年
43	〃	黒い服の李さん下絵	1963年
44	〃	花と漢拓下絵	1976年
45	柳原 義達	坐る	1960年
46	〃	鳩	1973年
47	〃	鳩	1973年
48	〃	鳩	1973年
49	三芳 悌吉	鬼界ヶ島・硫黄岳	1989年
50	〃	鬼界ヶ島硫黄岳	1989年
51	〃	鳴らぬ手風琴 習作	1987年
52	〃	鳴らぬ手風琴	1987年
53	〃	川とさかなたち 1	1983年
54	〃	川とさかなたち ラフスケッチ 1	1983年
55	〃	川とさかなたち 2	1983年
56	〃	川とさかなたち ラフスケッチ 2	1983年
57	〃	川とさかなたち 4	1983年
58	〃	川とさかなたち ラフスケッチ 4	1983年
59	〃	川とさかなたち 17	1983年
60	〃	川とさかなたち ラフスケッチ 17	1983年
61	〃	川とさかなたち 19	1983年
62	〃	川とさかなたち ラフスケッチ 19	1983年
63	〃	川とさかなたち 構想スケッチ・動植物一覧表	1983年

日々のスケッチ			
～目に映るもの～			
64	長井 亮之	スケッチ	
65	安宅 安五郎	レンブラント作品の模写	1922年
66	〃	シャバンヌ模写（春）	1921年
67	〃	シャバンヌ模写（冬）	1921年
68	〃	アネモネ（ルドン）模写	1921年
69	安井 曾太郎	人物	不明
70	〃	人物	不明
71	〃	人物	不明
72	〃	人物	不明
73	〃	人物	不明
74	〃	三面の鮭	不明
75	三芳 悌吉	白つめ草	不明
76	〃	西洋おだまき	不明
77	〃	つるむらさき	不明
78	〃	ブルーベリー	不明
79	〃	秋を飾る（やまごぼう）	不明
80	〃	柿・花梨	不明
81	〃	上野不忍池のはす	1985年
82	〃	種と実 A	不明
83	〃	種と実 B	不明
84	〃	種と実 C	不明
～心を映す～			
85	田畑 あきら子	作品 3	1964年
86	〃	作品 12	1966年
87	〃	作品 16	1966-67年
88	〃	作品 19	1967年
89	〃	作品 25	1968年
90	〃	作品 30	1968年
91	〃	作品 34	1969年
92	〃	作品	1966-67年
93	末松 正樹	自画像	1944年
94	〃	作品（1944.10.18）	1944年
95	〃	作品（1944.11.27）	1944年
96	〃	作品（1945.1.17）	1945年
97	〃	作品（1945.2.18）	1945年
98	〃	作品（1945.2.26）	1945年
99	〃	作品（1945.3.15）	1945年
100	〃	作品（1945.6.13）	1945年
101	〃	作品（1945.7.24）	1945年
102	〃	作品（1945.9.22）	1945年
103	〃	作品（1945.12.24）	1945年
104	〃	群青	1959年
105	〃	ボン・ボワイヤージュ	1962年
106	難波田 龍起	線の遊び A	1954年
107	〃	空の時間と	1978年
108	〃	水のある風景	1987年
109	〃	展開	1982年
110	〃	群像	1984年
111	〃	森の詩	1960年
112	難波田 史男	デッサン	1963年
113	〃	デッサン	1966年
114	〃	デッサン	1966年
115	〃	デッサン	1967年
116	〃	哲学者	1967年
117	〃	鳥	1961年
118	〃	彩色画	1965年
119	〃	少年と海の神話	1967年
120	〃	花の精のおどり	1968年
121	〃	無題	1969年

巡回ミュージアム

【趣旨及び総括】

巡回ミュージアムは、所蔵作品の中から作品を選定し、県内を巡回展示するもので、広く県民に美術鑑賞の機会を提供し、文化振興を図ることを目的としている。

本年度は2館の施設で開催、それぞれの地域性を生かした展示となった。会場の規模等が異なるため、会場によって展示作品数を変更し実施した。

開館以来継続してきた事業であるが、現在、当館及び受入側の市町村の予算状況等の理由により、開催方法が変化してきている。「遠隔地の県民に広く鑑賞機会を提供する」という目的を達成するためにその手法を考え直す時期にきているといえる。

また、子どもたちが鑑賞しやすい場を提供するために、市町村の博物館等施設での開催だけでなく、学校での開催等も会場として今後、検討したい。

【開催地・開催期日・その他】

・新潟会場 中之口先人館

10月16日(土)～11月7日(日)

毎週月曜日休館

主 催：新潟県立近代美術館 中之口先人館

後 援：新潟日报社、NHK新潟放送局、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、中之口地区公民館、中之口芸術文化協会

作品解説会：10月16日(土) 10：30～

松矢国憲専門学芸員

出品点数：22点

入場者数：298人

・糸魚川会場 糸魚川歴史民俗資料館

11月12日(金)～12月5日(日)

月曜日、祝日の翌日休館

主 催：新潟県立近代美術館、糸魚川市、糸魚川市教育委員会

後 援：新潟日报社、NHK新潟放送局、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、糸魚川市文化協会

作品解説会：11月24日(日) 14：00～

高巖俊主任学芸員

出品点数：30点

入場者数：1,051人

担当 松矢国憲、高 巖俊、伊澤朋美

【出品リスト】

作家名	作品名	制作年	中口	糸魚川
1 加山又造	白い華	1995年	○	○
2 加山又造	烈風	制作年不詳	○	○
3 横山操	波濤	1960年	○	○
4 横山操	ふるさと	1966年	○	○
5 長崎真人	名立の山	1959年	○	○
6 脇田和	啄木鳥	1958年	○	○
7 岡鹿之助	朝の城	1970年	○	○
8 石井柏亭	池	1928年	○	○
9 萬鉄五郎	雪の景(土沢)	1915年	○	○
10 北川民次	メキシコインディアン部落の楽師たち	1970年	○	○
11 田崎広助	箱根の富士	制作年不詳	○	○
12 前田常作	須弥山界道図シリーズ(寿量光)	1974年	○	○
13 佐藤哲三	郵便脚夫宮下君	1931年	○	○
14 三芳悌吉	オルガンの上	1977年	○	○
15 福岡泰彦	海と鳥	1991年	○	○
16 高松次郎	影「カギ」	1972年	○	○
17 田中稔之	円の光景 82-14	1982年	○	○
18 上村次敏	イタリアバビアの大聖堂	1993年	○	○
19 北村正信	初夏	1969年	○	○
20 ロダン	疲れ	1887年	○	○
21 寺崎廣業	信濃川洪水図10	1897年	○	
22 川端玉章	信濃川洪水図12	1897年	○	
21 岡田紅陽	忍野 霜朝	1957年	○	
22 濱谷浩	サイノカミの火の打ち合い	1940年	○	
23 濱谷浩	歌ってゆく鳥追い	1940年	○	
24 富岡惣一郎	雪国	1971年	○	
25 宮芳平	海その1	1959年	○	
26 相馬其一	フランス郊外	1931年	○	
27 新保兵次郎	エッフェル塔	1955年	○	
28 大野五郎	六月の風	1971年	○	
29 鳥海青児	ベルリン風景	1930年	○	
30 北村四海	空想に耽り居る女	1916年	○	

イベント

コンサート・講演会等

開催日	時 間	関連展示会名	演 題 等	講 師 等	内 容	参加者数
4月24日(土)	13:00~ 14:30	奈良の古寺と仏像 會津ハルのうたにのせて	"阿美共感"とこころの時代	興福寺貴首 多川俊英 氏	仏像が人間の心に及ぼす良い影響を実 例を交えて紹介	150
4月29日(木)	14:00~ 17:00	日本の自画像 写真が描く 日本の戦後 1945-1964	デジカメでモノクロ写真を撮ろう	新潟県写真家協会会長 上山益男 氏	「モノクロ写真」の魅力を再発見す る、初心者向けの講座	15
5月2日(日)	14:00~ 15:30	奈良の古寺と仏像 會津ハルのうたにのせて	やさしい仏像の見方	新潟市會津ハル記念館館長 神林恒道 氏	全身から細部にまで仏像を観るポイント を西洋彫刻と比較しながら紹介	150
5月16日(日)	14:00~ 15:30	奈良の古寺と仏像 會津ハルのうたにのせて	中宮寺菩薩半跏像の謎	新潟産業大学教授 片岡直樹 氏	中宮寺本尊菩薩半跏像の魅力について 分かりやすく紹介	100
5月23日(日)	14:00~ 15:30	奈良の古寺と仏像 會津ハルのうたにのせて	奈良の古寺と仏像を楽しむ	前奈良国立博物館館長 齋塚泰光 氏	飛鳥から鎌倉までの仏像彫刻を時代の 流れに沿って解説	108
9月11日(土)	14:00~ 15:30	ポンペイ展	ポンペイの産業と交易	同志社大学名誉教授 浅香正 氏	講師の長年の研究の成果を発掘の体験 をもとに分かりやすく解説	72
10月2日(土)	13:00~ 15:00	「長岡・小千谷の木喰仏」展	まんまるまろく	漫画家 高橋郁丸 氏	木喰仏の素朴な魅力を分かりやすく紹介	129
10月30日(土)	15:00~ 16:30	ポンペイ展	ローマ史からみたポンペイ遺跡	同志社大学 講師 坂井聰 氏	ポンペイの研究の成果を発掘の様子も 含め分かりやすく紹介	90
10月31日(日)	13:30~ 16:45	JAGDA新人賞受賞作家展 2010	JAGDA 新人賞および亀倉雄策賞 受賞作家トーク	木住野影悟 氏 長嶋りかこ 氏 八木秀人 氏 浅葉克己 氏	JAGDA 新人賞および亀倉雄策賞 受賞作家のトークイベント	150
6月19日(土)	13:00~ 14:30	小千谷縮・越後上布展	"夏衣"現代に楽しむ	染織研究家 木村孝 氏	現代における夏着物についての講演	180
7月31日(土)	10:00~ 12:00		神林恒道館長講演会	新潟市會津ハル記念館館長 神林恒道 氏	美術教育の現状をふまえ、人間教育と してのあり方を紹介	38
7月25日(日)	15:00~ 15:50	モーリス・ユトリロ展	大森潤子 ヴァイオリン・マチネ	バイオリニスト 大森潤子 氏	ユトリロと同時代を生きたウジェーヌ・ イザイ作曲のヴァイオリンソナタを演奏	110
8月1日(日)	14:00~ 15:30	モーリス・ユトリロ展	神武夏子 ピアノコンサート	ピアニスト 神武夏子 氏	ユトリロと同時代を生きたサティと ブーランクの曲を演奏	124
10月23日(土)	13:00~ 13:30	ポンペイ展	ミュージアムコンサート 宮澤優子イタリアを歌う	ソプラノ歌手 宮澤優子 氏	ナポリ民謡やイタリアの歌曲、日本の 歌も加えて7曲演奏	50
10月31日(日)	11:30~ 12:00	ポンペイ展	溝口肇ミニコンサート	チェリスト 溝口肇 氏	ポンペイ展のテーマソング「ETERNITY」 などを演奏	200
11月7日(日)	14:00~ 15:30	ポンペイ展	カンツォーネより愛をこめて	ソプラノ歌手 五十嵐郊味 氏 ピアニスト 齋藤淳子 氏	椿姫などオペラの曲を中心に全5曲を 演奏	230

講 座

開催日	時 間	関連展示会名	演 題 等	講 師 等	内 容	参加者数
5月1日(土)	14:00~ 15:30	日本の自画像 写真が描く 日本の戦後 1945-1964	戦後日本を写した写真家たち	長嶋圭哉 (当館主任学芸員)	木村伊兵衛をはじめ、戦前から戦後にか けて活躍した作家を紹介	8
5月29日(土)	14:00~ 15:30		近代日本美術史入門1 近代の工芸	藤田裕彦 (当館学芸課長)	近代工芸がどのように成立し、どのよう に独自の道を切り開いたかを紹介	18
6月12日(土)	14:00~ 15:30	小野末／竹谷富士雄／ 三芳悌吉の世界	郷土の作家シリーズ1 小野末／竹谷富士雄／三芳悌吉	高 晟俊 (当館主任学芸員)	新潟にゆかりのある3人の作家について 時代背景を含めて紹介	4
6月22日(土)	14:00~ 15:30		近代日本美術史入門2 昭和期の日本画	長嶋圭哉 (当館主任学芸員)	昭和前期～戦後期の流れと代表作を解説	14
7月3日(土)	14:00~ 15:30		近代日本美術史入門3 戦後美術	藤田裕彦 (当館学芸課長)	戦後日本美術の流れを世界の影響を踏まえ ながら解説	10
7月31日(土)	14:00~ 15:30	モーリス・ユトリロ展	ユトリロの生涯とパリ	平石昌子 (当館学芸課長代理)	ユトリロの人生を紹介し、作品の魅力を解説	67
8月14日(土)	14:00~ 15:30	モーリス・ユトリロ展	ユトリロの時代～エコール・パ リの芸術家たち～	瀧田真由美 (当館主任学芸員)	ユトリロと同時代に活動した「エコール・ ド・パリ」の芸術家たちについて、時代状 況や芸術家間の交流を踏まえて紹介	54
10月23日(土)	14:00~ 15:30	ポンペイ展	ポンペイ壁画とヘレニズム・ロー マ時代の絵画	高 晟俊 (当館主任学芸員)	ポンペイ壁画を中心にヘレニズム・ローマ 時代の絵画について総合的に解説	42
11月6日(土)	14:00~ 15:30	ポンペイ展	ポンペイの遺産 いわゆる「古 代印象主義」西洋中世の絵画	高 晟俊 (当館主任学芸員)	西洋中世の写本挿絵を中心に、ポンペイ 壁画をはじめとする古代の絵画と比較しな がら解説	30
2月19日(土)	14:00~ 15:30	牧野虎雄展	郷土の作家シリーズ2 牧野虎雄	松矢国憲 (当館専門学芸員)	官展で活躍し、教育界にも影響を与えた 牧野の人と作品について紹介	30

ワークショップ

開催日	時間	関連展覧会名	演 題 等	講師名	内 容	参加者数
5月2日(日)	14:00~ 15:30		美術館の舞台裏探検	野村宏毅 (当館学芸課長代理)	普段見ることのできない美術館の施設設備を見学	22
7月11日(日)	14:00~ 16:00	モーリス・ユトリロ展	大人のぬり絵 ユトリロが描いた街並み	佐藤克己 (当館副参事)	ユトリロのスケッチをもとに、自分なりの感覚で彩色する	11
7月18日(日)	14:00~ 15:30	村山径と戦後派に日本画家たち	ギャラリートーク①	野村宏毅 (当館学芸課長代理)	村山径展の作品でギャラリートークを実施	2
7月25日(日)	14:00~ 15:30	モーリス・ユトリロ展	ユトリロが描いたモンマルトルを探る	野村宏毅 (当館学芸課長代理)	モンマルトル地図を見ながら、通りをたどるように作品を鑑賞	10
8月15日(日)	14:00~ 15:30	村山径と戦後派に日本画家たち	ギャラリートーク②	佐藤克己 (当館副参事)	村山径展の作品でギャラリートークを実施	7
8月22日(日)	14:00~ 15:30		楽しく描こう石ころアート	野村宏毅 (当館学芸課長代理)	石の形から発想を広げ、アクリル絵の具で彩色し、石ころアートを作成	15
2月27日(日)	14:00~ 15:30	個人コレクターたちの肖像	クイズで作品オリエンテーリング	佐藤克己 (当館副参事)	クイズを解きながら美術鑑賞を楽しむ	8

映画鑑賞会

開催日	時間	関連展覧会名	タ イ ト ル	内 容	参加者数
4月17日(土)	10:00~ 14:00~	日本の自画像 写真が描く日本の戦後 1945-1964	ドキュメンタリー 十二人の写真家	1955年 監督：勅使河原宏 企画：亀倉雄策	67
5月22日(土)	10:00~ 14:00~	日本の自画像 写真が描く日本の戦後 1945-1964	続・映画でみる昭和30年代の日本・家族の幸福『親子編』	2006年 記録映画社・桜映画社・日本映画新社	64
7月24日(土)	10:00~ 14:00~	モーリス・ユトリロ展	天井桟敷の人々	1945年 企画：CINEMA LIFE LTD. 制作国：フランス	37
8月7日(土)	10:00~ 14:00~		長編アニメーション映画 ハードル	2007年 監督：出崎 哲 原作：青木和雄・吉富多美(ハードル 真実と勇気の間で/金の星社・刊)	19
8月21日(土)	10:00~ 14:00~	モーリス・ユトリロ展	モディリアーニ 真実の愛	2004年 監督 脚本：ミック・デイヴィス 配給 アルバトロス・フィルム製作	152
9月25日(土)	10:00~ 14:00~	ボンベイ展	ローマの休日	1953年 監督・制作 ウィリアム・ワイラー 制作国 アメリカ合衆国 配給パラマウント映画	124
10月16日(土)	10:00~ 14:00~	ボンベイ展	ボンベイ最後の日	1935年 上映時間 96分 製作国 アメリカ合衆国 監督 アーネスト・B・シュエードサック	280

その他のイベント

開催日	時間	イベント名	内 容	参加者数
8月12日(木)~ 18日(木)	9:00~ 17:00	第3回こどもアートミュージアム	「みる楽しみ、ふれる楽しみ」をテーマに「見方・考え方」を広げた児童・生徒の表現作品の展示等を行う ワークショップを行い、制作を通じたコミュニケーションの輪を広げる	391
7月30日(金)	19:00~ 21:00	キャンドルナイト	約2000個のキャンドルを当館脇の公園に並べ点火。同時にミニコンサートも実施。	1,700

出前講座

開催日	時間	団体名	講座名	担当者	参加者数
6月17日(木)	9:45～ 10:35	魚沼市立湯之谷中学校 3年生	佐々木象堂と新潟の金工たち	藤田裕彦 (当館学芸課長)	62
6月23日(水)	10:00～ 15:00	上越市立吉川小学校3年生・特別支援学級	どこでもアート つんでならべて	野村宏毅 (当館学芸課長代理)	55
7月13日(火)	10:00～ 12:00	燕市小中川児童館職員	どこでもアート つんでならべて 色と形の組み合わせ	野村宏毅 (当館学芸課長代理)	20
7月20日(火)	14:00～ 15:30	柏崎市立鯖石小学校	どこでもアート つんでならべて 色と形の組み合わせ	野村宏毅 (当館学芸課長代理) 伊澤朋美 (当館美術学芸員)	54
7月25日(日)	10:00～ 11:30	金城幼稚園・保育園	どこでもアート つんでならべて	野村宏毅 (当館学芸課長代理) 伊澤朋美 (当館美術学芸員)	40
8月5日(木)	10:00～ 11:30	胎内市教育研究会	マチスの切り絵にせまる 色と形でピカソに挑戦	野村宏毅 (当館学芸課長代理)	9
8月6日(金)	9:00～ 12:00	下越美術教育研究会	マチスの切り絵にせまる	野村宏毅 (当館学芸課長代理)	30
8月27日(金)	13:30～ 15:00	加茂市教研図工美術部会	どこでもアートつんで並べて マチスの切り絵にせまる	野村宏毅 (当館学芸課長代理)	16
9月5日(日)	14:00～ 15:30	五泉市教育委員会生涯学習課	阿部展也とその周辺	濱田真由美 (当館主任学芸員)	40
9月14日(火)	10:45～ 12:15	新潟市立早通小学校 1年生	どこでもアート つんでならべて	野村宏毅 (当館学芸課長代理)	34
9月17日(金)	13:40～ 15:30	新発田市立第一中学校 1年生	形と色の組み合わせ	野村宏毅 (当館学芸課長代理)	128
10月7日(木)	9:40～ 11:10	金城幼稚園・保育園	どこでもアート つんでならべて	野村宏毅 (当館学芸課長代理) 伊澤朋美 (当館美術学芸員)	90
10月17日(日)	13:30～ 14:30	十日町市立橋小学校	どこでもアート つんでならべて 色と形の組み合わせ	野村宏毅 (当館学芸課長代理) 伊澤朋美 (当館美術学芸員)	60
10月24日(日)	11:00～ 12:00	新潟市立桜ヶ丘小学校	どこでもアート つんで並べて	野村宏毅 (当館学芸課長代理)	30
10月26日(火)	13:40～ 15:10	新潟市立大形中学校 1年生・保護者	世界遺産をめぐる旅 イタリアシチリア島のモザイク壁画	高 晟俊 (当館主任学芸員)	126
11月7日(日)	13:00～ 14:30	新潟市立小瀬小学校全校生徒及び保護者	どこでもアート つんでならべて	野村宏毅 (当館学芸課長代理) 佐藤克己 (当館副参事) 伊澤朋美 (当館美術学芸員)	189
11月14日(日)	13:00～ 15:00	長岡市立北地域図書館参加希望者	マチスの切り絵に迫る	野村宏毅 (当館学芸課長代理)	30
2月13日(日)	13:30～ 15:00	柿崎地区公民館 小学生	どこでもアート つんでならべて	伊澤朋美 (当館美術学芸員)	12

刊行物

刊行物

刊行物名	概 要	仕 様	発行部数	発行日	内 容
2011年度展覧会 案内リーフレット	2011年度の企画展と 常設展の日程及び内容、 年間のイベント予定など をまとめたもの。	A3変形版 観音四ツ折り 4色×4色	40,000部	2011年 3月20日	
新潟県立近代美 術館だより「雪椿 通信」34号	美術館からの情報発信 として一般来館者向け に編集したもの。	A4版 8頁	3,000部	2010年 4月30日	・モーリス・ユトリロー憂愁のパリを描いた風景画家 ・ポンペイ展 世界遺産 古代ローマ文明の奇跡 ・雪の織物 小千谷縮・越後上布 ・所蔵品紹介：平成21年度の新収蔵品 ・あしあと：普及活動報告 ・アートボランティア通信 ・イベント情報 ・利用案内／ショップ&レストラン情報／万代島美術館情報 ・表紙作品解説
新潟県立近代美 術館だより「雪椿 通信」35号	美術館からの情報発信 として一般来館者向け に編集したもの。	A4版 8頁	3,000部	2010年 10月31日	・企画の視点：牧野虎雄展 ・所蔵品紹介：亀倉雄策の大同毛織株式会社ポスター ・学芸員レポート：日本の美術館の教育普及活動と鑑賞 ・あしあと：「こどもアートギャラリー」を終えて ・アートボランティア通信 ・MUSEUM INFORMATION／表紙作品紹介
「牧野虎雄展」 図録	企画展覧会リーフレット	B2版折りたたみ	1,000部	2011年 2月5日	・B2版のポスターの裏面に作品解説を配し、折りたたむことによ ってリーフレットとしても使えるように配慮した。

作品解説会

来館者サービスの一環として、展覧会への理解を深め、より充実した鑑賞の機会となるように、学芸員による作品解説会を行った。

常設展は毎週土曜日の午前11時から、企画展は毎週日曜日の午後2時から、それぞれの会場で行った。参加者がなかった解説会については、記録から除いた。

企画展

展覧会名	人数
期日（曜）	
日本の自画像	
4月11日(日)	2
4月18日(日)	5
4月25日(日)	3
5月 2日(日)	3
5月 9日(日)	6
5月23日(日)	2
5月30日(日)	15
小 計	36

モーリス・ユトリロ展

7月11日(日)	35
7月18日(日)	30
7月25日(日)	30
8月 8日(日)	40
8月15日(日)	30
8月22日(日)	40
小 計	205

ボンペイ展

9月12日(日)	16
9月19日(日)	20
9月26日(日)	20
10月 3日(日)	30
10月10日(日)	25
10月17日(日)	20
10月24日(日)	19
10月31日(日)	50
11月14日(日)	50
11月21日(日)	25
小 計	275

牧野虎雄展

2月 6日(日)	10
2月13日(日)	7
2月20日(日)	2
2月27日(日)	7
3月 6日(日)	7
3月13日(日)	4
3月20日(日)	12
3月27日(日)	10
小 計	59

企画展合計

575

常設展

小野末/竹谷富士雄/三芳悌吉の世界

6月 5日(土)	2
6月19日(土)	10
6月26日(土)	12
7月 3日(土)	3
小 計	27

村山径と〈戦後派〉の日本画家たち

7月10日(土)	24
7月17日(土)	10
7月24日(土)	7
8月 7日(土)	10
8月14日(土)	15
8月28日(土)	3
9月 4日(土)	1
小 計	70

亀倉雄策の世界

9月11日(土)	6
9月18日(土)	4
9月25日(土)	12
10月 2日(土)	3
10月16日(土)	5
10月23日(土)	2
10月30日(土)	8
11月 6日(土)	2
11月13日(土)	6
11月20日(土)	7
小 計	55

近代美術館の名品

12月 4日(土)	3
12月11日(土)	8
12月25日(土)	4
1月15日(土)	2
1月22日(土)	3
小 計	20

個人コレクターたちの肖像

2月 5日(土)	5
2月12日(土)	6
2月19日(土)	5
2月26日(土)	1
3月 5日(土)	6
3月19日(土)	7
3月26日(土)	3
小 計	33

常設展合計

205

団体への解説

モーリス・ユトリロ展

期日（曜）	団体名	人数
7月13日(火)	西山町総合クラブ	21
7月29日(木)	日本教育弘済会新潟支部	45
7月30日(金)	日本教育弘済会新潟支部	45
8月 5日(木)	十日町市美術科教職員	7
8月18日(水)	見附市立葛巻小学校職員	18
8月18日(水)	長岡市議会	16
8月23日(月)	静岡市華道連盟	35

ボンベイ展

期日（曜）	団体名	人数
9月28日(火)	上越市金葉会	50
9月28日(火)	長岡市大島コミュニティセンター	19
9月29日(水)	三条市小学校教育研究会	23
9月29日(水)	角田の里	30
9月29日(水)	三条市小学校教育研究会	21
10月11日(月)	イタリア協会	30
10月12日(火)	つくし会	21
10月14日(木)	長岡市三島郡美術教育研究会	35
10月15日(金)	三条市大島公民会	27
10月15日(金)	喜多方市中央公民館	27
10月20日(水)	坂之上コミュニティセンター	30
10月27日(水)	西蒲区自治協議会	25
10月28日(木)	三条市生涯学習課	25
10月29日(金)	新退教村上支部	23
10月29日(金)	胎内市中央公民館	24
11月 2日(火)	加茂市社会教育協議会	28
11月 4日(木)	柏崎・松波コミュニティセンター	11
11月16日(火)	三条テクノスクール	37

近代美術館の名品

期日（曜）	団体名	人数
1月 6日(木)	長岡市立新町小学校職員	26

学校教育との連携

●展覧会の鑑賞

・展覧会の解説

奈良の古寺と仏像展

期日	学校名	人数
4月27日(火)	田上町立田上小学校	65
4月28日(水)	長岡聾学校	22
4月28日(水)	三条市立栄中央小学校	57
4月29日(木)	長岡市立堤岡中学校	13
4月30日(金)	長岡商業高等学校	84
4月30日(金)	新潟北高等学校	178
5月 1日(土)	長岡市立東中学校	15
5月 6日(木)	新潟市立大鷲小学校	35
5月11日(火)	長岡商業高等学校	42
5月11日(火)	小千谷市立小千谷小学校	82
5月12日(水)	長岡商業高等学校	42
5月12日(水)	長岡市立堤岡中学校	115
5月13日(木)	長岡商業高等学校	41
5月13日(木)	小千谷市立小千谷小学校	40
5月14日(金)	長岡商業高等学校	41
5月14日(金)	長岡市立阪之上小学校	53
5月19日(水)	小千谷市立小千谷小学校	82
5月27日(木)	新潟大学附属新潟中学校	42
5月27日(木)	長岡工業高等専門学校	213
5月27日(木)	長岡市立南中学校	2
5月28日(金)	長岡造形大学	42
6月 1日(火)	三条市立西鱒田小学校	48
6月 1日(火)	新潟大学附属新潟中学校	42
6月 2日(水)	長岡市立山古志中学校	33
6月 3日(木)	長岡市立関原中学校	18
6月 5日(土)	三条市立下田中学校	15
小計		1,462

小野末/竹谷富士雄/三芳悌吉の世界

期日	学校名	人数
6月 8日(火)	長岡市立東中学校	54
6月 9日(水)	長岡市立東中学校	122
6月22日(火)	南魚沼市立中之島小学校	35
6月26日(土)	小千谷市立泉水小学校	7
6月27日(日)	新潟市立五十嵐中学校	30
小計		248

モーリス・ユトリロ展

期日	学校名	人数
7月10日(土)	長岡市立堤岡中学校	13
7月11日(日)	湯沢町立湯沢中学校	17
7月21日(水)	長岡明德高等学校	20
7月23日(金)	燕市立小池中学校	18
7月24日(土)	新潟大学	26
7月24日(土)	新潟市立高志高等学校	4
7月25日(日)	三条市立下田中学校	9
7月31日(土)	上越市立柿崎中学校	12
7月31日(土)	村上市立荒川中学校	12
8月 3日(火)	長岡市立東中学校	18
8月 4日(水)	魚沼市立湯之谷中学校	20
8月 4日(水)	柏崎市立第三中学校	19
8月 6日(金)	村上市立朝日中学校	10
8月 6日(金)	魚沼市立堀之内中学校	12
8月 9日(月)	長岡工業高等学校	18
8月 9日(月)	燕市立燕中学校	19
8月12日(木)	谷浜・桑取青少年健全育成会	29
8月25日(水)	長岡市立北中学校	147
	小計	423

亀倉雄策の世界

期日	学校名	人数
9月10日(金)	小千谷市立吉谷小学校・和泉小学校	35
	小計	35

ポンペイ展

期日	学校名	人数
9月14日(火)	長岡市立山谷沢小学校	18
9月15日(水)	長岡フレンドリールーム	17
9月22日(水)	新潟市立大江山中学校	71
9月24日(金)	長岡明德高等学校	370
9月24日(金)	柏崎市立第二中学校	81
9月30日(木)	長岡市立江陽中学校	26
10月 6日(水)	新潟大学附属長岡中学校	10
10月 6日(水)	長岡市立上組小学校	91
10月11日(月)	高田高等学校	14
10月11日(月)	小千谷市立小千谷中学校	19
10月15日(金)	新潟高等学校	24

10月15日(金)	長岡造形大学	51
10月16日(土)	新潟市立高志高等学校	3
10月26日(火)	柏崎養護学校	3
10月27日(水)	出雲崎高等学校	114
10月29日(金)	小千谷市立岩沢小学校・塩殿小学校・川井小学校・真人小学校	37
11月 2日(火)	燕市立吉田小学校	96
11月 2日(火)	柏崎市立大洲小学校	28
11月 4日(木)	燕市立吉田北小学校	48
11月 5日(金)	新潟市立木山小学校	49
11月 5日(金)	長岡市立日越小学校	178
11月 9日(火)	小千谷市立千田小学校	25
11月 9日(火)	小千谷市立東小千谷中学校	10
11月10日(水)	長岡市立上通小学校	23
11月11日(木)	長岡市立江陽中学校	19
11月12日(金)	魚沼市立小出中学校	133
11月13日(土)	魚沼市立広神中学校	15
11月17日(水)	三条市立裏館小学校	51
11月18日(木)	小千谷市立東小千谷小学校・東山小学校	70
11月19日(金)	小千谷市立片貝小学校	33
11月23日(火)	上越市立柿崎中学校	12
11月26日(金)	新潟市立松野尾小学校・越前小学校	39
	小計	1,778

近代美術館の名品

期日	学校名	人数
12月10日(金)	三条市立下田中学校	12
	小計	12

新潟県ジュニア展

期日	学校名	人数
1月 7日(金)	長岡市立希望ヶ丘小学校	95
1月12日(水)	長岡市立新町小学校	93
1月13日(木)	長岡市立青葉台小学校	62
1月13日(木)	長岡市立山古志小学校	39
	小計	289

観覧料免除

新潟県立近代美術館規則第13条の規定に基づき、学校教育活動として観覧する場合の生徒及び小中学校・特別支援学校・高等学校の引率者、心身障がい者及びその介助者等に対し、観覧料を免除した。

また、学校からの要請があった場合、その内容に応じて解説・案内・レクチャーなどを行った。

月	期 間	日数	開催企画展名称	企 画 展							常 設 展							月 計		
				学 校 等			障がい者	介助	合計	学 校 等			障がい者	介助	合計					
				小中・特		高校				小中・特		高校								
				校数	引率	校数				生徒	引率	校数	引率	校数	生徒	引率				
4	1～4	4													4	1	5	455		
	10～23	12	日本の自画像					21	4	25										
	24～30	7	奈良の古寺と仏像 日本の自画像	5	27	4	332	19	36	11	425									
5	1～30	27	奈良の古寺と仏像 日本の自画像	14	34	7	445	17	185	47	728							728		
	31	1	奈良の古寺と仏像																	
6	1～2	2	奈良の古寺と仏像	3	10						10							111		
	3～6	4	奈良の古寺と仏像	2	4						4					22	7		29	
	8～30	22										5	17			37	14		68	
7	1～4	4														9	3	12	311	
	8～9	2														2		2		
	10～31	22	モーリス・ユトリロ展	6	20	2	2	2	210	63	297									
8	1～25	25	モーリス・ユトリロ展	8	11	1	138	16	353	119	637							646		
	26～31	6														6	3		9	
9	1～10	6										2	2			11	4	17	685	
	11～30	18	ボンベイ展	5	18	1	267	29	259	92	665					2	1	3		
10	1～31	28	ボンベイ展	6	13	5	137	18	387	145	700					9	2	11	711	
11	1～23	20	ボンベイ展	15	45					272	110	427					4		4	456
	24～28	5											2	2			23		25	
12	2～26	22											1	4			29	6	39	39
1	4～23	18											4	17			14	4	35	37
	29～30	2														1	1	2		
2	1～4	4														1		1	81	
	5～27	20	牧野虎雄 展						56	21	77					2	1	3		
3	1～27	24	牧野虎雄 展						44	20	64					6		6	74	
	29～31	3														4		4		
合 計		308		64	182	20	1,321	101	1,823	632	4,059	14	42			186	47	275	4,334	

夏休み期間 観覧料免除者数

月	期 間	日数	開催企画展名称	高校生	月計	合計
7	17～31	15	モーリス・ユトリロ展	70	70	555
8	1～31	31	モーリス・ユトリロ展	476	485	
	1～25	25	常設展(村山径 展)	9		

アートボランティア

1 アートボランティア活動の目的

来館者（お客様）に対する生涯学習機会の増大とサービスの向上を図るため、アートボランティアを募集し、活動を推進する。

2 アートボランティア登録人数

年度当初18名が登録

年度途中登録2名

年度途中辞退2名

3 主な活動内容

- (1) 当館で行った展覧会やワークショップ等の各地域でのポスター掲示やチラシ配布を行った。
- (2) 年間スケジュールに基づいて、ワークショップや講演会・美術鑑賞講座・映画鑑賞会等の補助をした。
- (3) 当館所蔵作品や未整理作品の整理・写真撮影を行った。
- (4) キャプション・展示ケース等の清掃・整備を行った。
- (5) 7月30日(金)実施のキャンドルナイトの企画運営を行った。
- (6) 常設展・企画展の時期にあわせて「亀倉雄策学習会」「牧野虎雄学習会」を行い、アートボランティア同士での作品解説を実施した。

4 活動方法

基本的にはアートボランティアの都合のつく日、都合のつく時間に活動を行った。

キャンドルナイトの打ち合わせや準備、「亀倉雄策学習会」「牧野虎雄学習会」では、特別に日時を設定して活動を行った。

5 成果

- アートボランティアの皆さんが意欲的に活動に取り組み、自分たちの活動に充実感・満足感を感じていた。
- ポスターの掲示・チラシの配布が、より幅広い地域まで可能となった。
- ポスター・チラシの振り分け作業やキャプションの整理にもお手伝いいただいたことで、学芸課職員がそれ以外の業務に振り向けられる時間を確保できるようになった。
- 未整理作品の整理、特に「亀倉コレクション」の整理が大いに進んだ。

- キャンドルナイトは展覧会のイベントとは切り離し、学校・地域と連携したイベントとして実施した。今回もアートボランティアの意見を積極的に取り入れ、昨年度よりも充実した内容になった。

6 次年度の課題

- アートボランティアが全員集まる機会があまりなく、ボランティア同士の情報交換が積極的に行えなかった。情報交換の場を積極的に設けていく。
- キャンドルナイトでは、アートボランティアが中心となって昨年度以上にスムーズに企画運営できた。次年度は学校・地域との連携をより強化した活動にしていく。
- 「亀倉コレクション」の整理した成果を常設展等の場で発表できるようにしていく。
- 作品解説会へのアートボランティアの参加に向けて、所蔵作品に関する学習会等を今後も継続的に設定していく。

博物館実習

学芸員取得を目指す学生のための博物館実習を実施し、13名の実習生を受け入れた。美術館学芸員の諸業務に関する講義の他、各分野の作品の取り扱いについて実習を行った。さらに当館所蔵品のなかから10数点の作品を実際に展示したり、常設展の作品解説会を行ったりするなど、学芸業務を実際に体験させることに重点をおいた。

担当：長嶋圭哉、平石昌子

実習期間 7月26日(月)～8月6日(金)
ただし、土・日曜日は除く

実習生の所属大学および受入人数

新潟大学	2名
長岡造形大学	3名
新潟産業大学	1名
東京学芸大学	1名
実践女子大学	1名
昭和音楽大学	1名
群馬県立女子大学	1名
都留文科大学	1名
富山大学	1名
桜美林大学	1名 合計13名

実習カリキュラム

月日	時限	内 容
7月26日(月)	1	開講式・オリエンテーション
	2	館内見学
	3	展覧会鑑賞（企画展／常設展）
	4	講 義：作品の収集・分類・保管
7月27日(火)	1	講 義：博物館運営に関わる法律・現在の博物館を取り巻く状況
	2	講 義：学芸課の業務／展覧会の企画から礼状まで
	3	実 習：作品の取り扱い・展示・点検（平面作品）
	4	
7月28日(水)	1	講 義：作品の調査・研究
	2	講 義：作品の保存・修復
	3	実 習：作品の取り扱い・展示（軸・屏風）
	4	
7月29日(木)	1	講 義：美術館の教育・普及
	2	講 義：学校教育と美術館教育
	3	実 習：作品の取り扱い・展示（彫刻）
	4	実 習：作品の取り扱い・展示（工芸）
7月30日(金)	1	講 義：美術館の広報
	2	講 義：美術館のサービスと来館者の視点
	3	他館見学（県立歴史博物館）
	4	

月日	時限	内 容
8月2日(月)	1	講 義：総務課の業務／施設管理・安全対策
	2	講 義：美術館の地域連携（ボランティアと友の会）
	3	実 習：図書の整理
	4	
8月3日(火)	1	実 習：作品解説会準備
	2	
	3	実 習：作品解説会・相互検討
	4	実 習：作品解説会・講評
8月4日(水)	1	実 習：基本カード作成
	2	実 習：展覧会計画 （リスト・図面・開催要項・挨拶パネル作成）
	3	
	4	
8月5日(木)	1	実 習：展覧会計画（キャプション作成）
	2	
	3	実 習：展示室パネル立て、作品搬入
	4	
8月6日(金)	1	展 示
	2	
	3	展示講評・撤収
	4	実習のまとめ・閉講式

8時50分出勤

- ① 9：00～10：20（80分）
- ② 10：40～12：00（80分）
- ③ 13：10～14：30（80分）
- ④ 14：50～16：10（80分）

実習場所：会議室を基本とする

イベント

講演会

月 日	時 間	関連展覧会名	演 題 等	講 師 等	内 容	対象等	会 場	参加者数
6月27日(日)	14:00～	ビアトリクス・ポター展	日本のポター研究の第一人者 吉田新一氏講演会 (主催：NIC 木戸えほん館)	吉田新一 (立教大学名誉教授、児童文学研究者)	ビアトリクス・ポターの農業への取組やナショナルトラストへの貢献などについてわかりやすく解説	一般 (参加料：1,200円)	NICOプラザ会議室 (万代島ビル11階)	137
8月 1日(日)	14:00～	彫刻家・数内佐斗司展	数内佐斗司氏講演会	数内佐斗司 (出品作家) 平成伎楽団 (あめのうすめ組)	数内氏の作品をめぐるお話	一般 要観覧券	万代島美術館展示室	90

計227名

美術鑑賞講座

開 催 日	時 間	関連展覧会名	演 題 等	講 師 等	内 容	対象・定員他	会場	参加者数
4月24日(土)	14:00～	ジャポニズムとナビ派の版画	ロビーレクチャー ①ジャポニズムの版画	桐原浩 (当館業務課長)	展覧会出品作を中心に、ジャポニズムの版画について紹介	一般 聴講無料	万代島美術館 ロビー	5
5月22日(土)	14:00～	ジャポニズムとナビ派の版画	ロビーレクチャー ②ナビ派の版画	桐原浩 (当館業務課長)	ナビ派の版画について、展覧会出品作を中心に紹介			21
7月 3日(土)	14:00～	ビアトリクス・ポター展	ビアトリクス・ポターとイギリス絵本の黄金時代	宮下東子 (当館主任学芸員)	ビアトリクスが少女時代に親しんだ絵本とその作家を紹介し、彼女の作品と関連させながら影響や特徴について話す		NICOプラザ会議室 (万代島ビル11階)	37
8月21日(土)	14:00～		描かれた都市の姿 — 洛中洛外図屏風	飯島沙耶子 (当館美術学芸員)	スライドで洛中洛外図屏風の細部まで鑑賞しながら内容について解説し読み解く			21
9月 4日(土)	14:00～		日本洋画のはじまり — 江戸から明治へ	澤田佳三 (県文化行政課主任学芸員)	日本における洋画のはじまりを振り返り、その後に展開していく初期の洋画の状況を紹介			14
10月 9日(土)	14:00～	物語の絵画	描かれた物語 — 源氏絵の世界	飯島沙耶子 (当館美術学芸員)	源氏物語をひもときながら、各時代に描かれた源氏絵を紹介			14
10月23日(土)	14:00～	物語の絵画	絵画を読む — 藤田嗣治《私の夢》	澤田佳三 (県文化行政課主任学芸員)	所蔵品藤田嗣治《私の夢》について、描かれた経緯や藤田の生涯、他の作品を交えながら読み解く			21
11月 6日(土)	14:00～	物語の絵画	お釈迦様の物語絵	宮下東子 (当館主任学芸員)	展覧会出品作で所蔵品の桐谷洗鱗《釈尊一代記》の場面に沿って、釈尊の生涯とその表現を仏伝図や近代絵画等で比較紹介			12
11月20日(土)	14:00～	物語の絵画	絵で見る聖書	桐原浩 (当館業務課長)	聖書の物語の数々を題材にした西洋絵画・版画の名作を紹介			16

計161名

ワークショップ

開 催 日	時 間	関連展覧会名	演 題 等	講 師 等	内 容	対象・定員他	会場	参加者数
8月 8日(日)	14:00～	彫刻家・数内佐斗司展	展覧会をめぐるさがせ！ ヤブウチ・ワールド	宮下東子 (当館主任学芸員)	展示室内の作品をさがしながら展覧会を楽しむ	一般 要観覧券	万代島美術館 展示室	8
8月28日(土)	13:00～ 15:00～	彫刻家・数内佐斗司展	平成伎楽団ワークショップ 踊ってみよう・着てみよう あなたも平成伎楽団！	平成伎楽団2名 せんとくん	せんとくんダンスを参加者全員でおぼえ、平成伎楽団の仮面と衣装を参加者が着用して踊る			40

計48名

その他のイベント

開催日	時間	関連展覧会名	演 題 等	講 師 等	内 容	対象： 定員他	会場	参加者数
6月12日(土)～ 18日(金)		ピアトリクス・ ポター展	「ミス・ポター」上映 (主催:T-joy新潟万代)		映画「ミス・ポター」(2006年 アメリカ＝イギリス)上映	一般 (観覧料: 1,200円)	T-joy新潟 万代	209
6月13日(日)	13:30～	ピアトリクス・ ポター展	トーク「絵本でゆたかに！」	大矢美智子 (NIC木戸えほん館司書)	家庭での絵本読み聞かせの意義や効 果的な方法年齢別のお勧め絵本につ いてのお話	一般聴講 無料	万代島美術館ロビー	28
6月26日(土)	15:00～	ピアトリクス・ ポター展	朗読「ピーターラビット」 おはなしタイム～日英対 訳～	朗読:たんぼ絵本 コカリナ:木音(このん)	ピーターラビットの絵本を、コカリ ナ演奏をはさみながら、日本語と英 語とで朗読			46
7月4日(日)	13:30～	ピアトリクス・ ポター展	トーク「絵本でゆたかに！」	大矢美智子 (NIC木戸えほん館司書)	家庭での絵本読み聞かせの意義や効 果的な方法年齢別のお勧め絵本につ いてのお話			36
7月10日(土)	15:00～	ピアトリクス・ ポター展	朗読「ピーターラビット」 おはなしタイム～日英対 訳～	朗読:たんぼ絵本 コカリナ:木音(このん)	ピーターラビットの絵本を、コカリ ナ演奏をはさみながら、日本語と英 語とで朗読			40
7月24日(土)	11:00～ 13:30～ 15:00～	彫刻家・藪内 佐斗司展	せんとかんと写ろう せんとかん撮影会	せんとかん	藪内佐斗司氏がデザインしたキャラ クターせんとかんの撮影会	参加一 般無料	万代島美術館 展示室	64
8月1日(日)	15:40～	彫刻家・藪内 佐斗司展	平成伎楽団パフォーマンス	平成伎楽団 (あめのうずめ組)	藪内佐斗司氏の作品《平成伎楽団》 の仮面と衣装をまとった人々が、楽 器を使いながらパフォーマンスを演 じる	要一 般観 覧券		90
8月29日(日)	11:00～ 13:30～ 15:00～	彫刻家・藪内 佐斗司展	せんとかんと写ろう せんとかん撮影会	せんとかん	藪内佐斗司氏がデザインしたキャラ クターせんとかんの撮影会	参加一 般無料	万代島美術館 ロビー	103
12月12日(日)	11:00～ 14:30～	岩合光昭写真展 ～ねこ～	ギャラリートーク&サイン会	岩合光昭(写真家)	作家によるギャラリートーク及びサ イン会	要一 般観 覧券	万代島美術館 展示室／ロビー	366
12月11日(土)	11:00～ 14:30～	岩合光昭写真展 ～ねこ～	ギャラリートーク&サイン会	岩合光昭(写真家)	作家によるギャラリートーク及びサ イン会			391
募集期間: 11月1日(月)～ 2月14日(火) 展示期間: 12月11日(土) ～2月20日(日)		岩合光昭写真展 ～ねこ～	集まれ!うちのネコ		一般県民からネコの写真とそのコメ ントを募り、美術館ロビーに掲示し た。	一 般	万代島美術館 ロビー	268通

計1,641名

刊行物

刊行物名	概要	仕様	発行部数	発行日	内容
平成22年度展覧会案内リーフレット	平成22年度の展覧会の日程及び内容、年間のイベント予定などをまとめたもの	A4版 観音4つ折り 日英2カ国語表記	40,000部	平成22年3月31日	企画展覧会／所蔵品展／新潟県立近代美術館スケジュール／美術鑑賞講座／観覧料免除／小さなお子さんをお連れの方、障害者の方へのご案内／友の会のご案内／新潟市内の美術館・博物館
新潟県立万島美術館便り「B-island」No.9	美術館からの情報発信として一般来館者向けに編集したもの	A4版 4頁	5,000部	平成22年3月31日	2010年度の企画展のご紹介／ピアトリクス・ポター展そのみどころ／ばんびのあゆみ2009-10／イベントピックアップ／学芸員コラム／2010年度の所蔵品のご紹介／所蔵作品紹介／2010年度展覧会スケジュール／新潟県立近代美術館の企画展
「彫刻家・藪内佐斗司」展図録	自主企画展の図録	A4版 本文96頁	1,000部	平成22年7月	ごあいさつ 「展覧会によせて」藪内佐斗司 「動き出す彫刻たち」桐原浩 第1章 自由奔放—童子たちの世界— 第2章 変幻自在—平成伎楽団— 資料 藪内佐斗司作品MAP 出品目録
「物語の絵画展」セルフガイド	鑑賞の補助となる問いかけ方式の資料	A5版	3,000部×8種	平成22年10月	アルブレヒト・デューラー《黙示録》／ケーテ・コルヴィッツ《戦争》／尾竹越堂《渡し》／三輪晃勢《蓬萊山》／鴻池朋子《第4章 帰還—シリウスの曳航》／山口晃《何かを造る図》／森村泰昌《Death of Father》／石田徹也《捜査》
新潟県立近代美術館研究紀要 第10号	学芸員による研究報告書	A4版 本文46頁	400部	平成23年3月31日	【作品研究】 藤田裕彦「津田信夫《鑄銅鳳凰置物》について—「津田信夫展」(佐倉市美術館 2010.8.7～9.23)を参考として」 高成俊「彫刻家・戸張幸男の朝鮮滞在期の制作活動について」 桐原浩「ケーテ・コルヴィッツの木版画制作への契機について」 【事例報告】 佐藤克己「新潟県立近代美術館・万代島美術館収蔵作品データベースの改良について」 伊澤朋美「感想カードから見るモリス・コトリロ展」 英文要旨

作品解説会

来館者サービスの一環として、展覧会期中の土・日・祝日には学芸員による作品解説会等を行っている。

今年開催した展覧会では、「ピアトリクス・ポター展」では来館者に堅苦しいイメージを与えないよう「ギャラリー・レクチャー」とし、「岩合光昭写真展～ねこ～」では、作品の解説とはひと味異なる「学芸員トーク」を行った。

いずれも美術館に親しみを感じていただくためのもので、来館者に興味をもって参加していただいた。

ジャポニズムとナビ派の版画		6月19日(土)	20	9月23日(木)	6	岩合光昭写真展～ねこ～		画家のまなざし	
作品解説会	人数	6月20日(日)	20	9月25日(土)	10	学芸員トーク	人数	作品解説会	人数
4月17日(土)	1	6月26日(土)	20	9月26日(日)	8	12月18日(土)	10	3月 5日(土)	6
4月18日(日)	5	6月27日(日)	15	(15回)		12月19日(日)	5	3月 6日(日)	15
4月25日(日)	4	7月 3日(土)	30	小計	126	12月23日(木)	6	3月12日(土)	5
4月29日(木)	2	7月 4日(日)	20			12月25日(土)	11	3月13日(日)	13
5月 1日(土)	2	7月10日(土)	25	物語の絵画		12月26日(日)	6	3月19日(土)	15
5月 2日(日)	10	7月11日(日)	30	作品解説会	人数	1月 8日(土)	12	3月20日(日)	2
5月 3日(月)	15	(12回)		10月10日(日)	15	1月 9日(日)	15	3月21日(月)	9
5月 4日(火)	10	小計	230	10月11日(月)	4	1月10日(月)	7	3月26日(土)	10
5月 5日(水)	5			10月16日(土)	5	1月15日(土)	5	3月27日(日)	14
5月 8日(土)	13	彫刻家・藪内佐斗司展		10月17日(日)	4	1月16日(日)	25	4月 2日(土)	8
5月 9日(日)	4	作品解説会	人数	10月24日(日)	12	1月22日(土)	8	4月 3日(日)	12
5月15日(土)	10	7月25日(日)	6	10月30日(土)	1	1月23日(日)	10	4月 9日(土)	4
5月16日(日)	5	7月31日(土)	12	10月31日(日)	6	1月29日(土)	22	4月10日(日)	5
5月23日(日)	15	8月 7日(土)	12	11月 3日(水)	11	1月30日(日)	25	(13回)	
(14回)		8月14日(土)	6	11月 7日(日)	10	2月 5日(土)	18	小計	118
小計	101	8月15日(日)	10	11月13日(土)	8	2月 6日(日)	25		
		8月22日(日)	10	11月14日(日)	8	2月11日(金)	15	総合計	90回
ピアトリクス・ポター展		9月 5日(日)	4	11月21日(日)	20	2月12日(土)	16		1019名
ギャラリー・レクチャー	人数	9月11日(土)	15	11月23日(火)	15	2月13日(日)	16		
6月 5日(土)	10	9月12日(日)	12	11月27日(土)	15	2月19日(土)	18		
6月 6日(日)	20	9月18日(土)	2	11月28日(日)	15	2月20日(日)	20		
6月12日(土)	8	9月19日(日)	3	(15回)		(21回)			
6月13日(日)	12	9月20日(月)	10	小計	149	小計	295		

団体への解説

団体来館のうち希望があった場合、必要に応じて作品解説や施設紹介等を行った。

ジャポニズムとナビ派の版画

5月20日(木)	日本アニメ・マンガ専門学校	30名
5月21日(金)	日本アニメ・マンガ専門学校	45名
計		75名

ビアトリクス・ポター展

6月 6日(日)	アメカゴ子育て倶楽部	23名
6月22日(火)	国際ビューティーモード専門学校	26名
6月24日(木)	国際ビューティーモード専門学校	26名
7月 8日(木)	NPO法人地域活動支援センター ドリーム2001	10名
計		85名

彫刻家・藪内佐斗司展

8月20日(金)	胎内市教育研究会図工・美術部会	7名
8月26日(木)	黒崎南小学校区 坂井子供会	18名
8月31日(火)	上越市教育委員会板倉区分室 教育文化グループ	20名
9月16日(木)	日本アニメ・マンガ専門学校	27名
9月24日(金)	日本アニメ・マンガ専門学校	43名
計		115名

物語の絵画

11月 4日(木)	新潟コンピューター専門学校CG科	22名
11月10日(水)	子供福祉カレッジ	26名
11月19日(金)	日本アニメ・マンガ専門学校	41名
計		89名

岩合光昭写真展～ねこ～

2月15日(火)	平成22年度社会教育主事講習	12名
----------	----------------	-----

学校教育との連携

●図工・美術の授業 及び 部活動での利用—展覧会の鑑賞
学校のカリキュラム等で来館した学校団体に展覧会の鑑賞の機会を提供した。特に希望のあった学校団体に関しては、学芸員による作品解説を行った。

【学芸員による作品解説】 合計 522名

ビアトリクス・ポター展

6月 8日(火)	新潟市立白新中学校	(1・2・3年)	15名
6月 8日(火)	新潟市立舟栄中学校	(1・2・3年)	10名
6月 8日(火)	新潟市立岩室中学校	(1・2・3年)	9名
6月 9日(水)	新潟市立小新中学校	(1・2・3年)	20名
6月16日(水)	新潟市立高志高等学校	(2・3年)	5名
7月 6日(火)	新潟市立新津第二中学校	(1・2・3年)	26名

彫刻家・藪内佐斗司展

7月24日(土)	新潟大学教育学部芸術環境講座	59名
7月30日(金)	新潟県立新潟工業高等学校 (1・3年)	8名
8月 5日(木)	新発田市立猿橋中学校 (1・2・3年)	19名
8月 6日(金)	村上市立村上東中学校 (1・2・3年)	6名

物語の絵画

10月19日(火)	新発田市立本丸中学校	(1年)	109名
10月21日(木)	新発田市立本丸中学校	(1年)	75名
10月28日(木)	新潟市立高志高等学校	(1・2・3年)	13名
11月23日(火)	新潟大学教養部		42名
11月25日(木)	三条市立裏館小学校	(4年)	60名

画家のまなざし

3月15日(火)	新潟県立新潟中央高等学校	(1年)	38名
3月29日(火)	新潟市立高志高等学校	(2・3年)	8名

【展覧会鑑賞のみ】 合計 764名

ジャポニズムとナビ派の版画

5月12日(水)	新潟市立宮浦中学校	(1・2・3年)	3名
5月22日(土)	新潟市立高志高等学校		1名

ビアトリクス・ポター展

6月 7日(月)	はじめ保育園	(5歳児)	92名
6月 8日(火)	新潟大学教育学部附属長岡中学校		21名
6月12日(土)	新発田市立第一中学校	(1・2・3年)	12名
6月15日(火)	新潟市立曽根小学校	(2年)	52名
6月15日(火)	新通保育園	(年中・年長)	28名
6月16日(水)	新通保育園	(年中・年長)	33名
6月18日(金)	関屋保育園		22名
6月22日(火)	蒲原幼稚園	(5歳児)	27名
7月 1日(木)	新潟えきなか保育園		6名
7月 1日(木)	濱田町保育園		53名
7月 3日(土)	上越市立頸城中学校	(1・2・3年)	19名
7月 3日(土)	新潟市立新津第一中学校	(1・2・3年)	16名
7月 4日(日)	新潟市立巻西中学校	(1・2・3年)	26名
7月 6日(火)	新潟市立下山中学校	(1・2・3年)	36名
7月11日(日)	新潟県立巻高等学校	(2・3年)	8名
7月11日(日)	湯沢町立湯沢中学校	(1・2・3年)	14名

彫刻家・藪内佐斗司展

8月 5日(木)	韓国の中学校	9名
8月 6日(金)	村上市立村上第一中学校 (1・2・3年)	19名
9月14日(火)	新潟保育園 (年中・年長)	30名
9月17日(金)	新潟保育園 (年中・年長)	30名

物語の絵画

10月 9日(土)	妙高市立妙高高原中学校 (1・2・3年)	13名
10月17日(日)	魚沼市立堀之内中学校 (1・2・3年)	10名
10月23日(土)	新潟県立巻高等学校 (2年)	3名
10月28日(木)	新潟県立小出高等学校 (1・2年)	6名
10月28日(木)	新潟県立高田高等学校 (1・2・3年)	13名
10月28日(木)	新潟県立三条高等学校 (1・2年)	39名
11月13日(土)	新潟朝鮮初中級学校	7名
11月16日(火)	新潟市立万代高等学校 (3年)	9名
11月19日(金)	新潟青陵高等学校 (3年)	18名

岩合昭写真展～ねこ～

12月13日(月)	新潟市立万代高等学校 (3年)	26名
1月 5日(水)	新発田市立加治川中学校 (1・2年)	10名
1月 8日(土)	新潟県立巻高等学校 (2年)	4名
1月23日(日)	新潟市立巻西中学校 (1・2年)	17名
1月29日(土)	新潟市立高志高等学校 (1・2年)	6名

画家のまなざし

3月 5日(土)	加茂市立加茂中学校 (1・2年)	15名
3月29日(火)	阿賀野市立京ヶ瀬中学校 (1・2年)	9名
3月31日(木)	新潟市立舟栄中学校	2名

●校外学習・総合学習

学校教育、特に中学校の校外学習及び総合学習での利用に供した。希望のあった場合は目的に応じて、施設や職業に関する質問への対応や案内を行った。

【学芸員による対応】 合計 212名

ジャポニズムとナビ派の版画

4月27日(火)	新潟市立赤塚中学校 (2年)	5名
5月12日(水)	新潟市立関屋中学校 (2年)	9名
5月21日(金)	新潟市立新津第一中学校 (2年)	15名

物語の絵画

10月13日(水)	新潟県立小千谷西高等学校 (3年)	145名
10月14日(木)	新潟市立亀田西中学校 (1年)	6名
10月15日(金)	新潟市立結小学校 (2年)	26名
11月26日(金)	新発田市立川東中学校 (2年)	6名

【展覧会鑑賞・自由見学】 合計 445名

ジャポニズムとナビ派の版画

4月22日(木)	新潟市立石山中学校 (2年)	19名
4月27日(火)	新潟市立赤塚中学校 (2年)	5名
4月28日(水)	新潟市立東新潟中学校 (2年)	18名
4月28日(水)	新潟市清心女子中学校 (3年)	5名
5月 7日(金)	燕市立分水中学校 (2年)	46名

5月11日(火)	新潟市立山潟中学校 (2年)	4名
5月12日(水)	村上市立神納中学校 (2年)	14名
5月13日(木)	加茂市立若宮中学校 (2年)	10名
5月18日(火)	新潟市立石山中学校 (2年)	4名
5月18日(火)	長岡市立北中学校 (2年)	8名
5月19日(水)	胎内市立中条中学校 (2年)	5名
5月20日(木)	燕市立小池中学校 (2年)	18名
5月20日(木)	新潟市立小合中学校 (2年)	10名
5月21日(金)	小千谷市立片貝中学校 (2年)	5名

ピアトリクス・ポター展

6月10日(木)	燕市教育委員会学校教育課応指導教室 (小4～中3)	7名
6月11日(金)	小千谷市立東小千谷中学校 (1・2年)	3名
6月11日(金)	小千谷市立小千谷中学校(あすなろ・ひまわり学級)	10名
6月18日(金)	新潟市立明鏡高等学校 (2年)	95名
6月23日(水)	出雲崎町立立出雲崎中学校 (2年)	24名
6月24日(木)	新潟市立亀田西中学校 (2年)	6名
6月30日(水)	新潟市立南万代小学校 (特別支援学級)	9名
7月 6日(火)	長岡市立南中学校 (特別支援学級)	1名

彫刻家・藪内佐斗司展

8月20日(金)	新潟市立巻東中学校 (特別支援学級)	6名
9月24日(金)	新潟市立市之瀬中学校 (2年)	8名

物語の絵画

10月14日(木)	新発田市立本丸中学校 (2年)	25名
10月15日(金)	阿賀野市立笹神中学校 (2年)	13名
10月19日(火)	五泉市青少年教育センター (適応指導教室)	5名
10月26日(火)	新潟市立寄居中学校 (1年)	4名
11月 4日(木)	新潟県立はまぐみ養護学校 (高等部)	8名
11月10日(水)	加茂市立加茂中学校 (2年)	20名
11月19日(金)	新潟県立新潟養護学校 (中学部)	12名
11月19日(金)	長岡市立西谷小学校 (1・2年)	4名

岩合昭写真展～ねこ～

1月20日(木)	燕市教育委員会学校教育課応指導教室 (小4～中3)	7名
----------	---------------------------	----

画家のまなざし

3月10日(木)	新潟県立新潟養護学校 (高等部)	7名
----------	------------------	----

●対話型鑑賞の実施・出張授業

学習指導要領で鑑賞や言語活動がこれまでより重要視されるようになったこと、公共施設の利用が促されるようになったことを受けて、当館では対話型鑑賞の教育的有効性を重視し、企画展「物語の絵画」において対話型鑑賞の実施を新潟市内の小・中学校へ向けて発信。関心を示した学校に対し展示室内及び教室内で対話型鑑賞を実施した。

【対話型鑑賞の実施】 合計 178名

来館可能な学校に対して当館展示室内で作品と直に向かい合いながら対話型鑑賞を実施した。

(担当：宮下主任学芸員)

物語の絵画

10月19日(火)	新潟大学教育学部附属新潟中学校	(2年)	39名
10月27日(水)	新潟大学教育学部附属新潟中学校	(2年)	40名
10月26日(火)	新潟大学教育学部附属新潟中学校	(2年)	40名
11月 9日(火)	新潟市立新関小学校	(3年)	14名
11月22日(月)	新潟市立笹口小学校	(5年)	45名

【出張授業の実施】 合計 103名
来館が不可能な学校は多く、そのような学校で希望があった場合は学芸員が学校へ出張して画像データを使用して授業として対話型鑑賞を実施した。
(担当：宮下主任学芸員)

物語の絵画

11月16日(火)	新潟市立沼垂小学校	(3年)	36名
11月16日(火)	新潟市立沼垂小学校	(3年)	38名
11月25日(木)	新潟市立木戸中学校	(3年)	29名

●その他 合計 20名
ピアトリクス・ポター展
6月26日(土) 阿賀野市立安田中学校 (1～3年) 12名
彫刻家・藪内佐斗司展
8月10日(火) 新潟市立宮浦中学校 8名

●サポートスクール

10月から近隣の小学校12校を「サポートスクール」と位置づけ、各展覧会の広報等を厚くするとともに、協力関係を築くこととした。

実績

- ・新潟市立沼垂小学校 出張授業
- ・新潟市立笹口小学校 展示室での対話型鑑賞の実施

サポートスクール

- ・新潟市立山の下小学校
- ・新潟市立沼垂小学校
- ・新潟市立笹口小学校
- ・新潟市立入舟小学校
- ・新潟市立栄小学校
- ・新潟市立白山小学校
- ・新潟市立万代長嶺小学校
- ・新潟市立南万代小学校
- ・新潟市立豊照小学校
- ・新潟市立新潟小学校
- ・新潟市立湊小学校
- ・新潟大学附属新潟小学校

観覧料免除

新潟県立近代美術館規則第13条の規定に基づき、学校教育活動として観覧する場合の生徒及び小中学校・特別支援学校・高等学校の引率者、心身障がい者及びその介助者等に対し、観覧料を免除した。

また、学校からの要請があった場合、その内容に応じて解説・案内・レクチャーなどを行った。

展覧会名	会期	日数	学 校 等						障がい者	介助	合計
			小中・特		高校						
			校数	引率	校数	生徒	引率				
花鳥風月	平成22年4月1日～4月11日	10	0	0	0	0	0	32	12	44	
ジャポニズムとナビ派の版画	4月17日～5月23日	33	17	7	1	1	1	97	26	132	
ピアトリクス・ポター展	6月4日～7月11日	38	20	38	3	108	15	401	138	700	
彫刻家・藪内佐斗司展	7月24日～9月26日	62	7	11	4	7	2	172	60	252	
物語の絵画	10月9日～11月28日	46	22	69	8	254	22	113	22	480	
岩合光昭写真展～ねこ～	12月11日～平成23年2月20日	59	4	5	3	35	4	549	194	787	
画家のまなざし	3月5日～3月31日	23	4	4	0	53	11	40	6	114	
合 計		271	74	134	19	458	55	1,404	458	2,509	

夏休み期間 観覧料免除者数

展覧会名	期 間	日数	校数	生徒
彫刻家・藪内佐斗司展	7月24日～8月31日	36	39	212

サポートメンバー（新潟県立万代島美術館ボランティア組織）

新潟県立万代島美術館では、美術館と県民とをより親しく結びつけることを目的として、新潟県立万代島美術館サポートメンバーを募集し、活動を行った。

【設置・募集開始】

2010年4月

【ねらい】

- 1 来館者に生涯学習の機会と場を提供する。
- 2 美術館の活動を共有し、美術館への関心と関わりを深めることにより、美術館の愛好者を増大する。

【登録者数】（H23年3月現在）

7名

【活動内容】

- 展覧会に付随するイベントへの協力、万代島美術館の活動や展覧会業務に必要な活動への協力
- ・企画展「彫刻家・藪内佐斗司展」ワークショップへの協力
 - ・企画展「物語の絵画」での対話型鑑賞の体験
 - ・企画展「岩合光昭写真展～ねこ～」のイベント「集まれ！うちのネコ」への協力

【課題】

- ・仕事を持っているメンバーが殆どであるため、活動日が土・日曜日に偏り、職員と交流する時間があまり無かった。また、メンバー同士が顔を合わせ交流を深めることも困難であったため、相互の交流の仕方を考慮する必要がある。

博物館実習

学芸員資格取得を目指す学生のための博物館実習を実施し、10名の実習生を受け入れた。各分野についての講義の他、作品の点検・取り扱いの指導、他館見学も行った。最終日には各自に所蔵品を使った展覧会企画を発表してもらい、学芸員の仕事について学んだ実習の総まとめとした。



実習カリキュラム

月 日	時限	内 容
7月27日 (火)	1	開校式・館長講話・オリエンテーション
	2	施設案内／企画展見学
	3	博物館法／美術館の課題
	4	研究課題（課題説明、資料収集）
7月28日 (水)	1	展覧会の企画運営・美術館の課題
	2	広報活動／資料整理
	3	作品の点検・取り扱い（日本画）
	4	研究課題（テーマ決定、構成検討）
7月29日 (木)	1	教育普及活動
	2	作品の点検・取り扱い（工芸）
	3	受付・監視の仕事
	4	研究課題（リスト・図面作成）
8月3日 (火)	1	美術館教育
	2	作品収集／修復／著作権
	3	作品の点検・取り扱い（平面）
	4	所蔵品管理／情報管理／刊行物作成

8月4日 (水)	1	他館見学 新潟市歴史博物館 新潟市美術館
	2	
	3	
8月5日 (木)	4	研究課題（発表資料作成）
	1	発表準備
	2	発表・講評
	3	発表・講評
	4	閉校式

①10：10～11：30（80分）

②11：50～13：10（80分）

③14：15～15：35（80分）

④15：55～17：15（80分）

実習期間7月27日(火)～8月5日(木)まで全6日間

実習生の大学および受入人数

信州大学	1名	
専修大学	1名	
東洋大学	1名	
長岡造形大学	3名	
新潟大学	3名	
明治大学	1名	計10名

新潟県立近代美術館

【研 修】

- 浅井俊一・永井泰雄・伊澤朋美
「第52回 北信越博物館協議会総会・研究会」グリーンビュー立山 2010年5月27～28日
- 長嶋圭哉「第7回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー」東京国立博物館 2010年6月28日～7月2日
- 伊澤朋美「平成22年度 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」東京国立近代美術館・国立新美術館 2010年7月26～28日
- 藤田裕彦「第10回学芸員照明研究会」パナソニック電工汐留ミュージアム 2010年8月23日
- 浅井俊一・濱田真由美・伊澤朋美
「新潟県博物館協議会 運営研究会／学芸員等職員研修会」長野県 2010年11月10～11日
- 伊澤朋美「平成22年度 博物館学芸員専門講座」国立教育政策研究所社会教育実践研究センター・板橋区立美術館 2010年12月8～10日

【調査】

- 高 晟俊「朝鮮を愛した作家たち」展(仮称)研究集会 美術館連絡協議会(2010年4月18日)、神奈川県立近代美術館(8月16～18日)、兵庫県美術館(10月27～29日)、新潟県立近代美術館(2011年1月21～23日)
- 高 晟俊「戸張幸男調査」新潟市個人宅 2011年1月6日

【紀要執筆】

- 藤田裕彦「津田信夫《鑄銅鳳凰置物》について」
- 高 晟俊「彫刻家・戸張幸男の朝鮮滞在期の制作活動について」
- 佐藤克己「データベースの改良について」
- 伊澤朋美「感想カードからみるモーリス・ユトリロ展」

【展覧会図録執筆】

- 平石昌子・濱田真由美(図録仏文翻訳)
『モーリス・ユトリロ展』
- 松矢国憲「牧野虎雄展」リーフレット
- 高 晟俊(図録韓文翻訳)
『韓国モダンアートの波—釜山市立美術館コレクション展』福岡アジア美術館
- 藤田裕彦「无型以前—津田信夫、高村豊周、佐々木象堂をめぐって」『津田信夫展』佐倉市立美術館

長嶋圭哉「帝国と美術 1930年代日本の対外美術戦略」(共著) 国書刊行会

【著述活動】

- 藤田裕彦「二代陶齋・齋藤尚明展」(あーとぴっくす)『新潟日報』2010年7月17日
- 松矢国憲「読書をする人々 安井曾太郎《読書》」『新美術新聞』2010年11月11日号
- 松矢国憲「郷土出身の画人「牧野虎雄展」孤高の業績の再評価を願う」『文芸たかだ』第33号

【講演会、講義、展覧会監修等】

- 平石昌子 UTCPセミナー「ナビ派の再発見—美術史と趣味の変遷」パネリスト参加 東京大学駒場キャンパス 2010年5月26日
- 高 晟俊 公開講座「イタリア・シチリア島のモザイク壁画」講師 朝日カルチャーセンター新宿 2010年9月21日
- 藤田裕彦「美術史概説B」非常勤講師 新潟大学人文学部
- ⑦「工芸 輸出工芸の時代」2010年11月24日
- ⑧「工芸 近代工芸の誕生」2010年12月1日
- ⑮「戦後美術の展開 概念を超えて」2011年2月2日
- 長嶋圭哉「美術史概説B」非常勤講師 新潟大学人文学部
- ⑫「日本画 昭和戦前期」2011年1月12日
- ⑬「日本画 日本画と戦争をめぐる諸相」2011年1月19日
- ⑭「日本画 昭和戦後期～平成」2011年1月26日
- 濱田真由美「吉野石膏コレクション フランス近代絵画」ギャラリートーク 新春三大美術展(新潟三越) 2011年1月4日
- 平石昌子「棟方志功 幻の肉筆画展」ギャラリートーク 新春三大美術展(新潟伊勢丹) 2011年1月6日
- 高 晟俊「川川の絵画大賞展」展示指導 加古川市ウェルネス協会 2011年1月31日
- 長嶋圭哉「大正期の日本画」講師 加茂市社会教育委員会・公民館運営審議会委員会合同研修会 2011年2月3日
- 高 晟俊 公開講座「イコンのあゆみ」講師 朝日カルチャーセンター新宿 2011年3月8日

新潟県立万代島美術館

【研 修】

- 宮下東子 コーディネーター養成研修 生涯学習
推進センター 2010年9月8～9日
- 宮下東子 平成22年度美術館等運営研究協議会
国立大学財務・経営センター学術総
合センター(文化庁) 2011年2月
1～2日
- 宮下東子 中学校教育研究発表会 新潟大学教育
学部附属新潟中学校 2010年10月
22日
- 宮下東子・渡辺裕佳
「新潟県博物館協議会 運営研究会／
学芸員等職員研修会」長野県 2010
年11月10～11日

【紀要執筆】

- 桐原 浩 「ケーテ・コルヴィッツの木版画制
作への契機について」

【展覧会図録執筆】

- 桐原 浩 「動き出す彫刻たち」『彫刻家・数内佐
斗司』展図録

【著述活動】

- 飯島沙耶子 「杉原伸子新作展 脈々と循環する生
命の物語」(あーとびっくす)『新潟日
報』2010年5月3日
- 桐原 浩 「第50回東日本伝統工芸展 新潟
展」『新潟日報』2010年5月11日
- 宮下東子 「稲田亜希子個展 無垢な少女夢の世
界へ誘う」(あーとびっくす)『新潟日
報』2010年5月26日
- 桐原 浩 「近藤充展 女性、小動物が遊ぶ物語
世界」(あーとびっくす)『新潟日報』
2010年9月6日
- 今井 有 「コイズミアヤ個展「遠くに行って
帰ってくる。」箱型の中に広がる異
空間」(あーとびっくす)『新潟日報』
2010年9月21日
- 桐原 浩 「瀧谷美香展 別世界のような日常の
風景」(あーとびっくす)『新潟日報』
2010年9月30日
- 飯島沙耶子 「横山操《炎々桜島》作品解説」『日本
の美術Ⅴ 水墨画Ⅱ』美術年鑑社、
2010年10月

- 桐原 浩 「県伝統工芸作家展と公募展」『新潟日
報』2010年10月30日
- 桐原 浩 「五傳木浩樹展 女性の相反する二面
性表現」(あーとびっくす)『新潟日報』
2011年1月25日

【講演会、講義、展覧会監修等】

- 飯島沙耶子 「美術史概説B」非常勤講師 新潟大
学人文学部
- ①「描かれた物語——源氏絵の世界」
2010年10月6日
- ②「描かれた都市——洛巾洛外図」
2010年10月13日
- ③「描かれた祭り——祭礼図」2010
年10月20日
- 桐原 浩 雪梁舎美術館「新潟県伝統工芸作家展・
公募展」審査員、2010年10月20日
- 桐原 浩 新潟県立豊栄高校授業(オンリーワン
スクール事業)「美術における模倣・
借用と創造」2010年12月17日
- 桐原 浩 新潟デザイン専門学校卒業修了制作展
審査員 2011年2月4日
- 宮下東子 雪梁舎美術館「2010年中央展出品
作家展 作家交流会」コメンテーター
2011年2月27日

美術品の収集

平成 22 年度収集作品一覧

分 野	各 領 域 点 数	合計点数
新潟の美術	日本画1 油彩画他1 資料35	37
日本の美術	その他1 デザイン8 (うち分類替え 1)	9
世界の美術		0
総合計		46

新潟の美術

分野	作家名(生歿年)	作 品 名	制 作 年	寸 法 (cm)	素材・技法・形状	取得方法	購入・寄贈
日本画	竹内蘆風 たけうちろふう 1874～1939	佐藤忠信之図	不詳	127.3×56.2	絹本彩色 軸装	寄贈	佐山富榮・美智子氏
油彩画他	高村真夫 たかむらしんぶ 1876～1954	ラバクール村	1915年	45.5×53.0	油彩・カンヴァス 額装	購入	
資料	土田麦僊 つちだばくせん 1887～1936	近熊次郎宛書簡	1925年	19×73	紙・墨書 額装	寄贈	平丸誠氏
	土田麦僊 つちだばくせん 1887～1936	近熊次郎宛書簡	1918年(6月3日消印)		封筒、巻紙1枚	寄贈	竹内信子氏
		近熊次郎宛書簡	1918年(11月28日消印)		封筒、巻紙1枚		
		近熊次郎宛書簡	1919年(11月6日消印)		封筒、巻紙1枚		
		近熊次郎宛書簡	1920年(6月2日消印)		封筒、原稿用紙1枚		
		近熊次郎宛書簡	1921年(1月17日消印)		封筒、巻紙1枚		
		近熊次郎宛書簡	1921年(2月19日か)		封筒、巻紙1枚		
		近熊次郎宛書簡	1921年(3月2日)		封筒、巻紙1枚		
		近熊次郎宛書簡	1921年(3月22日)		封筒、巻紙1枚		
		近熊次郎宛書簡	不詳(1921年か、?月28日)		封筒、巻紙1枚		
		近熊次郎宛書簡	不詳(11月21日消印)		封筒、巻紙1枚		
		近熊次郎宛書簡	不詳		封筒、巻紙1枚		
		近熊次郎宛書簡	不詳		封筒、巻紙1枚		
	黒田重太郎 くろだじゅうたろう 1887～1970	近熊次郎宛書簡	1921年(7月1日)		封筒、巻紙1枚		
	村嶋西一 むらしまゆういち 1897～1983	近熊次郎宛書簡	1926年(10月12日)		封筒、巻紙1枚		
	小室翠雲 こむろすいうん 1874～1945	近熊次郎宛書簡	不詳(12月8日)		封筒、巻紙1枚		
	土田麦僊 つちだばくせん 1887～1936	近熊次郎宛葉書 「国画創作協会第二回展覧会出品 三人の舞妓 土田麦僊氏筆」	1919年(12月7日)		葉書		
		近熊次郎宛葉書(官製葉書)	不詳 (1921年か、3月18日消印)		葉書		
		近熊次郎宛葉書 「MUSEE DU LOUVRE. VÉNUS GENITRIX」	1921年(12月31日)		葉書		
		近熊次郎宛葉書 「106.NICE - Le Mont-Boron et les Villas」	不詳(1922年か)		葉書		
		近熊次郎宛葉書 「552 - Roma - S.Maria in Cosmedin」	1922年(1月21日消印)		葉書		
		近熊次郎宛葉書 「Pompei - Porta Nolana」	1922年(1月27日)		葉書		

資料	土田麦僊 つちだばくせん 1887～1936	近熊次郎宛葉書 「VENEZIA - Palazzo Ducale - Ponte dei Sospiri.」	1922年(2月5日消印)		葉書	寄贈	竹内信子氏
		近熊次郎宛葉書 「76 LONDON.-Black friars Bridge.-11.」	1922年(4月3日消印)		葉書		
		近熊次郎宛葉書 「VETHEUIL (S.et-O.). - Vue d'ensemble sur le Pays」	不詳(1922年4月か)		葉書		
		近熊次郎宛葉書 「Gand. Eglise Saint-Bavon L'Adoration de l'Agneau mys… bert et …van Eyck.」	1923年(3月11日)		葉書		
		近熊次郎宛葉書 「伊豆修善寺 頼家公ノ墓」	不詳 (1926年か、6月20日消印)		葉書		
		近熊次郎宛葉書 「安芸 厳島手置閣及五重塔(要塞 認可)」	1928年(7月17日消印)		葉書		
		近熊次郎宛葉書 「第七回国画創作協会展覧会出品 朝顔 土田麦僊氏筆」	1929年(5月25日消印)		葉書		
		近熊次郎宛葉書 「帝国美術院第十回展覧会出品 罌粟 土田麦僊氏筆」	1929年(11月12日消印)		葉書		
	野長瀬晩花 のながせばんか 1889～1964	近熊次郎宛葉書 「256. - PARIS. - La Gare du Quai d'Orsay et le Palais - Panorama」	1921年(12月5日消印)		葉書		
		近熊次郎宛葉書 「243.PARIS. - LE TROCADERO. - LL.」	1922年(6月20日消印)		葉書		
	黒田重太郎 くろだじゅうたろう 1887～1970	近熊次郎宛葉書 「228-PARIS-Le Boulevard du Palais et les nouveaux Bâtiments du Palais de Ju…」	1921年(12月15日)		葉書		
		近熊次郎宛葉書 「第十一回二科美術展覧会出品 窓際の女 黒田重太郎氏筆」	1925年(1月)		葉書		

日本の美術

分野	作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法・形状	取得方法	寄贈者名
その他	秋山さやか あきやまさやか 1971～	あるく 私生活基本形 千秋・長岡 2009年6月20日～28日	2009年	60.0×65.0× 10.0	ししゅう糸・もめん糸等／千秋と長岡 でみつけた素材・ポリエステル布 に昇華プリント	購入	
デザイン	浅葉克己 あさばかつみ 1940～	ミサワデザイン2009 パウハウス (7点組) ※第12回亀倉雄策賞	2009年	145.6×103.0	MC・画材用紙・インクジェット プリントまくり	寄贈	浅葉克己氏

分類替え作品 (資料から作品へ) *平成21年度収蔵資料より

分野	作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法・形状	取得方法	購入先・寄贈者
デザイン	松永真 まつながしん 1940～	新潟県立万代島美術館 「松永真のポスター展」	2009年	103.0×72.8	紙・デジタルプリント	分類替	H21収蔵資料

新収蔵品

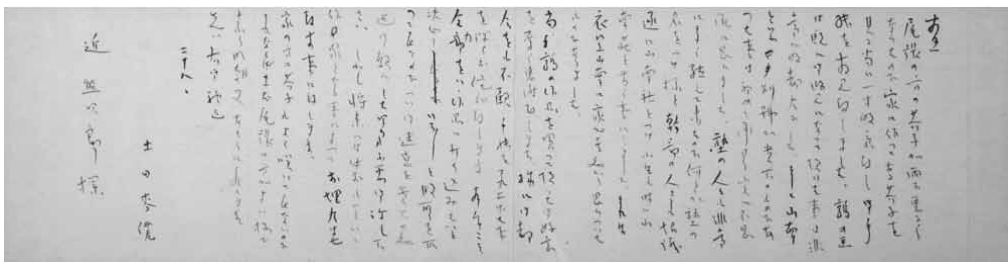
新 潟 の 美 術



竹内蘆風《佐藤忠信之図》



高村真夫《ラバクール村》



土田泰信
《近熊次郎宛書簡》



土田麦僊
《近熊次郎宛葉書「国画創作協会第二回展覧会出品 三人の舞妓 土田麦僊氏筆」》



土田麦僊
《近熊次郎宛葉書「第七回国画創作協会展覧会出品 朝顔 土田麦僊氏筆」》



土田麦僊
《近熊次郎宛葉書「Pompei - Porta Nolana」》



土田麦僊
《近熊次郎宛葉書「106.NICE - Le Mont-Boron et les Villas」》

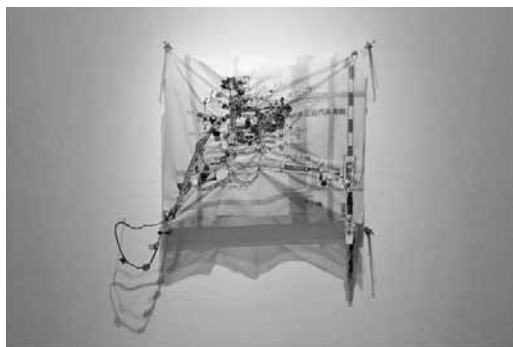


土田麦僊
《近熊次郎宛葉書「VETHEUIL (Set 0). -Vue d'ensemble sur le Pays」》



土田麦僊
《近熊次郎宛書簡・葉書》

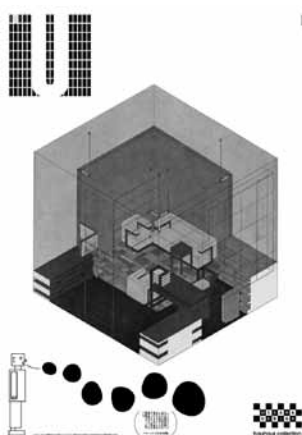
日本の美術



秋山さやか
《「あるく 私の生活基本形」千秋・長岡 2009年6月20日～28日》



浅葉克己
《「ミサワデザイン2009」パウハウス》



浅葉克己
《「ミサワデザイン2009」パウハウス》

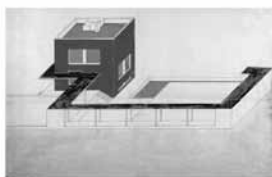


浅葉克己
《「ミサワデザイン2009」パウハウス》



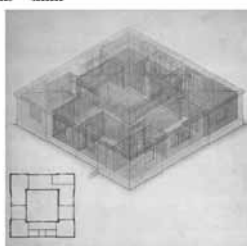
浅葉克己
《「ミサワデザイン2009」パウハウス》

W



浅葉克己
《「ミサワデザイン2009」パウハウス》

U



浅葉克己
《「ミサワデザイン2009」パウハウス》

S



浅葉克己
《「ミサワデザイン2009」パウハウス》

分類替え作品

(資料から作品へ)

*平成21年度収蔵資料より



松永真
《新潟県立万代島美術館「松永真のポスター展」》

美術品の修復

平成 22 年度 修復作品一覧

分 野	作 家 名	作 品 名	制作年	修 復 内 容	修 復 者	修 復 期 間
版画	ジョゼッペ・カボグロッシ	QUARZ (10点組)	1970年	マット装	はにわ (新潟県)	平成22年9月2日
彫刻	フェルナンド・ボテロ	母性	1989年	洗浄、コーティング	ブロンズスタジオ (東京都)	平成22年11月17日～11月19日
彫刻	佐藤忠良	若い女	1971年	洗浄、コーティング	ブロンズスタジオ (東京都)	平成22年11月17日～11月19日
日本画	宇田荻邨	鷹ヶ峰	1933年	掛緒取替	酒井司水洞 (新潟県)	平成23年2月18日
日本画	桐谷洗鱗	釈尊一代記	1915年	真田紐取替	酒井司水洞 (新潟県)	平成23年2月18日
	三芳悌吉	印度の人、ボース氏	1932年	額新調	葵屋画材店 (新潟県)	平成23年2月23日
洋画	川端実	作品	1963年	額修理	はにわ (新潟県)	平成23年2月24日
工芸	亀倉康之	枯野	1978年	額新調	はにわ (新潟県)	平成23年2月24日
版画	フェルナン・レジェ	詩画集イルミナシオン 第11葉 町々1	1949年	額・マット装新調	はにわ (新潟県)	平成23年3月28日
素描	村山塊多	裸婦	1916年	額・マット装新調	はにわ (新潟県)	平成23年3月28日
版画	マルク・シャガール	作品	制作年不詳	マット装新調	はにわ (新潟県)	平成23年3月28日

美術品の貸出

平成 22 年度 作品貸与一覧 (近代美術館所管作品)

展 覧 会 名	貸 出 先	会 期	作 家 名	作 品 名
佐伯祐三と新宿の画家たち	新宿歴史博物館	(平成22年 3月27日～ 5月 9日)	佐伯祐三	広告塔 パンテオン寺院
山本丘人—魂の叙情詩	茨城県近代美術館 天心記念五浦分館	(平成22年 4月24日～ 5月30日)	山本丘人	湖上嶺
日本海の至宝	新潟県立歴史博物館	(平成22年 7月24日～ 9月 5日)		上杉謙信並二臣像
セーヌの流れに沿って	ブリヂストン美術館 ひろしま美術館	(平成22年10月30日～12月23日) (平成23年 1月 3日～ 2月27日)	ギュスターヴ・クールベ	エトルタの海岸
フンデルトワッサー展2010	ソウル・アーツ・センター、 デザインミュージアム	(平成22年12月 5日～ 平成23年 3月13日)	フンデルトワッサー	日本で描いた最初の渦巻 #466 グリーンフィールド ブルーレイク #493
加越能の美術—明治から現代の絵画・彫刻・工芸—	石川県立美術館	(平成23年 1月 4日～ 2月 6日)	尾竹竹坡	梧桐
三芳悌吉 絵本原画「ある池のものがたり」展	弥彦の丘美術館	(平成23年 1月 8日～ 3月27日)	三芳悌吉	「ある池のものがたり」原画(30点) ピストロにて 雪景の中の静物(戦場ヶ原) 浜木綿 浜木綿と仮面 廃船の中で オルガンの上 地図の前 海へ駆りゆく 赤壁
亀倉雄策賞の作家たち 1999-2010	クリエイション ギャラリーG8	(平成23年 2月22日～ 3月25日)	田中一光 永井一正 佐藤可士和 仲條正義 松永真	サルヴァトーレ・フェラガモ展「華麗なる靴」[1] サルヴァトーレ・フェラガモ展「華麗なる靴」[5] LIFE [1] LIFE [4] CD「Smap」発売告知ポスター 仲條のフジのヤマイ (フジ) 仲條のフジのヤマイ (WORD 富士) ISSIMBOW "Katachi-koh"パッケージ [健] ISSIMBOW "Katachi-koh"パッケージ [美] ISSIMBOW "Katachi-koh"パッケージ [活]

展 覧 会 名	貸 出 先	会 期	作 家 名	作 品 名
亀倉雄策賞の作家たち 1999-2010	クリエイション ギャラリーG8	(平成23年 2月22日～ 3月25日)	松永真	ISSIMBOW "Katachi-koh"/パッ ケージ [18個入アソート]
				ISSIMBOW "Katachi-koh"/パッ ケージ [27個入アソート]
			佐藤卓	water展のためのポスター
			浅葉克己	ミサワ デザイン2009 パウハウス[B] ミサワ デザイン2009 パウハウス[A]
春一番、にいがた花三昧	新潟市新津美術館	(平成23年 3月 9日～ 3月13日)	Robert John Thornton	Temple of Flora
			Hannah Zeller	Wild Flowers of the Holy Land
			Jacob L'admiral	Naauwkeurige Waarneemingen. Van veele Gestalt werwisselend e gekorvene Diertjes
			G. H. v. Schubert	Naturgeschichte des Pflanzenreichs

万代島美術館所管作品 貸与一覧

展 覧 会 名	貸 出 先	会 期	作 家 名	作 品 名
いのちのかがやき—花鳥画の現在	茨城県天心記念 五浦美術館	(平成22年 7月10日～ 8月29日)	林潤一	罌粟花 (春)
				山百合 (夏)
				鶏冠花 (秋)
				冬牡丹 (冬)
			竹内浩一	降 ぶどうに雨

管 理 ・ 運 営



新潟県立近代美術館

常設展観覧者数(常設展のみの観覧者)

期 間 (企画展名)		第1期				第2期			第3期			第4期		第5期			合計 (年間308日)
		H22年4/1～7/4(34日間)				H22年7/8～9/5 (60日間)			H22年9/10～11/28 (72日間)			H22年12/2～H23年 1/23 (40日間)		H23年1/29～H23年3/31 (53日間)			
個 人	一 般	63	177	42	411	35	69	234	11	225	83	664		26	77	23	2,140
	大学・高校生	4	2	2	17	0	6	15	1	132	9	67		4	15	1	275
	小 計	67	179	44	428	35	75	249	12	357	92	731		30	92	24	2,415
団 体	一 般	718				359			461					146			728
	大学・高校生	2	56	54	116	1	90	5	0	72	1	309		2	17	3	7
	小 計	2	56	54	116	1	90	5	0	74	1	314		2	17	3	735
無 料		8	47	229	70	15	17	24	56	15	47	446		5	5	1	985
免 除		5	29	19	61	2	0	33	2	18	25	74		3	9	4	284
合 計		82	311	346	675	53	182	311	70	464	165	1,565		40	123	32	4,419
		1,414 (135,827)				546 (26,440)			699 (46,139)			1,565 (1,565)		195 (2,071)			4,419
																	(212,042)

*企画展開催中は、その観覧者数が常設展観覧者と重複する。

*（ ）内は企画展観覧者数をあわせた人数。

*無料には友の会会員を含む。

企画展観覧者数

企画展名		日本の自画像 写真が描く戦後 1945～1964 4/10～5/30 (46日間)	奈良の古寺と仏像 —會津ハローのうたにのせて— 4/24～6/6 (41日間)	モーリス・ユトリロ展 7/10～8/25 (47日間)	ボンベイ展 世界遺産 —古代ローマ文明の奇跡— 9/11～11/23 (66日間)	牧野虎雄展 2/5～3/27 (44日間)	合 計
個 人	一 般	2,032		14,750	24,210	1,019	42,011
	大学・高校生	75		610	1,246	47	1,978
	小 計	2,107	0	15,360	25,456	1,066	43,989
団 体	一 般	122		574	1,291	195	2,182
	大学・高校生	1		27	76	0	104
	小 計	123	0	601	1,367	195	2,286
前 売				3,691	8,857	—	12,548
無 料		1,160		4,762	7,968	474	14,364
免 除		500		1,480	1,792	141	3,913
合 計		3,890	130,523	25,894	45,440	1,876	207,623

企画展名	日本の自画像 写真が描く戦後	モーリス・ユトリロ展	ボンベイ展 世界遺産	合 計
図録販売数(冊)	115	1,113	913	2,141
音声ガイド使用数(台)		2,550	5,215	7,765

特別展（共催）

展覧会名	会 期	日 数	観覧者数
小千谷縮展	6/12～6/27	16	5,697
県展「長岡展」	6/30～7/4	5	4,038
友の会作品展	9/18～9/26	9	570
「長岡・小千谷の木喰仏」展	10/2～10/8	6	2,393
浅葉克己 展	10/23～10/31	8	783
長岡市中学校美術部作品展	11/14～11/15	2	638
長岡市美術展覧会	12/11～12/16	5	5,944
県ジュニア展「長岡展」	1/4～1/16	12	4,214
計		63	24,277

巡回ミュージアム

開催地	会 場 名	会 期	日 数	観覧者数
新潟市	中之口先人館ギャラリー	10/16～11/7	20	572
糸魚川	糸魚川歴史民族博物館	11/12～12/5	20	1,051
計			40	1,623

総観覧者数

	常 設 展	企 画 展	共 催 展	巡回ミュージアム	合 計
観覧者数	4,419	207,623	24,277	1,623	237,942

新潟県立万代島美術館

所蔵品展・企画展 観覧者数

展覧会名		花鳥風月	ジャポニスムと ナビ派の版画	ピアトリクス・ ポター展	彫刻家・数内 佐斗司展	物語の絵画	岩合光昭写真展 「ねこ」	画家のまなざし	合 計
期 間		4/1～4/11 (10日間)	4/17～5/23 (33日間)	6/4～7/11 (38日間)	7/24～9/26 (62日間)	10/9～11/28 (46日間)	12/11～2/20 (59日間)	3/5～3/31 (23日間)	
個 人	一 般	748	1,247	7,052	3,452	1,817	20,697	648	35,661
	大 高 生	26	114	678	235	260	1,590	39	2,942
	小 計	774	1,361	7,730	3,687	2,077	22,287	687	38,603
団 体	一 般	35	95	227	232	94	156	47	886
	大 高 生	1	75	217	140	188	31	0	652
	小 計	36	170	444	372	282	187	47	1,538
前売（一般のみ）		0	0	4,176	337	196	4,181	0	8,890
無 料		348	573	3,864	2,127	1,409	5,622	179	14,122
免 除		44	132	700	464	480	787	114	2,721
合 計		1,202	2,236	16,914	6,987	4,444	33,064	1,027	65,874

* 団体の数には「友の会」も含まれる。

講堂・ギャラリーの貸出

新潟県立近代美術館

県民の文化活動の促進に資するため、新潟県立近代美術館講堂及びギャラリー使用要項に則り、講堂は1日につき26,400円、ギャラリーは1日につき17,300円で貸し出した。

講堂使用状況

使用日	行 事 名	内 容
4/2	カワイ音楽教室音研会	ピアノ演奏
4	ピアノおさらい会	ピアノ講座
14	カワイ音楽教室音研会	ピアノ演奏
18	第27回 翼の会発表会	ピアノ、音楽発表会
29	高橋バイオリン教室	バイオリン演奏
5	フィリアの会 ピアノ発表会	ピアノ発表会
6/2	こころの健康講座	公立学校管理職を対象とした精神科医師の講話
5	食に関する講演会	講演会
6	坂井むつみピアノ教室発表会	ピアノ発表会
13	Piano Concert 2010	ピアノ発表会
7/19	メヌエットの会 発表会	ピアノ発表会
8/5	歴史講座	講演会
10	健康講座	講演会
25	音楽講座	音楽講座
9/5	ベスト音楽教室発表会	音楽教室発表会
12	ピアノ発表会	ピアノ演奏
18	E.P. みゅーじっくらぶ発表会	ピアノ、エレクトーンの発表会
19	津軽三味線・和太鼓ユニット～FKB～	津軽三味線、和太鼓等の演奏
23	吉澤ピアノ教室発表会	ピアノ発表会
26	ラルゴコンサート	ピアノ発表会
10/17	新潟県競書大会	優秀作品の展示
10/19	音楽研究会	音楽研究会
24	ピアノ発表会	ピアノ発表会
11/21	ピアノ発表会	ピアノ発表会
23	ひまわり音楽教室発表会	ピアノ、オルガンの発表
26	カワイ音楽教室 音研会	ピアノ講座
12/5	中越地区社会保険説明会	会員向け社会保険診療説明会
10～11	第50回長岡市美術展覧会	表彰式
12	ピアノ発表会	ピアノ発表会
23	ピアノ発表会	ピアノ発表会
25	ピアノ発表会	ピアノ発表会
26	クリスマスコンサート	ピアノ発表会
1/9	ピアノスタジオアンダンテ発表会	ピアノ発表会
10	ピアノ発表会	ピアノ発表会
2/20	新潟県書き染め大会	作品展
3/5～3/6	まどか先生と化学で遊ぼう	親子向けサイエンスショー
3/21	ピアノ発表会	ピアノ発表会
3/27	ピアノ発表会	ピアノ発表会

以上38件(延べ日数…40日)

ギャラリー使用状況

期 間	日数	展 示 会 名	内 容
4/28	1	関 孝 能面展	能面展 準備
4/29～5/3	5	関 孝 能面展	能面展
5/4	半日	関 孝 能面展	能面展 撤去作業
5/22～5/23	2	第12回新潟県内大学卒業設計コンクール	県内建築学科の卒業設計の展示、及び公開審査会
7/9～7/19	11	第4回 カリグラフィー作品展	カリグラフィー展示
7/30～8/4	6	染色画の発表	染色画の発表
10/10～10/14	5	日本結び文化展 in 長岡	花結び、水引の作品展示及びワークショップ
10/15～10/19	4	新潟県競書大会	優秀作品の展示、受賞者の表彰
11/18～11/24	7	長岡市展50回記念市長賞作品展	展覧会
2/18～2/22	4	新潟県書き染め大会	作品展

以上8件(延べ日数…45.5日)

講座室使用状況

使用日	日数	展 示 会 名	内 容
7/8～7/8	半日	歴史講座	講演会
8/10	半日	健康講座	講演会
8/24	半日	私たちの生活環境と風水	講演会
9/14	半日	神経痛、腰痛の予防と改善	講演会
9/18	1	E.P ミュージックくらぶ発表会	ピアノ発表会
9/19	1	津軽三味線、和太鼓ユニット	控え室
10/5	半日	「ガンの予防と食事」	講演会
10/11	1	花結び、水引のワークショップ	ワークショップ
11/9	半日	「冷え性の改善方法」	講演会
12/5	半日	中越地区社会保険説明会	新潟市立総合病院
12/7	半日	ガンの予防と食事	講演会
12/8	1	NPO 子どもの虐待防止ネットワーク	講演会
12/10～12/11	2	第50回長岡市美術展覧会	控え室
12/15	1	NPO 子どもの虐待防止ネットワーク	講演会
12/18	1	NPO 子どもの虐待防止ネットワーク	講演会
12/22	1	NPO 子どもの虐待防止ネットワーク	講演会
12/25	1	NPO 子どもの虐待防止ネットワーク	講演会
1/9	1	ピアノ発表会	控え室
1/12	半日	健康講座	講演会
2/6	1	ローン控除説明会	説明会
2/12	半日	健康講座	説明会
3/5～3/6	2	まどか先生と遊ぼう	サイエンスショー
3/12	半日	健康講座	講演会
3/12	半日	新潟県母親大会の打ち合わせ	打ち合わせ
3/21	1	ピアノ発表会	控え室

以上25件(延べ日数…21日)

新潟県立近代美術館

展 覧 会 名	展覧会開催期間	入場者数	回答者	回収率
日本の自画像展 写真が描く戦後	平成22年4月10日～5月30日	3,890	46	1.2%
奈良の古寺と仏像展	平成22年4月22日～6月6日	130,523	600	0.5%
モーリス・ユトリロ展	平成22年7月10日～8月25日	25,894	186	0.7%
ボンベイ展	平成22年9月11日～11月23日	45,440	494	1.1%
牧野虎雄展	平成23年2月5日～3月27日	1,876	26	1.4%
合 計		207,623	1,352	0.7%

I 企画展覧会の感想

展 覧 会 名	大変満足	まあまあ満足	やや不満	かなり不満	無回答	合 計
日本の自画像展 写真が描く戦後	58.7%	37.0%	2.2%	0.0%	2.2%	100.0%
奈良の古寺と仏像展	41.0%	41.5%	11.3%	3.2%	3.0%	100.0%
モーリス・ユトリロ展	54.8%	38.7%	3.2%	1.6%	1.6%	100.0%
ボンベイ展	50.0%	42.1%	3.6%	2.0%	2.2%	100.0%
牧野虎雄展	50.0%	34.6%	11.5%	0.0%	3.8%	100.0%
平 均	50.9%	38.8%	6.4%	1.4%	2.6%	100.0%

II 企画展覧会のきっかけ

展 覧 会 名	新 聞	テレビ	ラジオ	街 頭 ポスター	雑 誌	インター ネット	友の会 だより	知 人	たまたま 来て	その他	無回答	合 計
日本の自画像展 写真が描く戦後	25.4%	11.9%	3.4%	18.6%	1.7%	6.8%	0.0%	10.2%	13.6%	6.8%	1.7%	100.0%
奈良の古寺と仏像展	36.8%	33.5%	4.3%	8.6%	2.2%	3.9%	0.8%	4.3%	1.3%	3.0%	1.2%	100.0%
モーリス・ユトリロ展	18.1%	23.4%	1.1%	14.3%	4.2%	4.5%	2.3%	6.8%	7.5%	16.6%	1.1%	100.0%
ボンベイ展	16.0%	43.2%	2.1%	14.8%	3.1%	4.3%	1.0%	7.8%	2.7%	2.7%	2.2%	100.0%
牧野虎雄展	16.7%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	3.3%	3.3%	3.3%	20.0%	30.0%	3.3%	100.0%
平 均	22.6%	22.4%	2.2%	15.3%	2.2%	4.6%	1.5%	6.5%	9.0%	11.8%	1.9%	100.0%

III 常設展の感想

展 覧 会 名	大変満足	まあまあ満足	やや不満	かなり不満	無回答	合 計
日本の自画像展 写真が描く戦後						
奈良の古寺と仏像展						
モーリス・ユトリロ展	28.0%	34.9%	2.2%	1.1%	33.9%	100.0%
ボンベイ展	22.5%	28.5%	4.5%	1.0%	43.5%	100.0%
牧野虎雄展	34.6%	50.0%	0.0%	0.0%	15.4%	100.0%
平 均	28.3%	37.8%	2.2%	0.7%	30.9%	100.0%

* 4月5日～6月2日（日本の自画像展、奈良の古寺と仏像展 期間中）常設展未開催

IV 普段の情報源

展 覧 会 名	新 聞	テレビ	ラジオ	街 頭 ポスター	雑 誌	インター ネット	友の会 だより	知 人	たまたま 来て	その他	合 計
日本の自画像展 写真が描く戦後	30.4%	22.3%	5.4%	8.9%	8.0%	17.0%	1.8%	3.6%	2.7%	0.0%	100.0%
奈良の古寺と仏像展	34.9%	33.6%	8.6%	4.8%	4.4%	10.9%	0.4%	1.6%	0.4%	0.5%	100.0%
モーリス・ユトリロ展	22.3%	29.9%	6.9%	7.8%	8.3%	13.4%	2.0%	5.4%	1.3%	2.7%	100.0%
ボンベイ展	22.0%	35.2%	6.4%	8.6%	8.6%	13.9%	0.5%	2.6%	0.7%	1.4%	100.0%
牧野虎雄展	29.8%	19.1%	2.1%	14.9%	2.1%	12.8%	0.0%	4.3%	6.4%	8.5%	100.0%
平 均	27.9%	28.0%	5.9%	9.0%	6.3%	13.6%	0.9%	3.5%	2.3%	2.6%	100.0%

V 当館への来館回数

展 覧 会 名	初めて	2回以上	5回以上	10回以上	無回答	合 計
日本の自画像展 写真が描く戦後	26.1%	13.0%	21.7%	37.0%	2.2%	100.0%
奈良の古寺と仏像展	30.5%	27.3%	19.2%	20.2%	2.8%	100.0%
モーリス・ユトリロ展	24.2%	29.0%	20.4%	23.1%	3.2%	100.0%
ボンベイ展	29.8%	26.3%	20.4%	19.2%	4.3%	100.0%
牧野虎雄展	15.4%	11.5%	26.9%	46.2%	0.0%	100.0%
平 均	25.2%	21.5%	21.7%	29.1%	2.5%	100.0%

Ⅵ 展覧会ジャンルの希望

展 覧 会 名	日本画	洋画 (日本)	西洋 絵画	彫 刻	版 画	工 芸	書	写 真	デザイン	現代美術	その他	無回答	合 計
日本の自画像展 写真が描く戦後	16.4%	14.1%	18.0%	7.8%	7.0%	5.5%	1.6%	18.8%	3.1%	6.3%	0.8%	0.8%	100.0%
奈良の古寺と仏像展	22.5%	12.6%	15.3%	10.0%	5.6%	7.2%	6.2%	1.4%	4.8%	6.8%	2.4%	5.1%	100.0%
モーリス・コトリロ展	13.2%	14.6%	18.1%	6.6%	5.3%	6.6%	4.9%	8.8%	10.9%	7.6%	3.3%	0.0%	100.0%
ボンベイ展	14.0%	7.6%	15.5%	9.1%	3.9%	7.7%	5.0%	10.8%	7.6%	9.1%	4.6%	5.1%	100.0%
牧野虎雄展	16.2%	13.5%	14.9%	12.2%	8.1%	8.1%	2.7%	6.8%	5.4%	9.5%	2.7%	0.0%	100.0%
平 均	16.5%	12.5%	16.3%	9.1%	6.0%	7.0%	4.1%	9.3%	6.4%	7.8%	2.7%	2.2%	100.0%

Ⅶ ボランティア

展 覧 会 名	参加 しない	参 加 し た い					合 計
		展示作業	作品解説	ポスター掲示・ チラシ配り	ワークショップ の手伝い	その他	
日本の自画像展 写真が描く戦後	85.1%	8.5%	2.1%	0.0%	4.3%	0.0%	100.0%
奈良の古寺と仏像展	83.6%	5.7%	2.6%	4.1%	2.9%	1.1%	100.0%
モーリス・コトリロ展	80.6%	6.1%	1.5%	4.6%	4.6%	2.6%	100.0%
ボンベイ展	83.2%	7.2%	1.6%	4.1%	3.7%	0.2%	100.0%
牧野虎雄展	85.2%	11.1%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	100.0%
平 均	83.5%	7.7%	1.6%	2.6%	3.8%	0.8%	100.0%

〔 性 別 〕

展 覧 会 名	男性	女性	無回答	合計
日本の自画像展 写真が描く戦後	47.8%	41.3%	10.9%	100.0%
奈良の古寺と仏像展	37.2%	49.2%	13.7%	100.0%
モーリス・コトリロ展	36.4%	57.2%	6.4%	100.0%
ボンベイ展	37.6%	52.9%	9.5%	100.0%
牧野虎雄展	38.5%	53.8%	7.7%	100.0%
平 均	39.5%	50.9%	9.6%	100.0%

〔 お住まい 〕

展 覧 会 名	長岡市	新潟市	県 内	県 外	無回答	合 計
日本の自画像展 写真が描く戦後	32.6%	19.6%	37.0%	6.5%	4.3%	100.0%
奈良の古寺と仏像展	17.8%	32.3%	31.0%	6.8%	12.0%	100.0%
モーリス・コトリロ展	23.7%	24.2%	34.4%	10.8%	7.0%	100.0%
ボンベイ展	28.5%	27.1%	31.2%	5.1%	8.1%	100.0%
牧野虎雄展	30.8%	42.3%	19.2%	7.7%	0.0%	100.0%
平 均	26.7%	29.1%	30.6%	7.4%	6.3%	100.0%

〔 年 代 〕

展 覧 会 名	小・中学生	高校・大学生	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70才以上	無回答	合 計
日本の自画像展 写真が描く戦後	0.0%	6.5%	0.0%	6.5%	17.4%	8.7%	26.1%	19.6%	10.9%	4.3%	100.0%
奈良の古寺と仏像展	6.0%	2.7%	0.0%	6.2%	9.3%	10.3%	14.0%	24.5%	15.2%	11.8%	100.0%
モーリス・コトリロ展	29.3%	3.7%	0.5%	5.3%	5.9%	14.4%	17.0%	12.2%	6.9%	4.8%	100.0%
ボンベイ展	18.2%	6.1%	0.2%	7.9%	13.2%	13.8%	13.0%	13.4%	6.9%	7.5%	100.0%
牧野虎雄展	11.5%	7.7%	0.0%	0.0%	11.5%	7.7%	26.9%	23.1%	11.5%	0.0%	100.0%
平 均	13.0%	5.3%	0.1%	5.2%	11.5%	11.0%	19.4%	18.5%	10.3%	5.7%	100.0%

新潟県立万代島美術館

展 覧 会 名	会 期	入館者数	アンケート 回収数	アンケート 回収率
花鳥風月—現代日本画にみる自然の美	平成22年4月1日～4月11日	1,202	41	3.4%
ジャポニズムとナビ派の版画	平成22年4月17日～5月23日	2,236	105	4.7%
ビアトリクス・ポター展	平成22年6月4日～7月11日	16,914	359	2.1%
彫刻家・藪内佐斗司展	平成22年7月24日～9月26日	6,987	347	5.0%
物語の絵画	平成22年10月9日～11月28日	4,444	765	17.2%
岩合光昭写真展～ねこ～	平成22年12月11日～平成23年2月20日	33,064	2,514	7.6%
画家のまなざし	平成23年3月5日～3月31日	1,027	109	10.6%
合 計		65,874	4,240	6.4%

I 展覧会の感想

展覧会名	良かった	まあまあ 良かった	どちらとも いえない	良くな かった	無回答	合 計
花鳥風月—現代日本画にみる自然の美	73.2%	24.4%	2.4%	0.0%	0.0%	100.0%
ジャポニズムとナビ派の版画	60.4%	25.5%	9.4%	0.0%	4.7%	100.0%
ビアトリクス・ポター展	81.7%	13.9%	2.5%	1.1%	0.8%	100.0%
彫刻家・藪内佐斗司展	81.6%	13.0%	2.0%	0.6%	2.9%	100.0%
物語の絵画	46.4%	38.2%	9.5%	1.6%	4.3%	100.0%
岩合光昭写真展～ねこ～	88.6%	7.3%	1.0%	0.3%	2.8%	100.0%
画家のまなざし	59.6%	30.3%	6.4%	0.0%	3.7%	100.0%
平 均	70.2%	21.8%	4.8%	0.5%	2.7%	100.0%

II 作品や作家についての解説

展 覧 会 名	内容・量 とも適当	量が多い	量が 少ない	わかり にくい	無回答	合 計
花鳥風月—現代日本画にみる自然の美	75.0%	5.0%	10.0%	7.5%	2.5%	100.0%
ジャポニズムとナビ派の版画	78.7%	10.2%	3.7%	0.9%	6.5%	100.0%
ビアトリクス・ポター展	80.0%	4.4%	9.4%	1.7%	4.4%	100.0%
彫刻家・藪内佐斗司展	75.1%	2.6%	15.5%	1.2%	5.6%	100.0%
物語の絵画	75.5%	6.3%	4.7%	3.8%	9.7%	100.0%
岩合光昭写真展～ねこ～	87.4%	3.2%	1.9%	1.0%	6.4%	100.0%
画家のまなざし	74.5%	2.7%	10.9%	0.0%	11.8%	100.0%
平 均	78.0%	4.9%	8.0%	2.3%	6.7%	100.0%

III 展覧会についてどのようにお知りになりましたか

展 覧 会 名	ポスター チラシ	新聞	テレビ	知人	ラジオ	雑誌	ホーム ページ	県 民 だより	その他	計
花鳥風月—現代日本画にみる自然の美	46.9%	12.2%	8.2%	10.2%	0.0%	2.0%	10.2%	8.2%	2.0%	100.0%
ジャポニズムとナビ派の版画	44.3%	11.5%	7.4%	10.7%	0.0%	4.9%	11.5%	2.5%	7.4%	100.0%
ビアトリクス・ポター展	29.5%	24.7%	17.7%	10.2%	1.8%	3.8%	4.1%	1.6%	6.6%	100.0%
彫刻家・藪内佐斗司展	35.4%	11.9%	12.1%	13.8%	1.0%	3.6%	4.5%	3.8%	14.0%	100.0%
物語の絵画	41.1%	7.8%	4.0%	16.3%	0.6%	3.7%	6.6%	2.5%	17.4%	100.0%
岩合光昭写真展～ねこ～	41.9%	8.5%	14.5%	12.9%	1.0%	9.2%	3.1%	2.2%	6.8%	100.0%
画家のまなざし	36.5%	16.5%	7.8%	9.6%	0.0%	4.3%	6.1%	6.1%	13.0%	100.0%
平 均	39.4%	13.3%	10.2%	11.9%	0.6%	4.5%	6.6%	3.8%	9.6%	100.0%

お客様ご自身について

(1) 性別

	男	女	(不明)	計
花鳥風月—現代日本画にみる自然の美	46.3%	53.7%	0.0%	100.0%
ジャポニスムとナビ派の版画	49.1%	48.1%	2.8%	100.0%
ビアトリクス・ポター展	19.2%	80.6%	0.3%	100.0%
彫刻家・数内佐斗司展	29.5%	69.4%	1.2%	100.0%
物語の絵画	40.3%	58.6%	1.1%	100.0%
岩合光昭写真展～ねこ～	25.0%	74.2%	0.8%	100.0%
画家のまなざし	54.1%	41.3%	4.6%	100.0%
平 均	37.7%	60.8%	1.5%	100.0%

(2) 年代

	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	(不明)	計
花鳥風月—現代日本画にみる自然の美	9.8%	12.2%	0.0%	14.6%	12.2%	24.4%	24.4%	2.4%	100.0%
ジャポニスムとナビ派の版画	25.9%	21.3%	17.6%	6.5%	12.0%	10.2%	6.5%	0.0%	100.0%
ビアトリクス・ポター展	18.1%	21.1%	14.2%	20.6%	15.0%	7.8%	3.1%	0.3%	100.0%
彫刻家・数内佐斗司展	26.2%	12.4%	18.7%	11.8%	16.4%	8.6%	4.0%	1.7%	100.0%
物語の絵画	14.2%	22.6%	13.0%	14.9%	14.6%	12.2%	0.0%	0.9%	100.0%
岩合光昭写真展～ねこ～	14.9%	24.2%	21.8%	16.3%	13.1%	6.2%	2.5%	0.9%	100.0%
画家のまなざし	8.3%	9.3%	11.1%	8.3%	23.1%	25.9%	12.0%	1.9%	100.0%
平 均	16.8%	17.6%	13.8%	13.3%	15.2%	13.6%	8.7%	1.2%	100.0%

(3) お住まい

	新潟市内	新潟市以外 の下越地区	佐渡地区	中越地区	上越地区	県外・海外	(不明)	計
花鳥風月—現代日本画にみる自然の美	63.4%	14.6%	0.0%	4.9%	0.0%	14.6%	2.4%	100.0%
ジャポニスムとナビ派の版画	61.7%	9.3%	0.0%	13.1%	0.0%	13.1%	2.8%	100.0%
ビアトリクス・ポター展	57.8%	12.6%	1.1%	15.9%	3.1%	8.7%	0.8%	100.0%
彫刻家・数内佐斗司展	41.8%	18.4%	1.4%	12.1%	4.3%	20.7%	1.2%	100.0%
物語の絵画	58.0%	14.0%	1.4%	9.7%	3.4%	12.3%	1.3%	100.0%
岩合光昭写真展～ねこ～	55.4%	15.8%	0.7%	18.7%	2.9%	5.3%	1.2%	100.0%
画家のまなざし	49.6%	8.7%	0.9%	8.7%	4.3%	26.1%	1.7%	100.0%
平 均	55.4%	13.3%	0.8%	11.9%	2.6%	14.4%	1.6%	100.0%

(4) 当館へは主としてどんな交通手段でおいでになりますか。すべてお答えください。

	徒歩	バス	タクシー	自家用車	貸切バス	JR	自転車	その他	(不明)	計
花鳥風月—現代日本画にみる自然の美	14.3%	10.2%	6.1%	49.0%	0.0%	10.2%	8.2%	2.0%	0.0%	100.0%
ジャポニスムとナビ派の版画	18.0%	28.9%	0.8%	28.9%	0.0%	9.4%	9.4%	4.7%	0.0%	100.0%
ビアトリクス・ポター展	10.3%	17.9%	2.1%	53.9%	0.2%	8.3%	4.8%	1.6%	0.9%	100.0%
彫刻家・数内佐斗司展	6.3%	17.8%	4.0%	56.8%	1.0%	7.5%	3.8%	2.5%	0.5%	100.0%
物語の絵画	16.1%	21.3%	3.8%	42.6%	1.3%	8.1%	4.7%	1.6%	0.5%	100.0%
岩合光昭写真展～ねこ～	7.9%	14.5%	2.1%	64.9%	1.1%	6.3%	1.6%	0.9%	0.6%	100.0%
画家のまなざし	9.2%	20.0%	6.9%	48.5%	1.5%	7.7%	2.3%	3.1%	0.8%	100.0%
平 均	11.7%	18.6%	3.7%	49.2%	0.7%	8.2%	5.0%	2.3%	0.5%	100.0%

(5) 当館へ来たのは何回目ですか。

	初めて	2回目	3回目	4回目	5回以上	回答なし	計
花鳥風月—現代日本画にみる自然の美	14.6%	0.0%	14.6%	4.9%	63.4%	2.4%	100.0%
ジャポニスムとナビ派の版画	36.1%	16.7%	7.4%	5.6%	34.3%	0.0%	100.0%
ビアトリクス・ポター展	31.9%	19.2%	11.9%	6.7%	30.0%	0.3%	100.0%
彫刻家・数内佐斗司展	42.1%	12.9%	10.3%	5.7%	28.1%	0.9%	100.0%
物語の絵画	32.1%	9.9%	8.4%	6.4%	43.0%	0.1%	100.0%
岩合光昭写真展～ねこ～	46.6%	19.4%	11.2%	5.0%	16.9%	0.8%	100.0%
画家のまなざし	24.8%	11.9%	10.1%	3.7%	48.6%	0.9%	100.0%
平 均	32.6%	12.9%	10.6%	5.4%	37.8%	0.8%	100.0%

組織及び業務

新潟県立美術館の業務【20年4月現在】

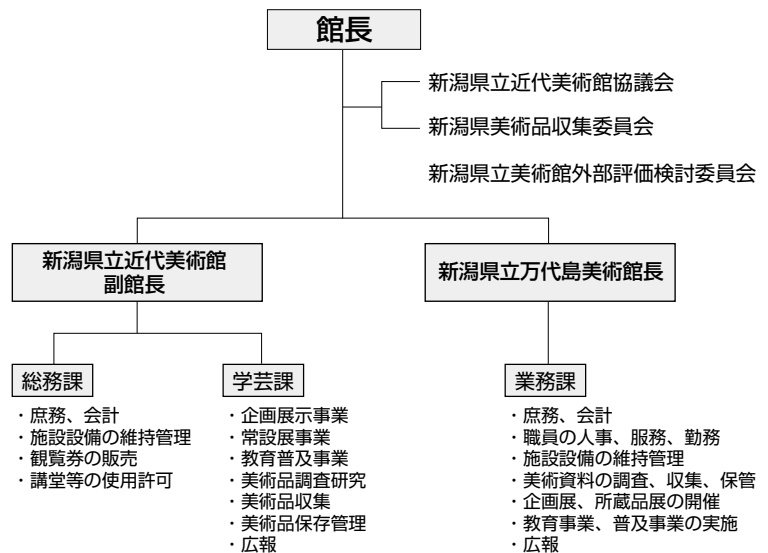
■新潟県立近代美術館条例（平成5年3月31日 新潟県条例第24号）（抜粋）

（設置）第1条 博物館法（昭和26年法律第285号）第18条の規定に基づき、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、新潟県立美術館（以下「美術館」という）を長岡市千秋3丁目に設置する。

2 前項に規定する美術館には、教育委員会の定めるところにより、分館として新潟県立万代島美術館（以下「万代島美術館」という。）を設置する。

（事業）第2条 美術館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 美術品、美術に関する資料等（以下「美術品等」という）の収集、保管及び展示
- (2) 美術品等の利用に関し必要な説明、助言、指導等
- (3) 美術品等の調査及び研究
- (4) 美術品等に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の主催及びその開催の援助
- (5) 前各号に掲げるもののほか、美術館の目的を達成するために必要な事業



職員

新潟県立近代美術館

館長	徳永 健一
副館長	浅井 俊一
●総務課 総務課長	永井 泰雄
主任	三津田 美香
主事	星野 豊彰
主事	加瀬真奈美
臨時的任用職員	加茂谷直子 (H22.3.9～)
非常勤職員	深井 尚子
●学芸課 学芸課長	藤田 裕彦
学芸課長代理	野村 宏毅
学芸課長代理	平石 昌子
副参事	佐藤 克己
専門学芸員	松矢 国憲
主任学芸員	高 晟竣
主任学芸員	濱田真由美
主任学芸員	長嶋 圭哉
美術学芸員	伊澤 朋美
嘱託員	山本 咲恵
嘱託員	池乗 進
嘱託員	田中 里枝 (～H22.8.25)
嘱託員	林 美穂子
嘱託員	岩崎 聡子
嘱託員	本多 五月
嘱託員	堀井つかさ
嘱託員	中島 結衣
嘱託員	関 紗織 (H.22.8.26～)

新潟県立万代島美術館

近代美術館万代島美術館長	宮下 祐一
●業務課 業務課長	桐原 浩
業務課長代理	丸山 久枝
主任学芸員	宮下 東子
主任学芸員	今井 有
主任学芸員	池田 珠緒
主事	高橋 奈緒
美術学芸員	飯島沙耶子
臨時的任用職員	渡辺 裕佳 (～H22.12.28)
臨時的任用職員	荒木 美郷 (H23.1.1～)
嘱託員	岡 有子
嘱託員	相馬 幸絵
嘱託員	三浦 華林
嘱託員	糸川 佳子
嘱託員	五十嵐 茜
嘱託員	宮本由紀恵

新潟県立近代美術館

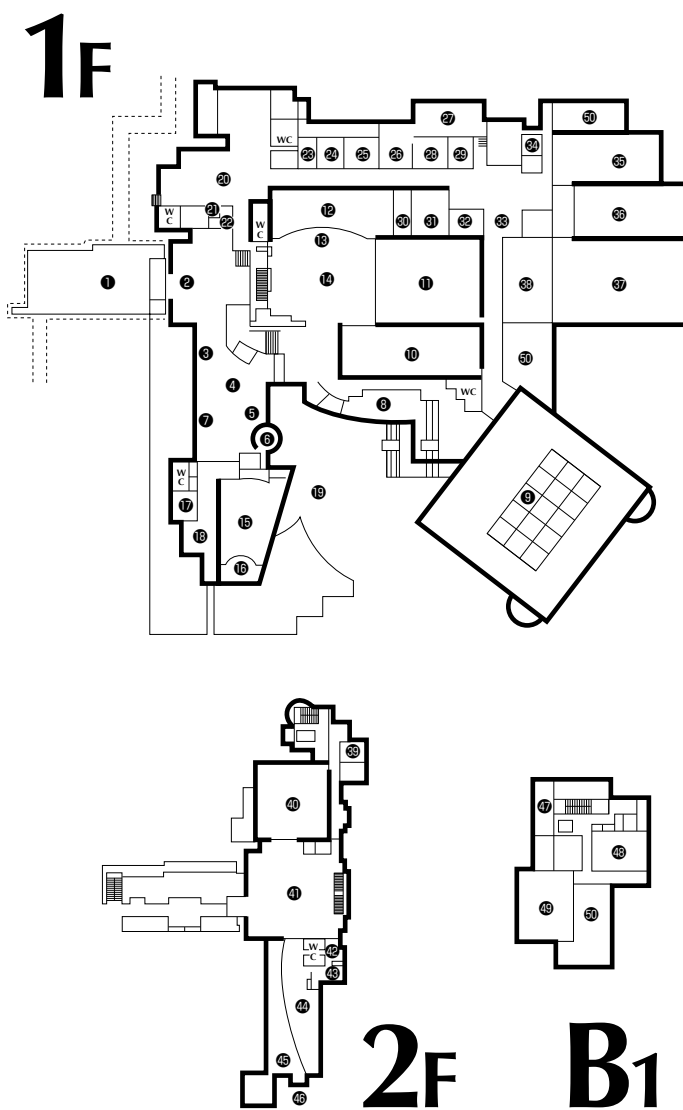
【施設概要】

〈名 称〉新潟県立近代美術館
 〈所 在 地〉新潟県長岡市千秋3丁目278-14
 〈設 計〉(株)日本設計
 造園設計 (株)日本設計・(株)日本造園
 設計期間 1990年9月～1991年2月
 〈監 理〉新潟県土木部都市整備局営繕課
 (株)日本設計
 〈施 工〉大成・吉原・小杉特定共同企業体
 電気工事 六興・大原・長岡特定共同企業体
 空調工事 三建・日立・越後特定共同企業体
 衛生工事 ナカムラ・北陸特定共同企業体
 ガス工事 北陸瓦斯(株)
 昇降機工事 日本オーチスエレベーター
 備品工事 (株)高島屋
 植栽工事 北陸緑化、ニューガーデン、
 長生園、宮川苑、吉茂造園、
 鈴木造園、新潟造園土木、
 長岡ガーデン、川崎農園、
 グリーン産業、松本造園
 工事期間 1991年7月29日～1993年5月31日
 〈総工事費〉 9,859,851千円
 支出内訳
 建築工事費 7,442,809千円
 造園工事費 1,216,187千円
 電気工事費 79,654千円
 展示工事費 1,121,201千円
 〈主体構造〉 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、
 プレストレストコンクリート梁
 基礎・地業 PHC抗
 〈規 模〉 地下1階、地上2階、塔屋1階
 軒高 13.0m
 最高高 19.250m
 主なスパン 3.9m
 階高 5.7m
 〈面 積〉 敷地面積 33,800㎡
 建築面積 9,133㎡
 延床面積 10,723㎡
 地下—機械室・電気室 716㎡
 1階—展示室・収蔵庫・講堂・
 事務室・他 8,873㎡
 2階—レストラン・県民ギャラリー
 1,064㎡
 屋階—E L V機械室
 地域地区 市街化調整区域
 〈面積配分〉 導入部門 1,356㎡
 (エントランスホール636㎡、
 ロビー576㎡、ほか)
 展示部門 2,674㎡
 (常設展示室391㎡+472㎡+265㎡、
 企画展示室1,332㎡、ほか)
 教育普及部門 384㎡
 (講堂234㎡、講座室53㎡、
 ハイビジョン67㎡、ほか)
 収蔵部門 1,746㎡
 (収蔵庫第一292㎡、第二575㎡、
 第三267㎡、作業室49㎡、ほか)
 調査研究部門 272㎡
 (研究室83㎡、資料保管室61㎡、
 書庫128㎡)
 管理事務部門 416㎡
 (事務室133㎡、会議室70㎡、
 館長室55㎡、ほか)
 設備・機械 1,017㎡
 (熱源機械室、電気室、空調機械室、ほか)
 他共用部門 2,858㎡
 (廊下、階段、ほか)

〈展示室の環境〉
 室の明るさ 70～150lux+局部照明
 照明方法 全体照明(ダウンライト・間接)
 スポットライトによる局部照明
 光源の種類 ハロゲンランプ(熱線カット)
 美術館用蛍光灯
 温度・湿度 夏季/26℃・50%
 冬季/22℃・55%
 〈主な設備〉
 空調方法 個別式(単一ダクト方式・F C U方式)
 熱源:ガス・電気
 熱源機器/ガス冷温水発生機2台
 冷房能力/240USRT
 暖房能力/52,000kCal/h
 冷却塔/2,810,000kCal/h
 空調機器/全空気方式 空冷ヒート
 ポンプエアコンファン
 給排水衛生 給 水/上水直結
 給 湯/中央式(ガス)、
 個別式(電気)
 排 水/屋内合流、屋外下水道放流
 給排水 B1F床上受水槽(F R P 40㎡)
 排水槽/有効0.76㎡
 電 気 受 電/3相3線 50Hz 6.6kV
 660kW
 発電機/3φ3W 50Hz 6.6kV
 375kVA
 非常保安動力/300kVA
 非常保安電灯(スコット)/50kVA
 変圧器/1,400kVA7台
 防 災 消火/屋内消火栓、屋外消火栓、
 ハロゲン化物消失
 排煙/自然排煙
 屋内消火栓 粉末消火器 ハロン
 消火設備 ハロン消火器 連結散
 水設備 屋外消火栓
 昇降機 乗用E L V/750kg積
 (30m/分)1台
 人荷用E L V/3,000 kg積
 (30m/分)1台
 駐車場 屋内2台、屋外165台
 〈主な外部仕上〉
 屋 根 アルミクラッド鋼板立ハゼ葺
 外 壁 四丁掛精妬器質タイル(割肌)
 ニ丁掛精妬器質タイル
 建 具 アルミサッシュ電解二次着色
 ステンレスサッシュH.L.仕上
 外 構 御影石ブロック+陶製ブロック舗装
 〈主な内部仕上〉
 エントランスホール
 天井/コンクリート打放し
 壁/御影石こぶ出し仕上
 床/御影石ジェットバーナー仕上
 展示室 天井/P.B.E.P.
 壁/ガラスクロスE.P.
 床/タイルカーペット
 収蔵庫 天井・壁/スプルス
 床/ナラ縁甲板張
 講 堂 天井/
 壁/四丁掛精妬器質タイル+P.B.E.P
 床/カーペット
 研究室・事務室
 天井/岩綿吸音板
 壁/ビニールクロス貼
 床/タイルカーペット

【施設の配置】

- | | |
|--------------|------------|
| ①キャンピー | ②⑤研究室 |
| ②エントランスホール | ②⑦書庫 |
| ③ロビー | ②⑧資料保管室 |
| ④ミュージアムショップ | ②⑨倉庫 |
| ⑤データベース室 | ②⑩フィルム保管室 |
| ⑥ハイビジョンギャラリー | ②⑪撮影室 |
| ⑦レファレンス | ②⑫作業室 |
| ⑧企画展示室ロビー | ②⑬荷解室 |
| ⑨企画展示室 | ②⑭燻蒸室 |
| ⑩展示室 1 | ②⑮収蔵室 1 |
| ⑪展示室 2 | ②⑯収蔵室 3 |
| ⑫展示室 3 | ②⑰収蔵室 2 |
| ⑬常設展示室ロビー | ②⑱展示備品倉庫 |
| ⑭中庭 | ②⑲ギャラリー控室 |
| ⑮講堂 | ②⑳ギャラリー |
| ⑯ステージ | ②㉑アトリウム上部 |
| ⑰講座室 | ②㉒レストラン事務室 |
| ⑱講堂ロビー | ②㉓厨房 |
| ⑲屋外展示スペース | ②㉔レストラン |
| ⑳事務室 | ②㉕吹抜 |
| ㉑乳児室 | ②㉖テラス |
| ㉒ロッカー室 | ②㉗ドライエリア |
| ㉓応接室 | ②㉘電気室 |
| ㉔館長室 | ②㉙熱源機械室 |
| ㉕会議室 | ②㉚空調機械室 |



新潟県立万代島美術館

【施設概要】

〈機能別延床面積〉

	内 訳	用 途 等	面 積
展示 1,400㎡	第一展示室	美術館所蔵の美術品等の展示	420㎡
	第二展示室	国内外の美術品等の企画展示	980㎡
収蔵 134㎡	収蔵庫	美術品等の保管	106㎡
	収蔵庫前室	収蔵庫の温室度を安定させる	28㎡
専用エレベーター 29㎡		地下1階より美術品を搬入	29㎡
管理 559㎡	事務室	学芸員、一般事務の執務室	63㎡
	資料倉庫	文書・書籍カタログ等の収納	33㎡
	準備室	展示作業用の作品移動ケース置場等	95㎡
	荷解室	美術品の開梱・点検場所	93㎡
	救護室	来館者の救護、職員の休憩等	22㎡
	給湯室	給水、湯沸かし等	3㎡
	トイレ	職員・来館者用	84㎡
	空調機械室	美術館専用の空調機械設置	120㎡
	ボンベ庫	ハロン消化設備用ボンベ庫（予）	46㎡
	ロビー	来館者の導入、休憩及びインフォメーション等	271㎡
共通 649㎡	廊下等	来館者の通路、避難経路など	359㎡
	乳児室	乳児のために使用	6㎡
	ロッカー・ルーム	来館者の利便のために手荷物を保管	13㎡
その他 159㎡	専用エレベーター(B1F)	美術品の搬入用	25㎡
	専用エレベーター機械室	専用エレベーター用の機械設置	14㎡
	専用荷捌スペース	美術品の荷捌スペース	120㎡
合 計			2,930㎡

〈建築概要〉

1. 全体概要

種 別／複合ビル内包型 公立美術館

所 在 地／新潟県新潟市万代島5番1号

工事期間／平成12年10月3日～

平成15年3月30日

敷地面積／103,128.93㎡

(万代島一団地認定敷地全体)

建築面積／6,017.37㎡

延床面積／52,585.54㎡

(うち、美術館2930.00㎡)

構造種別／鉄骨鉄筋コンクリート造

階 高／美術館フロア6.3m

2. 建築主体

設 計／鹿島建設株式会社一級建築士事務所

監 理／鹿島建設株式会社一級建築士事務所

施 工／鹿島・大成・福田・五洋・本間・東

亜共同企業体

3. 仕上げ（美術館部分のみ）

屋 根／鉄筋コンクリート下地断熱アスファ

ルト防水押え、コンクリート鋼製根

太組天然スレート敷

外 壁／プレキャストコンクリート下地アル

ミスパンドレル張り、アルミカーテ

ンウォールふっ素樹脂焼付塗装、プ

レキャストコンクリートカーテン

ウォールふっ素樹脂乾塗装

内 装／（設備概要を参照のこと）

4. 電気設備

電力引込／3相3線6.6kV50Hz、2回線受電、

地中引込

受 変 電／1階サブ変電所。

キュービクル式受変電設備

非常用電源／発電機1台、ディーゼル1000KVA、

蓄電池400AH

電話設備／電話配管（機器、配線は別）

放送設備／非常放送兼用アンブ 1160W、130回線。

美術館業務用アンブ 80W、5回線

5. 空調設備

熱 源／全体熱源：冷温水発生器（ガス焚）

240RT×2台

収 蔵 庫：空冷ヒートポンプ

空 調 機／コンパクトエアハン7台

単一ダクト

換 気／個別換気

給気ファン1台、排気ファン15台

制御機構／24時間中央温湿度管理システム

6. 昇降機

乗 用／ロープ式 210m／分 定員20名

1,350kg 4基（うち、車椅子仕様1基）

荷 物 用／油圧式

15m／分 3,000kg 1基

テーブルリフター／

リフト 0.9m

テーブル 2.0m×2.0m 3,000kg

〈設備概要〉

1. 展示室概要

壁 仕 上／不燃プラスターボード、ガラスクロス

表面仕上げ。

床 仕 上／フローリング

可 動 壁／不燃プラスターボード、ガラスクロス

表面仕上げ。L4.0m×H4.5m：30枚、

L2.0m×H4.5m：26枚、L2.4m×

H4.5m：4枚

固定展示ケース／2箇所

（外側）スチール製・高透過ガラス・スチール製・

アクリル焼付塗装、高透過ガラス・重量

キャスター・アジャスター付、シリンダー

錠付

（内側）低ホルマリン合板、クロス張り、エアタイト、

寸法D18.0m、W1.2m、H4.5m

照 明／全て美術館用UV／IRカットフィルター付

ベース照明：ハロゲンウォール

ウォッシャー200W

展示照明：ローボルトハロゲン

（12V50W）、

ケース内照明：高効率照明器具

（32W）およびローボルトハロゲン

（12V50W）

設定温湿度／春・夏期：23℃、60%
秋・冬期：20℃、50%
(変動率±3℃、±10%以内)

2. 収蔵庫概要

床 仕 上／フローリング
壁 仕 上／ゼオライトパネル（天井共）
内部寸法／L11.5m、W7.5m、天井H3.5m
入口寸法／H3.0m、W3.0m
収蔵庫内作品固定方法／収蔵棚
収蔵庫扉の構造及び仕様／スチール製
耐火2時間扉
照 明／高効率照明器具（32W）。美術館用
UV／IRカットフィルター付。
空 調／恒温恒湿パッケージ2台 単一ダクト
(VAV)

設定温湿度／春・夏期：22℃、55%
秋・冬期：22℃、55%
(変動率±2℃、±5%以内)

3. 搬入口関連概要

専用搬入口寸法／H3.8m、W5.0m
高位置の接岸ドック／地上からの高さ0.7m
可動接岸ドック／0～0.9mレベルまで
油圧式リフト／最大重量3,000kg
クレーン／最大重量3,000kg
搬入可能なクレーンの最大サイズ／
H3.0m、W3.0m、D3.0m
セキュリティ／画像センサー機械警備



荷解室への立入管理／カードリーダー方式電気錠
昇降機内部寸法／L3.6m、W3.0m、天井H3.0m

4. 防災設備

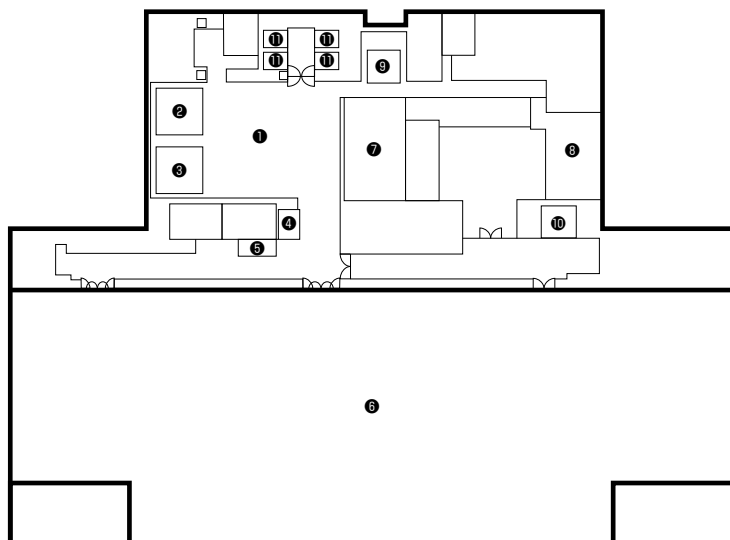
消火設備／湿式スプリンクラー（全体）
展示室、準備室、荷解室及び収蔵庫
はハロン消火
感知器の種類／自動煙感知
火災警報への伝達／発信機、非常電話
補助消火栓／搬入場所1基、その他4基
連結送水管／その他2基
消 火 器／搬入場所：粉末ABC
展 示 室：ハロンガス
そ の 他：粉末ABC及びハロンガス

5. 防犯設備

監視設備／ITVモニター、ITVカメラ15台
(美術館14台、EV1台)
機械警備設備／画像センサー＋スピーカ
警備会社／SECOM株式会社
使用警報機の種類／画像センサー及び
水銀スイッチ
警報入電場所／館内中央監視盤及び
美術館事務室
盗難防止ケースの種類／
ガラス・ケース及び壁面固定
ケース全てにシリンダー錠付

【施設の配置】

- ① エントランスホール
- ② ミュージアムショップ
- ③ ハイビジョンギャラリー
- ④ 情報検索コーナー
- ⑤ 乳児室
- ⑥ 展示室
- ⑦ 収蔵庫
- ⑧ 事務室
- ⑨ ロッカー・自販機
- ⑩ 作品専用エレベーター
- ⑪ エレベーター



新潟県立近代美術館協議会

【委 員】

(平成22年6月1日から平成24年5月31日まで)

●学識経験者

◎近藤フチエ (新潟大学教育学部教授)

松本 健義 (上越教育大学大学院学校教育研究科教授)

丸山 結香
(有限会社 マックス・ゼンバフォーマンス・コンサルティング代表取締役)

○雪山 行二 (和歌山県立近代美術館長)

渡辺 富栄 (新潟県美術家連盟会員)

●社会教育関係者

丸田 洋一
(元新潟県文化振興財団事業課長)

●学校教育関係者

須佐 尚子
(新潟県高等学校教育研究会美術・工芸、書道部会部長)

日諸 博美
(新潟県美術教育連盟理事)

●一般公募

上原みゆき (主婦)

高橋健太郎 * 欠席 (株式会社アール・イー代表取締役)

※◎は委員長 ○は副委員長

新潟県美術品収集委員会

【委 員】

宮田 亮平 (東京藝術大学学長) * 欠席

◎草薙奈津子 (平塚市美術館館長)

本江 邦夫 (多摩美術大学教授) * 欠席

前川 公秀 (佐倉市美術館館長)

柳原 正樹 (富山県水墨美術館副館長)

松本 透 (東京国立近代美術館副館長)

◎は委員長。当日は宮田亮平委員長が欠席のため、草薙奈津子委員が代行した。

【日程及び内容】

平成22年度「新潟県美術品収集委員会」

日程：平成23年2月10日(木)

内容：(1) 平成22年度美術品収集について

- ① 収集候補の全体説明
- ② 収集候補の内覧
- ③ 収集候補作品の協議

(2) その他

新潟県立美術館友の会

新潟県立美術館友の会は、新潟県立近代美術館開館の翌年、平成6年4月8日に「新潟県立近代美術館友の会」として発足。平成15年新潟県立万代島美術館の開館にともない2館共通の友の会組織となり、「新潟県立美術館友の会」と改称した。会員649名。

広く美術を愛する人たちを中心として、美術館の活動及び運営に協力するとともに、美術を通じて教養を豊かにし、会員相互の親睦を深め、芸術文化の普及、向上を図ることを目的として活動している。

●会費・会員

一般会員	一般	¥4,000	523名
	後期	¥1,000	15名
	学生	¥2,000	8名
ファミリー	会員	¥10,000	76名
特別会員	個人	¥30,000 (一口)	1名
	法人		28名
計			651名

●会員の特典

- ・会員証による常設展の無料観覧
- ・近代美術館、万代島美術館の企画展で利用できる無料観覧券の配布
- ・企画展図録の割引
- ・近代美術館、万代島ビル内のレストランの割引
- ・友の会会報、美術館便り等の配布
- ・近代美術館、万代島美術館の企画展開場式への参加

●役員体制

会 長	丸山結香		
副会長	榎谷一代	小林新治	
理 事	伊藤文吉	小栗俊郎	小柳喜實
	澤 秀一郎	中村正実	丸岡 稔
	吉澤昭宣		
監 事	佐々木広介	堀井一明	
代議員	阿部美恵子	石丸雨虹	永島賢司
	大屋悦子	大平 剛	尾崎 正
	小幡武代	恩田里士	片野トク
	金子 仁	近藤フジエ	斎藤英世
	斎藤裕子	佐藤節子	佐藤嘉信
	高野豊昌	田嶋晴美	田中弘邦
	土屋蔵三	豊野玉枝	永井正二
	羽賀 亨	原 和彦	保坂 太
	真壁浩司	丸山 智	山梨玲江子
	山本正明	若月昇治郎	
顧 問	徳永健一	豊口 協	平山征夫
事務局	事務局員	佐藤 和子	

●事業内容

- ◇6月27日代議員会 会場：近代美術館会議室
- ◇7月30日「キャンドルナイト@KINBI」への協力
- ◇8月12日～8月18日「こどもアートミュージアム」ヘワークショップの企画で参加（「貼り絵で、ボンベいのモザイク画に挑戦！」）会場：近代美術館ギャラリー
- ◇9月18日～9月26日「第14回友の会作品展」同時開催「第10回全国高等学校版画選手権大会はなが甲子園」会場：近代美術館ギャラリー
- ◇10月2日～10月8日「長岡・小千谷の木喰仏」展への協力 会場：近代美術館ギャラリー
- ◇10月23日～10月31日「第12回亀倉雄策賞受賞展JAGDA新人賞作家展への協力」会場：近代美術館ギャラリー
- ◇11月6日「長岡市大手通フリーマーケットへの参加」
- ◇11月28日～30日研修旅行「中宮寺の會津ハル歌碑除幕式と奈良の名刹をめぐる3日間」
- ◇3月12日「牧野虎雄展」友の会作品解説会
- ◇友の会だよりの発行
- ◇近代美術館内レストラン「広告塔」を会場とした会員のミニ作品展を通年開催
- ◇ミュージアムグッズの販売 近代美術館、万代島美術館のミュージアムショップにて、グッズを委託販売
- ◇「ポスター発送作業」近代美術館で開催される展覧会のポスター発送作業への協力
- ◇「新潟県内博物館等友の会連絡会」加盟団体との連携

自己評価に対する委員評価

はじめに

平成20年度に始まった近代美術館の運営に関する自己評価および外部評価の試行から3年間を経た現在、当初の評価から見ると、評価そのものが館の活動の活性化につながっているという実感があります。より実態に合わせた観点から行っている評価は、日常的な業務においても目標に合わせて改善に努める姿勢の現われと見ることができるからです。

もし自己評価が館の活動の見直しや改善に役立たないとしたら、評価の仕事は自己目的化し、通常業務の上に余分な仕事加わるだけにすぎません。本年度の評価においては、評価の項目が限定され、その中で年度ごとの達成目標を掲げて評価するというかたちが整ってきました。その点でも、美術館の管理者やスタッフにこの評価を館の管理運営に活用しようとする意識が明確になっています。しかしながら、数値目標の設定自体に意味が問われる項目もあり、数値よりもその内実の評価に注目していただくことが重要だと考えます。

本書の第2章では、分野別の自己評価に対する委員の見解が詳細に述べられています。概ね自己評価については適切だと判断する意見でした。今年度の評価は、いわゆる中期目標に当たる目標に対して年次ごとに評価を行い、次年度につなげるという評価サイクルの端緒に位置するものです。このように次年度につながる試行的な取り組みが多いなか、目標の達成に関しては次年度以降の実施と展開が期待されています。

そして、第3章では、本年度の評価を踏まえた平成23年度の美術館運営への提言を行っています。この評価結果の公開により、県民をはじめ多くの人々に対し美術館関係者が一層の改善に努めるだけでなく、県民の美術館活動への理解と支援をいただくことになれば幸いです。

平成23年9月

新潟県立近代美術館協議会
会長 近藤 フヂエ

第1章 県立近代美術館の自己評価に対する総括的所見

1 平成22年度における美術館運営の全般について

県立近代美術館の主要な業務には、他の美術館や新聞社等との共催による展覧会の開催、自主企画展の単独開催、それに美術団体等への会場提供による展覧会の開催のほか、所蔵作品に関する資料収集と公開、これらの業務とあわせて鑑賞者への教育普及や連携が挙げられる。一般的に、館の主要な仕事は他の美術館等との共催による企画展であるように思われる。しかしながら、それに並行して開催されている美術館独自の所蔵品を中心に構成される自主企画展と、鑑賞者に対して行われる各種の作品解説等の教育普及やその他の活動は、地味であっても、美術館が予算や外的要因に作用されずに、日ごろの調査研究や情報収集、連携活動等、館の運営活動の実績を示す分野であり、この分野に焦点化した評価を行うことが重要だと考える。

2 目標設定のあり方について

県立近代美術館および県立万代島美術館とも、目標を着実に達成していることは評価されているが、数値目標の設定については協議会委員には必ずしも妥当と考えられていないようである。入場者数について、例えば「ボンベイ展」のケースのように、他館と比較して数値的な目標を掲げることは、比較対象の違いが大きく、あまり意味がないように思われ、同時に「ユトリロ展」の入場者数も、確かに結果として多く目標を上回っているが、それは設定した目標値が低すぎた結果だと考えられなくもないからだ。館の過去の実績である類似の企画展や取組との比較で、それを上回ること、そのためにどのような取組を行うかが重要だといえる。

入場者の満足度調査についても、アンケートの回収率を上げ、前年との比較で数値目標を設定し、同時にアンケート結果の詳細な分析のもとに、口頭や自由記載による鑑賞者の感想を丹念にまとめることで、数値の中身を明らかにしていることは今回の評価の改善点となっている。

目標を掲げて美術館の業務を再点検することは、すべての分野に求めることはできないかもしれないが、県民の要請と館の意識の相違の有無について、本年度の協議会でも問題にはならなかったが、人事や施設活用度などは県民の関心のあるところであり、今後そのような要請に応えるために評価項目で工夫することは必要と考える。

3 目標に対する達成状況について

各項目における目標の達成についての判定も、目標設定に関係して大きく異なってくる。数値目標で機械的な判定を行うわけにはいかない項目は、その進捗・達成度を数値目標に対するパーセンテージで示し、さらにアンケートや聞き取り調査の結果などを基礎として、進捗・達成度が評価されている。それらの判定を踏まえ、美術館の活動目標に照らした取組、事業目標について総評を添えて自己評価を行い、4段階の判定を記載している。すなわち◎は継続する項目、△は改善し、継続して目標として掲げ

る項目、×は目標として廃止する項目であり、さらに◇は新規の項目という4段階の判定を行った。目標達成の判定は必ずしも数値目標で示されるわけではないので、判定の基礎となる事項の記載を行い、さらに新たな取組を掲げることで次年度以降の改善につなげようとする評価が見てとれる。単年度では達成できずとも継続的に改善を図る努力を行ったかを平成22年度の目標達成の状況で示しており、その内容については特筆事項として記載するとともに、次年度の目標設定へつなげることで、評価の目的は達成されていると考える。

協議会委員の評価でも、常設展の企画、企画展の解説等や教育普及活動、広報については、取組内容の妥当性と効果について高く評価されている。工夫の余地があるとされるのは、連携の拡大と恒常的なサポート体制の構築であり、さらに「修繕計画」の完全実施について関係者の理解を得ることである。さらに予算措置の厳しい時代であっても、県立美術館の役割には継続的な作品収集があり、収集基金の再開の必要性も指摘されている。

第2章 分野別に見た自己評価に対する委員評価

1 展覧会に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

両美術館とも、館をあげての努力により設定した目標を着実に達成しつつあることは評価できるが、リピーター率の向上のように、館が置かれている状況に配慮しない数値目標が設定されている等、再考すべき点も少なくない。当然のこととはいえ、数値目標の達成を自己目的化すべきではない。定量的評価は必要であるが、その中にどこまで定性的評価を含めることができるか、この点の工夫が必要である。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

近くに類似施設がない公立美術館として県民の幅広い要望に応えなければならないこと、また展覧会予算に占める一般財源の比率が低いこと、これらの理由からマスコミとの共催による巡回展を開催することは理解できるが、そのような企画自体に関与していない展覧会においても、図録、解説パネル、鑑賞の手引き、音声ガイドの作成、講演会、ギャラリートーク等において、主体的に取り組もうとする姿勢と努力は高く評価したい。

さらに、コレクションを主体にした企画展、あるいはテーマ展示に工夫をこらしていることを評価したい。特に、「亀倉雄策の世界」は大変内容が充実していた。新しい切り口を見つけることは今後次第に難しくなると思われるが、皆で知恵を出し合ってもらいたい。

また、自主企画展の「牧野虎雄展」については、経費上の理由により図録を作成できなかったことが惜しまれる。また、「県ゆかりの作家」であることを越えて、どこまで開催の意義をアピールすることができたのか、そこが知りたいところである。

「彫刻家・藪内佐斗司展」については、「せんとくん」

のデザイナーであるとはいえ、このようなやや特異な作家の活動を取り上げたことは評価したい。しかし、それがどこまで来館者に理解されたかという問題は残る。

(3) 自己評価に対する総括

自己評価については、反省点も明確に記されていて好感が持てる。このような自己評価の積み重ねが美術館活動の向上につながるものと思う。

2 教育普及等関連事業に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

○県立近代美術館

参加者数は前年度より約300名増加し、単年度目標は達成されている。

○県立万代島美術館

実施目標はおおむね達成されている。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

○県立近代美術館

「講演会等の開催」では、教員を対象とした美術教育講演、学校の教材開発に資するワークショップなど、教員研修や学校の教育活動と連携した取組が開始されている。「巡回ミュージアム」は学校も対象とする方向へと方針変更がなされている。こうした取組は、本年度長岡市教育委員会との体制づくりがなされた「近代美術館教育普及活力プロジェクト」の試験的取組ともいえる。23年度以降の教育普及企画は学習指導要領改定と連動し、学校教育や教員研修との協働も含めた生涯教育全体へと具体化されていく。この体制を確立した点が特に評価される。若年層の人材育成による県民の文化レベルの向上が期待される。また、県立歴史博物館や長岡リリックホールとの連携による広報や誘客、友の会との協働は、利用者側の利便性や充実した利用も配慮した取組が具体的に期待される。

○県立万代島美術館

教育普及事業は多面的に実施されており、広範な年代層が様々な企画を窓口として参加できる工夫がなされている。各事業への参加者数も一定の成果を得ており充実している。協力人材との連携体制については、中期的な見通しにより各事業と協力人材や組織とのネットワーク化を進め、友の会や幼小中等学校等も含めて裾野を広げ、厚みのある支援体制を継続して構築していくことが望まれる。

(3) 自己評価に対する総括

自己評価については、適切と判断される。22年度は次年度以降の方向性をつくる体制づくりや試験的取組が多い。次年度以降の実施と展開を期待している。

評価シートの自己評価の記載内容だけでは、単年度目標および取組・事業目標と自己評価との関係が読み取りにくい項目、また、記載に具体性を欠く項目がみられる。関係性が明確で具体的になるよう、記載量を増やし対応してほしい。

3 調査・研究、収集・保存、発信に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

データベースの画像入力を完了したことは重要である。中期目標をもとに、今後これをいかに活用するかが大きな課題である。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

図録に収録された論文と作品解説、解説パネル、鑑賞用の手引き、講演会、研究紀要等から判断して、調査・研究は着実に進展しているものと認められる。美術館の活動の基礎にあるものが調査・研究であることを示すためにも、研究紀要が継続的に刊行されていることを高く評価したい。

さらに、上記の出版物、講演会、大学における講義等によって、発信は活発に行われていると判断されるが、紀要の論文等の専門的な内容のものについては、一般向けの説明会が必要ではないだろうか。

しかしながら、収集については、今年度は例外的に購入が認められたものの、美術品収集基金が凍結されていることは大変残念である。美術品の収集は美術館にとって活動の中心をなすものであり、エネルギーの源泉である。とりわけ収集における作品購入は、美術館の主体性を保持するためにも欠かせない。たとえ少額であっても美術品収集基金による購入の再開と継続が望まれる。

(3) 自己評価に対する総括

自己評価については、適切と判断される。

4 環境・設備に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

平成22年度改修・修繕予定箇所を確実に施工するための補正予算を獲得することができ、ボイラー、自動ドア、搬入口脇の鉄扉などの改修は概ね実施できた。しかし、平成23年度当初予算の獲得はできなく目標を達成することはできなかった。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

単年度目標である「修繕計画の予算獲得」については主管課である文化行政課と共通認識を共有できている。平成22年度補正予算は緊急を要する修繕の実施について共通認識を共有できた。しかし、平成23年度分については危機的箇所の協議は緒に就いたようだが、実施確認までには至っていない。美術館の取組内容としては妥当なものであると考えるがより頻繁な協議が必要と考える。

(3) 自己評価に対する総括

来館者の安心、安全、また展示作品、収蔵作品の最適な環境での管理は美術館にとってなによりも優先されなければならない。美術館の自己評価には「予算獲得」の難しさと獲得できなかった無念さが滲み出ている。

それとは別に「予算を獲得する事」が単年度目標になっている事に少し違和感がある。また「判定」が目標を達成したかどうかではなく翌年度に向け目標を継続するかどうかを○などの記号で表す事も誤

解を招きかねない。定性的目標と定量的目標に分けて達成したのかどうか評価した上で翌年度にそれを生かした方が良いのではないだろうか。

5 協働組織に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

○県立近代美術館

「越後上布・小千谷縮展」や「ジュニア展」「県展」など他団体に対して積極的に共催を働きかけた結果、目標値の「5,000人以上の参加」を遥かに上回る23,777人、昨年度対比486%と特筆すべき成果を生みだしている。地域と密接につながることは館の使命を果たし、また、長岡市という立地を強みとして最大限に活かした協働事業であり、高く評価したい。

課題としては、長岡市の新庁舎や周辺自治体に新設の施設が完成した場合、地元の魅力的、動員力のある企画展示に関しては競合することが考えられる。館はそのような存在と、一線を画してゆくのか、それとも競合施設との協働を模索してゆくのか、早い時期に戦略を立てるべきではないか。

友の会との関係づくりにおいては、取組目標「協働事業を行う」数値目標2回以上をクリアしているが、数値よりもむしろ友の会を協働パートナーと位置付け、良好な関係づくりと弱体化する会の運営に支援を始めるなどの具体的な行動を評価したい。

○県立万代島美術館

数値目標は達成されていないが、協働組織としてサポートメンバー（ボランティア）の組織化に取り組んだことは評価したい。少人数のため大きな活動実績はなかったが、写真展「ねこ」では、来館者から愛猫の写真を募り展示するなどのイベントを実施しており、企画展の作品と来館者の関係を双方向型にする試みが出来たことは、立ち上げ初年度としてはまずまずの出来ではないだろうか。

万代島美術館は、近代美術館と比べ、大都市部に位置しており、既存の芸術、美術関連の組織の数が多いうえ、広域にわたって存在している。そのために協働関係をつくるには条件的に不利であると考えられている。しかし、近隣に集中している学校や口コミの効果の大きいタクシー会社を協働組織と位置づけた着眼点は大変良い。実際に、学校に関しては、今年度はチラシの配布程度、働きかけの段階でありながら、出張事業やギャラリートークの実施にもつながっており来年度に期待ができる。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

○県立近代美術館

協働組織を友の会、ボランティア、他団体に分け、それぞれの特徴、ニーズに合わせた取組を設定しており妥当性は高い。しかし、取組内容については、まだまだ「手ぬるい」と感じている。それは、館が協働組織と何を生みだして行きたいのかなど方向性やビジョンが不明瞭なためではないだろうか。館はよりよい運営が実現でき、利用者は満足感や喜びを享受でき、協働組織や係わる人たちは活動の質を高めたり、また出来なかったことが可能になっ

たなど、「三方良し」となるための明確な方向性と戦略、戦術を求めたい。

○県立万代島美術館

サポートメンバーの立上げや学校、タクシー会社を協働組織とし、関係づくりを働きかける取組には妥当性がある。しかし、拠点性などの課題はあるとしても、友の会との協働を部分的に事業の中でしか捉えていないのはなぜだろうか。友の会には下越地域の会員も多数おり、また回数は少なくとも、新潟での企画展の実施や会員の勧誘なども行っている。友の会の方針や具体的な運営計画を共有しながら協働関係を構築する努力を求めたい。

(3) 自己評価に対する総括

限られた（しかも緊縮し続ける）経営資源のなかで、最大限の効果を生み出すことは館単体では難しい。館単体のイノベーションから、他者を巻き込んだオープンイノベーションが求められている段階にきている。よって、協働組織との連携は優先順位の高い事業と考える。

他組織との協働の目的は、ただ単に集客を高める手段や人手不足を補うことではなく、能力面やシステムを補完し合いよりよい成果を生み出すことでもある。館の不得意なことを、それを得意とする他組織が代わって行う方が効率も良いし効果も高い。その分、館は自身の強みにエネルギーを集中させることができるので、館の持つ強みはより強化され他が追従できない特別な魅力や特徴となるだろう。反対に、他組織だけでは実現できなかったことが館の持つノウハウや経験で可能になることも多いだろう。そのように補完し合う「仲間」を充実させることは重要であると思う。

22年度の取組に関しては、評価に回数など数値を問うことが多かったが、「仲間」の充実、双方の満足はどうであったか、どのような活動を共にしてきたのか、何を助け、助けて貰ったのか、どのような思いを共有してきたのかなど、本来は定性的評価と併せて、具体的な内容やプロセスも評価すべきではないだろうか。

第3章 平成23年度県立近代美術館運営への提言

【近藤フチエ 会長】

首都圏の国立美術館の入場者数のこの10年間の伸びはほぼ2倍になっています。首都圏の美術館と新潟県立近代美術館を比較することは全く意味がないでしょう。しかしながら、全国的に加速化される少子高齢化時代の到来で、地方においても生涯学習の要請が高まっていると言えます。国内の主要な美術館見学や特定のアーティストの作品を見る海外旅行が盛んになっています。新潟県立近代美術館と万代島美術館は、内外の美術品や作家活動の紹介と作品の収集や展示により、芸術文化の歴史を学び、発展させるために、より多くの人々が親しみ、活用できる特色ある美術館の在り方を考える必要があります。かつてヨーロッパの主要美術館は休日無料、大学生無料でしたし、最近は高齢者割引など、多様なサー

ビスが行われています。少なくとも所蔵品展はできるだけ安価な入場料を設定したり、他の博物館や水族館との連携を進め共通バスを設定したりすることで、県民の芸術文化施設の活用を促進することもできるでしょう。現在、小中学生に限定された無料設定をより多くの観衆に拡大することが望まれます。首都圏のように多くの見学者が確保できない実情を打開し、県民の財産である芸術作品を活用し、美術館という芸術文化の場を多くの人々に開放し、存在意義を高めるために、地方独自の対策を考える時代に来ています。このような社会的な要請については、当事者が、関係者はもちろん利用者の声を的確に受け止め、改善の施策につなげるためにも、評価を活用していただきたいと念願しています。

美術館の学芸員は高度な知識を有する専門職にあたりますが、個々の研究とともに美術館の共同研究など多様な研究の成果をあげることが期待されています。有能な専門職員の意欲を高めその能力を館の運営に活用することも管理者の責務であり、人材の活用についても評価に反映されるような工夫の余地があるように思いました。

【雪山 行二 副会長】

これは全国美術館に共通した傾向とも言えるが、近年、主催館独自の地道な調査・研究にもとづく骨太の展覧会が少なくなってきたように思われる。その最大の原因は、美術館に対する社会からの要望が拡大しているにもかかわらず、予算が削減されてきたため、少ない経費で一定以上の入場者数が見込める展覧会の開催に重点を置かざるを得なくなっていることにある。新聞等マスコミも以前ほど経済的余裕がないことから、赤字を出すような展覧会には出資をしがらない。その結果、収支のバランスがとれる展覧会、言い方を換えれば、特色のない展覧会、二番煎じの展覧会がふえることになる。

県立近代美術館と県立万代島美術館が限られた予算の下で県民の要望に最大限に応えられるよう、特に広報、普及、教育、来館者サービス等において多大な努力を払っていることは高く評価されるが、展覧会の内容についてはこのような傾向から免れていない。当面は一定の入場者数を保持できるにせよ、長期的に見れば飽きられ、また、美術館として特性を失っていくのではないかと危惧される。予算の増額が見込めない現状において具体策を講ずることは容易でない。しかし、数多くの美術館がひしめく中で、どうすれば唯一無二の美術館として生き残ることができるか、真剣に討議していただきたい。

公立美術館である以上、地元住民の幅広い要望に応え、最大多数の最大幸福を追求することは当然であるが、芸術がその時代が抱える問題を鋭く指摘し、未来を予言するものであるならば、たとえ多数の来館者を見込むことができなくとも、新しい価値を発信する事業を展開して欲しい。

美術館は文化を消費する場であるだけでなく、文化を創造する場であることを忘れてはならない。消費と創造の間に明確な線をひくことは不可能であるが、サービスの向上等の要望に応えると同時に、具体的な事業を通して、文化を創造するという使命を広くアピールして行く必要があるだろう。

コレクションの形成は、美術館、とりわけ近現代美術館にとって活動の中心をなすものであり、美術館が主体的に収集を進めるために購入は不可欠である。美術品収集基金の凍結を解除し、購入の再開と継続を強く希望する。

美術館の使命の一つは、美術を通してわれわれが今どのような時代に生きているのか考えるよう人々に促すことにあると、私は思う。願わくば職員の方々がこのような視点に立って仕事に取り組んでいただきたい。

また、新潟県知事ならびに県当局に対しては、県立近代美術館と県立万代島美術館が新潟県における文化発信の拠点として十全の活動ができるよう、設置者として責任を持って、予算、人事を含め必要な措置をとっていただきたい。

【松本 健義 委員】

県立近代美術館、県立万代島美術館ともにそれぞれの美術館の特性、立地条件をいかした多面的な教育普及事業が実施されており、広範な年代層が企画を窓口として参加できる工夫がなされている。各企画への参加者数も一定の成果を得ており、同事業が県民の憩いや学習の場として機能していることが伺える。

22年度は新たな方向性として、学校の教育活動や教員研修等と連携した企画の実施、巡回美術展の対象に学校も加えるなどした他、長岡市教育委員会の賛同を得て教育普及企画を学校教育の活動に積極的に活用してもらう新しい協働体制を構築している。学校教育と生涯教育が実質的に連動することで、より自然な形で若年層の利用者も増加し、美術に関心をもつ人材育成に寄与するとともに県民の文化レベルの向上にもつながるといえる。学校教育の側にも教育内容や学習経験の充実、教員研修機会につながる互恵的な協働関係となる。

個別の各企画による利用人数の増加を数値的に目標追求するのではなく、こうした、相互的で互恵的な協働を組織間につくりだしていくことが、今後の美術館の教育普及のあり方として期待される。また、そうした成果を足場としながら美術館の企画や事業をサポートする体制を、中期的なビジョンにたつて、ボランティア、市民団体、学校、企業等へと裾野を広げてネットワーク化し、厚みのある支援体制へと継続的に構築していくことが必要である。それにより互恵的な協働関係もさらに拡充していくことが期待できる。

調査・研究については、企画展や紀要等を通じた新しい知見や成果の公開が継続して期待される。大学や大学教育との美術館との教育研究の連携の充実や拡張も期待される。作品の保存にはこれまでどおりの十分な対応を今後も継続してほしい。また、美術品収集購入基金による購入の再開と継続が強く望まれる。

【渡辺 富栄 委員】

現在は失われた20年というものを取り返すべく、全てのものに対して見直しということが合い言葉のようになっており、何が何でも今までのあり方、やり方を変えることが正義であるという雰囲気の中に

ありますが、私はそういう風潮を好みません。何にでも競争原理を取り入れ、外部の意見を聞き、経済効率を第一として全てを自己責任で運営せよという。せっかく公立という経済原理から離れている機関ならではの長所をもっと悠々と生かしてゆくべきであると思います。美術館は遊園地ではありません。ただ楽しかった、たくさん遊べた、人が大勢いただけでは困ります。たとえ数は少なくとも本当に美術から何かを学びたい、生きる糧を掴みたいという観覧者を静かに待つべきであります。アンケートを採り観覧者の意向がいかほどの所にあるのかを把握することは無駄ではありませんが、多数の意見に迎合する必要はないと考えます。学芸員はじめスタッフの方々はただでも多忙な職場の中で本来の研究や調査の仕事に集中するべきです。入館者は多くにこしたことはないとは思いますが、企画展の入り方が芳しくないこととその質とは相関関係にはありません。果たして芸術がそんなに簡単に分かるものなのでしょうか。

さて、私が高校教員であった時の経験で申し上げれば、今まで美術館というものに行ったことがないという生徒が90パーセントに及び、その数は現在も大して変わらないと思います。そこで、美術館として生徒に見せたい企画を県内の中学校あるいは高等学校の或る学年を半日でよいから授業の一環として館に連れてきて鑑賞させることだと思います。これは学校との連携が必要ですが、数年かけてでも県内全ての学校で実現することです。そうした経験の蓄積が美術館への抵抗感をなくし、将来のリピーターを作ることになると思います。団塊世代の私は映画も演劇も演奏会も全て学校で鑑賞したことがその最初でありましたから。

【丸山 結香 委員】

潜在的利用者へのフォーカスインタビューの実施を！

22年度は両館ともにアンケート回収率を高める為の取組を実施し成果をあげている。また、アンケート内容を分析し、出来ることは即運営に反映させる努力も認めたい。このように、利用者の満足度を把握、追求することは当然ながら重要である。しかし、それらと同様に重要なのは、来館しない潜在的利用者の把握とニーズの有無（とその内容）である。不特定多数を対象とするようなアンケートを含めた市場調査はコスト面において実現は難しいだろうが、館に足を運んだことがない、行く気がしないという人達を探して一本釣りすることは難しいことではないだろう。個々の意見は、館の中だけでは考えつかない新しい視点やアイデアなどの気づきを授けてくれるのではないだろうか。

【日諸 博美 委員】

評価シートの担当する分野「教育普及等関連事業」では、中期目標①～⑤達成のための単年度目標が「教育普及事業参加者数を前年度より増加させる」とあるが、この単年度目標が中期目標①⑤の2項目につながっていくと考えてよいのか。単年度目標のそれぞれの取組が中期目標達成のためのどの目標（①～⑤）達成のためのものなのかを明示する必要がある

のではないか。

単年度目標の「巡回ミュージアム開催方法の検討」の項目については、具体的な出口が「検討を行う」であり、数値目標には、「(定性)」ではなく「〇回以上開催」とした方が、具体的な方策・出口が見え、取り組み易いのではないかと感じた。

結果的には、単年度目標を達成できているが、単年度目標の達成が中期目標のどの項目(①～⑤)にどのように有効であったのか検証することができない。中期目標の達成あってこそその単年度目標と考えられるかがなものの。

【須佐 尚子 委員】

自分の子どもの頃を思い起こすと、美術館を訪れる時間は、まさに「ハレ」の時間であり、デパートでの食事等がセットになった非日常的な時であった。今でも、私にとって美術館は、デパートにおける美術品展示の特設会場とは一線を画した緊張と『さあ、これから美術品に囲まれた特別な時間を過ごすのだ。』という期待で心が満たされる。国外の美術館のロビーに子どもたちが座り、参加型の実験鑑賞を行っている様子とは — 文化の違い、文化の継承者育成への姿勢そのものの違いもあるが — 隔世の感がある。

この度私は、県立近代美術館協議会委員をお引き受けしてしまい、正直なところ身の細る思いでいる。『教育関係者として、美術館と学校との橋渡しをすることが求められているのかな』などと、軽々に判断したことが原因のようだ。美術館発展のため、いや芸術の振興のため、芸術文化継承者育成のため等々、日々真摯に努力を重ねられておられる関係各位と交わることで、自分の狭薄さを否応なしに自覚することになっている。私の関わっている教育機関では、生徒の3年間の学習内容に占める芸術の時間の割合が2%程度の学校が多く、それも音楽、美術・工芸、書道からの選択であるというのが実情である。平成25年度完全実施の新学習指導要領において「芸術」の「目標」は「芸術文化についての理解を深め」の表現が「芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う」という現行の表現に挿入された形となっている。かくも深淵なる目標に向け、限られた授業時間数の中で、教材をぎりぎりまで精選し、授業担当者が日々奮闘しているというのが現場の姿である。

そこで、

- (1)参加型の活動に参加させ、芸術文化を体感させることで、充実感を味わわせ、美術館再来につなげる
- (2)再来を重ねさせることで、芸術の継承者としての児童生徒を育成し、芸術に親しむ未来の来館者育成を図る
- (3)日本の文化を継承発展させるという、教育的視点からの美術館の意義を考えると、
 - (1)近隣の文化施設、交通機関との連携により利用の利便性を図る
 - (2)たとえば割引券そのものに、他の施設での展示内容等を盛り込む等の、手元で確認できる広報を行う等々の工夫をしてみることも、普及の新

たな可能性の追求につながるかもしれない、私は思っている。

とにかく、県立近代美術館協議会委員として、美術館の努力を内側から垣間見せていただいた。この貴重な体験を、私個人の経験に止めることなく、私の携わる機関に、時を捉えて御紹介し続けることが、せめてもの恩返しと考えている。

【丸田 洋一 委員】

新潟県は面積が広く全県から近代美術館に集客することは難しい。企画展などでのアンケートから見ても美術館の所在地(長岡市、新潟市)から遠隔地になればなる程来館者は少ない。これは仕方のない事だが、それなら現在も実施している「巡回ミュージアム」を学校や市民会館、また地域の行事と連携を図りながら実施回数を増やすなどの充実を要望したい。

「県立の美術館」から「県民の美術館」に向かう一つの道であると思う。

【高橋健太郎 委員】

美術館の役割の変化を捉え、地域の人達にとって必要不可欠な施設となっていくことを願います。美術を好きな人の満足度だけではなく、全く初めてのお客様でも満足が得られるよう、色々な取組に挑戦してもらいたい。

数値による評価ではなく、お客様にとってどういう満足が得られたかなど言葉による評価も大切だと考えています。

協働組織である友の会、他団体との連携を深めることで、地域の人達にとって、必要不可欠で特別な場所へとどんどん変わっていくと思います。

県内の美術館、博物館と連携し、その協働できる企画についても積極的に提案し、他の美術館、博物館を引っ張る施設としても、重要な役割を担ってもらいたい。

【上原みゆき 委員】

新潟県内のいたる所に目配り、心配りをしつつ、県立美術館としての独自の企画、運営をしてほしい、そのために、県民のひとりとして実感のこもった意見を言うことができれば——これが公募委員をつとめさせていただこうと決心するに至った動機です。

委員の皆様方のお話を伺い、事務局の方々の努力を知り、その中で私自身、非常に豊かに勉強させていただく日々であったと思っております。委員をつとめさせていただいたことについて、大変感謝しております。

すばらしい芸術作品と触れあうことは人の心を豊かにします。もしも美術館が、住んでいる所の近くに存在し、頻繁に行けるのであればいいのですが、この広い新潟県、どれほどの割合の人が気軽に美術館に行ける環境にあるでしょうか。住んでいる場所の違いによって芸術作品と触れあう機会の多い少ないの差が生じてしまうというのが、残念ながら現実です。

そうではありますが、日常的に行くことは不可能でも、美術館の存在そのものが、ひとりひとりの県民にとってどれだけ大切な、ということをこのごろ

考えます。むしろ、ごくたまにしか行けない所であるからこそ、その美術館の内容とも相まって、ずっと心に残り、ひとりひとりにとって心の財産となっていくというケースもあろうかと思っています。

雰囲気ということ言えば、県立近代美術館と県立万代島美術館は、まさに一度訪ねたら忘れられない貴重な思い出となる美術館ではないでしょうか。

企画展等の情報は、情報を受け取りにくい地域や人々にも、きちんと細やかに届くように、これからもさらに工夫を重ねていただければと望みます。そして、一度美術館のすばらしさを知った来館者が、その思いを外に向かって発信していくシステムなどができればいいなと思っています。

沿革

《新潟県立近代美術館》

昭和63年度予算で美術館建設調査費計上

昭和63年12月

「新潟県美術品収集基金条例」制定

平成元年10月

新潟県美術館建設基本構想を策定

平成2年3月

新潟県美術館建設基本計画を策定

平成2年3月

県立近代美術館建設の設計者選考方式を指名設計競技（コンペ）に決定

平成2年3月

指名設計競技の参加設計事務所5社を決定

平成2年7月

県立近代美術館建設指名設計競技審査会開催
(株)日本設計の作品が入選

平成2年8月

設計業務の委託を(株)日本設計と契約

平成3年2月

県立近代美術館建設の実施設計策定

平成3年5月

県立近代美術館建設工事入札

大成・吉原・小杉特定共同企業体等が落札

平成3年7月

県議会で建設工事の契約承認

平成3年7月

新潟県立近代美術館の建設着工

平成4年12月

県立近代美術館建設本体工事完了・引き渡し

平成5年3月

新潟県立近代美術館条例公布

平成5年4月

新潟県立近代美術館発足

平成5年7月

開館

平成12年4月

第2代館長として水野敬三郎が就任

平成15年7月

開館10周年を迎える

平成20年4月

第3代館長として徳永建一が就任

《新潟県立近代美術館万代島美術館》

平成12年8月

新潟県新美術館基本構想を発表

平成13年2月

新潟県新美術館基本計画を策定

平成13年4月

新潟県新美術館開設準備室発足

平成14年8月

新美術館の名称を一般公募により「新潟県立万代島美術館」と決定

平成15年3月

朱鷺メッセ万代島ビル竣工

平成15年4月

新潟県立近代美術館万代島美術館発足

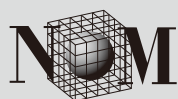
平成15年7月

開館

平成22年度
新潟県立近代美術館／新潟県立万代島美術館 年報

編集 新潟県立近代美術館／新潟県立万代島美術館

印刷 株式会社中央印刷
発行 平成24年2月29日



THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART

新潟県立近代美術館

新潟県立万代島美術館

The Niigata **Bandaijima** Art Museum